

日野市

平山遺跡

— 一般国道20号（日野バイパス（延伸））建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査 その2 —

第1分冊



2024・3

東京都埋蔵文化財センター

日野市平山遺跡の調査

平山遺跡（日野市遺跡No.22）は、日野市南西部の東京都日野市豊田二・三丁目、東平山一～三丁目、西平山一・三・四丁目に所在する、浅川左岸に形成された河岸段丘上に立地する遺跡です（写真1）。遺跡の西側を北西から南東に向かって流れてきた浅川は、遺跡の南側で直角に向きを変えて北東に向かい、石田付近で多摩川と合流します。遺跡の北側は日野台地、浅川の対岸には多摩丘陵が広がっています。これらの地域には多くの遺跡が分布しています。本遺跡も、縄文時代から古代の土器が出土することで早くから知られており、昭和47年以降、これまで数多くの調査が行われてきました。

今回の調査は、国土交通省関東地方整備局相武国道事務所が施工する一般国道20号（日野バイパス（延伸））建設事業に伴うもので、平成27・28年度調査地点『平山遺跡その1』（東京都埋蔵文化財センター調査報告第368集）の南西に続く地点です。調査面積は6,913m²、調査期間は、平成29年3月～平成31年3月と令和3年7月～9月です。

【発掘調査の成果】

今回の調査地点は、遺跡東部の段丘上の平坦面で、調査の結果、旧石器時代、縄文時代、弥生時代前期、弥生時代終末期～古墳時代前期、古墳時代中期～後期、古代、中世、近世以降の遺構と遺物が発見されました。以下に、各時代の主な調査成果を紹介いたします。

旧石器時代

旧石器時代の遺構・遺物としては、遺物集中部1箇所が検出されました。黒曜石製の細石刃をはじめとする石器145点と礫150点、そして多数の炭化物から構成されています。炭化物の一部を年



写真1 航空写真（北東から撮影）



写真2 旧石器時代の遺物集中部 (SBL1)



写真3 繩文時代の集石 (SS6)

代測定したところ、 $18,780 - 16,190^{14}\text{C yr BP}$ の測定年代が得られました。関東西部の細石刃石器群は約 20,000 cal yr BP に出現すると考えられており、武藏野台地に位置する当遺跡周辺における細石刃の出現時期を示す貴重な資料といえます。また、細石刃に関しては、使用により破損した細石刃の廃棄と細石刃の補充がこの場所で行われ、それ以外の石器についても刃部の形成・再生が行われたと考えられ、この地で狩猟具や加工具の維持・管理を行っていたことが分かりました。

縄文時代

縄文時代の遺構は、竪穴状遺構 1 基、集石 1 基、礫集中 1 箇所の他、土坑やピットを検出していますが、数は多くありません。中期のものと思われる竪穴状遺構 SI57 は、廃絶後に近くで石器製作が行われたようで、その際に発生したと思われる黒曜石の薄片が多数廃棄されていました。また、集石 SS6 から出土した炭化したクリ材を分析したところ、縄文時代中期前半に相当する年代のものであることが分かりました。

遺物は、調査区内の各所で縄文時代早期から後期の土器片や石器類が多数出土しました。このことから、調査区やその周辺において、遺構の見つかっていない時期においても、何らかの活動が行われていたことが分かりました。

弥生時代前期

今回の調査では、調査区南西部付近から、合計 20 点の弥生時代前期の土器片が出土しました。日野市域のみならず、武藏野台地やその周辺においては、同時期の土器の出土例は少なく、同時期における人々の往来を示す資料として重要な発見です。

弥生時代終末期～古墳時代前期

今回の調査における主要な時代の 1 つで、竪穴建物跡 17 軒と竪穴状遺構 2 基、方形周溝墓 1 基等を検出しました。竪穴建物跡・竪穴状遺構は主に調査区の中央部付近から北東部にかけて重複せずに分布し、両遺構の希薄な南西部には方形周溝墓が 1 基確認されました。

竪穴建物跡は、平面の形は概ね隅丸長方形で、4 基の主柱穴は持つものと持たないものがありますが、炉の位置（中心部よりやや奥）、出入り口部分に梯子穴を持つ、梯子穴の近くに貯蔵穴を持つ、貯蔵穴の周囲に土堤を有する、といった特徴は多くの建物跡に共通しています。壁溝を有さないという点も、共通した特徴です。また、貯蔵穴の近くでは「赤砂」と呼ばれるものも多く検出されました。

竪穴建物跡には規格性がありそうですが、そこから出土する遺物は、遺構毎に個性があります。例



写真4 古墳時代前期の竪穴建物跡（SI56）



写真5 SI41 土器出土状況

えば、SI38 では、北東壁際と南東壁際で土器が集中して出土しました。多くは破片の状態で出土しましたが、接合して復元したところ、写真7のような壺や甕・高坏になりました。また、SI39 では、小型壺が9点出土しましたが、建物跡の東隅に3点、西隅6点が纏まとった状態で床面に置かれています。SI41 は部分的な調査でしたが、東隅の赤砂堆積箇所の床面に遺物が集中していて、上から鉢、鉢、台付甕胴部が重なった状態で出土しました(写真5)。さらにその北側には、ほぼ完形の高坏や台付甕、壺2点が密集して置かれています。

遺物は、壺や台付甕、高坏等の土器や、台石や石杵等の石製品、鉄製の鏃等が出土しました。特に、SI38 出土土器（写真7）と SI41 出土土器（写真8）は、良好な一括資料です。SI39 で出土した小型壺は、東隅の3点（写真9 前列）と西隅の6点（写真9 中列）で、製作技法がはっきりと異なります。



写真6 方形周溝墓（SZ2）



写真7 SI38 出土土器



写真8 SI41 出土土器



写真9 SI39 出土土器



写真10 SI47 出土土器



写真 11 奈良時代の土師器・須恵器

SI47 出土土器（写真 10）には、東海地方の影響を受けた土器が多数含まれています。その他に、竪穴建物跡の炉や貯蔵穴から出土した炭化種実や、土器の表面に残る種実の圧痕、土器に残る炭化物の分析から、平山遺跡ではイネに加えて、アワやキビ等の雑穀類が非常に多く利用されていたことがわかりました。竪穴建物跡から出土した台石や石杵等の石製品も、雑穀利用に関連している可能性があります。

古墳時代中期～後期

古墳時代中期～後期の遺構は、円墳（SZ3）と、2基のL字状土壙のみです。出土遺物からすると中期に属すると考えられますが、小片で覆土の上層から出土しており、古墳の時期を示すものかどうかは断定できません。

古代

奈良時代から平安時代の竪穴建物跡が 21軒検出されました。出土した遺物から帰属時期が明らかになったのは、奈良時代が 10軒、平安時代が 9軒です。調査区南西側に奈良時代、中央部に平安時代のものが比較的纏まっています。どちらの時代の竪穴建物跡もほとんどがカマドを備えており、中には造り替えて 2基のカマドが確認された遺構もあります。平面形態は方形もしくは長方形で、SI53を除き、明らかな主柱穴は確認されていません。壁溝は、多くの遺構で確認されました。



写真 12 平安時代の土師器・須恵器



写真 13 奈良時代の竪穴建物跡 (SI22)



写真 14 平安時代の竪穴建物跡 (SI30)

SI53 は竪穴の外側に側柱を伴う竪穴建物跡ですが、その側柱が劣化したためか、住居内に柱を据え替える改築が行われたようです。

その他の遺構では、掘立柱建物跡、多数の土坑やピット等が検出されています。このうち土坑は、「円形土坑」という丸い土坑が多数確認されました。また、炭化材が纏まって出土した SK155 の周辺では、覆土に炭化材や炭化物粒子を含む土坑が纏まっている状況も確認されました。土坑の内外で、何らかの火を伴う行為が行われたものと思われます。

遺物は、竪穴建物跡を中心に、土師器や須恵器が多数出土しました。その他、紡錘車等の土製品、石製品、鉄鏃や刀子といった金属製品も確認されています。写真 11 は奈良時代の竪穴建物跡、写真 12 は平安時代の竪穴建物跡から出土した土師器・須恵器のうち、代表的な土器を集めた写真です。また、須恵器の産地は、奈良時代では南多摩窯産や南比企窯産、東金子窯産が均衡しますが、平安時代になると東金子窯産が圧倒的に多くなる傾向があります。竪穴建物跡からは、墨書き土器も多数出土しました。特に、「永」の文字が墨書きされた須恵器壺が多く出土している他、「川口」、「八田」等の文字も確認されています。

中世

中世の遺構であることが明らかなのは、道路跡 SF3 と墓壙の可能性のある土坑 SK173 の 2 基のみです。平成 27・28 年度調査地点では、12 基の地下式坑が発見されたのと比べると、少ないと言えます。

平成 27・28 年度調査地点は段丘崖線付近から段丘平坦面にかけて位置しているのに対し、今回の地点は段丘上の平坦面



写真 15 側柱を有する竪穴建物跡 (SI53)



写真 16 SI53 から出土した鉄鏃



写真 17 道路跡 (SF3)

に位置しています。こういった地形の違いから、遺構の分布状況が異なっているかもしれません。

道路跡 SF3 は、断面逆台形に掘られた南北に延びる溝状の遺構です。長い間通行路として使用されていたものと思われ、溝が埋没していく過程で、踏み固められて硬化した面が 3 面以上確認されました。また、埋没途中で溝内の西寄りに側溝状の細い溝が掘られたことも確認されています。

近世以降

近世以降の遺構としては、おびただしい数の畝間溝や土坑群等、農業に関連すると考えられるものが確認されました。調査地点は、一部を除いて近現代まで畠として使われておりましたが、絵図との比較から、少なくとも明治時代初頭には農地として使用されていたことが分かります。また、遺構からは肥前産の陶磁器や青磁、瀬戸・美濃産陶器類、丹波産の擂鉢、志戸呂産の灯明受、在地系の土師質土器等、17 世紀後半から 18 世紀後半頃までの遺物が確認されていることから、遺構の時期もこの時代まで遡るかもしれません。

まとめ

以上のように、平成 27・28 年度調査地点と同様、弥生時代終末期～古墳時代前期や古代の集落に伴う遺構が数多く発見されたのに加えて、今回新たに旧石器時代の遺構や遺物が確認されましたが、その一方で中世の遺構が少ないといった違いも明らかになりました。日野バイパス建設事業に伴う発掘調査・整理作業は継続して進行中です。今後の更なる調査成果から、平山遺跡の新たな一面を明らかにしていきたいと思います。



写真 18 近世以降の農事関連遺構群

Overview of Hirayama Site, Hino City

Summary

The Hirayama Site is vast, measuring 1.96 km from east to west and 1.33 km from north to south. Located from Toyoda 3-chome to Nishi Hirayama 4-chome in the southwestern part of Hino City, the ruins are on a riverside terrace formed on the left bank of the Asakawa River. Below, the Asakawa River—a tributary of the Tama River—flows northeast, while the opposite bank is flanked by the Tama Hills.

This survey is associated with the construction project for General National Route 20 [Hino Bypass (extension)] by the Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism, covering 6,913 square meters. The site is to the west of the district reported in 2022. Our survey of the flat surface of the terraces in the eastern part of the site has revealed some remains and relics dating back to the Paleolithic period through to the Early Modern period.

A total of 145 lithic specimens and 150 pebbles were recovered from a paleolithic concentration. The lithic assemblage consists of microblades, scrapers, retouched flakes, as well as a pyramid-proismatic macroblade core. The assemblage falls within 20.0-19.5 ky cal BP.

Among the items unearthed from the layer dating back to the Jomon period were a few remains, including pit remains and stone clusters related to stone-steamed dishes, along with numerous pieces of Jomon earthen and stone tools. These demonstrate how active people were there at the time.

In this survey, researchers found earthenware pieces from the early Yayoi period, examples of which have rarely been unearthed in Hino City. The recent finds are therefore valuable in that they indicate people were coming and going to this place at the time.

From the end of the Yayoi period to the early Kofun period, researchers have found 19 pit dwelling ruins, pit-shaped remains, one square tomb with a circumferential ditch, and other finds. These have revealed how the tomb area and residential areas were located in relation to one another. Moreover, the excavated earthenware has led us to learn how the village changed over time.

The only round mounds found from the layers dating back to the middle to the late Tumulus period were circumferential ditches. Along with these things, excavators have identified L-shaped earthen pits, examples of which are seen around Hino City. This find encourages us to expect a further increase in similar examples.

Scholars have investigated the ruins of 21 pit dwellings from the Nara to the Heian period. The resulting examples of earthenware, metal products, and other unearthed finds have been examined to reveal the changes that the villages underwent.

Moreover, an investigation has been conducted of the ruins of medieval roads and farming remains from the Early Modern period and later. Once again, the site proved to be valuable in providing traces of people's activities from the Paleolithic to the Early Modern period.

It is hoped that the ongoing surveys will provide greater clarity on how people used and lived on the land of the Hirayama Site.

序 言

日野市平山遺跡の発掘調査は、国土交通省関東地方整備局相武国道事務所が施行する一般国道20号（日野バイパス（延伸））建設事業に伴い実施されました。

遺跡は、日野市南西部の東京都日野市豊田三丁目から西平山四丁目にかけて所在し、浅川左岸に形成された河岸段丘上に立地します。遺跡の範囲は東西約1.9km、南北約1.3kmと広大で、その範囲には2つの古墳群を含みます。平山遺跡は縄文時代から古代の土器が出土することで早くから知られ、これまでの発掘調査により、旧石器時代から近世に及ぶ複合遺跡であることが分かっています。

本事業に伴う発掘調査は平成28年2月に開始し、平山遺跡にまるで細長いトレーナーを入れるかのようにして、遺跡の東から西へと発掘調査を進めてきました。最初に発掘調査を実施した地点の調査成果は、令和4年2月に東京都埋蔵文化財センター調査報告第368集として刊行しました。本報告は、それに続く調査地点の発掘調査報告書です。

今回の発掘調査では、旧石器時代における石器の製作やメンテナンスを行った痕跡をはじめ、弥生時代終末期から古墳時代前期にかけての集落、古墳時代中～後期の円墳、奈良・平安時代の集落など、多岐にわたる調査成果を得ることができました。

本報告書が多くの人々に活用され、埋蔵文化財に対する都民の皆さまの関心と理解を深めていただくことができれば幸いです。

本報告書の刊行にあたり、ご協力とご指導をいただきました国土交通省関東地方整備局相武国道事務所、東京都教育委員会、日野市教育委員会に厚く御礼を申し上げるとともに、ご理解とご協力をいただきました地域住民の皆さん、研究者の皆さんに心より感謝いたします。

令和6年3月

公益財団法人 東京都教育支援機構

理事長 坂東 真理子

例 言

1 本書は、東京都日野市豊田三丁目他に所在する平山遺跡（日野市 No.22 遺跡）のうち、国土交通省関東地方整備局相武国道事務所による、一般国道 20 号（日野バイパス（延伸））建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（東京都埋蔵文化財センター調査報告第 382 集）である。

なお事業は現在も継続しており、本書は平成 28～31 年度及び令和 3 年度の調査対象範囲についてを「その 2」として報告するものである。

2 発掘調査事業は、一般国道 20 号（日野バイパス（延伸））建設事業に伴い、国土交通省関東地方整備局相武国道事務所の委託を受け、公益財団法人東京都スポーツ文化事業団東京都埋蔵文化財センター（現公益財団法人東京都教育支援機構東京都埋蔵文化財センター）が実施した。

3 本調査に先立つ試掘調査については、すでに遺跡内で複数回の本調査が行われているため、実施していない。

4 遺跡所在地：東京都日野市東平山二丁目

5 調査面積：6,913m²

6 調査期間：平成 29 年 3 月 23 日～平成 31 年 3 月 31 日（2-2 区～2-5 区）

令和 3 年 7 月 7 日～9 月 21 日（2-1 区）

一次整理期間：平成 29 年 4 月 3 日～平成 31 年 3 月 31 日（2-2 区～2-5 区）

令和 3 年 7 月 7 日～9 月 21 日（2-1 区）

二次整理・報告書作成期間：令和 3 年 9 月 1 日～令和 6 年 3 月 31 日

7 本事業における事業者との事業調整等は、東京都教育庁地域教育支援部管理課が担当・指導した。

埋蔵文化財担当統括課長代理 伊藤敏行（～令和 2 年 3 月）

埋蔵文化財担当課長代理 鈴木徳子（令和 2 年 4 月～）

埋蔵文化財担当 平田 健（～平成 30 年 3 月）

笹津備当（平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月）

尾田識好（平成 31 年 4 月～令和 2 年 3 月）

野口 舞（令和 2 年 4 月～）

8 調査担当者

東京都埋蔵文化財センター日野バイパス分室

調査課課長 山本孝司（平成 29 年 4 月）

調査課係長（課長代理）西山博章（平成 29 年 5 月～令和 5 年 3 月）

調査課課長 西山博章（令和 5 年 4 月～）

調査研究員 江里口省三（平成 29 年 3 月～令和元年 12 月）

武内 啓（平成 29 年 3 月～平成 30 年 8 月）

佐賀桃子（平成 29 年 8 月～平成 31 年 3 月）

酒井光一（平成 30 年 4 月～令和元年 9 月）

相原正人（令和 3 年 7 月～）

小島正裕（令和3年8月～9月）

守屋 亮（令和3年12月～令和5年12月）

調査工事委託・支援会社

岩倉建設株式会社 テイケイトレード株式会社

9 本報告書の執筆は、相原正人・守屋亮・小西絵美・尾田識好・山本孝司・西山博章が分担し、文責は各文末に記した。

10 本報告書の編集は、相原・守屋が行った。

11 金属製品の透過撮像

軟X線

軟X線装置（SOFTEX 社 M1005 特型改：東京都埋蔵文化財センター）で撮像した。撮像は、長佐古真也・中島一成・守屋が行った。撮影条件は、管電圧 60kVp、管電流 40mA、露光時間 2sec で、デジタルセンサーはアルエフ社製 NAOMI NX-04H を用いた。

X線CT

X線CT装置（島津製作所 inspeXio SMX-225CT FPD HR Plus：同センター）で撮像した。X線管電圧は 200kV、管電流は $70\mu\text{A}$ で、コーンビーム CT のノーマル走査である。さらに、得られた CT データを使用し、ボリュームグラフィックス製ソフトウェア VG-Studio MAX 3.3.4 を用いて 3D モデルを作製した。撮像・解析は長佐古が行った。

金属製品の元素組成分析

エネルギー分散型蛍光X

線分析装置（EDX）（島津製作所 EDX - 8100：同センター）で元素組成分析を行った。操作は、長佐古が行った。

12 本報告に関して、下記の方々と機関に分析を委託、依頼した。

放射性炭素年代測定：株式会社 パレオ・ラボ

炭素窒素安定同位体比分析と残存脂質分析：宮田佳樹氏（東京大学総合研究博物館）

炭化材の樹種同定：株式会社 パレオ・ラボ

炭化種実の同定：株式会社 パレオ・ラボ、守屋 亮

土器の圧痕分析：佐々木由香氏（金沢大学 古代文明・文化資源学研究所・明治大学黒耀石研究センター）、守屋 亮

テフラ分析：株式会社 パレオ・ラボ

須恵器産地同定：加藤恭朗氏（古代の入間を考える会）

石質鑑定：柴田 徹氏（有限会社考古石材研究所）

青銅製品・金属製品の分析・保存処理：長佐古真也（東京都埋蔵文化財センター学芸担当係長）
中島一成（東京都埋蔵文化財センター調査研究員）

13 旧石器時代の報告については、兩角太一氏（大正大学大学院生）の協力を得た。

古代の遺物の記載については、鶴間正昭氏（元東京都埋蔵文化財センター）の助言・協力を得た。

14 本調査の概要については、以下において一部を発表、報告しているが、本書の刊行を以て正式報告とする。

東京都埋蔵文化財センター 2018『東京都埋蔵文化財センター遺跡発掘調査発表会 2017』
東京都埋蔵文化財センター 2018『東京都埋蔵文化財センター年報 38 平成 29 (2017) 年度』
東京都埋蔵文化財センター 2019『東京都埋蔵文化財センター年報 39 平成 30 (2018) 年度』
東京都埋蔵文化財センター 2022『東京都埋蔵文化財センター年報 42 令和 3 (2021) 年度』
相原正人 「東京都内の方形周溝墓～集落との関係を中心～」『方形周溝墓を考える』東京都埋蔵文化財センター 2021

15 出土遺物及び発掘調査・整理に関わる図面・写真等記録類は、日野市教育委員会で保管している。

16 本文用例等

- ・本書で掲載・参照した地形図等は、以下のとおりである。

国土地理院電子地形図 25000

東京都教育委員会「東京都遺跡地図情報インターネット提供サービス」

株式会社ミッドマップ東京「東京都 2,500 デジタル白地図 2015」

- ・平山遺跡グリッド設定図（第2図）は、東京都埋蔵文化財センターとの協議に基づいて日野市教育委員会が作成したものに、加筆・修正を加えた。
- ・土層・遺物の色調、含有量の表記には、農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖 17 版』を用い、土色・マンセルノテーションで表した。
- ・遺物取り上げ・遺構の図化は、株式会社パスコ社 パドラス T3Di を用いた。
- ・調査に使用した座標は、世界測地系第IX座標系に拠る国土座標である。
- ・本書で使用した標高は、海拔で示し、東京湾平均海面（Tokyo Peil : TP）を用いた。

17 発掘調査及び整理調査に関して、下記の方々と機関にご指導・ご協力を賜った。記して、深謝いたします。（順不同・敬称略）

国土交通省関東地方整備局相武国道事務所、清野利明、根本 靖

東宮下自治会、西宮下自治会、川北地域自治会・まちづくり協議会

東京都教育委員会、日野市教育委員会、日野市郷土資料館、日野市まちづくり部区画整理課

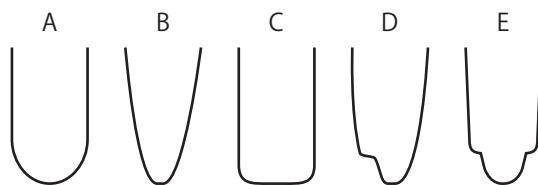
株式会社 CEL

18 本報告書の著作権は、公益財団法人東京都教育支援機構東京都埋蔵文化財センターが保有する。

凡 例

- ・本報告に係る遺構番号は、発掘調査時に付した遺構略号を用いた。整理調査に伴い遺構の種別が変更となったものについても、発掘調査時に付した略号のまま表記した。SX が SP と混在する等の例があるのはこのためである。
- ・遺構番号については、平成 27・28 年度調査地点からの連番とした。なお、2-2～2-5 区と 2-1 区の発掘調査の間に他の地点で調査を実施しているため、本報告書においては SI58～74、SK188～298、SP631～1059 は欠番となっている。
- ・遺物接合図における土器類・石器・石製品・金属製品は、帰属する時代の遺物に限定した。
- ・出土・分布・接合状況図に添付した出土遺物実測図は、1/8 を原則とし、一部 1/4 他を使用した。

- ・土坑・ピットの一覧表にある断面形態は以下の模式図のとおりである。



- ・第IV章に掲載した個別の遺物写真については、概ね実測図と同サイズで掲載した。
- ・竪穴建物跡においては、掘り方埋土も含め、「貼床土」とした。
- ・弥生時代終末期から古墳時代前期の器種分類について、先行する発掘調査報告書『平山遺跡その1』（東京都埋蔵文化財センター調査報告第368集）で「?」と分類されている土器については、今回は「鉢」に分類した。
- ・挿図で用いた主なスクリーントーンとドットマークは、以下のとおりである。これ以外は、図中に凡例を示した。



遺物凡例

◎ 繩文土器 ○ 弥生土器 ● 土師器 △ 須恵器 □ 石器・石製品 ◆ 金属製品 × 磁 ⊕ 炭化材・炭化種実 ▼ 焼成粘土塊

- ・遺物観察表の法量の項目は、上段が口径、中段が器高、下段が底径または脚部径を示す。また括弧内の数字は、反転復元値を示す。

目 次

日野市平山遺跡の調査	3) 整理調査の経過	3
Overview of Hirayama Site, Hino City	II 遺跡の位置と環境	
序言	1 地理的環境	15
例言・凡例	2 歴史的環境	17
I 発掘調査の概要	III 層序	22
1 調査に至る経緯	IV 遺構と遺物	28
2 調査の方法と経過	1 旧石器時代	31
1) 調査の方法	1) 1号遺物集中部	31
2) 発掘調査の経過	2) 遺物	31

2 縄文時代	50	A 壁穴建物跡・壁穴状遺構	110
1) 遺構	50	B 方形周溝墓	310
A 壁穴状遺構	50	C 土坑	314
B 集石・礫集中	54	D ピット	322
C 土坑	63	2) 遺構外出土遺物	322
D ピット	67	A 弥生時代前期の土器	322
2) 遺物	72	B 弥生時代終末期～古墳時代前期の 土器	328
A 土器	72	4 古墳時代中～後期	334
B 土製品	75	1) 遺構と遺構出土遺物	334
C 石器	93	A 古墳	334
3 弥生時代～古墳時代前期	110	B 土坑	340
1) 遺構と遺構出土遺物	110		

第2分冊目次

IV 遺構と遺物	4 平山遺跡から出土した炭化種実
5 古代	5 平山遺跡から出土した炭化種実(補足)
1) 遺構と遺構出土遺物	6 日野市平山遺跡出土土器の圧痕同定(2)
2) 遺構外出土遺物	7 平山遺跡のテフラ分析
6 中世	VI 調査の成果と課題
1) 遺構と遺構出土遺物	1 旧石器時代
2) 遺構外出土遺物	2 縄文時代
7 近世以降	3 弥生時代終末期から古墳時代前期の集落
1) 遺構	4 弥生時代終末期から古墳時代前期の土器
2) 遺物	5 古代
V 自然科学分析	6 中世・近世以降
1 放射性炭素年代測定	引用・参考文献
2 日野市平山遺跡出土土器の残存脂質分析	報告書抄録
3 日野市平山遺跡出土炭化材の樹種同定	

卷頭写真目次

写真 1 航空写真（北東から撮影）	i	写真 10 SI47 出土土器	iv
写真 2 旧石器時代の遺物集中部（SBL1）	ii	写真 11 奈良時代の土師器・須恵器	v
写真 3 縄文時代の集石（SS6）	ii	写真 12 平安時代の土師器・須恵器	v
写真 4 古墳時代前期の竪穴建物跡（SI56）	iii	写真 13 奈良時代の竪穴建物跡（SI22）	vi
写真 5 SI41 土器出土状況	iii	写真 14 平安時代の竪穴建物跡（SI30）	vi
写真 6 方形周溝墓（SZ2）	iii	写真 15 側柱を有する竪穴建物跡（SI53）	vi
写真 7 SI38 出土土器	iv	写真 16 SI53 から出土した鉄鎌	vi
写真 8 SI41 出土土器	iv	写真 17 道路跡（SF3）	vii
写真 9 SI39 出土土器	iv	写真 18 近世以降の農事関連遺構群	vii

挿図目次

第1図 平山遺跡の位置(1/25,000)	4	第31図 縄文時代遺構分布図(1/1,200)	51
第2図 平山遺跡グリッド設定図(1/10,000)	5	第32図 SI57(1)(1/60)	52
第3図 調査区設定図(1/2,000)	7	第33図 SI57(2)(1/60)	53
第4図 2-2・3区、2-4・5区全景	8	第34図 SI57(3)遺物分布図(1/60)	54
第5図 各区調査前状況	9	第35図 SI57写真	55
第6図 2-5区東側・2-1区調査前状況、2-1区調査完了・埋め戻し状況10		第36図 SS6(1)(1/60)	56
第7図 2-2区調査完了状況	11	第37図 SS6(2)(1/30)	57
第8図 2-2・3・4区調査完了状況	12	第38図 SS6(3)遺物接合図(1/60)	58
第9図 2-5区調査完了状況	13	第39図 SS6(4)下部施設遺物接合図(1/30)	59
第10図 周辺の地形と地質(1/70,000)	16	第40図 SS6写真	60
第11図 周辺の遺跡(1/25,000)	18	第41図 SS13(1/100・1/60)	61
第12図 土層断面・試掘坑位置図(1/1,200)	23	第42図 SS13写真	62
第13図 基本層序(1)(1/60・1/100)	24	第43図 SK82・84・107(1/40)	64
第14図 基本層序(2)	25	第44図 SK116・167(1/40)	65
第15図 調査区土層断面	26	第45図 SK168・188(1/40)	66
第16図 調査区試掘坑	27	第46図 SK189(1/40)	67
第17図 縄文時代～中世遺構全体図(1/800)	29	第47図 SK82・84・107・116写真	68
第18図 SBL1(1)器種別分布図(1/60)と遺物垂直位置の度数分布	33	第48図 SK167・168・188・189写真	69
第19図 SBL1(2)石材別分布図(1/60)	34	第49図 SP531・619(1/40)	70
第20図 SBL1(3)礫接合図(1/60)	35	第50図 SP531・619写真	70
第21図 SBL1出土遺物(1)(3/4)	36	第51図 縄文時代土器分布図(1/1,200)	71
第22図 SBL1出土遺物(2)(1/2)	37	第52図 縄文土器(1)(1/3)	76
第23図 SBL1石器接合分布図・石器接合個体(1)(1/60・1/2)	38	第53図 縄文土器(2)(1/3)	77
第24図 SBL1石器接合分布図・石器接合個体(2)(1/60・1/3)	39	第54図 縄文土器(3)(1/3)	78
第25図 SBL1出土遺物写真(1)	40	第55図 縄文土器(4)(1/3)	79
第26図 SBL1出土遺物写真(2)	41	第56図 縄文土器(5)(1/3)	80
第27図 SBL1石器接合個体写真(1)	42	第57図 縄文土器(6)・土製品(1/3・1/2)	81
第28図 SBL1石器接合個体写真(2)	43	第58図 縄文土器写真(1)	82
第29図 SBL1写真(1)	48	第59図 縄文土器写真(2)	83
第30図 SBL1写真(2)	49	第60図 縄文土器写真(3)	84

第61図 縄文土器写真(4)	85	第107図 SI34出土遺物(2)(1/2・1/6)	143
第62図 縄文土器写真(5)	86	第108図 SI34出土遺物写真(1)	144
第63図 縄文土器写真(6)・土製品写真	87	第109図 SI34出土遺物写真(2)	145
第64図 縄文時代石器(1)(2/3・1/3)	94	第110図 SI35(1)(1/60)	148
第65図 縄文時代石器(2)(1/3)	95	第111図 SI35(2)	149
第66図 縄文時代石器(3)(1/3)	96	第112図 SI35(3)炉・貯蔵穴・土堤・赤砂(1/30)	150
第67図 縄文時代器(4)(1/3)	97	第113図 SI35(4)遺物分布・接合図(1/60)	151
第68図 縄文時代石器(5)(1/3)	98	第114図 SI35写真(1)	152
第69図 縄文時代石器(6)(1/3)	99	第115図 SI35写真(2)	153
第70図 縄文時代石器(7)(1/3)	100	第116図 SI35出土遺物(1/3・1/2)	154
第71図 縄文時代石器写真(1)	101	第117図 SI35出土遺物写真	154
第72図 縄文時代石器写真(2)	102	第118図 SI37(1)(1/60)	156
第73図 縄文時代石器写真(3)	103	第119図 SI37(2)	157
第74図 縄文時代石器写真(4)	104	第120図 SI37(3)炉・赤砂・遺物出土状況図(1/30)	158
第75図 縄文時代石器写真(5)	105	第121図 SI37(4)遺物分布・接合図(1/60)	159
第76図 縄文時代石器写真(6)	106	第122図 SI37写真(1)	160
第77図 縄文時代石器写真(7)	107	第123図 SI37写真(2)	161
第78図 弥生時代・古墳時代遺構分布図(1/1,200)	111	第124図 SI37出土遺物(1/3)	162
第79図 SI24(1)(1/60)	112	第125図 SI37出土遺物写真	163
第80図 SI24(2)遺物分布・接合図(1/60)	113	第126図 SI38(1)(1/60)・炉・貯蔵穴(1/30)	164
第81図 SI24写真	114	第127図 SI38(2)	165
第82図 SI24出土遺物(1/3)	115	第128図 SI38(3)焼土・粘土検出状況・遺物出土状況図(1/60)	166
第83図 SI24出土遺物写真	115	第129図 SI38(4)遺物分布・接合図(1/60)	167
第84図 SSI31(1)(1/60)	118	第130図 SI38写真(1)	168
第85図 SI31(2)	119	第131図 SI38写真(2)	169
第86図 SI31(3)(1/60)	120	第132図 SI38出土遺物(1)(1/3)	170
第87図 SI31(4)炉・貯蔵穴・土堤・赤砂(1/30)	121	第133図 SI38出土遺物(2)(1/3)	171
第88図 SI31(5)遺物出土状況図(1/60)	122	第134図 SI38出土遺物(3)(1/3・1/6)	172
第89図 SI31(6)遺物分布図(1/60)	123	第135図 SI38出土遺物写真(1)	174
第90図 SI31(7)遺物接合図(1/60)	124	第136図 SI38出土遺物写真(2)	175
第91図 SI31写真(1)	125	第137図 SI38出土遺物写真(3)	176
第92図 SI31写真(2)	126	第138図 SI39(1)(1/60)	180
第93図 SI31写真(3)	127	第139図 SI39(2)	181
第94図 SI31出土遺物(1)(1/3)	128	第140図 SI39(3)炉・貯蔵穴・土堤・赤砂(1/30)	182
第95図 SI31出土遺物(2)(1/3)	129	第141図 SI39(4)遺物出土状況図(1)(1/60)	183
第96図 SI31出土遺物写真	130	第142図 SI39(5)遺物出土状況図(2)(1/30)	184
第97図 SI34(1)(1/60)	132	第143図 SI39(6)遺物分布・接合図(1/60)	185
第98図 SI34(2)	133	第144図 SI39写真(1)	186
第99図 SI34(3)(1/60)・炉(1/30)	134	第145図 SI39写真(2)	187
第100図 SI34(4)貯蔵穴・土堤・赤砂(1/30)	135	第146図 SI39写真(3)	188
第101図 SI34(5)遺物出土状況図(1/60)	136	第147図 SI39出土遺物(1/3・2/3)	190
第102図 SI34(6)遺物分布・接合図(1/60)	137	第148図 SI39出土遺物写真	191
第103図 SI34写真(1)	138	第149図 SI41(1)(1/60)	194
第104図 SI34写真(2)	139	第150図 SI41(2)	195
第105図 SI34写真(3)	140	第151図 SI41(3)貯蔵穴・赤砂下部(1/30)	196
第106図 SI34出土遺物(1)(1/3)	142	第152図 SI41(4)遺物出土状況図(1/60・1/30)	197

第153図	SI41(5)遺物分布図(1/60)	198	第199図	SI47写真(2)	246
第154図	SI41(6)遺物接合図(1/60)	199	第200図	SI47写真(3)	247
第155図	SI41写真(1)	200	第201図	SI47出土遺物(1)(1/3)	248
第156図	SI41写真(2)	201	第202図	SI47出土遺物(2)(1/3)	249
第157図	SI41写真(3)	202	第203図	SI47出土遺物写真(1)	250
第158図	SI41写真(4)	203	第204図	SI47出土遺物写真(2)	251
第159図	SI41出土遺物(1)(1/3)	204	第205図	SI48(1)(1/60)	253
第160図	SI41出土遺物(2)(1/3)	205	第206図	SI48(2)(1/60)炉・貯蔵穴・土堤・赤砂(1/30)	254
第161図	SI41出土遺物(3)(1/3・1/6)	206	第207図	SI48(3)遺物分布・接合図(1/60)	255
第162図	SI41出土遺物写真(1)	207	第208図	SI48写真(1)	256
第163図	SI41出土遺物写真(2)	208	第209図	SI48写真(2)	257
第164図	SI41出土遺物写真(3)	209	第210図	SI48出土遺物(1/3・2/3)	258
第165図	SI42(1)(1/60)	212	第211図	SI48出土遺物写真	259
第166図	SI42(2)	213	第212図	SI49(1)(1/60)	262
第167図	SI42(3)炉・貯蔵穴・土堤・赤砂(1/30)	214	第213図	SI49(2)炉・貯蔵穴(1/30)	263
第168図	SI42(4)遺物分布・接合図(1/60)	215	第214図	SI49(3)遺物分布・接合図(1/60)	264
第169図	SI42写真(1)	216	第215図	SI49写真	265
第170図	SI42写真(2)	217	第216図	SI49出土遺物(1/3)	266
第171図	SI42出土遺物(1/3)	218	第217図	SI49出土遺物写真	266
第172図	SI42出土遺物写真	218	第218図	SI50(1)(1/60)	267
第173図	SI43(1)(1/60)	220	第219図	SI50(2)(1/60)	268
第174図	SI43(2)遺物分布・接合図(1/60)	221	第220図	SI50(3)炉・貯蔵穴・赤砂(1/30)	269
第175図	SI43写真	222	第221図	SI50(4)遺物出土状況図(1/60)	270
第176図	SI43出土遺物(1/3・2/3)	223	第222図	SI50(5)遺物分布図(1/60)	271
第177図	SI43出土遺物写真	223	第223図	SI50(6)遺物接合図(1/60)	272
第178図	SI44(1)(1/60)・貯蔵穴・遺物出土状況図(1/30)	224	第224図	SI50写真(1)	273
第179図	SI44(2)遺物分布・接合図(1/60)	225	第225図	SI50写真(2)	274
第180図	SI44写真	226	第226図	SI50写真(3)	275
第181図	SI44出土遺物(1/3・1/6)	227	第227図	SI50出土遺物(1/3)	276
第182図	SI44出土遺物写真	228	第228図	SI50出土遺物写真	277
第183図	SI45(1)(1/60)	230	第229図	SI52(1)(1/60)	279
第184図	SI45(2)遺物分布図(1/60)	231	第230図	SI52(2)(1/60)	280
第185図	SI45写真	232	第231図	SI52(3)炉・貯蔵穴・赤砂(1/30)	281
第186図	SI46(1)(1/60)	233	第232図	SI52(4)遺物分布図(1/60)	282
第187図	SI46(2)遺物分布・接合図(1/60)	234	第233図	SI52(5)遺物接合図(1/60)	283
第188図	SI46写真	235	第234図	SI52写真(1)	284
第189図	SI46出土遺物(1/3)	236	第235図	SI52写真(2)	285
第190図	SI46出土遺物写真	236	第236図	SI52出土遺物(1/3・2/3)	286
第191図	SI47(1)(1/60)	238	第237図	SI52出土遺物写真	287
第192図	SI47(2)	239	第238図	SI56(1)(1/60)	290
第193図	SI47(3)(1/60)・炉・貯蔵穴・土堤(1/30)	240	第239図	SI56(2)	291
第194図	SI47(4)貯蔵穴・土堤・赤砂・遺物出土状況図(1/30)	241	第240図	SI56(3)(1/60)	292
第195図	SI47(5)	242	第241図	SI56(4)炉・貯蔵穴・土堤・赤砂(1/30)	293
第196図	SI47(6)遺物分布図(1/60)	243	第242図	SI56(5)遺物出土状況図(1/60)	294
第197図	SI47(7)遺物接合図(1/60)	244	第243図	SI56(6)遺物分布図(1/60)	295
第198図	SI47写真(1)	245	第244図	SI56(7)遺物接合図(1/60)	296

第245図 SI56写真(1)	298	第261図 SK79・93・111・113(1/40)	323
第246図 SI56写真(2)	299	第262図 SK161・163(1/40)	324
第247図 SI56写真(3)	300	第263図 SK79・93・111・113・161・163写真	325
第248図 SI56出土遺物(1)(1/3)	302	第264図 SP418・503・516・517・551・560・561(1/40)	326
第249図 SI56出土遺物(2)(1/3)	303	第265図 SP418・503・516・517・551・560・561写真	327
第250図 SI56出土遺物写真(1)	304	第266図 遺構外出土遺物(弥生時代前期)(1/3)	329
第251図 SI56出土遺物写真(2)	305	第267図 遺構外出土遺物(弥生時代終末期～古墳時代前期)(1/3)	330
第252図 弥生時代終末期～古墳時代前期遺構間接合図(1/1,200)	309	第268図 遺構外出土遺物写真	331
第253図 SZ2(1)(1/60)	311	第269図 SZ3(1)(1/60・1/120)	335
第254図 SZ2(2)遺物出土状況図(1/40・1/120)	313	第270図 SZ3(2)	337
第255図 SZ2(3)遺物接合図(1/60)	315	第271図 SZ3写真(1)	338
第256図 SZ2写真(1)	317	第272図 SZ3写真(2)	339
第257図 SZ2写真(2)	318	第273図 SZ3出土遺物(1/3)	340
第258図 SZ2写真(3)	319	第274図 SZ3出土遺物写真	340
第259図 SZ2出土遺物(1/3)	320	第275図 SK183・184(1/40)	341
第260図 SZ2出土遺物写真	321	第276図 SK183・184写真	342

表 目 次

第1表 調査工程表	3	第18表 SI42出土土器観察表	219
第2表 周辺の遺跡一覧	19	第19表 SI43出土土器・土製品観察表	223
第3表 石器組成表	32	第20表 SI44出土土器観察表	229
第4表 SBL1出土遺物観察表(1)～(4)	44～47	第21表 SI46出土土器観察表	237
第5表 石器接合表	47	第22表 SI47出土土器観察表	252
第6表 磁接合表	47	第23表 SI48出土土器・土製品観察表	260
第7表 繩文時代土坑・ピット一覧表	70	第24表 SI49出土土器観察表	266
第8表 繩文時代土器観察表(1)～(6)	88～93	第25表 SI50出土土器観察表	278
第9表 繩文時代石器観察表	109	第26表 SI52出土土器・土製品観察表(1)・(2)	288・289
第10表 SI24出土土器観察表	116	第27表 SI56出土土器観察表(1)・(2)	306・307
第11表 SI31出土土器観察表	131	第28表 弥生時代終末期～古墳時代前期堅穴建物跡 ・堅穴状遺構一覧表	308
第12表 SI34出土土器観察表	146	第29表 SZ2出土土器観察表	322
第13表 SI35出土土器・土製品観察表	154	第30表 弥生時代土坑・ピット一覧表	328
第14表 SI37出土土器観察表	163	第31表 遺構外出土土器観察表(1)・(2)	332・333
第15表 SI38出土土器観察表(1)・(2)	177・178	第32表 弥生時代出土石製品観察表	333
第16表 SI39出土土器観察表	192	第33表 SZ3出土土器観察表	340
第17表 SI41出土土器観察表(1)・(2)	210・211		

I 発掘調査の概要

1 調査に至る経緯

本発掘調査は、一般国道 20 号（日野バイパス（延伸））事業地内の埋蔵文化財発掘調査である。

一般国道 20 号（日野バイパス（延伸））建設事業計画に基づき、事業者である国土交通省関東地方整備局相武国道事務所（以下、相武国道事務所とする）は、平成 27 年 2 月 9 日に文化財保護法第 94 条第 1 項に基づく埋蔵文化財発掘の通知を日野市教育委員会を経由して東京都教育委員会に提出し、埋蔵文化財発掘調査に関する協議が開始された。当該範囲は、平山遺跡（日野市 No. 22 遺跡）として周知の遺跡であり、これまでに複数回の発掘調査が行われていることから、東京都教育委員会は、相武国道事務所に平成 27 年 10 月 27 日付で埋蔵文化財の本格調査が必要であると回答した。

これを受け相武国道事務所は、平成 27 年 11 月 2 日付で東京都教育委員会に対し埋蔵文化財本調査に係る取り扱いの照会を行い、東京都教育委員会は、平成 27 年 11 月 10 日付で本調査を公益財団法人東京都スポーツ文化事業団東京都埋蔵文化財センター（現公益財団法人東京都教育支援機構東京都埋蔵文化財センター、以下、東京都埋蔵文化財センターとする）が実施する旨、回答した。これにより、関係機関で本調査に係る協議を開始し、平成 27 年 12 月 25 日に相武国道事務所及び東京都教育委員会、公益財団法人東京都スポーツ文化事業団（当時）との間で、「一般国道 20 号（日野バイパス（延伸））建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査に関する協定書」が締結され、続いて相武国道事務所と公益財団法人東京都スポーツ文化事業団（当時）との間で、埋蔵文化財発掘調査の実施に関する委託契約が締結され、発掘調査の準備に着手した。

発掘調査は平成 28 年 2 月に開始し、平山通り東側の調査対象範囲 3,090m²について、平成 29 年 3 月 31 日までに発掘調査を完了し、二次整理作業を経て、令和 4 年 2 月に東京都埋蔵文化財センター調査報告第 368 集『平山遺跡その 1』として調査報告書を刊行した。

今回の報告対象となる平山通り西側の 2-1 ~ 2-5 区（6,913m²）は、上記調査終了後の平成 29 年 3 月に準備工に着手し、3 月 23 日より発掘調査を開始した。調査の経過については次節を参照されたい。

本発掘調査に係る届出とそれに対する東京都教育委員会の発掘調査の通知は、次のとおりである。なお、2-1 区の発掘調査の届出に関しては、発掘調査の実施が確定した令和 3 年度に改めて届出を行っている。

発掘調査の実施について：国関整相国調第 23 号 平成 28 年 1 月 8 日

発掘調査の届出：27 号文事埋文第 2576 号 平成 28 年 3 月 22 日 [2-2 区]

発掘調査の届出：28 号文事埋文第 2813 号 平成 29 年 3 月 30 日 [2-2 区]

発掘調査の届出：29 号文事埋文第 2818 号 平成 30 年 3 月 30 日 [2-2 ~ 2-5 区]

発掘調査の届出：3 号文事埋文第 2189 号 令和 3 年 6 月 28 日 [2-1 区]

発掘調査の通知：28 教地管埋第 99 号 平成 28 年 4 月 12 日 [2-2 区]

発掘調査の通知：29 教地管埋第 232 号 平成 29 年 4 月 3 日 [2-2 区]

発掘調査の通知：30 教地管理第 484 号 平成 30 年 5 月 15 日 [2-2 ~ 2-5 区]

発掘調査の通知：3 教地管理第 1777 号 令和 3 年 6 月 28 日 [2-1 区]

2 調査の方法と経過

1) 調査の方法

発掘調査に先立って、日野市教育委員会と協議の上、調査区画の設定を行った。今後の調査を勘案し、今回の調査地点だけでなく、平山遺跡全域を対象範囲として設定した。

国土座標（世界測地系）を基準とする 50 m 四方の大グリッドを設け、測量座標に準拠して北西隅を起点として X 軸には北から南に向け大文字アルファベットを、Y 軸には西から東に向けアラビア数字を付した。更に、1 大グリッドに 5m 四方の 小グリッドを設け、北西角を起点に西から東、北から南の順で南東角まで 1 ~ 100 の 小グリッド番号を付した。グリッド名は、大グリッド名一小グリッド番号で表記することとし、個々の 小グリッドを「16F-23」のように呼称、表記した。基準とした 16F 北西隅の座標は、X = -38000.00、Y = -42000.00、原点の座標は X = -37750.00、Y = -42750.00 である（第 2 図）。標高は、東京湾平均海面（T.P.）を使用した。

平成 27・28 年度発掘調査地点（『平山遺跡その 1』東京都埋蔵文化財センター調査報告第 368 集）から続く都道 155 号西側の段丘平坦面が今回の調査地点（2-1 ~ 2-5 区）である。幅 30m、長さ 270m 程の調査対象範囲を、着手順に 2-2・2-3・2-4・2-5 区、2-1 区とし（第 3 図）、日野市まちづくり部区画整理課（以下、日野市区画整理課とする）への引き渡しに係る優先順序等により、各区を細分して発掘調査を実施した。

遺構番号については、日野市教育委員会と協議の上、東京都埋蔵文化財センターの調査範囲については遺跡通番とし、遺構種別毎に 1 号から付すこととした。なお、現代にまで下るものについては対象から除外した。

発掘調査は、一部の地表面を被覆する舗装を重機で除去した後、遺構確認面及び古代・縄文時代の包含層（Ⅱ層・Ⅲ層上面）まで盛土と表土を重機で掘削し、遺構確認及び遺構の精査と包含層の調査は人力で行った。なお、遺物の出土が寡少なⅢ層下部（Ⅲ 3 層）とⅣ層は遺物を取り上げながら人力掘削を併用しつつ機械掘削を行い、Ⅳ層上面と、Ⅴ層上面で遺構確認作業を行った。旧石器時代の確認調査は、Ⅴ層上面で比較的大型の黒曜石塊が出土した範囲と、床面（貼床土中）で尖頭器が出土した竪穴建物跡 SI40 に試掘坑を設けて実施した。前者で遺物集中を検出したが、後者では確認されなかった。また、各区に存在するⅤ層を掘り込んでいる攪乱坑の壁面や底面で精査を行ったが、遺物の出土は確認されなかった。

遺構図及び全体図の作成は、トータルステーションシステム測量による計測と手描きを適宜選択、併用した。発掘調査の記録写真は、35mm フィルムカメラ（白黒・リバーサルフィルム使用）を基本とし、デジタルカメラを併用した。デジタルカメラで撮影したデータのファイル形式は、撮影時のカメラ本体の設定により RAW 及び JPEG とした。出土遺物のうち遺構内に関しては、平面位置と標高を記録し、遺構単位で連番を与え取り上げた。これに対し包含層出土遺物は、調査範囲内を連番で取り上げて出土位置と標高、層位を記録した。また、表土層及び盛土から出土した遺物については、表記を調査区名と層位に限定した。

第1表 調査工程表

	H28年度 3月	H29年度	H30年度	H31/R1年度 4月 5月 6月	R2年度	R3年度			R4年度	R5年度		
						7月	8月	9月 10月 -3月		11月	12月	1月
準備工												
発掘調査 (2-2～2-5)												
埋め戻し												
準備工												
発掘調査 (2-1)												
埋め戻し												
一次整理												
二次整理												
報告書作成												

2) 発掘調査の経過

平成29年2月20日、日野バイパス建設事業に伴う西平山地区の発掘調査に係る協議が東京都教育委員会、相武国道事務所、日野市区画整理課、東京都埋蔵文化財センターにより行われた。発掘調査に先立ち、3月6日に単管柵設置に係る現地立会協議（相武国道事務所、東京都教育委員会、日野市教育委員会、日野市区画整理課、東京都都市づくり公社、東京都埋蔵文化財センター）、3月8日に単管柵設置位置確認に係る現地立会（東京都教育委員会、日野市区画整理課、東京都都市づくり公社、東京都埋蔵文化財センター）を実施した。

周辺住民及び関係諸機関と調整を重ね、平成29年3月13日に準備工に着手し、発掘調査は3月23日よりを開始した。着手が可能な部分から発掘調査を開始する関係から、調査区を2-2～5区の4区に分割して調査を実施することとし、2-2区（2,550m²）全体のうち南部から着手した。2-2区南部については、日野市区画整理課による仮道建設が予定されており、発掘調査終了後に日野市区画整理課へ引き渡す予定になっていた。調査区の西側から盛土及び表土の機械掘削と人力による遺構確認作業を行った。調査区全域で近世以降の畝の畝間溝や土坑が検出されたが、大きく搅乱されている部分が複数あり、廃棄された浄化槽や玉石、アスファルト・コンクリート舗装版をはじめとする多量のガラ（廃棄物）が検出され、その扱いが問題になると同時に調査の大きな支障となった。4月20日には搅乱坑の壁面で古代の竪穴建物跡と土坑の存在を確認した。表土掘削と並行して、近世以降の遺構の調査を実施し、調査が終了した部分からⅡ層の人力掘削作業に着手した。Ⅱ層中で古代から中世の円形・方形土坑を検出し、古代以前の竪穴建物跡と中世の溝・道跡が存在することも確認した。7月3日よりそれらの遺構調査に着手し、8月30日にはこれらの遺構を対象にラジコンヘリによる空中写真撮影を実施した。発掘調査は9月27日に終了し、東京都教育委員会による終了確認も同日に行われた。埋戻しを行い、現状復旧作業が9月29日に終了し、日野市区画整理課に引き渡した。

2-2区南部を優先して発掘調査を行ったため、2-2区北部については時期をずらして発掘調査に着手した。調査地点北側を通る道路の開通に伴い、車両の交通量の増加が予想されていた。ガードフェンスを設置したとしても、道路間近で発掘作業を行うことに危険を感じる状況であった。このような状況を鑑み、車両等の衝突にも耐え得る据置型ガードレールの設置が検討された。相武国道事務所の指示に基づき、据置型ガードレール設置に関する細目が協議、承認され、東京都埋蔵文化財センター



第1図 平山遺跡の位置 (1/25,000) [国土地理院電子地形図 25000 に加筆]



第2図 平山遺跡グリッド設定図(1/10,000)

が対応し、10月3日に設置が完了した。これにより、安全が担保され、10月10日から2-2区北部の発掘調査を開始した。

なお、調査地点北側を通る道路築道に伴い、当該範囲は日野市教育委員会による発掘調査が既に実施されていた。計画図上では、その発掘調査範囲の南限と、今回発掘調査を実施する2-1～2-5区の北限が接することになっている。しかしながら、調査地点北側の道路は交通量も多いため、掘削に際しては一定程度の離隔を確保せざるを得ない状況だった。東京都教育委員会と協議し、離隔を取り土留めを行ったうえで、発掘調査を実施することとなった。

2-2区北部では古墳時代前期に位置付けられる方形周溝墓SZ2が検出され、他の遺構とともに調査を進めた。また、2-2区北西部で調査地点西側を通る市道下へと続く土坑と竪穴建物跡が検出され（のちに2-1区として発掘調査を実施）、その取り扱いを関係機関と協議したところ、平成30年度以降に次期調査範囲を併せて発掘調査をする方針が決定された。

追加調査が決定した2-3区（780m²）の発掘調査は、平成29年11月10日から着手した。2-3区では奈良・平安時代、弥生時代終末期から古墳時代前期にかけての竪穴建物跡、縄文時代の集石等を検出し、各遺構の調査を順次進めた。さらに追加調査となった2-4区（2,080m²）については、平成30年2月26日に発掘調査を開始した。2月28日には、2-2区北側及び2-3区のⅢ層上面で検出した遺構を対象に空中写真撮影を行った。隣接する2-3区と同様に、2-4区においても弥生時代終末期から古墳時代前期にかけての竪穴建物跡等を検出した。

6月27日には2-5区の発掘調査に着手した。2-5区には南北に貫く現道（生活道路）があり、その取り扱いが以前から課題であった。関係機関との協議において、廃道して発掘調査を実施する案等が検討されたが結論に至らず、現道を維持したまま発掘調査を行うことが決定した。なお、現道部分には無届で配管・舗装工事が行われており、遺構の遺存状態等の確認が取れていないことから、現道周辺の調査成果をもって再度判断することとなった。そのような経緯があり、まずは現道西側の発掘調査を進めた。8月16日には現道東側の発掘調査も開始した。現道を挟んだ両側で竪穴建物跡が複数確認され、2-5区北東部には古墳時代の古墳周溝を検出した。そうした中で、現道下に続く古代の竪穴建物跡があることが判明し、その取り扱いについて関係機関と協議を行うことになった。8月22日には、2-2区の残っていた部分及び2-3区の発掘調査が終了し、同日に東京都教育委員会による終了確認が行われた。なお、2-2区北西部については、発掘調査の実施が先送りとなったため、この時点では土坑と竪穴建物跡のプランを検出した状態で埋め戻すこととした。

平成31年1月24日には、2-4・5区のⅢ層上面検出の遺構を対象とした空中写真撮影を実施した。現道部分の取り扱いを関係機関と協議した結果、現道を一時通行止めにして、発掘調査を実施し、調査終了後に現道を復旧することになった。これを受けて、1月28日から現道部分の発掘調査に取り掛かった。2-4区南東部において、ローム層上面で黒曜石が出土したことから、周囲でローム層を掘削して旧石器時代の遺構・遺物の有無を確認する試掘調査を行うことになった。その結果、ローム層中で礫群と細石刃や剥片を伴う旧石器時代の遺物集中を検出した。2-4・5区については3月29日に東京都教育委員会の終了確認を受け、3月31日には発掘調査を終了した。なお、2-5区の現道部分は調査終了後に現状復旧し作業を行い、4月26日に日野市区画整理課へと引き渡した。

長らく発掘調査の実施が保留になっていた2-1区だが、支障となっていた電柱が撤去されたことや、



調査地点の北側を通る現道の横断歩道及び歩行者溜まりの設置工事の施行時期が迫る等の状況を受けて、令和3年度中に発掘調査を行う運びとなった。2-1区の発掘調査に際して、市道を既に発掘調査が終了している東側へ迂回させ、発掘調査終了後に市道を復旧する計画が出たものの、新設する迂回路の管理上の問題が解決されず、関係機関との協議は進展しなかった。しかしながら、調査地点北側の横断歩道及び歩行者溜まりの設置工事の期限が迫っていたため、現状で掘削可能な範囲を2-1区として発掘調査することになったのである。

2-1区の発掘調査着手当時、既に事業用地としてガードフェンスによる仮囲いを設置していたため、新たに設置する必要はなかった。2-2区として発掘調査を行った範囲等を現地で確認し、掘削範囲を設定した。重機による表土掘削は7月7日から着手し、7月13日に終了した。前回調査では遺構を検出した状態で中断していたため、今回はその状況を再度確認するところから始めた。遺構確認面を精査し、改めて円形土坑2基、東にカマドを有する竪穴建物跡1軒を検出した。これらの遺構調査を7月14日から8月31日にかけて実施し、遺構の掘削と並行して写真撮影や図面作成等の記録作業を行った。遺構調査終了後は縄文時代の遺物包含層掘削に移行し、V層上面までの掘り下げが終わったのは9月16日である。同日に東京都教育委員会による終了確認を受けた。その後、調査区西壁の断面図作成やV層上面のレベルの記録等を行い、9月21日には調査完了の全景を撮影し、2-1区の発掘調査が終了した。埋戻しは9月22～28日に実施した。なお、2-1区北西部に関しては、先述した歩行者溜まり設置工事のために、10月上旬に日野市区画整理課への引き渡しを行った。

2-1区北西部を除く2-2～2-5区は、発掘調査終了後、事務所用地や残土仮置き場等として長らく使用していた。事務所や残土仮置き場の移転に伴い、日野市区画整理課への引き渡す準備を進め、令和5年度に段階的に引き渡しを実施した。2-1区の北西部以外及び2-2・3区に凡そ該当する範囲を



1. 2-2-3 区 全景(合成写真) (南南東から)



2. 2-4-5 区 全景(合成写真) (南南東から)

第4図 2-2-3 区、2-4-5 区全景



1. 2-2 区 調査前状況 (南西から)



2. 2-3・4・5 西区 調査前状況 (南西から)

第5図 各区調査前状況



1. 2-5 区東側 調査前状況(南西から)



2. 2-1 区 調査前状況(南南東から)



3. 2-1 区 全景(南南東から)



4. 2-1 区 調査完了状況(南南東から)



5. 2-1 区 埋め戻し完了状況(南南東から)

第6図 2-5 区東側・2-1 区調査前状況、2-1 区調査完了・埋め戻し状況



1. 2-2 区 南側西部調査完了状況 (北東から)



2. 2-2 区 南側中央部調査完了状況 (東北東から)



3. 2-2 区 南側東部調査完了状況 (西南西から)



4. 2-2 区 北側南東部調査完了状況 (西南西から)



5. 2-2 区 北側南部調査完了状況 (東北東から)



6. 2-2 区 北側南西部調査完了状況 (西南西から)



7. 2-2 区 北側北西部調査完了状況 (東北東から)



8. 2-2 区 北側北部中央調査完了状況 (西南西から)

第7図 2-2区調査完了状況



1. 2-2区北側南東部・2-3区南側西部調査完了状況(西南西から)



2. 2-3区 北側調査完了状況(西南西から)



3. 2-3区 南側調査完了状況(西南西から)



4. 2-4区 南側西部調査完了状況(西南西から)



5. 2-4区 南側中央部調査完了状況(西南西から)



6. 2-4区 南側東部調査完了状況(西南西から)

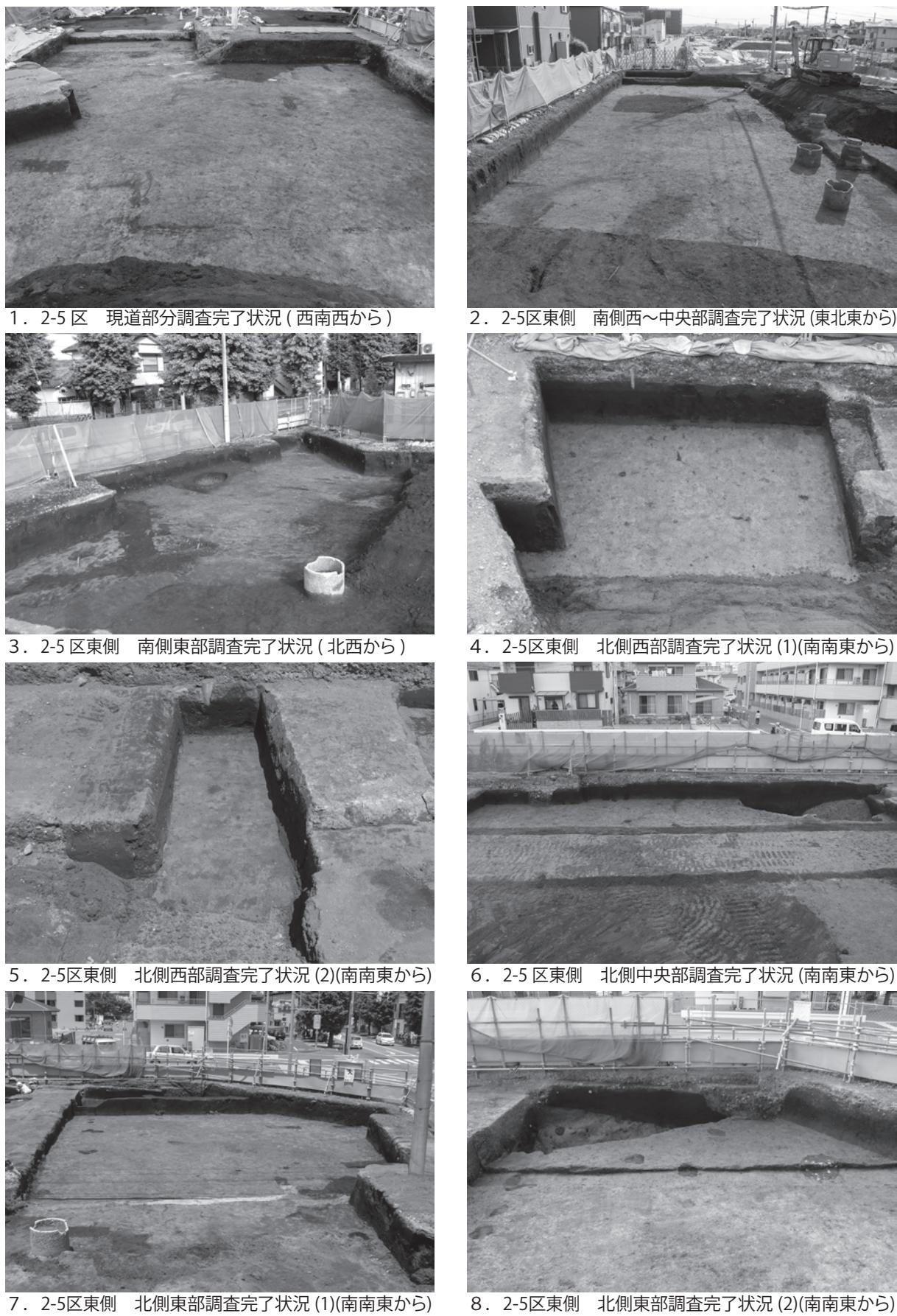


7. 2-4区 北側西部調査完了状況(東から)



8. 2-4区 北側中央・東部調査完了状況(西南西から)

第8図 2-2・3・4区調査完了状況



第9図 2-5 区調査完了状況

令和5年5月25日、2-5区のうち東側約3分の2の範囲（2-5区を横断する道路より東側）を6月7日、残る2-4区を中心とする範囲を10月17日に日野市区画整理課へと引き渡した。

3) 整理調査の経過

発掘調査と並行して、出土遺物の洗浄と注記を中心とする一次整理作業を進めた。遺物洗浄を行った後、インクジェット式注記システムと手書きによる注記を行った。なお、注記内容は、日野市教育委員会の指示に基づき、日野市教育委員会の注記方法に準拠するものとした。2-2～2-5区の一次整理期間は平成29年4月3日から平成31年3月31日まで、2-1区の一次整理期間は令和3年7月7日～9月21日までである。

2-1～2-5区の二次整理作業は、一時期は2-1区の発掘調査と並行するかたちで、令和3年9月1日から開始し、令和5年11月30日まで実施した。2-2～2-5区の発掘調査終了から時間が経っていたため、まずは遺構原図や写真、測量データ、遺物等の基礎整理から取り掛かった。令和4年1月からは遺物の分類や計量、遺物台帳の作成を行い、その後、接合及び土器の復元を実施した。それと並行して、遺構図の修正やパソコンによるトレースを開始した。接合と復元が済んだ遺物については、9月から順次実測を行い、観察表の作成や遺物実測図のトレースを行った。本調査地点では数多くの弥生土器が出土したため、特に弥生土器の実測・トレースには想定以上の時間を費やすことになった。遺物の実測・トレースと並行して、令和5年2月からは遺物の俯瞰写真や正立写真等の撮影にも着手した。撮影した画像はパソコンでの切り抜きや加工等を行い、写真図版としての体裁を整える作業を実施した。3月からは、トレースした遺構の平面図や断面図、遺物の実測図等をレイアウトし、遺構・遺物図版を作成した。図版作成とともに、遺物の観察表や遺構一覧表等の表データの作成も行った。これらの各種作業と合わせて、報告書の原稿執筆を9月から開始した。二次整理作業で作成した遺構や遺物の各種図版や表、原稿を合わせて編集作業を行い、令和6年3月末に報告書を刊行した。

二次整理期間中に、出土した土器や石器、炭化物に対する各種自然科学分析（放射性炭素年代測定・炭素窒素安定同位体比分析と残存脂質分析・炭化材の樹種同定・炭化種実の同定・土器の圧痕分析・テフラ分析・須恵器産地同定・石材鑑定）を外部機関等へ委託し、実施した（第V章参照）。

本調査地点に関する遺構や遺物の原図、フィルム写真やデジタルカメラのデータ類、出土遺物については、令和6年1月26日付で東京都教育委員会を経由し、日野市教育委員会へと移管した。

4) 普及事業等

・日野市教育委員会より市民からの遺跡見学会開催の要望が示されたことを受けて、地域住民を対象とする遺跡見学会開催に関する協議を相武国道事務所と行い、開催の承諾を得た。その後、遺跡見学会実施に向け、地元自治会（東宮下自治会、西宮下自治会）を含む関係機関と調整し、平成30年10月13日に2-4区において、日野市教育委員会との共催で遺跡見学会を開催した。遺跡見学会の広報は調査地点周辺の住民に限定して行ったにもかかわらず、当日は310人を超える参加があった。

・東京都公式動画チャンネル「東京動画」において東京都教育委員会の事業紹介を行う動画製作の一環として、平山遺跡の発掘調査状況を紹介する撮影が平成30年10月25日に行われた。

・平成31年4月15日に、日野市立平山小学校（児童87名、教員3名）の社会科見学を2-4・5区において受け入れた。

（小西絵美）

II 遺跡の立地と環境

1 地理的環境

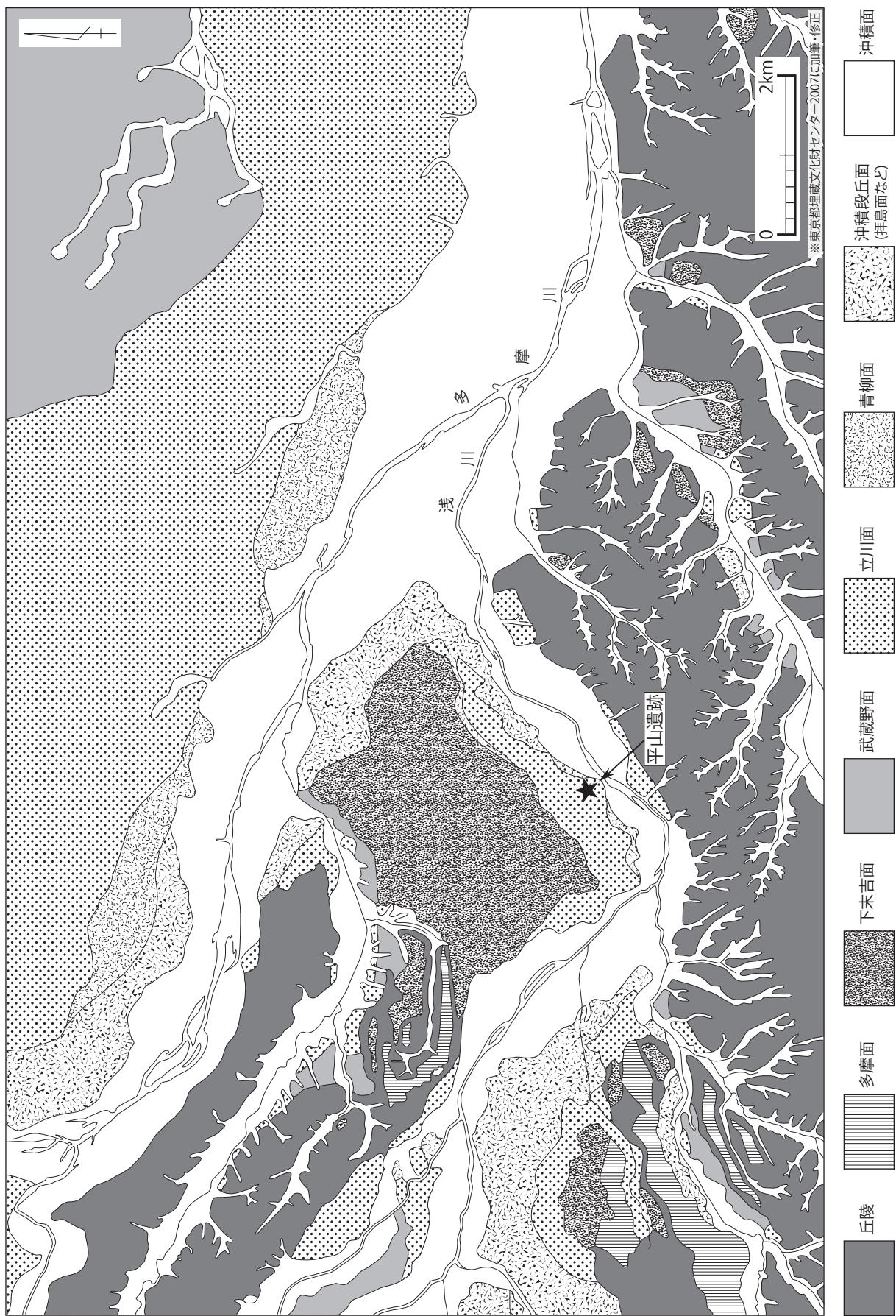
平山遺跡は、東京都日野市豊田二・三丁目、東平山二・三丁目、西平山一・三・四丁目に所在する。平山遺跡はJR豊田駅の南から南東、京王線平山城址公園駅の北から北西に位置し、浅川の左岸に立地する。遺跡の範囲は東西約1.9km、南北約1.3kmと広く、JR中央本線の線路と浅川に挟まれた場所に展開する。

平山遺跡が所在する日野市は東京都のほぼ中央に位置し、市域の南は多摩市、西は八王子市、北から東にかけては多摩川を挟み昭島市、立川市、府中市の各市と接する。市域北部から西部にかけてはJR中央本線、市域南部には京王線がそれぞれ走り、市域を南北に貫くように多摩都市モノレール線が通っている。また、市域を横断するように中央自動車道や一般国道20号が通っている。都心部へのアクセスが比較的容易であり、日野市はベッドタウンとして発展してきた歴史がある。

日野市の地形を概観すると、市域の北から東を流れる多摩川と市域南部を流れる浅川があり、市域の北西部を占める日野台地、多摩川や浅川により形成された沖積地、市域南部には多摩丘陵が連なる等、地勢豊かな土地であることが分かる。日野台地は多摩川とその支流である浅川や谷地川に挟まれた位置にあり、その西側は加住丘陵、秋留台地、草花丘陵を経て、その先は関東山地へと続く。日野台地の南東側には段丘崖を境にして4段の段丘面が形成され、上位から日野台面、多摩平面、豊田面、栄町面である。栄町面の下位には多摩川や浅川による氾濫低地が広がる。日野台面は最上位の段丘面で、西から東へ緩やかに傾斜する。日野台面の下位には多摩平面、その下位には豊田面が位置する。いずれの段丘面も基盤層は上総層群で、その上に段丘砂礫層があり、それを覆うように関東ローム層（立川ローム層）が堆積する。各段丘面に堆積する関東ローム層の厚さには差異があり、日野台面では15m前後、多摩平面では10～13m、豊田面では3～4mと、下位の段丘面ほど関東ローム層の層厚が薄くなっている。栄町面の段丘構成層を確認できる露頭はないものの、多摩川沿いの各地点の柱状図から表面は層厚2m前後以下の粘土層や砂層、その下位に段丘砂礫層があり、砂層～粘土層の上総層群となることが分かっている。角田清美氏は、日野台面は南関東の下末吉面、及び武藏野台地北東部の成増面、多摩平面は南関東の小原台面、豊田面は多摩川中流の立川Ⅱ面、栄町面は拝島面にそれぞれ対比している（角田2012）。

地質学的に見ると、平山遺跡は中位河岸段丘である豊田面に立地する。その上位にある日野台面や多摩平面付近は地質学的に複雑な部分があるようで、日野台面及び多摩平面に対比する面の解釈が分かれている。鈴木毅彦氏（鈴木2000）や羽鳥謙三氏等（羽鳥他2001）は武藏野面に比定し、『南広間地遺跡』では「下末吉面 or 武藏野面（M1）」（渋江他2003）とされ、『平山遺跡－大型四面廻建物跡の保存目的発掘調査〔HY81〕』では「日野台地は下末吉面又は武藏野面」（宮本他2020）と記載している。本報告では、東京都埋蔵文化財センター発掘調査報告第368集『平山遺跡その1』を踏襲し、第10図のとおり下末吉面とした。

日野市域の地形を述べるうえで欠くことができないのが湧水である。昭和30年頃までは、台地の



第10図 周辺の地形と地質 (1/70,000)

段丘崖や丘陵の裾部のみならず、平地にも豊富な湧水が存在していた。日野台地以外では掘れば必ず井戸水が出るとされ、浅川流域の平山・百草・程久保・高幡・南平・宮・豊田・川辺堀之内・上田には一年中水が自噴する掘抜井戸が各所にあったという。日野市内の湧水は台地にある崖線型の湧水と、丘陵地にある谷戸型の湧水に大別される（法政大学エコ地域デザイン研究所 2010）。日野台地の日野台面、多摩平面、豊田面の各段丘面の崖線から湧出するのは崖線型の湧水で、谷戸型の湧水は、谷戸の水源から湧き出すものと谷壁や河床から湧き出すものがある。人口増加に伴い、日野市域の宅地造成が進み、山林が失われたことにより雨水の浸透が少くなり、湧水が減少した。それでも段丘崖や丘陵地の湧水が市域の各地に残り、黒川湧水、中央図書館下湧水、小沢緑地の3箇所の湧水が東京の名湧水57選に選出されている。

2 歴史的環境

日野市域における遺跡の分布状況を見ると、多摩川の右岸や浅川の左岸をはじめ、多摩丘陵の裾部に遺跡が集中する傾向が窺える。特に浅川左岸の台地や低地には、平山遺跡、吹上遺跡や山王上遺跡、神明上遺跡や南広間地遺跡といった広範囲に及ぶ遺跡が密度濃く分布する。平山遺跡の範囲には、平山古墳群や西平山古墳群、日野市No.45遺跡も含まれている。ここでは、第11図・第2表に記載した日野市域の遺跡を中心に平山遺跡とその周辺の歴史的環境について概観する。

日野市域で確認されている旧石器時代の遺跡は少ない。神明上遺跡では、ハードロームから直径約2mの範囲に焼礫と石器の分布が確認された。礫群の周辺には細かい炭化物が集中しており、火を使用した痕跡と考えられる。石器は石核、台石、剥片であり、二次加工が施されたものは含まれていない。平山遺跡においても、平成28～30・令和3年度調査地点（本報告）で遺物集中部を1箇所検出していて、それについて第IV章で詳述する。

縄文時代早期の遺跡としては神明上遺跡があり、複数次の発掘調査で集石炉や竪穴状遺構が発見されている。柱穴や炉、床面等が確認されず、住居と断定できないため竪穴状遺構とされているが、規則的に造られた複数の集石炉や、その周辺に縄文土器や石器、焼礫が広く散在すること、出土した縄文土器の型式が二期混在すること等から、長期間生活が営まれたと想定されている。

縄文時代前期では、平山遺跡の平山橋北西の調査地点で、黒浜式期の竪穴建物跡が検出されている。縄文時代中期になると集落の様相が大きく変容し、遺跡数が急激に増加する傾向が見られる。当該期の遺跡は崖線からの湧水がある台地上に多く分布し、吹上遺跡、七ツ塚遺跡、平山遺跡等が挙げられる。台地のみならず、多摩川の氾濫原に形成された微高地にも当該期の集落は営まれており、神明上北遺跡で竪穴建物跡等が確認されている。

遺跡数が爆発的に増加した縄文時代中期から一転して、縄文時代後期にはその数が激減する。当該期の遺跡では、南広間地遺跡と川辺堀之内遺跡がある。川辺堀之内遺跡では称名寺I式期の敷石住居跡が発見された。本来は柄鏡形を呈するが、柄の部分に当たる出入口部分は後世の用水路敷設により壊されたと考えられる。発掘調査で確認された敷石住居跡は1軒だが、浅川の低位段丘面の縁辺部に複数の敷石住居が分布していた可能性が想定されている。

日野市域において弥生時代の集落の成立が確認できるのは、弥生時代終末期以降である。それ以前では散発的に土器が出土するのみで、明確な生活の痕跡は認められない。特異な事例として平山遺跡



第11図 周辺の遺跡(1/25,000)〔国土地理院電子地形図25000と『東京都遺跡地図』を合成、加筆〕

第2表 周辺の遺跡一覧

番号	遺跡名	遺跡番号	所在地	種別	遺跡の概要	時代
1	平山	日野市No22	豊田二・三丁目、東平山一～三丁目、西平山一～三、四丁目	集落・古墳・墳墓	[旧] ユニット[縄] 壓穴建物跡・集石・土坑・炉穴[弥] 壓穴建物跡・方形周溝墓[古] 壓穴建物跡・古墳[奈] [平] 挖立柱建物跡・柵列(ピット)[中] 地下式坑	[旧] [縄早・中] [弥後] [古] [奈] [平] [中]
2	平山古墳群	日野市No23	東平山一丁目	古墳	[古] 円墳・横穴式石室・周溝	[古]
3	日野市No45	日野市No45	東平山一丁目	古墳	[古] 横穴式石室	[古]
4	西平山古墳群	日野市No48	西平山三丁目	古墳	[古] 周溝・石組	[古]
5	吹上	日野市No18	東豊田三丁目	集落	[縄中] 壓穴建物跡[弥後] [古] [奈] [平]	[縄中] [弥] [古] [奈] [平] [中]
6	日野市No19	日野市No19	東豊田三丁目	古墳	[古] 円墳・周溝	[古]
7	日野市No20	日野市No20	東豊田一・二丁目	集落	[奈] [平] 壓穴建物跡・溝	[奈] [平] [中]
8	川辺堀之内	日野市No17	川辺堀之内	包蔵地	縫穴状遺構・ピット・集石・土坑・溝・柱穴・落し穴	[縄前～中] [平] [中]
9	山王上	日野市No50	東豊田三丁目	集落	[縄] 土壇・集石・ピット・縫穴建物跡[平] 挖立柱建物跡・溝・縫穴建物跡	[縄] [奈] [平] [中]
10	日野市No51	日野市No51	多摩平六丁目	集落	[旧] 石器ブロック[縄] 土坑・ピット[平] 壓穴建物跡・土坑	[旧] [縄早～前・後] [平] [中]
11	神明上	日野市No6	神明一～四丁目、大坂上三・四丁目、多摩平七丁目	集落	縫穴建物跡・掘立柱建物跡・土坑・集石・溝	[旧] [縄早～中] [弥] [古] [奈] [平] [近]
12	梵天山横穴群	日野市No11	神明一・二丁目	横穴墓		[古] [奈]
13	平山台横穴墓	日野市No24	旭が丘一丁目	横穴墓		[古?]
14	平山台2号横穴	日野市No53	旭が丘一丁目	横穴墓	[奈] [平] 横穴墓	[奈] [平]
15	坂西横穴墓群	日野市No8	大坂上一丁目	横穴墓		[奈] [平]
16	日野市No7	日野市No7	日野本町二丁目	横穴墓		[奈] [平]
17	上人塚	日野市No52	その他(塚)			[平] [中]
18	日野市No25	日野市No25	旭が丘六丁目	包蔵地		[旧]
19	日野市No13	日野市No13	大坂上一・二丁目	包蔵地		[縄前～中] [古] [奈] [平]
20	七ツ塚	日野市No1	新町四・五丁目	集落	[縄] 壓穴建物跡・集石・土坑・溝	[旧] [縄草創～後] [古] [奈] [平] [中]
21	七ツ塚古墳群	日野市No2	新町五丁目	古墳	[古] 横穴式石室	[古] [奈]
22	新町	日野市No3	新町三丁目	集落	[平] 壓穴建物跡・土坑・溝	[平]
23	姥久保	日野市No47	新町一丁目	集落・その他(水田・墓地)	[古] 壓穴建物跡[平] 道跡・水田[中] 挖込炉・集石遺構・井戸・土坑・地下式坑・火葬墓・道跡[時代不明] 挖立柱建物跡	[縄前～中] [古] [奈] [平] [中] [近]
24	栄町	日野市No4	栄町二丁目	集落	[平] 壓穴建物跡・掘立柱建物跡・土坑・集石・溝[中] 集石状遺構・敷石状遺構	[縄前～後] [平] [中] [近]
25	四ツ谷前	日野市No46	栄町一丁目	集落・社寺	[奈] [平] 壓穴建物跡・土坑・道路 [平] 溝[中] [近] 井戸・土坑・溝・水田・掘込炉・配石遺構・地下式土壤[中] 土壇・火葬址・道路	[縄] [古] [奈] [平] [中] [近]
26	加賀塚	日野市No44	栄町一丁目	塚		[中]
27	小宮町・粟の須	八王子市No79	小宮町	集落	[縄] 集石・陥し穴[奈] 壓穴建物跡[平] 壓穴建物跡・集石[中] 挖立柱建物跡・縫穴状遺構・井戸・土坑・炭焼土坑・溝	[縄早～中] [古] [奈] [平] [中] [近]
28	石川	八王子市No480	石川町	集落	[縄] 壓穴建物跡・集石・炉穴・土坑	[縄早～後] [弥] [古] [奈] [平] [近]
29	塚場	八王子市No110	石川町	集落	[縄] 壓穴建物跡・集石・炉穴・陥し穴土坑・配石土坑 [古] 壓穴建物跡[平] 壓穴建物跡[中] 挖立柱建物跡・縫穴状遺構・ピット群・土坑・室状遺構・溝状遺構・[近] 挖立柱建物跡・溝状遺構[古代] 土坑	[縄早～後] [古] [奈] [平] [中] [近]
30	第八小学校裏	八王子市No109	石川町	集落	[古] 壓穴建物跡・土坑[近] 挖立柱建物	[縄早～後] [古] [近]
31	西野	八王子市No108	石川町	集落	[縄] 壓穴建物跡・集石・焼土・土壤[古] 壓穴建物跡・溝状遺構・墓壙	[旧] [縄早～後] [古] [平] [近]
32	石川天野	八王子市No734	石川町・大谷町	集落	[縄] 壓穴建物跡・集石・炉穴・焼土・土坑[弥] 壓穴建物跡・焼土・方形周溝墓・溝状遺構[古] 壓穴建物跡・焼土・土坑・溝[奈] 壓穴建物跡[平] 壓穴建物跡	[旧] [縄早～後] [弥] [古] [奈] [平] [近]
33	下耕地	八王子市No733	大谷町	集落	[旧] ユニット[縄] 集石・炉穴・土坑[平] 壓穴建物跡[近] 建物	[旧] [縄早～後] [古] [平] [近]
34	北大谷・春日台	八王子市No101	大谷町・宇津木町・石川町	集落	[縄] 集石・炉穴・土坑[弥] 壓穴建物跡	[旧] [縄早～後] [弥] [古] [奈] [平] [近]
35	富士見町	八王子市No978	大谷町	墳墓	[縄] 土坑[弥] 方形周溝墓[時代不明] 土坑・ピット	[縄] [弥後]
36	大和田横穴墓群	八王子市No957	大和田町二・四・五丁目	横穴墓		[古]
37	北野(北野小学校校庭)	八王子市No175	北野町	集落	[縄] 敷石住居	[縄中～後]
38	打越中谷戸	八王子市No731	打越町	集落	[縄] 壓穴建物跡・集石・土坑[弥] 壓穴建物跡[平] 壓穴建物跡・焼土・土坑[近] 土坑・溝・土壤	[縄早・中] [弥] [平] [近]
39	打越大畠	八王子市No991	打越町	集落	[縄] 土坑[平] 壓穴建物跡	[縄早～後] [平]
40	長沼館	八王子市No500	長沼町	城館	[中] 堀・曲輪	[中]
41	平山氏館	日野市No26	平山五丁目	城館		[平] [中]
42	平山氏館及平山城跡	日野市No27	平山六丁目	城館	[中] 腰曲輪・虎口	[平] [中]
43	平山城跡	八王子市No521	堀之内	城館	[中] 腰曲輪・虎口・土塁	[中]
44	堀之内地区No34	八王子市No396	堀之内	集落		[縄早～中] [平] [近]

時代：[旧] 旧石器 [縄] 縄文 [弥] 弥生 [古] 古墳 [奈] 奈良 [平] 平安 [中] 中世 [近] 近世

が挙げられる。古墳時代前期に造られた古墳周溝内から、弥生時代前期の壺が出土した。壺の頸部から胴部にかけてに条痕文が施され、東海地方の水神平式と考えられる。周溝内から同時期の遺物は出土していない。

日野市域で弥生時代の集落が本格的に営まれるのは、弥生時代終末期から古墳時代前期にかけてである。当該期は集落に加え、方形周溝墓による墓域が集落の周辺に形成される特徴が見られる。当該期の遺跡として、神明上遺跡や平山遺跡、吹上遺跡等が挙げられる。平山遺跡の当該期の竪穴建物跡の分布は豊田三丁目や東平山一丁目、西平山三丁目等各地点で確認され、方形周溝墓は平山橋の北西にあたる地点で4基検出されている。近年の発掘調査では、本報告の調査地点の北側で行われた発掘調査で複数の方形周溝墓が見つかっており、平山橋北西の方形周溝墓群とは別の方形周溝墓群の存在が想起される。神明上遺跡では、広大な遺跡範囲のうち台地の東縁辺部沿いに当該期の竪穴建物跡が確認されている。

古墳時代になると多摩川中流域に古墳が造られるようになるが、日野市域でそれが確認できるのは古墳時代中期以降である。平山遺跡の範囲に所在する平山古墳群では、発掘調査により11基の古墳の存在が明らかになった。このうち2基の古墳は出土遺物から古墳時代中期の築造であることが分かり、他の2基の古墳についても古墳時代中期の可能性が考えられている。これらの古墳はいずれも墳丘が削平されていて埋葬施設が確認できた事例はないが、古墳時代中期の古墳は竪穴系の埋葬施設が想定されている。平山古墳群では、古墳時代中期から後期にかけて相次いで古墳が築造された。古墳時代後期の古墳は河原石を用いた横穴式石室を内包し、玄室は胴張り形を呈する。七ツ塚古墳群では、砂岩を用いた横穴式石室を埋葬施設とする円墳が1基発見されている。胴張り形の玄室や、軟質な石材を用いる点は、南武藏地域の横穴式石室に共通して見られる特徴である。七ツ塚古墳群では人物埴輪が出土していて、日野市域で唯一の出土例として特筆される。

日野市域における古墳時代の特徴として、台地斜面に構築された横穴墓群が挙げられる。神明上遺跡には、西坂横穴墓群、梵天山横穴墓群、谷ノ上横穴墓群をはじめ、神明上遺跡第62次調査で発見された横穴墓群、日野バイパス改築工事に伴う発掘調査で発見された横穴墓群が含まれ、日野台地の縁辺部に点々と横穴墓が構築されたことが明らかになっている。なお、日野バイパス改築工事に伴う発掘調査の調査範囲内には、谷ノ上横穴墓群や神明上遺跡第62次調査の横穴墓群が包括されている。これらの横穴墓の位置や分布状況を精査したところ、谷ノ上横穴墓群の1号横穴墓と4号横穴墓は日野バイパス改築工事に伴う発掘調査のK区4号横穴墓、L区2号横穴墓と同一であることが確実になった。

神明上遺跡第62次調査では3基の横穴墓とともに、いわゆる「L字状土壙」が3基発見された。L字状土壙は「平面形は確認面において隅丸長方形を呈し、断面形態においてはL字状を呈する」遺構のことであり（日野市遺跡調査会1986）、古墳時代から奈良・平安時代にかけての墓の一形態だと考えられている。日野バイパス改築工事に伴う神明上遺跡の発掘調査においても、横穴墓が構築された同じ斜面上に4基のL字状土壙が等高線に沿って分布する状況が確認された。L字状土壙に関しては、神明上遺跡のように横穴墓の分布域あるいはその周辺に構築された事例や、古墳周溝の内側や外側に接するようにして掘り込まれた事例が確認されている。後者の事例としては平山遺跡があり、本報告調査地点の古墳周溝に接するようにして構築されたL字状土壙を検出した（第IV章参照）。

古墳時代の集落については、吹上遺跡や平山遺跡で確認されている。吹上遺跡では古墳時代前期や中期の竪穴建物跡が検出されているものの、同時期の古墳群を造営した集落と捉えるには規模が小さいと考えられる。

奈良・平安時代になると、武藏国府の成立を契機として、日野市域の各地で集落の形成が本格化する。日野台地に立地する神明上遺跡や山王上遺跡では、8世紀に入ると集落の形成が活発化する。神明上遺跡では両側に側溝を伴う区画溝をはじめ、竪穴建物跡や掘立柱建物跡が多数検出され、計画的に形成された大規模な集落であることが明らかになった。近年の調査成果では、奈良・平安時代の竪穴建物跡や掘立柱建物跡、区画溝とともに検出された木棺直葬墓が特筆される。土壙からは副葬品として緑釉陶器の平瓶が出土し、墓壙は9世紀後半代の所産とされる。山王上遺跡では8世紀第二四半期以降に集落の形成が始まり、9世紀にかけて竪穴建物跡と掘立柱建物跡で構成される集落が継続的に営まれたことが明らかになっている。平山遺跡でも奈良時代から平安時代にかけての集落が段丘の平坦部に営まれていたことが把握されていたが、近年の土地区画整理事業に伴う発掘調査により、段丘の裾部や低位段丘面にまで集落域が広がることが判明した。それを受け、令和5年3月31日付で平山遺跡の包蔵地範囲の一部が拡大された。平山遺跡の調査成果で最も特筆すべきは、西平山地区で発見された大型四面廂建物跡（16U-1号掘立柱建物跡）である。平成23年度に行われた土地区画整理事業に伴う発掘調査で、廂の南西隅の柱穴4基が確認されたのが発端である。その後、平成26年度の発掘調査で掘立柱建物の西半分の状況が把握され、最終的には桁行5間（20.1m）×梁行2間（11.2m）の身舎の四方に廂を有する大型四面廂掘立柱建物跡であることが明らかになった。この規模は武藏国府正殿に次ぐ規模であり、その重要性が考慮され、遺構は現地で保存されている。

日野市域における奈良・平安時代の各種遺構の中で、着目したいのは「円形有段遺構」である。円形有段遺構とはその名の通り円形の平面形で、断面形が擂鉢状を呈する遺構である。日野市域では七ツ塚遺跡、神明上遺跡で確認され、平山遺跡の東平山地区で行われた土地区画整理事業や日野バイパス整備事業に伴う発掘調査でも相次いで発見されている。遺構の用途としては、氷の貯蔵施設である氷室をはじめ、穀物等の貯蔵施設、祭祀の場、烽燧等の諸説があるが、日野市域における円形有段遺構の分布と湧水点との位置関係等から、氷室である可能性が想定されている。

平安時代末から鎌倉時代にかけての日野市域の様相について、発掘調査成果からそれを把握するには情報が乏しいのが現状である。中世の遺跡としては、吹上遺跡、平山遺跡、川辺堀之内遺跡、神明上遺跡、姥久保遺跡、四ツ谷前遺跡等があり、地下式坑をはじめとする各種の遺構や遺物が確認されている。平山遺跡の南東約1kmにある平山氏館や平山館及平山城跡には、鎌倉幕府成立期に活躍した平山季重に由来する痕跡が残されている。平山地区は平山季重が本拠地とした場所であり、現在の京王線平山城址公園駅の南側には市指定史跡平山季重居館跡の看板が掲示されている。『新編武藏風土記稿』によれば、この辺りは曹洞宗大福寺があった場所であり、平山季重の居館があったと伝承されている。大福寺は平山季重開基と伝えられ、明治の廢仏毀釈により廃寺となった。大福寺にあった平山季重の墓（五輪塔）は宗印寺に移され、現在は東京都指定旧跡である。平成19年に行われた平山氏館の発掘調査では、鎌倉時代、江戸時代、明治から昭和にかけての遺構や遺物が発見された。鎌倉時代の痕跡としては、溝や土坑、12世紀後半から13世紀初頭の青磁や土器等がある。 (小西)

III 層序

当調査地点における層序の特徴を記載する（第12～16図）。

地形的には、当調査地点は段丘平坦面に位置しているが、調査区中央に設定した土層観察用の東西ベルトを基準にすると、調査開始時の地表面での東西約260mの比高差は約1.7mで、西側の標高が高く、東側の崖線に向けて緩やかに下降していることが分かる。また、関東ローム層VS層上面では調査区西寄り（第13図調査区東西ベルト⑩付近）で谷地形が確認でき、調査区西端と最深部の比高差は約1.6mを測り、17m東の同⑪付近では、最深部より0.6mほど高くなっている。この谷は、Ⅱ2～Ⅱ1層が堆積する頃には概ね埋没している。

基本的には2022年度報告の層序に準拠するが、本報告ではⅠ～Ⅲ層を細分した。

Ⅰ1層 10YR3.5/1 褐灰色土層 直径2mm以下にぶい黄褐色スコリア（10YR5/4）～明黄褐色スコリア（10YR6/6）（以下、にぶい黄褐色スコリアで表記）10%、直径2mm以下の明赤褐色スコリア1%未満を含む。締まり有り、粘性に欠け、粒子は極めて粗く砂質。Ⅰ2層よりもわずかに明るい。近世以降の旧表土（耕作土を含む）。

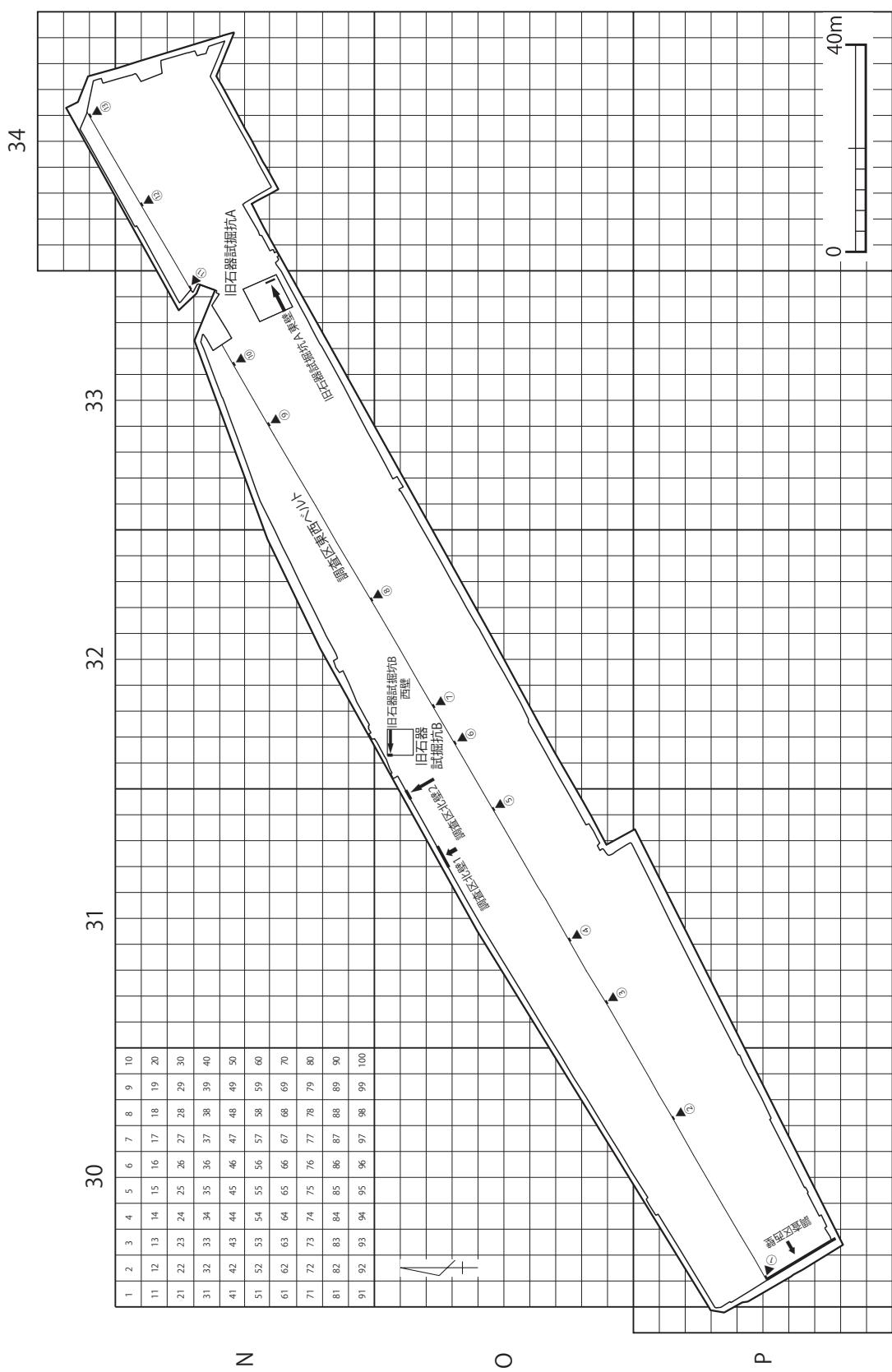
Ⅰ2層 10YR3.5/1 褐灰色土層 直径2mm以下にぶい黄褐色スコリア10%、直径2mm以下の明赤褐色スコリア1%未満、直径70mm以下のⅡ層土ブロック1%を含む。締まりはⅠ1層より弱、粘性に欠け、粒子は粗く砂質。近世以降の旧表土（耕作土を含む）もしくは遺構の覆土。

Ⅱ層 10YR1.7/1 黒色土層 直径2mm以下にぶい黄褐色スコリア10%、直径2mm以下の橙色スコリア（2.5YR6/8）1%未満、直径3mm以下の黒色スコリア（N2/1）15%を含む。締まりやや弱、粘性わずか、粒子は極めて粗い（ただし、ベース土は細かい）。古墳時代から古代の包含層。調査区東側ではⅡ1、Ⅱ2層に細分されるが、西側では分離できなかった。また、310グリッド付近の一部（同調査区東西ベルト④等）では、Ⅱ層上部に、Ⅱ層より黒味が有りにぶい黄褐色スコリア・黒色スコリアが少ない、古代～中世の包含層が見られた。

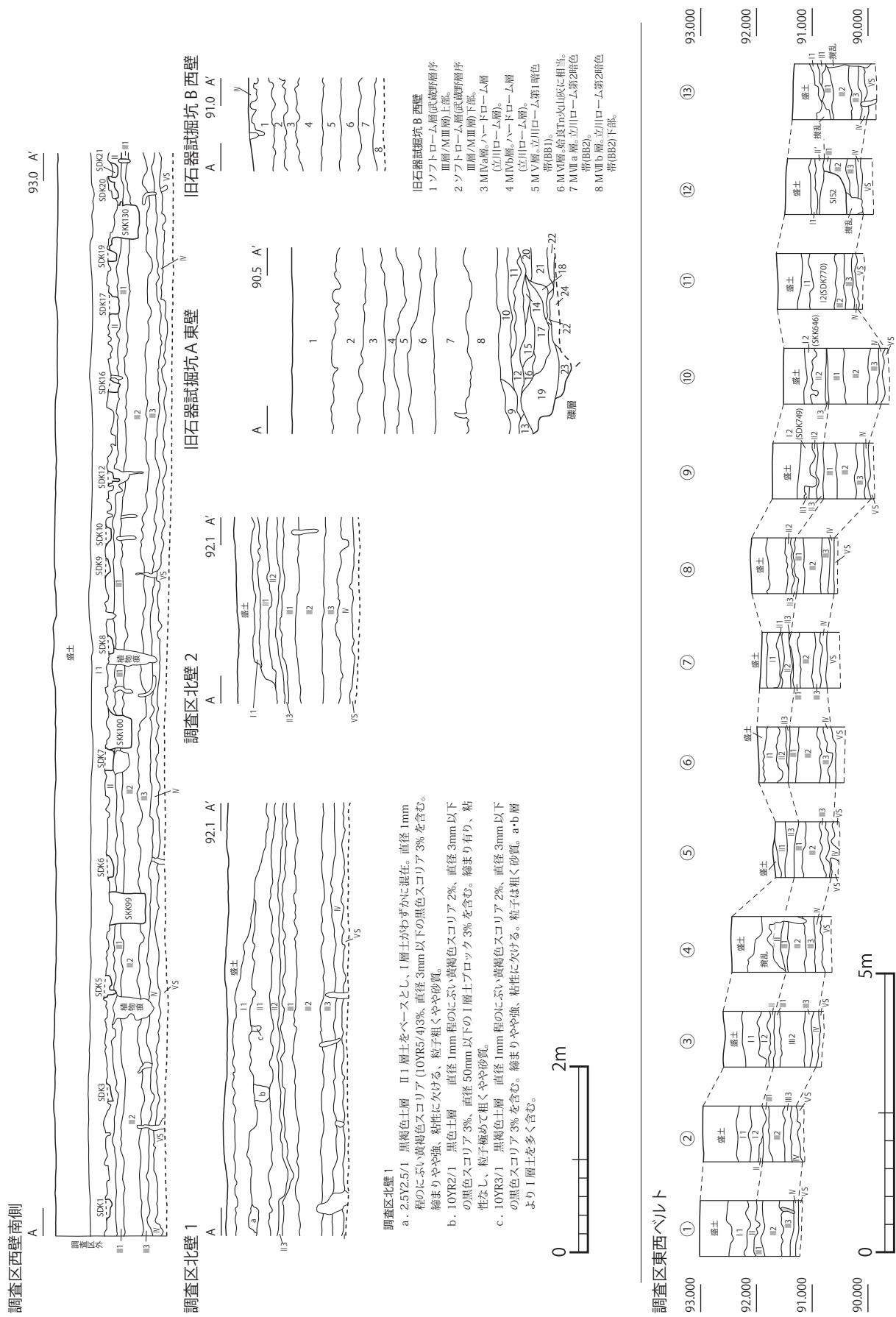
Ⅱ1層 10YR1.7/1 黒色土層 直径1mm前後にぶい黄褐色10%、直径2mm以下の橙色スコリア（7.5YR6/6）1%、直径4mm以下の黒色スコリア15%、直径3mm以下の焼土ブロック1%を含む。締まりやや弱、粘性なし、粒子は極めて粗い。Ⅱ2・3層に比べ黒味が有るもの、Ⅱ2層土に比べ黒色スコリアの含有量は少ない。

Ⅱ2層 7.5YR2.5/1 黒褐色土層 直径1mm前後にぶい黄褐色スコリア15%、直径2mm以下の橙色スコリア1%、直径4mm以下の黒色スコリア15%、直径1mm以下の灰白色粒子7%を含む。締まり有り、粘性ごくわずか、粒子は極めて粗い。Ⅱ1層に比べ、にぶい黄褐色スコリアを多く含み、黄味がある。

Ⅱ3層 7.5YR2.5/1 黒褐色土層 直径1mm前後にぶい黄褐色スコリア15%、直径3mm以下の橙色スコリア2%、直径3mm以下の黒色スコリア5%、直径1mm以下の灰白色粒子5%、Ⅲ1層土のブロック状に遊離したもの（直径20mm以下）30%を含む。締まり有り、粘性弱、粒子はやや粗い。Ⅱ1層に比べ、にぶい黄褐色スコリアを多く含み、黄味がある。Ⅲ層最上部にⅡ層を構成するスコリアが浸潤したように見えるが、多摩ニュータウン遺跡群のⅡγ相当層の



第 12 図 土層断面・試掘坑位置図 (1/1,200)



第13図 基本層序(1)(1/60・1/100)

旧石器試掘抗 A 東壁

1. 10YR4/6 褐色土層 ソフトローム層（武蔵野層序Ⅲ層／MⅢ層）。下面是凹凸の顯著な不整合面。著しく発泡して軽鬆な直徑 13mm 以下の明赤褐色スコリア（5YR5/8 の青柳スコリア）が層上部では直徑 120mm 以下の團塊状を呈する。他に直徑 7mm 以下の赤褐色スコリア（2.5YR4/8/3%、直徑 10mm 以下の黒褐色スコリア（2.5Y3/1 で白色粒子を含む）7%、直徑 2mm 以下の青灰色スコリア（10BG5/1）1%、直徑 2mm 以下の灰白色粒子（10YR8/1）2% を含む。締まりやや弱の軟質部が縫まりやや強の硬質部の間を埋める。粘性有り、粒子極めて細かい。
2. 10YR4/5 褐色土層 MIVa 層、ハードローム層（立川ローム層）。発泡した直徑 7mm 以下の赤褐色スコリア（5YR4/8/20%、直徑 4mm 以下の黒褐色スコリア（2.5Y3/1）3%、直徑 2mm 以下の青灰色スコリア 1% 未満、直徑 2mm 以下の灰白色粒子 2% を含む。締まり強、粘性有り、粒子極めて細かい。
3. 7.5YR4/5 褐色土層 MIVb 層。ハードローム層（立川ローム層）。発泡した直徑 3mm 以下の赤褐色スコリア 15%、直徑 10mm 以下の黒褐色スコリア（白色粒子を含む）7%、直徑 3mm 以下の青灰色スコリア 1%、直徑 1mm 程の灰白色粒子 2% を含む。締まり強、粘性弱、粒子極めて細かい。
4. 10YR4/4 褐色土層 MV 層。立川ローム第 1 暗色帶（BB1）、直徑 3mm 以下の赤褐色スコリア 15%、直徑 5mm 以下の黒褐色スコリア 10%、直徑 2mm 程の灰白色粒子 1% を含む。締まり強だが 3 層に劣る。粘性有り、粒子極めて細かい。黒味が薄い上部〔V a 層〕と、色調が暗く黒味があり黒色スコリアの含有量が多い下部〔V b 層〕に分層することはできなかった。
5. 10YR4/6 褐色土層 MVI 層。始良 Tn 火山灰に相当する。火山ガラスを多量に含み、削るとチャリチャリした音が顯著。直徑 3mm 以下の赤褐色スコリア 20%、直徑 7mm 以下の黒褐色スコリア 15%、直徑 2mm 以下の灰白色粒子（火山ガラスか）7% を含む。締まり強、粘性やや強、粒子細かい。
6. 10YR4/4 褐色土層 MVIa 層。立川ローム第 2 暗色帶（BB2）上部、直徑 3mm 以下の赤褐色スコリア 15%、直徑 8mm 以下の黒褐色スコリア（白色粒子を含む）7%、直徑 1mm 程の青灰色スコリア 1% 未満、直徑 2mm 以下の灰白色粒子 3% を含む。締まり強だが 5 層に劣る。粘性やや強、粒子極めて細かい。
7. 2.5Y5/3 黄褐色土層 MVIb 層（立川ローム第 2 暗色帶（BB2）下部）に相当すると考えられる。砂粒（微細砂）を主体とし、ロームが混在。直徑 4mm 以下の赤褐色スコリア 7%、直徑 10mm 以下の黒褐色スコリア 10%、直徑 2mm 以下の灰白色粒子 2% を含む。締まりやや強、粘性はぼなし、粒子粗く砂質。
8. 10YR4/3 にぶい黄褐色土層 ロームベース。下部に砂粒のラミナが観察される。他に直徑 5mm 以下の赤褐色スコリア 15%、直徑 3mm 以下の黒褐色スコリア 1% を含む。粒子極めて細かい。
9. 10YR5/3 にぶい黄褐色土層 ロームベースで、微細砂 20%、直徑 2mm 以下の赤褐色スコリア 2% を含む。締まり弱、粘性強、粒子細かいがやや砂質。
10. 2.5Y5/4 黄褐色土層 微細砂粒ベース。水変したローム 15%、直徑 2mm 以下の赤褐色スコリア 1% を含む。締まりやや弱、粘性はぼなし、粒子粗く砂質。
11. 2.5Y5/2 暗灰褐色土層 ロームと微細砂粒が混在する土壤と直徑が 1mm より細かい灰色微細砂粒層（5Y4/1）が厚さ 20mm 程で互層をなす。締まりやや強、粘性なし、粒子極めて粗く砂質。
12. 10YR5/3 にぶい黄褐色土層 水変したロームで、直徑 1mm 程の赤褐色スコリア 1%、直徑 5mm 以下で灰白色（10YR8/2）のバミス状物質 15% を含む。粘土化しており、締まり弱、粘性・可塑性に富む。粒子極めて細かい。
13. 10YR5/4 にぶい黄褐色土層 細砂粒をベースとしロームが混在。直徑 3mm 以下の明赤褐色スコリア 3%、直徑 40mm 以下（直徑 20mm 以下が主体）の円礫 10% を含む。締まり有り、粘性弱、粒子粗く砂質。
14. 10YR5/3 にぶい黄褐色土層 灰白色に水変した水つきロームをベースとし、微細砂粒 10% を含む。締まり有り、粘性に富む。粒子極めて細かい。
15. 5Y5.5/2 灰オリーブ色土層 ほぼ微細砂粒からなる砂層で、灰白色の水つきローム粒子をわずかに含む。斑状の沈殿褐鉄鉱の沈着が見取られる。締まり強、粘性に欠け、粒子極めて粗く砂質。
16. 2.5Y5/3 黄褐色土層 12 層とよく似た水変したロームで、わずかに微細砂粒を含む。締まりに欠け、粘性に富み可塑性がある。粒子極めて細かい。
17. 5Y5.5/2 灰オリーブ色土層 ほぼ微細砂粒からなる砂層で、灰白色の水つきローム粒子をわずかに含む。中位にやや粒径の大きな灰色砂粒（5Y6/1）が厚さ 25mm 程の層理をなす。上部と下部は、沈殿褐鉄鉱の斑状沈着が顯著。締まり強、粘性に欠け、粒子極めて粗く砂質。
18. 2.5Y5.5/3 にぶい黄色土層 浅黄色（2.5Y7/3）に水変したロームに細砂粒 40% が混在。他に直徑 3mm 以下の赤褐色スコリア 1% を含む。締まり弱、粘性に富む。粒子やや粗く砂質。
19. 2.5Y6/2 灰黄色土層 微細砂粒を含む直徑 7mm 以下の浅黄色土ブロック 15% が斑状を呈する。沈殿褐鉄鉱の斑状沈着が顯著。締まり弱、粘性に富む。粒子細かい。
20. 2.5Y6/3 にぶい黄色土層 水変したロームを母材とする砂質粘土ベース、直徑 2mm 以下の赤褐色粒子 2% を含む。締まり有り、粘性に富む。粒子やや粗くやや砂質。
21. 2.5Y7/3 浅黄色土層 浅黄色でバミス様の水つきロームに細砂粒 20% が混在。直徑 7mm 以下の円礫 7% を含む。締まり・粘性有り、粒子粗く砂質。
22. 5Y5.5/2 灰オリーブ色土層 微細砂粒からなる砂層。締まり強、粘性に欠け、粒子極めて粗く砂質。
23. 2.5Y6/1.5 灰黄色土層 シルト層。締まり弱、粘性・可塑性に富む。粒子極めて細かい。
24. 5Y5/2 灰オリーブ色土層 粗砂を含む灰白色砂質粘土をベースとし、直徑 3mm 以下の赤褐色粒子 5%、直徑 10mm 以下の円礫 15% を含む。締まり強だが脆く、粘性有り、粒子極めて粗く砂質。

第 14 図 基本層序 (2)

可能性も払拭し難い。

II' 層 7.5YR2.5/1 黒褐色土層 直径 1mm 程のにぶい黄褐色スコリア（10YR5/4）5%、直径 2mm 以下の黒色スコリア 2% を含む。締まり有り、粘性弱、粒子はやや粗い。II 3 層もしくは II 層土と III 1 層土が混在したものと考えられる。調査区北東部、SI52 覆土の上で検出（同調査区東西ベルト⑫）。

III 1 層 7.5YR1.7/1 黒色土層 直径 2mm 以下のにぶい黄褐色スコリア 1%、直径 2mm 以下の明赤褐色スコリア 1% 未満を含む。締まり・粘性有り、粒子は細かい。直径 1mm 以下の灰白色粒子 5% を含むことがある。縄文時代の包含層。

III 2 層 7.5YR3/1 黒褐色土層 直径 1mm 程のにぶい黄褐色スコリア 1%、直径 3mm 以下の赤褐色スコリア（2.5YR4/8）1% 未満を含む。締まり有り、粘性は III 1 層より有り、粒子は極めて細かい。縄文時代の包含層。

III 3 層 10YR3/2 黒褐色土層 直径 3mm 以下の赤褐色スコリア 2% を含む。締まりやや強、粘性有り、粒子は極めて細かい。上端が手指状の凹凸を呈する。縄文時代の包含層。

IV 層 10YR4/2 灰黄褐色土層 所謂ローム漸移層。直径 4mm 以下の明赤褐色スコリア 5%、直径 2mm 以下の黄灰色スコリア（2.5Y6/1）1%、ローム粒子 15% を含む。締まりは有るが III 3 層より弱、粘性有り、粒子は極めて細かい。

VS 層 10YR5/6 黄褐色土層 所謂ソフトローム層。発泡性の高い直径 8mm 以下の赤褐色スコリア（2.5YR4/8：青柳スコリア）15% が、上部では直径 70mm 以下の團塊状をなし、斑状を呈する。上部では、褐色（10YR4/4）の土壤が軟質部となり、樹枝状に展開する。締まり強、粘性有り、粒子は極めて細かいが、赤褐色スコリア集中部分は、ボロボロする。 (相原正人)



1. 基本層序 2-3 区北壁 (南南東から)



2. 土層断面 2-3 区北壁 (南南東から)



3. 土層断面 2-2 区西壁 (東北東から)



4. 土層断面 2-2 区東西ベルト (南南東から)



5. 土層断面 2-5 区東西ベルト (南南東から)

第 15 図 調査区土層断面



1. 旧石器試掘坑 A 東壁 土層断面 (西南西から)



2. 旧石器試掘坑 B 全景 (南南東から)



3. 旧石器試掘坑 B 西壁
土層断面 (東から)

第 16 図 調査区試掘坑

IV 遺構と遺物

今回の調査において検出された遺構・遺物は、以下のとおりである。

《旧石器時代》

遺構 遺物集中部 1 箇所

遺物 石器（細石刃、石核、スクレイパー、楔形石器）、礫

《縄文時代》

遺構 壱穴状遺構 1 基、集石 1 基、礫集中 1 箇所、土坑 8 基、ピット 2 基

遺物 土器〔早期前半～後期前半〕、土製品（土製円板、土偶、土鈴）、石器（尖頭器、石鏃、石匙、剥片、二次加工剥片、石核、打製石斧、磨製石斧、磨石、石皿、敲石）、礫、炭化材

《弥生時代～古墳時代前期》

遺構 壱穴建物跡 17 軒、壹穴状遺構 2 基、方形周溝墓 1 基、土坑 6 基、ピット 7 基

遺物 土器〔前期、弥生時代終末期～古墳時代前期〕、石器・石製品（敲石・石杵・磨石・砥石・編物石・台石・石製垂飾）、金属製品（鉄鏃）、炭化材、炭化種実

《古墳時代中期～後期》

遺構 古墳 1 基、土坑 2 基

遺物 土師器

《古代》

遺構 壱穴建物跡 21 軒、掘立柱建物跡 3 棟、ピット 140 基、溝 3 条、土坑 110 基、集石 2 基、焼土跡 3 基

遺物 土師器、須恵器、灰釉陶器、土製品（紡錘車、管状土垂）、石製品（台石、磨石、砥石、有孔石製品）、金属製品（板状青銅製品、鉄鏃、刀子、穂摘具、鉄釘）、鉄滓、炭化材、炭化種実

《中世》

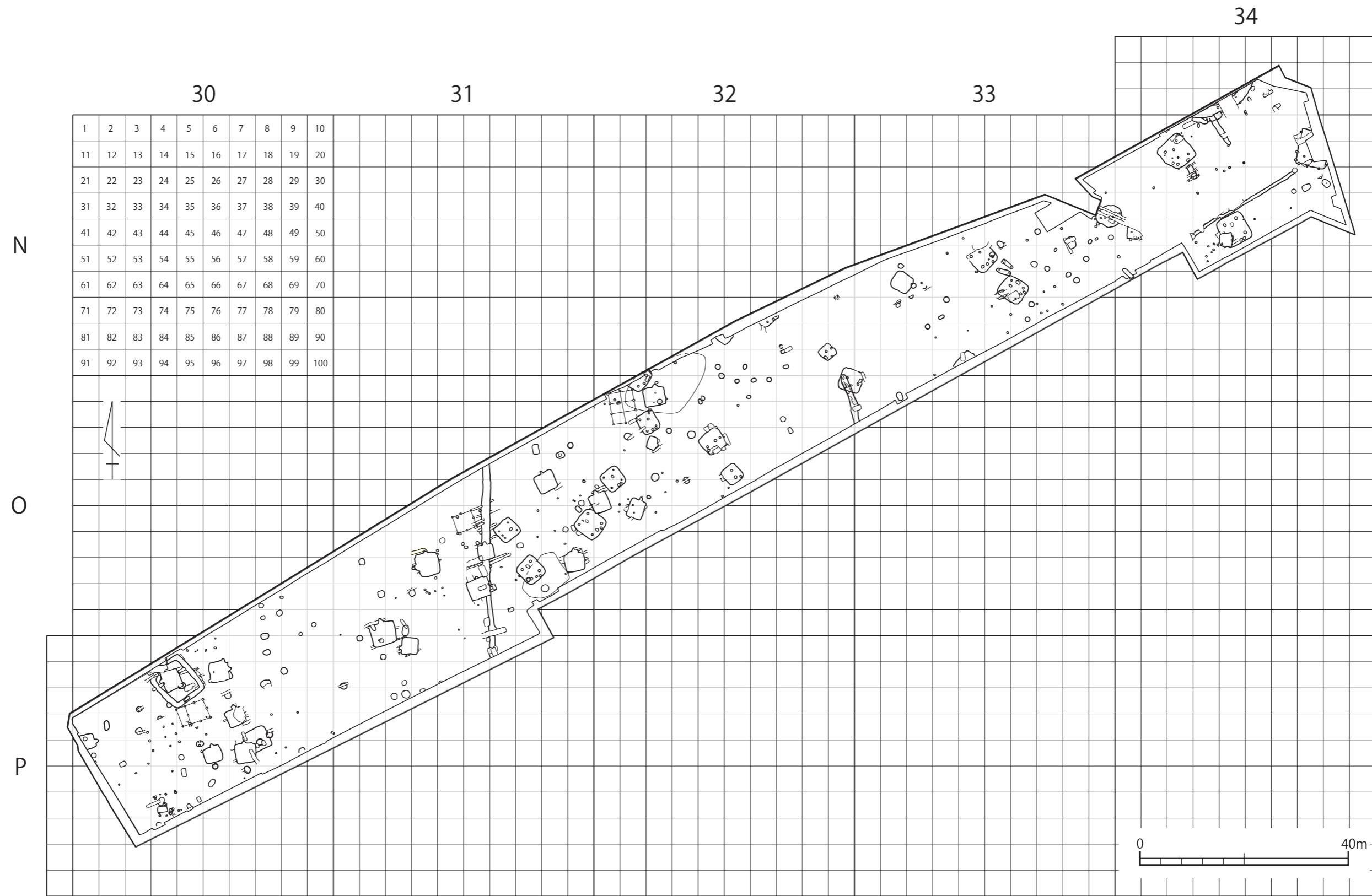
遺構 道路跡 1 条、土坑 1 基

遺物 陶器（皿、鉢類、すり鉢、片口鉢、碗、天目茶碗、壺、甕）、磁器（青磁）、石製品（磨石）、錢貨（嘉祐元宝、熙寧元宝、淳熙元宝）、炭化種実

《近世以降（現代を除く）》

遺構 溝 1,035 条、土坑 737 基、ピット 18 基、埋甕 1 基

遺物 陶磁器、土器類、土製品、石製品（砥石、蠟石）、金属製品（煙管、火打金、錢貨等）



第17図 繩文時代～中世遺構全体図(1/800)

1 旧石器時代

今回の調査では、33N-60・70 グリッドを中心に遺物集中部 1箇所が検出された。調査に際しては旧石器遺物にも十分注意が払われ、試掘坑による探索も行われたが、遺物が纏まって出土したのはこの範囲のみであった。したがって、本遺物集中部は、この周辺においてスポット的に残された活動地点であったとみられる。

1) 1号遺物集中部 (第 18 ~ 20、29、30 図)

石器と礫、そして炭化物からなる。石器と礫の分布範囲は、南北約 6.0m、東西約 5.5m である。炭化物は、南北・東西ともに約 7.7m の範囲に広がる。33N-60 グリッドから同 70 グリッドにかかる範囲に石器と礫が密集する。出土層位は、2 層（立川ロームIV層相当）上部から 1 層（同III層相当）下部を主体とする。垂直位置の度数分布をみると、石器は標高 89.70m ~ 89.85m の区画の度数にあまり差がない分布を示す。礫の多くは標高 89.70m 付近に位置し、これは石器の極大範囲の下部にあたる。シャピロ・ウィルク検定の結果からはいずれも正規分布しないが（石器：W=0.96075、p=0.00035、礫：W=0.97195、p=0.00382）、多峰性に関するシルヴァーマン検定では両者ともに単峰である（石器：モード 1：p=0.08300、礫：モード 1：p=0.77723）。炭化物は標高 89.65m と 89.80m 付近に峰をもつが（モード 2：p=0.19319）、石器と礫の垂直分布範囲に概ね一致する。

石器総数は 145 点である。細石刃（69 点、47.6%）と剥片（70 点、48.3%）がそれぞれ半数近くを占め、その他にスクレイパー（3 点、2.1%）、楔形石器（1 点、0.7%）、石核（1 点、0.7%）等を含む。石器石材は黒曜石（125 点、86.2%）がほとんどを占め、その他にホルンフェルス（9 点、6.2%）、ガラス質黒色安山岩（6 点、4.1%）、細粒緑色凝灰岩（3 点、2.1%）等がある。

礫は総数 150 点である。これらは平面的な纏まりをもって出土しており、66 点（44.0%）が被熱により赤化し、15 点（10.0%）にススもしくはタール状の付着物が観察されることから、礫群と認定することが可能である。密集域を中心に多くの礫・礫片が接合している（16 個体、73 点）。

2) 遺物 (第 21 ~ 28 図、第 3 ~ 6 表)

細石刃とした資料は 69 点である。このうち 6 点が折れ面で接合しており、総個体数は 66 個体となる。すべて黒曜石製である。完形・準完形 14 点、末端部側欠損 21 点、中間部 17 点、打面部側欠損 17 点である。完形・準完形のものでは、長さ 27.4 ~ 4.0mm (Avg=13.9mm, SD=6.75)、幅 8.3 ~ 1.8cm (Avg=4.7mm, SD=1.44) である。正面観は、上部から中間部にかけては両側縁が直線的かつ平行的で、末端に向かい先細り、側面観は片側縁に緩やかにねじれて内湾するものが多い（1 ~ 3・38・39 等）。打面は平坦な单剥離面（1・3・4・8）と点状打面（2・7・22・26）がほとんどである。单剥離面打面のものは、剥離開始部が幅を有してリップ状になる。先行剥離面のほとんどは主剥離面と同一方向だが、一部に逆行するものも認められる（34・46）。稜付は 4 点ある（2・18・37 等）。微小剥離痕が観察されるものが 28 点あり（7・14・42 等）、43 は彫器状剥離痕をあわせ持つ。

49 は黒曜石製の石核である。厚手・小型の剥片を素材とする。裏面全面に自然面を残す。平坦面を打面とし、細石刃状の剥片を剥離している。上下の小ぶりの剥離が対向しており、両極剥離による可能性もある。

50・52・53はスクレイパーである。すべてホルンフェルス製である。50は上部を欠損する。正面全面に自然面を残す。剥片遠端の右側の両面に小ぶりな二次加工を施して半急角度の刃部を形成している。52は下部をわずかに欠損する。自然面を残すやや縦長の剥片を素材とする。右側縁背面上に急角度の二次加工を施して鋸歯状の刃部を形成している。

51はガラス質黒色安山岩製の楔形石器である。裏面に自然面を大きく残す剥片を素材とする。正面において求心状に小型剥片を剥離している。最終的に両極剥離による上下の小ぶりの剥離が対向している。

54は、剥離痕跡のある礫である。砂岩製である。大ぶりの剥離により右側面が形成されている。右側面、裏面上部、下側面の左上部に小ぶりの剥離痕が認められる。本資料は被熱していないが、被熱により赤化し、黒色付着物のある礫と接合している。

石器の接合資料は、剥離面接合9個体(25点)、折れ面接合3個体(6点)の合計12個体(31点)が得られた。細石刃の折れ面接合(1-1~1-3)、細石刃・剥片剥離、石核の打面・側面調整、ツールの刃部形成・再生を示すものに大別できる。

1-4:細石刃剥離過程を示す。平坦打面から1を剥離し、打点を図上左側に移動して2を剥離している。

1-5:小型剥片の剥離過程を示す。

1-6:極小型剥片の剥離過程を示す。細石刃核の打面調整に関わる可能性がある。

1-7:縦長剥片の剥離過程を示す。礫の自然稜から1a+1b→2を剥離した後、打面を90度転移して小型剥片(3)を剥離している。3は石核の側面調整と考えられる。

1-8:剥片剥離過程を示す。自然面を大きく残す厚手剥片の腹面を打面として、まず1a+1bを剥離し、同時割れによって生じた1bから細石刃状の剥片を剥離している。その後、打点を左右に移動しながら、厚手縦長(3)、長方形状(4)の剥片を剥離している。3・4は発達した打瘤を有し、打点部に明瞭な円錐体が観察される。

2-1:スクレイパーの刃部形成もしくは再生過程を示す。小ぶりの剥片(1)を剥離し、鋸歯状の刃部を作出している。

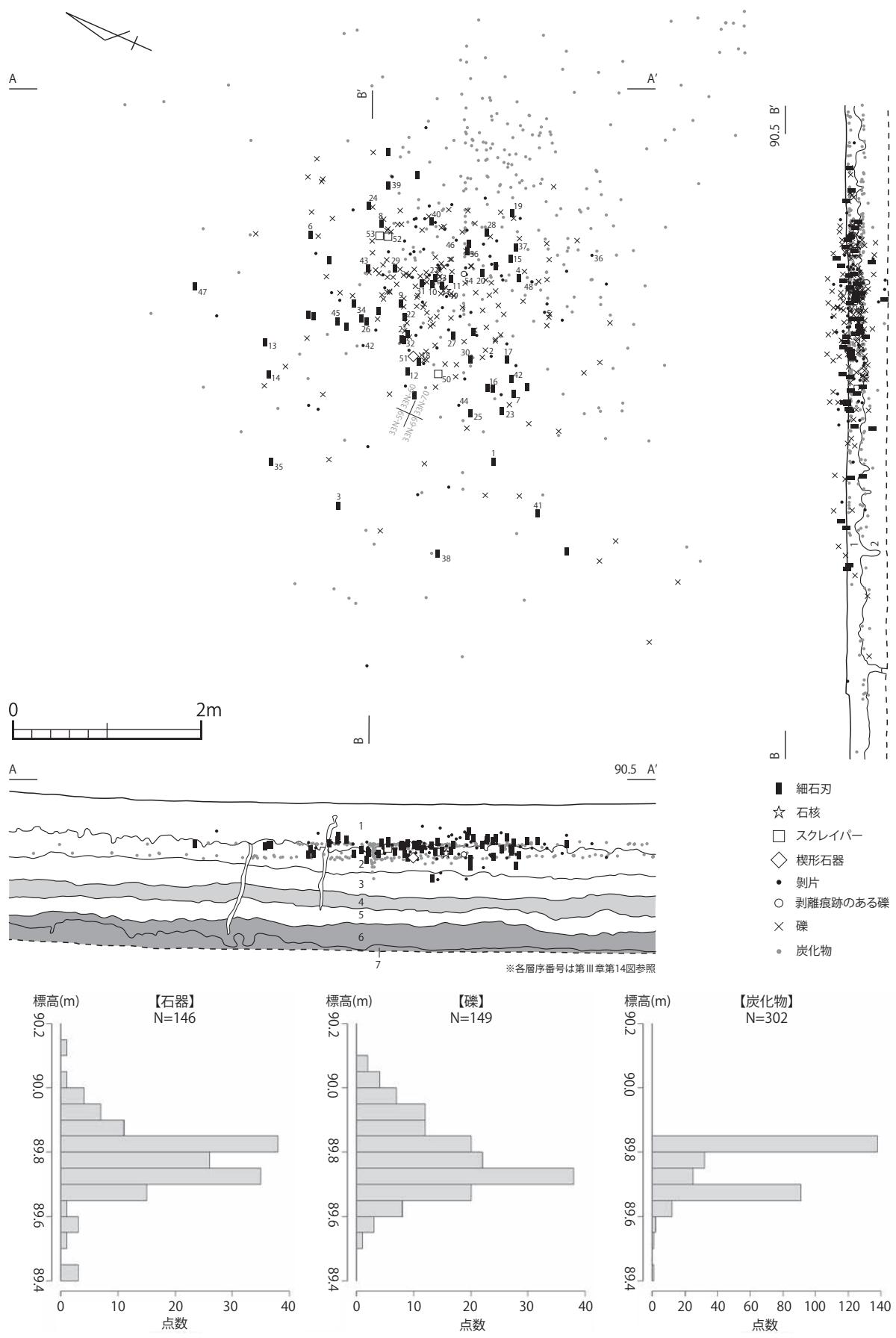
2-2:スクレイパーの刃部形成もしくは再生過程を示す。大ぶりの剥片(2)を剥離し、刃部を作出している。1の小ぶりの剥片剥離も刃部形成の可能性がある。

3-1:剥片剥離過程を示す。求心状石核(両極石器)の周囲から貝殻形状の剥片(1a+1b)を剥離している。
(尾田謙好)

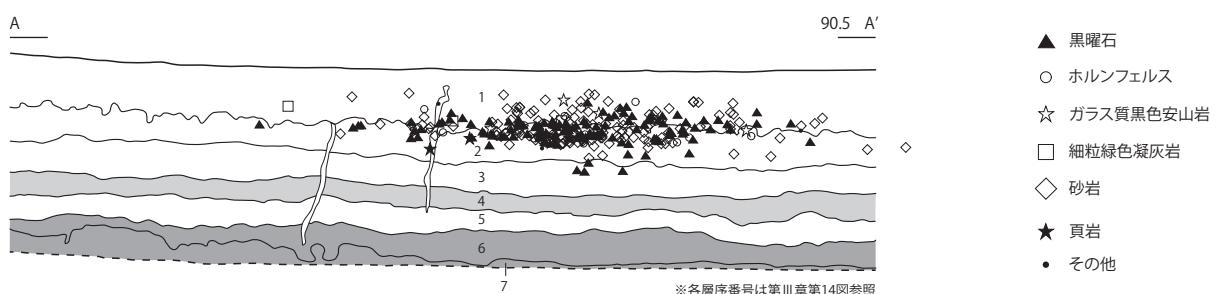
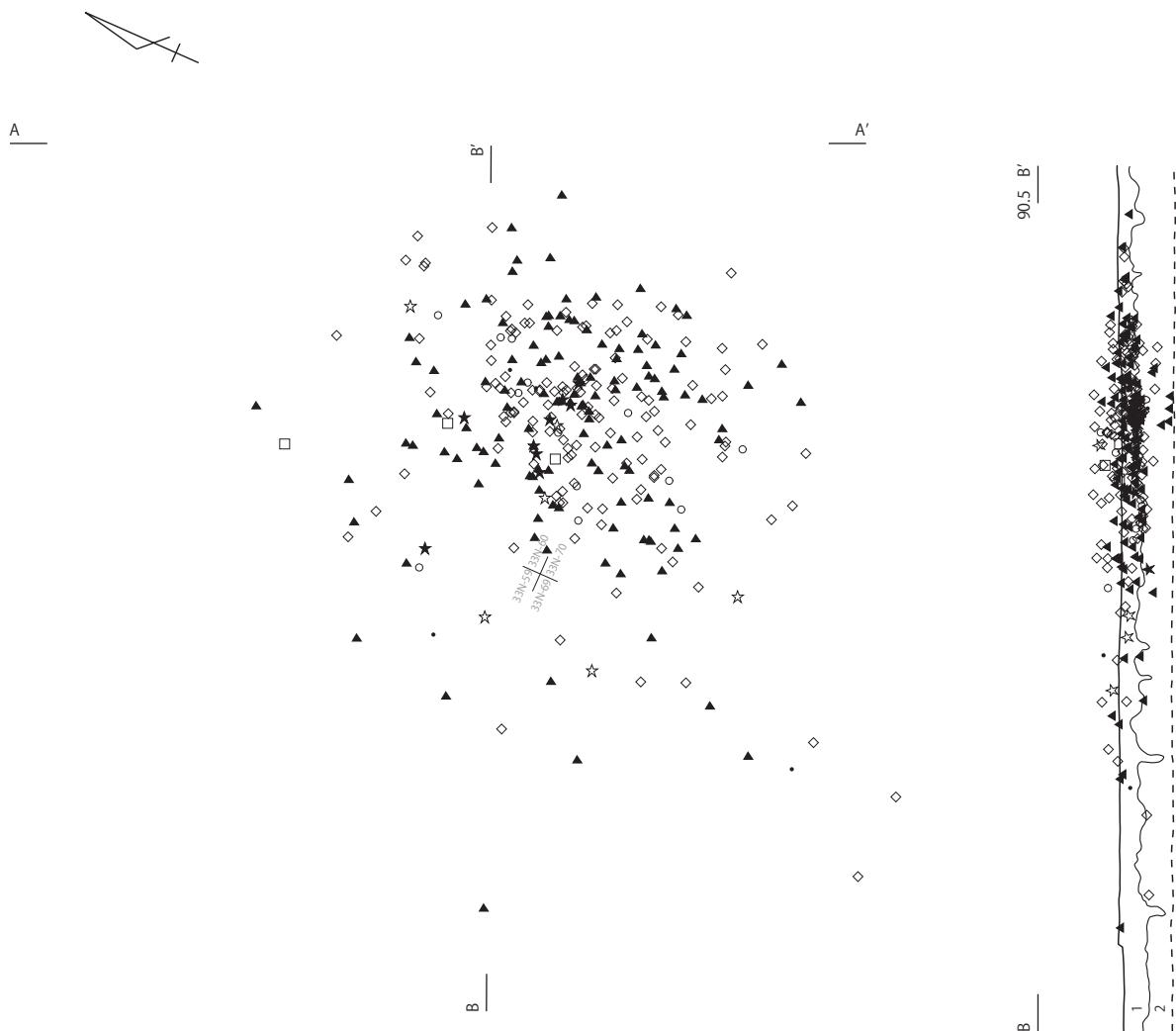
第3表 石器組成表

	黒曜石	ホルンフェルス	ガラス質黒色安山岩	細粒緑色凝灰岩	砂岩	頁岩	その他	合計
細石刃	69(66)							69
スクレイパー		3						3
楔形石器			1					1
二次加工剥片				1				1
剥片	55(54)	6	5(4)	2	2			70
石核	1							1
礫器					1			1
剥離痕跡のある礫		4			132	9	4	149
合計	125	13	6	3	135	9	4	295

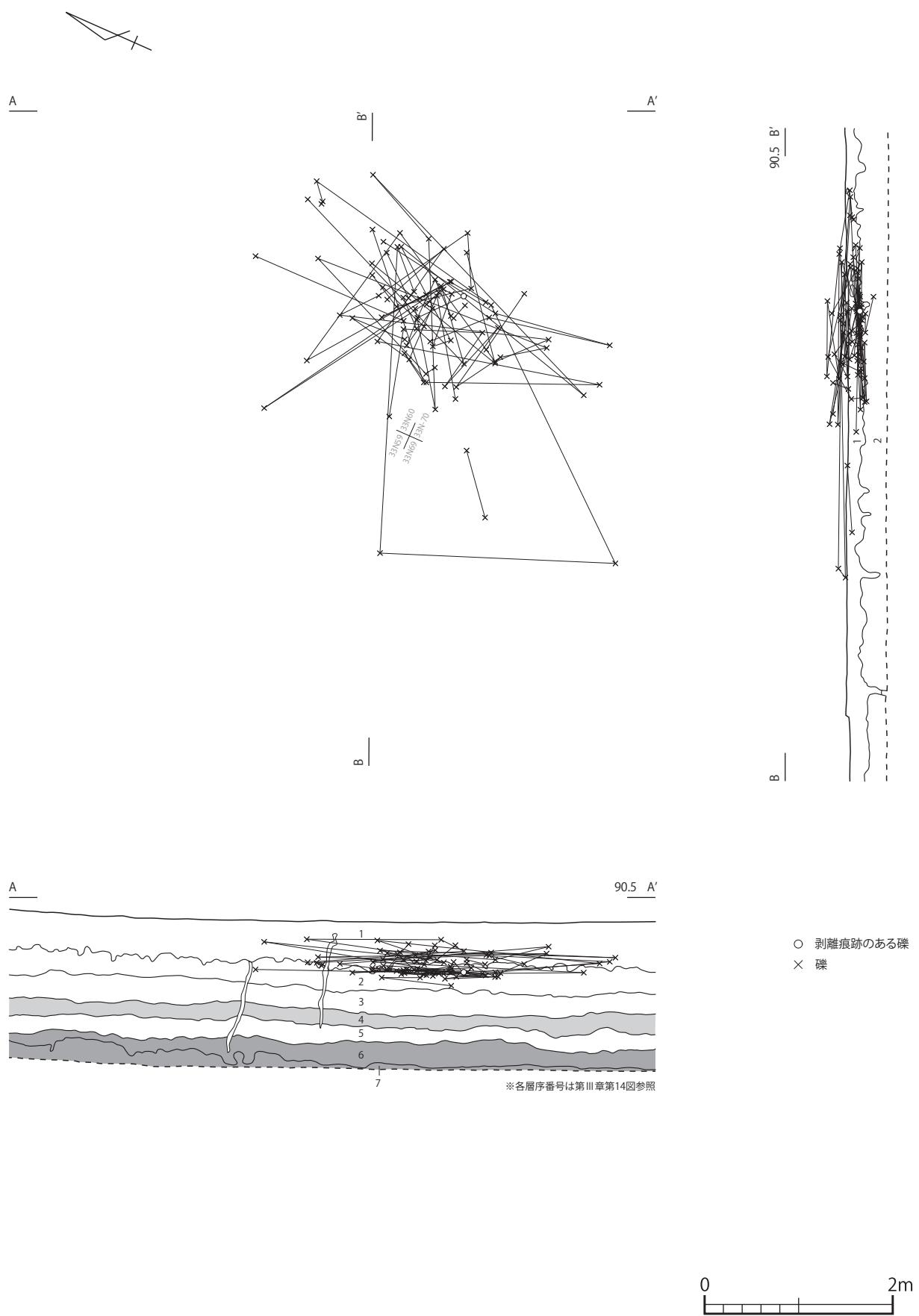
*括弧内は接合後の個体数



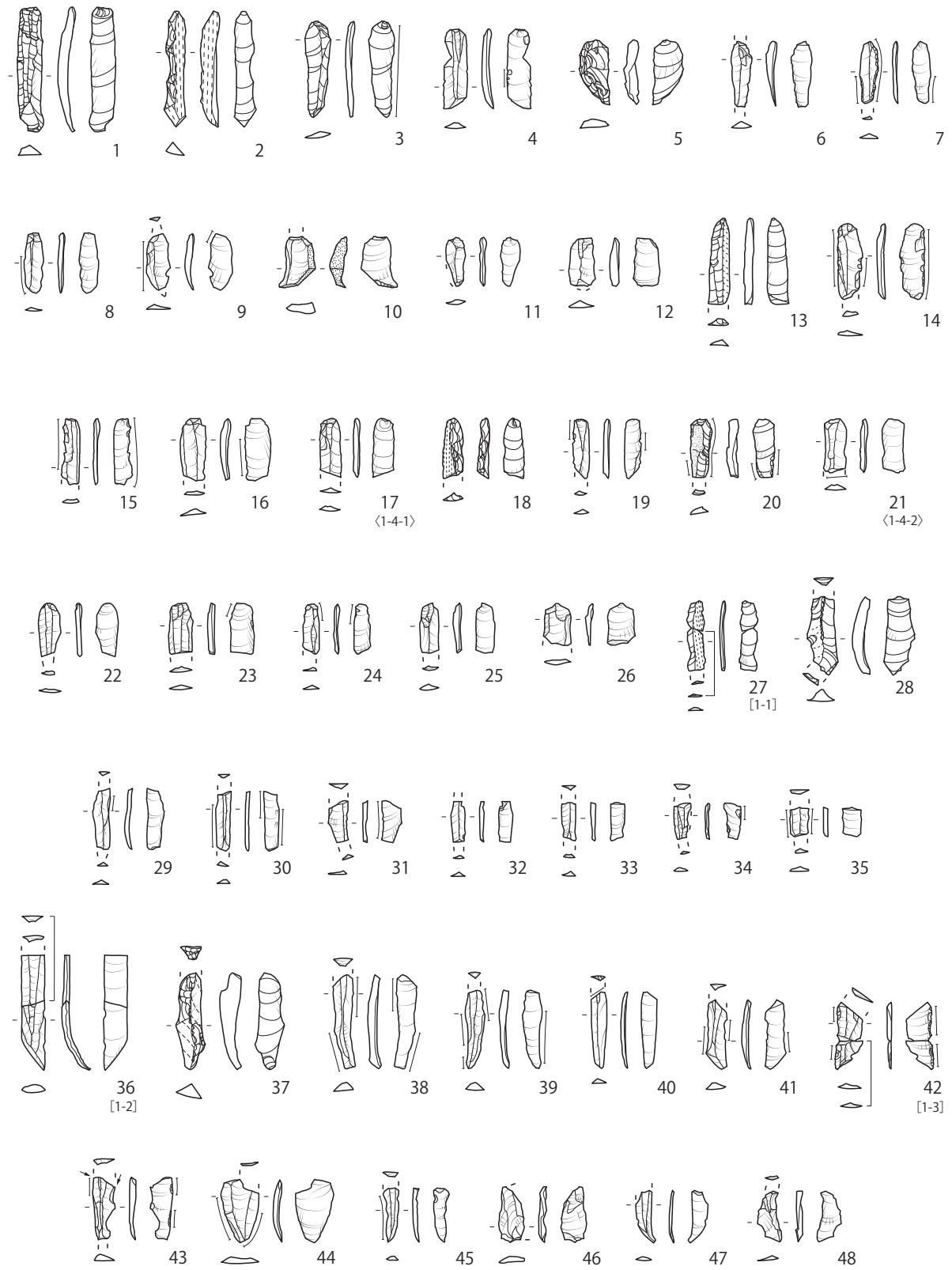
第18図 SBL1(1) 器種別分布図 (1/60) と遺物垂直位置の度数分布



第 19 図 SBL1(2) 石材別分布図 (1/60)

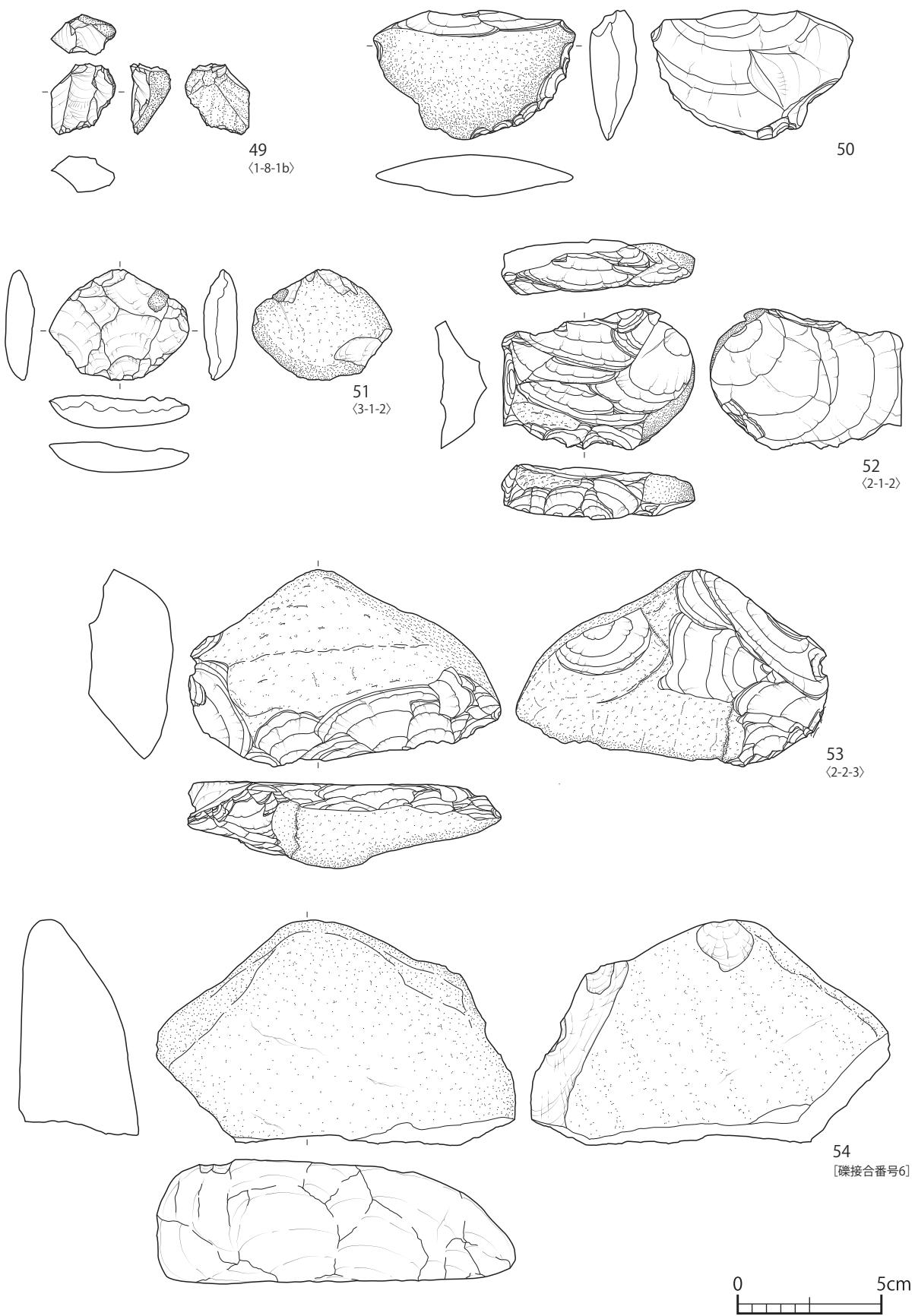


第 20 図 SBL1(3) 磯接合図 (1/60)

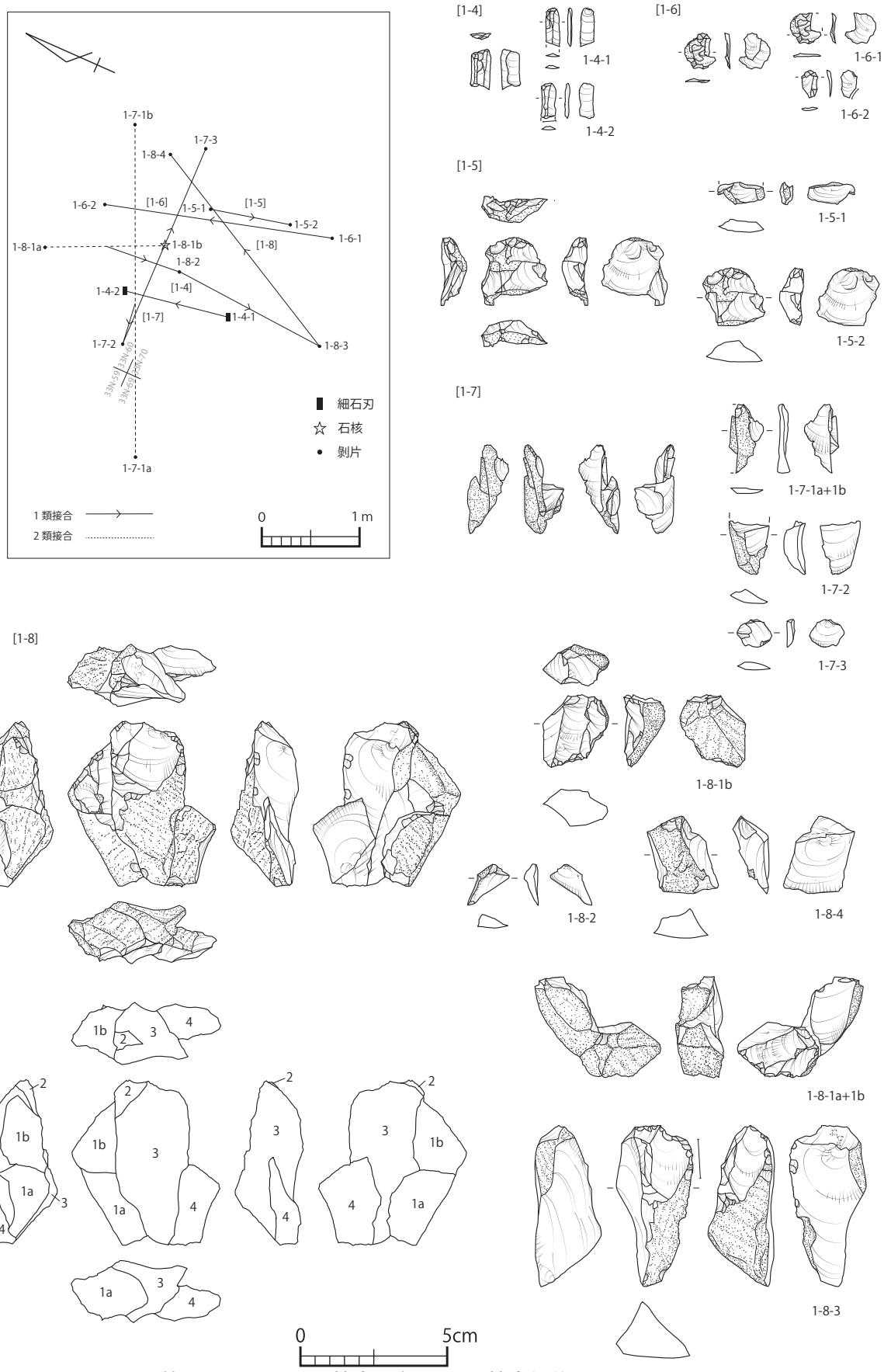


0 2cm

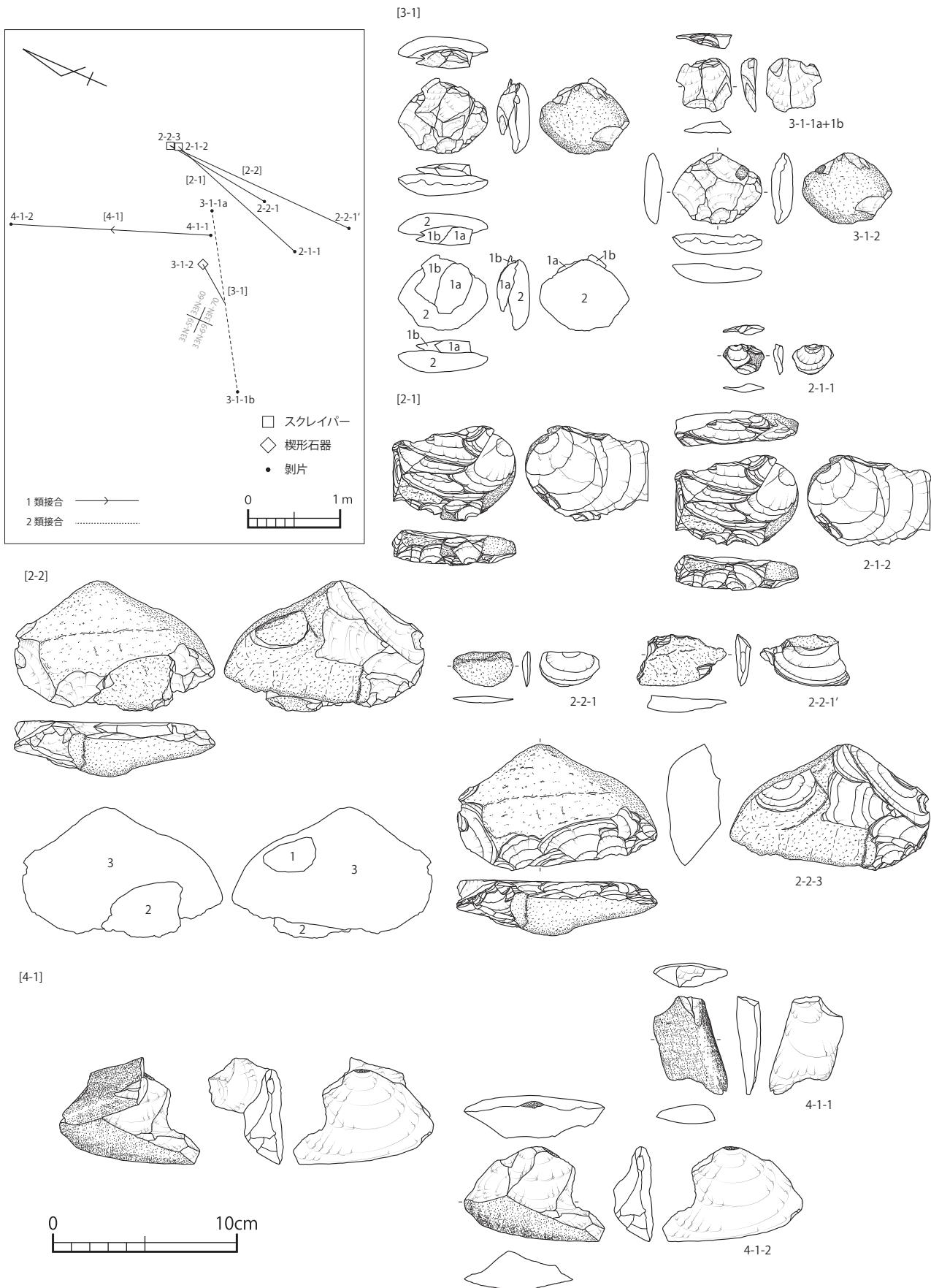
第21図 SBL1出土遺物(1)(3/4)



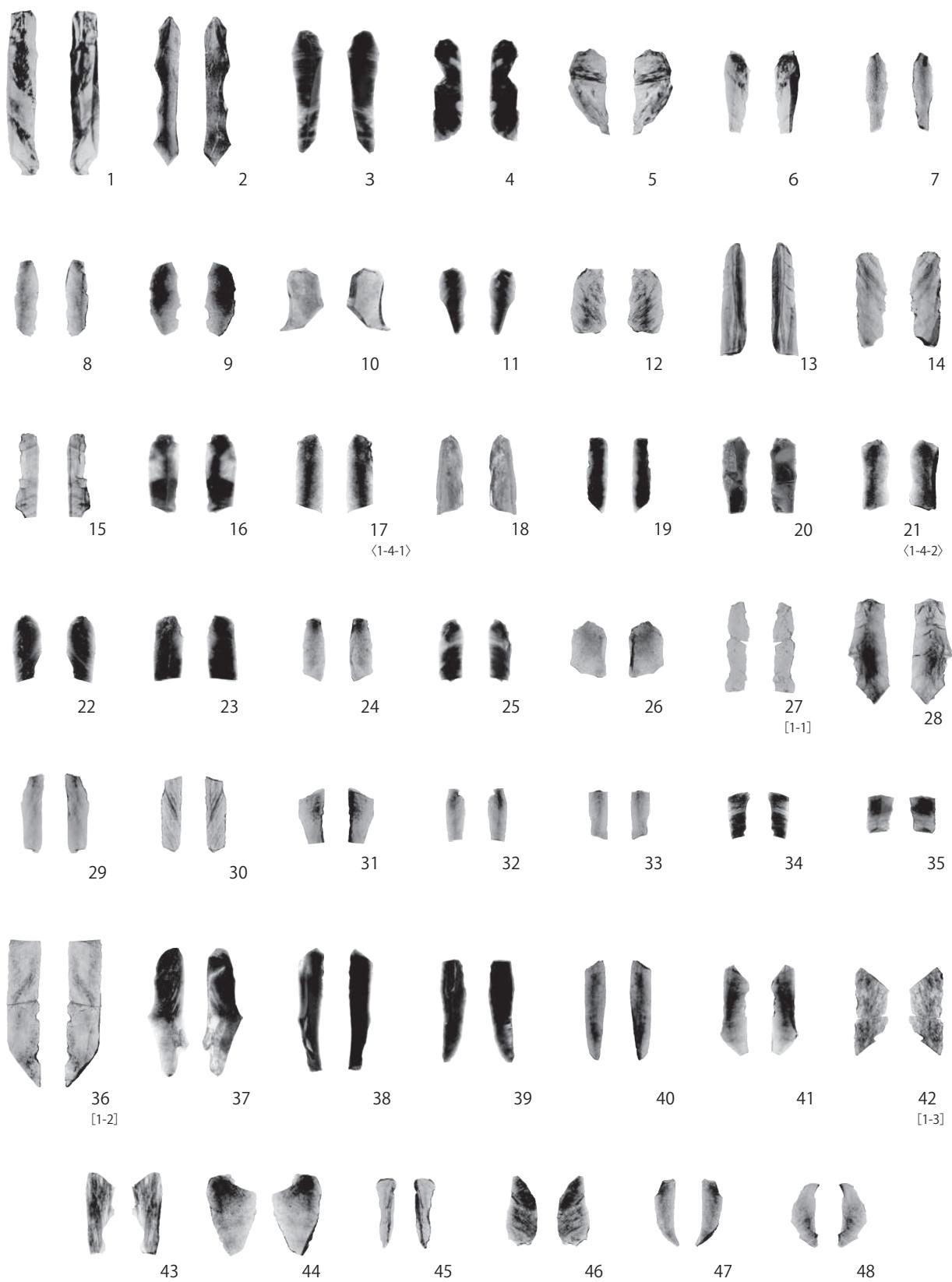
第22図 SBL1出土遺物(2)(1/2)



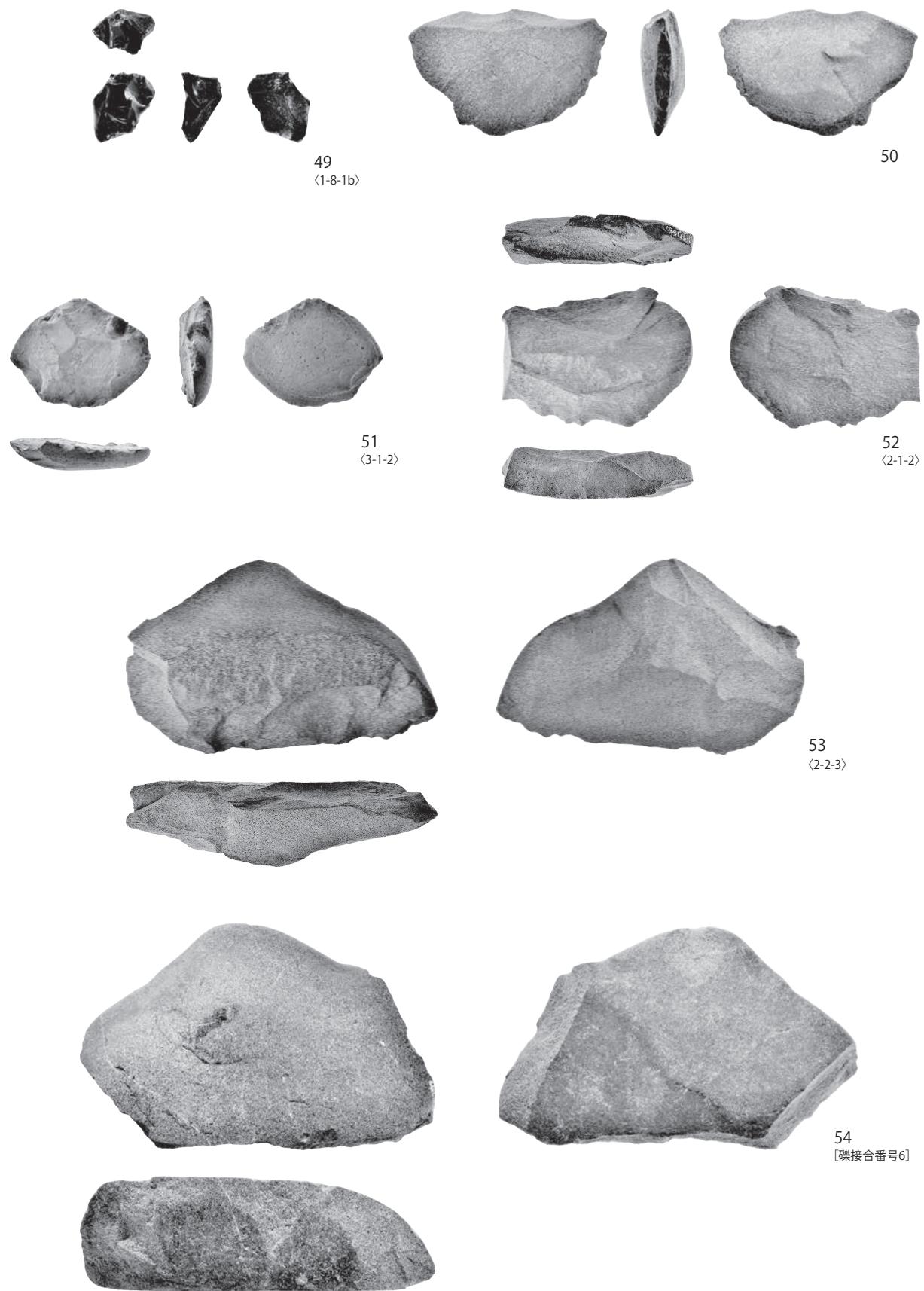
第23図 SBL1石器接合分布図・石器接合個体(1)(1/60・1/2)



第24図 SBL1石器接合分布図・石器接合個体(2)(1/60・1/3)

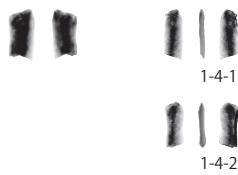


第25図 SBL1出土遺物写真(1)

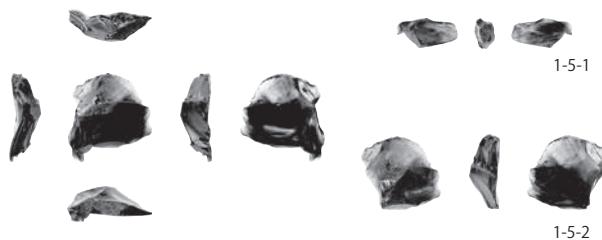


第 26 図 SBL1 出土遺物写真 (2)

[1-4]



[1-5]



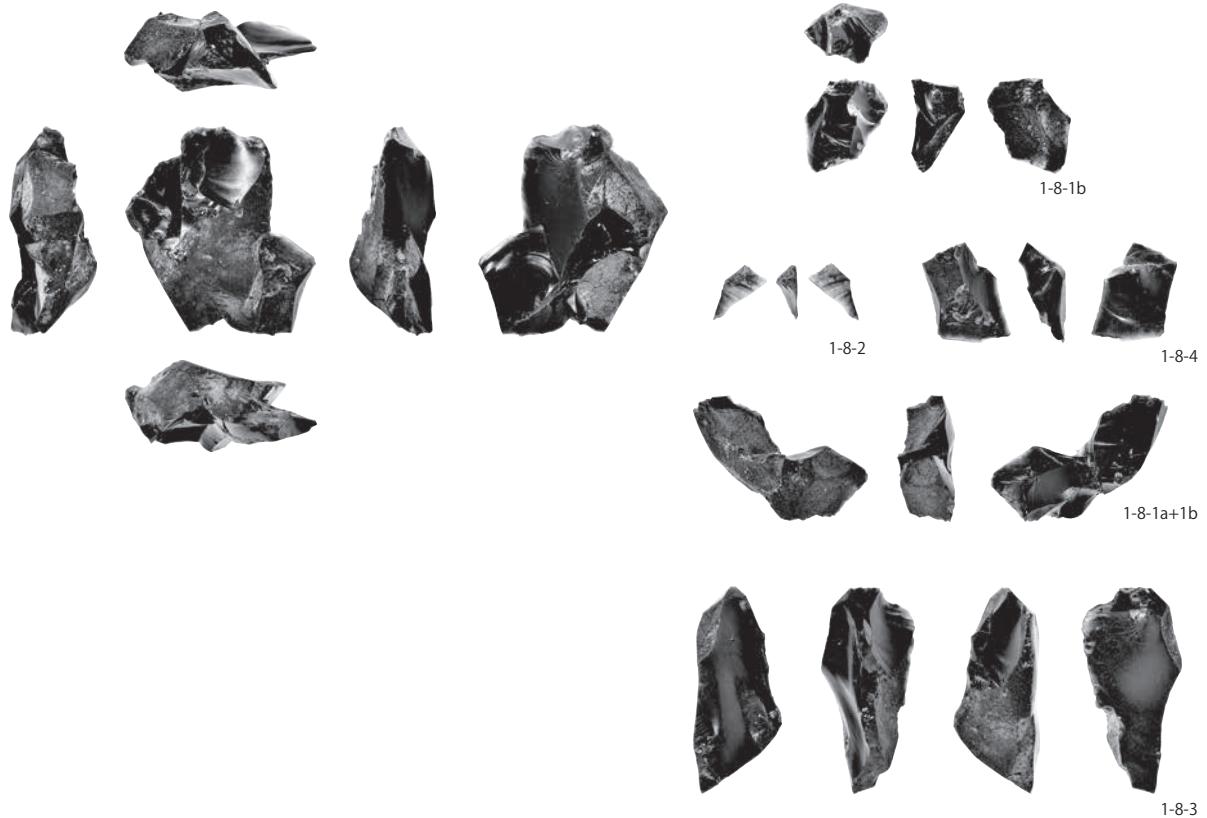
[1-6]



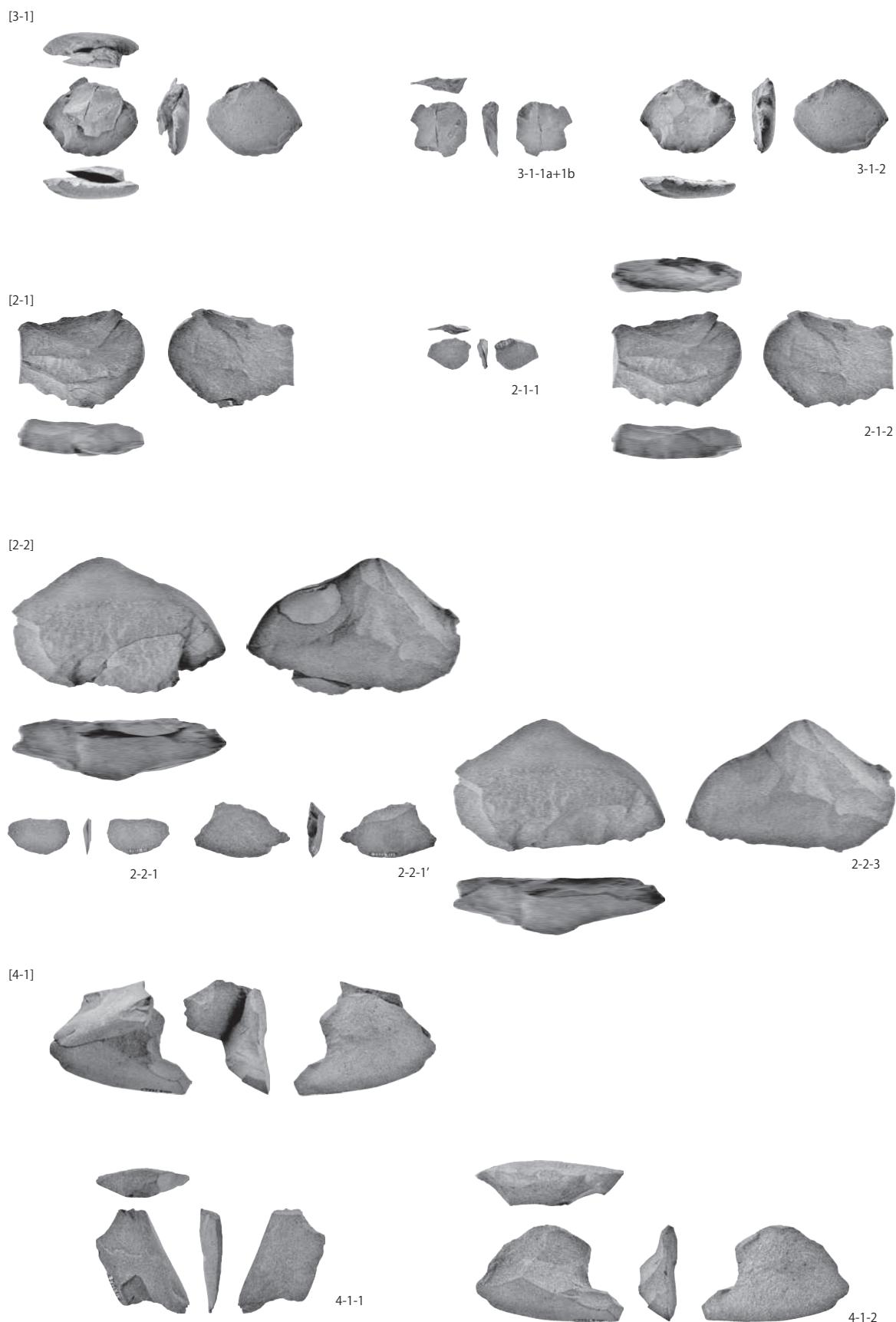
[1-7]



[1-8]



第 27 図 SBL1 石器接合個体写真 (1)



第28図 SBL1石器接合個体写真(2)

第4表 SBL1 出土遺物観察表(1)

遺構名	遺物番号	捕获番号	種類・器種	遺存状態	石材	最大長(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	被熱	自然面	接合	備考	X	Y	Z
SBL 1	124	第21図1	細石刃	完形	黒曜石	27.4	5.2	2.0	0.3	×	-	-	-	-38431.021	-41105.107	89.680
SBL 1	177	第21図2	細石刃	完形	黒曜石	25.3	4.5	2.9	0.3	×	岩肩・角礫面	-	稜付	-38430.544	-41104.092	89.689
SBL 1	37	第21図3	細石刃	略完形	黒曜石	20.8	5.5	1.2	0.1	×	-	-	微小剝離痕跡	-38429.704	-41106.202	89.904
SBL 1	259	第21図4	細石刃	完形	黒曜石	17.5	5.2	1.4	0.2	×	-	-	微小剝離痕跡	-38430.477	-41103.217	89.693
SBL 1	96	第21図5	細石刃	完形	黒曜石	14.3	6.5	2.2	0.2	×	-	-	稜付。打面調整剝片か	-38430.872	-41103.435	89.815
SBL 1	170	第21図6	細石刃	略完形	黒曜石	14.2	4.6	1.9	0.1	×	-	-	-	-38428.270	-41103.693	89.763
SBL 1	46	第21図7	細石刃	略完形	黒曜石	13.5	3.7	1.0	0.1	×	-	-	微小剝離痕跡	-38430.925	-41104.364	89.830
SBL 1	64	第21図8	細石刃	略完形	黒曜石	13.0	4.0	0.8	0.1	×	-	-	微小剝離痕跡	-38428.906	-41103.280	89.835
SBL 1	165	第21図9	細石刃	略完形	黒曜石	12.5	5.5	1.5	0.1	×	-	-	微小剝離痕跡	-38429.441	-41103.971	89.791
SBL 1	285	第21図10	細石刃	略完形	黒曜石	10.8	8.3	2.5	0.1	×	岩肩・角礫面	-	-	-38429.754	-41103.635	89.509
SBL 1	159	第21図11	細石刃	完形	黒曜石	10.5	4.1	1.0	0.1	○	-	-	-	-38429.822	-41103.515	89.747
SBL 1	130	第21図12	細石刃	略完形	黒曜石	10.3	5.5	1.6	0.1	×	-	-	-	-38429.801	-41104.600	89.674
SBL 1	118	第21図13	細石刃	末端側欠損	黒曜石	18.5	4.2	1.5	0.1	×	岩肩・角礫面	-	-	-38428.287	-41104.931	89.788
SBL 1	119	第21図14	細石刃	末端側欠損	黒曜石	16.3	5.1	1.5	0.2	×	-	-	微小剝離痕跡	-38428.464	-41105.225	89.804
SBL 1	152	第21図15	細石刃	末端側欠損	黒曜石	14.4	3.7	0.9	0.1	×	-	-	微小剝離痕跡	-38430.315	-41103.063	89.770
SBL 1	45	第21図16	細石刃	末端側欠損	黒曜石	13.5	5.5	1.3	0.1	×	-	-	微小剝離痕跡	-38430.702	-41104.401	89.847
SBL 1	48	第21図17 第23図4-1	細石刃	末端側欠損	黒曜石	13.3	4.6	1.2	0.1	×	-	石器1-4	-	-38430.714	-41104.055	89.889
SBL 1	42	第21図18	細石刃	末端側欠損	黒曜石	13.2	4.2	2.0	0.1	×	岩肩・角礫面	-	稜付	-38429.867	-41104.453	89.814
SBL 1	148	第21図19	細石刃	末端側欠損	黒曜石	12.8	3.5	1.0	0.1	×	-	-	微小剝離痕跡	-38430.132	-41102.613	89.753
SBL 1	97	第21図20	細石刃	末端側欠損	黒曜石	12.4	4.4	1.7	0.1	×	岩肩・角礫面	-	微小剝離痕跡	-38430.099	-41103.317	89.810
SBL 1	41	第21図21 第23図4-2	細石刃	末端側欠損	黒曜石	11.8	4.5	1.4	0.1	×	-	石器1-4	微小剝離痕跡	-38429.640	-41104.238	89.825
SBL 1	167	第21図22	細石刃	末端側欠損	黒曜石	11.5	5.0	0.9	0.1	×	-	-	-	-38429.533	-41104.086	89.710
SBL 1	120	第21図23	細石刃	末端側欠損	黒曜石	11.1	5.0	1.2	0.1	×	-	-	微小剝離痕跡	-38430.881	-41104.581	89.761
SBL 1	295	第21図24	細石刃	末端側欠損	黒曜石	10.8	3.8	1.1	0.1	×	-	-	微小剝離痕跡	-38428.709	-41103.159	89.724
SBL 1	277	第21図25	細石刃	末端側欠損	黒曜石	10.7	4.3	1.3	0.1	×	-	側面付	-38430.587	-41104.737	89.575	
SBL 1	294	第21図26	細石刃	末端側欠損	黒曜石	9.0	5.6	1.0	0.1	×	-	-	-	-38429.184	-41104.288	89.647
SBL 1	131	第21図27	細石刃	中間部	黒曜石	15.4	3.6	0.7	0.0	×	岩肩・角礫面	石器1-1	-	-38429.663	-41103.572	89.737
SBL 1	163	第21図27	細石刃	末端側欠損	黒曜石	15.4	3.6	0.7	0.1	×	岩肩・角礫面	石器1-1	-	-38430.088	-41104.054	89.806
SBL 1	55	第21図28	細石刃	中間部	黒曜石	17.5	7.0	2.5	0.2	×	岩肩・角礫面	-	稜付	-38429.964	-41102.909	89.857
SBL 1	220	第21図29	細石刃	中間部	黒曜石	13.5	4.0	1.0	0.1	×	-	-	微小剝離痕跡	-38429.234	-41103.654	89.737
SBL 1	260	第21図30	細石刃	中間部	黒曜石	13.0	3.5	1.0	0.1	×	-	-	微小剝離痕跡	-38430.358	-41104.210	89.658
SBL 1	283	第21図31	細石刃	中間部	黒曜石	9.5	4.5	1.0	0.1	×	-	-	-	-38429.660	-41103.644	89.450
SBL 1	166	第21図32	細石刃	中間部	黒曜石	9.0	3.0	1.0	0.1	×	-	-	-	-38429.626	-41104.311	89.803
SBL 1	161	第21図33	細石刃	中間部	黒曜石	8.5	3.2	1.0	0.1	×	-	-	-	-38429.760	-41103.619	89.745
SBL 1	288	第21図34	細石刃	中間部	黒曜石	8.0	4.0	0.9	0.1	×	-	-	-	-38429.122	-41104.280	89.756
SBL 1	38	第21図35	細石刃	中間部	黒曜石	6.5	4.5	1.1	0.1	×	-	-	微小剝離痕跡	-38428.861	-41106.068	89.806
SBL 1	57	第21図36	細石刃	打面側欠損	黒曜石	25.0	5.5	1.5	0.1	×	-	石器1-2	-	-38431.087	-41102.677	89.820
SBL 1	116	第21図36	細石刃	中間部	黒曜石	25.0	5.5	1.5	0.1	×	-	石器1-2	-	-38429.857	-41103.174	89.905
SBL 1	268	第21図37	細石刃	打面側欠損	黒曜石	21.5	6.5	4.5	0.4	×	岩肩・角礫面	-	稜付	-38430.316	-41102.927	89.583
SBL 1	36	第21図38	細石刃	打面側欠損	黒曜石	21.0	4.5	2.0	0.2	×	-	-	微小剝離痕跡	-38430.874	-41106.243	89.840
SBL 1	65	第21図39	細石刃	打面側欠損	黒曜石	17.5	4.5	1.7	0.1	×	-	-	微小剝離痕跡	-38428.810	-41102.873	89.851
SBL 1	111	第21図40	細石刃	打面側欠損	黒曜石	17.0	3.5	1.1	0.1	×	-	-	微小剝離痕跡	-38429.383	-41103.041	89.803
SBL 1	66	第21図41	細石刃	打面側欠損	黒曜石	15.5	5.0	1.5	0.1	×	-	-	微小剝離痕跡	-38431.672	-41105.416	89.848
SBL 1	128	第21図42	細石刃	打面側欠損	黒曜石	15.0	6.0	1.1	0.1	×	-	石器1-3	-	-38429.253	-41104.540	89.741
SBL 1	287	第21図42	細石刃	中間部	黒曜石	15.0	6.0	1.1	0.1	×	-	石器1-3	微小剝離痕跡	-38430.836	-41104.228	89.740
SBL 1	293	第21図43	細石刃	打面側欠損	黒曜石	14.0	5.0	1.4	0.1	×	-	-	折面から彫器状剝離痕跡。微小剝離痕跡	-38428.971	-41103.769	89.740
SBL 1	127	第21図44	細石刃	打面側欠損	黒曜石	14.0	8.5	1.5	0.1	×	-	-	微小剝離痕跡	-38430.440	-41104.708	89.709
SBL 1	40	第21図45	細石刃	打面側欠損	黒曜石	12.0	3.5	1.0	0.1	×	-	-	微小剝離痕跡	-38428.899	-41104.417	89.852
SBL 1	58	第21図46	細石刃	打面側欠損	黒曜石	12.0	5.5	1.5	0.1	×	-	-	-	-38429.704	-41103.115	89.870
SBL 1	175	第21図47	細石刃	打面側欠損	黒曜石	11.5	4.5	0.8	0.1	×	-	-	-	-38427.368	-41104.693	89.812
SBL 1	151	第21図48	細石刃	打面側欠損	黒曜石	11.0	4.7	0.8	0.1	×	-	-	-	-38430.619	-41103.193	89.774
SBL 1	162	第22図49 第23図8-1b	石核	完形	黒曜石	24.5	22.3	12.5	5.4	×	岩肩・角礫面	石器1-8	-	-38429.825	-41103.648	89.719
SBL 1	201	第22図50	スクレイパー	完形	ホルンフェルス	44.3	69.5	15.4	49.5	×	転礫面	-	-	-38430.105	-41104.492	89.730
SBL 1	253	第22図51 第24図3-1-2	楔形石器	完形	ガラス質黑色安山岩	37.6	48.1	10.8	22.1	×	転礫面	石器3-1	-	-38429.788	-41104.433	89.670
SBL 1	249	第22図52 第24図2-1-2	スクレイパー	完形	ホルンフェルス	66.5	49.1	16.9	60.5	×	転礫面	石器2-1	-	-38429.026	-41103.375	89.769
SBL 1	200	第22図53 第24図2-2-3	スクレイパー	完形	ホルンフェルス	108.1	67.9	29.4	207.0	×	転礫面	石器2-2	-	-38428.940	-41103.402	89.748
SBL 1	199	第22図54	剥離痕のある腰	完形	砂岩	77.7	124.4	40.5	465.0	○	転礫面	礫6(石器)	-	-38429.924	-41103.409	89.706
SBL 1	108	第23図1-6-2	剥片	右欠	黒曜石	9.5	5.5	1.3	0.1	×	-	石器1-6	-	-38429.095	-41103.520	89.802
SBL 1	269	第23図1-6-1	剥片	完形	黒曜石	10.5	10.5	1.5	0.1	×	-	石器1-6	微小剝離痕跡	-38431.351	-4102.894	89.674
SBL 1	156	第23図1-5-1	剥片	上欠	黒曜石	7.5	16.0	4.5	0.4	×	岩肩・角礫面	石器1-5	-	-38430.101	-41103.126	89.702
SBL 1	52	第23図1-5-2	剥片	完形	黒曜石	19.5	21.0	7.3	2.2	×	岩肩・角礫面	石器1-5	-	-38430.909	-41102.941	89.909
SBL 1	168	第23図1-7-1b	剥片	上欠	黒曜石	12.6	3.3	1.5	0.1	×	岩肩・角礫面	石器1-7	-	-38429.043	-41102.650	89.792
SBL 1	125	第23図1-7-1a	剥片	左欠	黒曜石	22.9	9.1	2.9	0.4	×	岩肩・角礫面	石器1-7	-	-38430.426	-41105.753	89.652
SBL 1	126	第23図1-7-2	剥片	上欠	黒曜石	17.7	13.2	5.6	1.0	×	岩肩・角礫面	石器1-7	-	-38429.839	-41104.751	89.721
SBL 1	59	第23図1-7-3	剥片	完形	黒曜石	9.0	11.5	2.5	0.2	×	岩肩・角礫面	石器1-7	-	-38429.804	-41102.582	89.846
SBL 1	60	第23図1-8-4	剥片	完形	黒曜石	26.3	24.0	9.8	4.1	×	岩肩・角礫面	石器1-8	-	-38429.507	-41102.789	89.913
SBL 1	51	第23図1-8-2	剥片	完形	黒曜石	14.4	14.0	4.5	0.3	×	岩肩・角礫面	石器1-8	-	-38430.070	-41103.838	89.884
SBL 1	35	第23図1-8-1a	剥片	上・右欠	黒曜石	30.0	17.3	1								

第4表 SBL1 出土遺物観察表(2)

遺構名	遺物番号	挿図番号	種類・器種	遺存状態	石材	最大長(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	被熱	自然面	接合	備考	X	Y	Z
SBL 1	193	第24図2-2-1'	剝片	完形	ホルンフェルス	27.6	49.4	8.4	10.0	×	-	石器2-2	-	-38431.078	-41103.435	89.717
SBL 1	26	第24図2-2-1	剝片	完形	ホルンフェルス	18.6	32.1	3.8	2.6	×	転覆面	石器2-2	-	-38430.120	-41103.541	89.989
SBL 1	1	-	礫	-	砂岩	70.0	-	-	65.4	×	-	礫08	-	-38428.144	-41103.126	89.776
SBL 1	2	-	礫	-	砂岩	91.0	-	-	261.5	×	-	礫08	-	-38428.145	-41103.098	89.789
SBL 1	3	-	礫	-	砂岩	84.0	-	-	255.5	×	-	礫09	-	-38427.991	-41103.141	89.812
SBL 1	4	-	礫	-	砂岩	76.0	-	-	88.8	×	-	礫08	-	-38428.000	-41102.926	89.807
SBL 1	6	-	礫	-	砂岩	28.0	-	-	1.5	×	-	-	-	-38428.996	-41103.807	89.628
SBL 1	7	-	礫	-	砂岩	55.0	-	-	41.0	○	-	礫12	-	-38429.100	-41103.671	89.846
SBL 1	8	-	礫	-	砂岩	56.0	-	-	16.5	○	-	礫07	-	-38429.195	-41103.771	89.910
SBL 1	9	-	礫	-	砂岩	14.0	-	-	0.9	×	-	-	-	-38429.277	-41103.900	89.946
SBL 1	10	-	礫	-	砂岩	20.0	-	-	2.3	×	-	-	-	-38429.257	-41103.917	89.943
SBL 1	11	-	礫	-	砂岩	27.0	-	-	3.8	×	-	-	-	-38429.282	-41103.908	89.945
SBL 1	12	-	礫	-	砂岩	26.0	-	-	5.9	○	-	礫04	-	-38429.343	-41103.682	89.840
SBL 1	13	-	礫	-	砂岩	79.0	-	-	133.0	○	-	-	-	-38429.396	-41103.655	89.724
SBL 1	14	-	礫	-	砂岩	64.0	-	-	23.9	○	-	礫02	-	-38429.506	-41103.739	89.885
SBL 1	16	-	礫	-	ホルンフェルス	55.0	-	-	67.1	×	-	-	-	-38429.671	-41103.909	89.876
SBL 1	17	-	礫	-	砂岩	34.0	-	-	18.4	○	-	礫04	-	-38429.605	-41103.928	89.821
SBL 1	19	-	礫	-	砂岩	25.0	-	-	2.2	○	-	礫04	-	-38429.793	-41103.993	89.865
SBL 1	20	-	礫	-	砂岩	41.0	-	-	4.4	○	-	礫02	-	-38430.136	-41104.632	89.940
SBL 1	21	-	礫	-	砂岩	50.0	-	-	43.7	○	-	礫01	-	-38430.287	-41104.444	89.992
SBL 1	22	-	礫	-	砂岩	47.0	-	-	41.4	○	-	礫03	-	-38429.952	-41104.228	89.992
SBL 1	23	-	礫	-	砂岩	31.0	-	-	4.5	×	-	礫09	-	-38430.218	-41104.066	89.929
SBL 1	24	-	礫	-	砂岩	6.0	-	-	86.0	○	-	礫03	-	-38430.263	-41103.684	89.693
SBL 1	25	-	礫	-	砂岩	58.0	-	-	21.3	×	-	礫08	-	-38430.229	-41103.378	89.914
SBL 1	27	-	礫	-	砂岩	45.0	-	-	22.8	×	-	礫10	-	-38429.921	-41103.667	89.815
SBL 1	28	-	礫	-	砂岩	15.0	-	-	1.1	×	-	-	-	-38429.805	-41103.624	90.045
SBL 1	29	-	礫	-	砂岩	61.0	-	-	61.1	○	-	礫01	-	-38429.664	-41103.522	89.839
SBL 1	30	-	礫	-	砂岩	51.0	-	-	16.7	×	-	礫09	-	-38429.660	-41103.407	90.051
SBL 1	31	-	礫	-	砂岩	25.0	-	-	3.6	×	-	-	-	-38430.020	-41102.935	89.844
SBL 1	32	-	礫	-	砂岩	41.0	-	-	48.2	○	-	礫07	-	-38429.527	-41103.035	89.809
SBL 1	33	-	礫	-	砂岩	46.0	-	-	25.7	×	-	礫08	-	-38432.550	-41105.351	89.860
SBL 1	34	-	二次加工剝片	完形	細粒緻密凝灰岩	53.3	38.1	13.2	32.9	×	転覆面	-	-	-38428.831	-41104.201	89.838
SBL 1	39	-	細石刃	中間部	黒曜石	7.3	2.2	0.6	0.1	×	-	-	-	-38429.013	-41104.425	89.863
SBL 1	43	-	剝片	略完形	黒曜石	9.1	9.8	1.7	0.1	×	-	-	-	-38430.384	-41104.426	89.944
SBL 1	44	-	細石刃	打面側欠損	黒曜石	7.1	4.8	1.2	0.1	×	-	-	-	-38430.647	-41104.412	89.876
SBL 1	47	-	細石刃	打面側欠損	黒曜石	9.5	3.7	1.1	0.1	×	-	-	-	-38431.024	-41104.236	89.845
SBL 1	49	-	細石刃	打面側欠損	黒曜石	11.7	4.0	1.0	0.1	×	-	-	-	-38430.266	-41103.933	89.879
SBL 1	50	-	細石刃	略完形	黒曜石	7.6	3.9	0.8	0.1	×	-	-	-	-38430.157	-41103.753	89.840
SBL 1	53	-	細石刃	末端側欠損	黒曜石	6.3	3.8	0.8	0.1	×	-	-	-	-38430.202	-41103.196	89.881
SBL 1	54	-	剝片	上下欠	黒曜石	9.3	6.4	1.4	0.1	×	-	-	-	-38430.099	-41102.947	89.821
SBL 1	56	-	細石刃	中間部	黒曜石	10.9	4.5	1.3	0.1	×	岩肩・角縫面	-	-	-38429.844	-41103.091	89.952
SBL 1	61	-	細石刃	略完形	黒曜石	4.0	1.8	0.3	0.1	×	-	-	-	-38429.673	-41103.467	89.986
SBL 1	62	-	剝片	完形	黒曜石	7.2	6.6	0.9	0.1	×	-	-	-	-38429.578	-41103.674	89.823
SBL 1	63	-	剝片	完形	黒曜石	6.5	6.0	1.0	0.1	×	-	-	-	-38429.342	-41103.409	89.838
SBL 1	68	-	礫	-	砂岩	22.0	-	-	1.0	×	-	-	-	-38430.359	-41105.424	89.865
SBL 1	69	-	礫	-	砂岩	18.0	-	-	1.1	×	-	-	-	-38431.420	-41105.328	89.987
SBL 1	70	-	礫	-	砂岩	20.0	-	-	0.4	×	-	-	-	-38429.785	-41103.700	89.910
SBL 1	71	-	礫	-	砂岩	29.0	-	-	4.0	×	-	礫08	-	-38430.219	-41106.266	89.935
SBL 1	72	-	礫	-	チャート	27.0	-	-	3.2	×	-	-	-	-38429.413	-41105.795	89.974
SBL 1	73	-	剝片	完形	ホルンフェルス	11.5	19.7	4.9	0.9	×	-	-	-	-38429.091	-41105.533	89.931
SBL 1	74	-	剝片	完形	砂岩	22.0	19.9	4.0	1.3	○	-	-	-	-38430.806	-41104.422	89.936
SBL 1	75	-	礫	-	砂岩	26.0	-	-	2.7	×	-	礫16	-	-38430.373	-41103.832	89.888
SBL 1	76	-	礫	-	砂岩	14.0	-	-	0.3	×	-	-	-	-38430.616	-41103.420	89.984
SBL 1	77	-	礫	-	砂岩	16.0	-	-	1.8	×	-	-	-	-38430.683	-41103.162	89.883
SBL 1	78	-	礫	-	砂岩	25.0	-	-	1.8	×	-	-	-	-38430.691	-41102.904	89.889
SBL 1	79	-	礫	-	砂岩	18.0	-	-	0.8	×	-	-	-	-38430.311	-41102.828	89.991
SBL 1	80	-	礫	-	砂岩	16.0	-	-	0.3	○	-	-	-	-38428.993	-41103.301	89.897
SBL 1	81	-	礫	-	砂岩	44.0	-	-	6.1	○	-	礫02	-	-38429.336	-41103.002	89.926
SBL 1	82	-	礫	-	砂岩	22.0	-	-	3.2	○	-	礫03	-	-38429.892	-41104.326	89.829
SBL 1	83	-	礫	-	砂岩	53.0	-	-	12.6	○	-	礫07	-	-38429.280	-41104.221	90.044
SBL 1	84	-	礫	-	砂岩	35.0	-	-	6.6	×	-	礫09	-	-38428.677	-41104.711	90.057
SBL 1	85	-	礫	-	砂岩	38.0	-	-	31.3	○	-	礫01	-	-38428.468	-41105.357	90.029
SBL 1	86	-	礫	-	砂岩	56.0	-	-	28.1	×	-	礫08	-	-38429.068	-41103.215	89.898
SBL 1	87	-	礫	-	砂岩	56.0	-	-	5.4	×	-	礫09	-	-38429.032	-41103.070	89.918
SBL 1	88	-	礫	-	砂岩	35.0	-	-	12.3	○	-	礫03	-	-38428.346	-41103.671	89.867
SBL 1	89	-	細石刃	末端側欠損	黒曜石	7.0	4.8	1.4	0.1	×	-	-	-	-38429.969	-41104.803	89.811
SBL 1	90	-	礫	-	砂岩	45.0	-	-	29.5	×	-	礫09	-	-38430.513	-41103.911	89.839
SBL 1	91	-	礫	-	砂岩	53.0	-	-	31.4	×	-	礫09	-	-38430.936	-41103.465	89.977
SBL 1	92	-	礫	-	砂岩	28.0	-	-	8.2	○	-	礫03	-	-38430.953	-41103.554	89.904
SBL 1	93	-	礫	-	砂岩	31.0	-	-	12.1	○	-	礫04	-	-38431.554	-41103.257	89.817
SBL 1	94	-	礫	-	砂岩	25.0	-	-	3.7	○	-	礫07	-	-38431.626	-41103.684	89.798
SBL 1	95	-	礫	-	砂岩	38.0	-	-	12.5	○	-	礫13	-	-38430.618	-41104.896	89.839
SBL 1	98	-	剝片	上欠	黒曜石	5.3	3.8	0.9	0.1	×	-	-	-	-38429.658	-41103.454	89.813
SBL 1	99	-	剝片	下欠	黒曜石	5.5	2.5	0.5	0.1	×	-	-	-	-38429.220	-41103.078	89.807
SBL 1	100	-	剝片	完形	黒曜石	16.0	-	-	1.0	×	-	礫11	-	-38429.765	-41102.972	89.804
SBL 1	101	-	剝片	完形	黒曜石	5.8	6.6	0.9	0.1	×	-	-	-	-38429.205	-41103.093	89.817
SBL 1	102	-	剝片	下欠	黒曜石	7.7	4.4	1.0	0.1	×	-	-	-	-38428.982	-41105.356	89.832
SBL 1	103	-	礫	-	砂岩	56.0	-	-	55.7	○	-	礫02	-	-38428.519	-41102.621	89.813
SBL 1	105															

第4表 SBL1 出土遺物観察表(3)

遺構名	遺物番号	捕囲番号	種類・器種	遺存状態	石材	最大長(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	被熱	自然面	接合	備考	X	Y	Z	
SBL 1	109	-	礫	-	砂岩	6.3	3.6	1.3	0.1	×	-	-	-	-38429.702	-41103.540	89.811	
SBL 1	110	-	細石刃	末端側欠損	黒曜石	10.5	4.2	0.9	0.1	×	-	-	-	-38432.116	-41105.660	89.818	
SBL 1	112	-	剝片	下欠	黒曜石	4.4	4.3	0.8	0.0	×	-	-	-	-38429.426	-41103.343	89.779	
SBL 1	113	-	剝片	左欠	黒曜石	5.2	3.1	0.9	0.0	×	-	-	-	-38429.305	-41103.043	89.790	
SBL 1	114	-	剝片	完形	黒曜石	3.2	2.2	0.4	0.0	×	-	-	-	-38428.571	-41103.266	89.817	
SBL 1	115	-	細石刃	末端側欠損	黒曜石	8.0	3.8	0.4	0.0	×	-	-	-	-38428.557	-41103.855	89.820	
SBL 1	117	-	礫	-	砂岩	25.0	5.5	1.5	1.1	×	-	-	-	-38428.590	-41105.079	89.811	
SBL 1	121	-	礫	-	砂岩	21.0	-	-	0.4	×	-	-	-	-38430.930	-41104.485	89.776	
SBL 1	122	-	礫	-	砂岩	19.0	-	-	0.7	×	-	-	-	-38431.201	-41104.586	89.799	
SBL 1	123	-	剝片	略完形	ガラス質黒色安山岩	22.7	22.6	4.0	2.6	×	転覆面	-	-	-38431.523	-41104.530	89.763	
SBL 1	129	-	剝片	下欠	黒曜石	2.7	3.0	0.7	-	×	-	-	重量計測不可	-38430.686	-41104.397	89.683	
SBL 1	132	-	剝片	下欠	黒曜石	4.1	5.0	1.5	0.0	×	-	-	-	-38430.015	-41104.019	89.720	
SBL 1	133	-	剝片	上欠	黒曜石	3.9	2.0	0.3	-	×	-	-	重量計測不可	-38430.313	-41103.951	89.775	
SBL 1	134	-	礫	-	砂岩	16.5	10.5	3.4	0.5	×	-	-	-	-38429.732	-41103.946	89.705	
SBL 1	135	-	剝片	右欠	黒曜石	5.8	4.5	0.9	0.0	×	-	-	-	-38429.860	-41103.830	89.722	
SBL 1	136	-	剝片	下欠	黒曜石	3.7	4.2	0.8	0.0	×	-	-	-	-38429.310	-41104.335	89.717	
SBL 1	137	-	剝片	完形	黒曜石	4.8	6.2	0.7	0.0	×	-	-	-	-38429.253	-41103.158	89.722	
SBL 1	138	-	剝片	下欠	黒曜石	4.6	4.7	1.0	0.0	×	-	-	-	-38429.214	-41103.885	89.716	
SBL 1	139	-	剝片	下欠	黒曜石	5.6	3.0	0.7	0.0	×	-	-	-	-38429.141	-41103.768	89.773	
SBL 1	140	-	剝片	下欠	黒曜石	9.2	6.5	0.6	0.0	×	-	-	-	-38429.317	-41103.448	89.733	
SBL 1	141	-	剝片	完形	黒曜石	11.6	6.5	1.4	0.1	×	岩屑・角礫面	-	-	-38429.205	-41103.346	89.757	
SBL 1	142	-	細石刃	中間部	黒曜石	9.3	3.8	0.5	0.1	×	-	-	微小剝離痕跡	-38429.253	-41104.138	89.716	
SBL 1	143	-	剝片	完形	黒曜石	10.2	10.3	2.7	0.3	×	-	-	-	-38429.294	-41102.899	89.786	
SBL 1	144	-	剝片	完形	黒曜石	11.2	4.8	1.9	0.1	×	-	-	-	-38429.545	-41103.059	89.732	
SBL 1	145	-	剝片	左欠	黒曜石	7.6	6.5	1.7	0.1	×	-	-	-	-38428.808	-41102.775	89.806	
SBL 1	146	-	剝片	完形	黒曜石	7.4	2.3	0.3	-	×	-	-	重量計測不可	-38429.424	-41103.033	89.705	
SBL 1	147	-	礫	-	砂岩	13.1	8.3	1.3	0.1	×	-	-	-	-38430.015	-41102.652	89.743	
SBL 1	149	-	剝片	不明	黒曜石	2.1	0.9	0.6	-	×	-	-	重量計測不可	-38430.231	-41102.628	89.787	
SBL 1	150	-	剝片	上欠	黒曜石	6.6	2.1	1.5	0.0	×	-	-	-	-38430.860	-41103.343	89.772	
SBL 1	153	-	剝片	完形	黒曜石	9.0	7.7	2.3	0.1	×	-	-	-	-38430.327	-41103.301	89.745	
SBL 1	154	-	剝片	下欠	黒曜石	4.5	3.8	0.8	0.0	×	-	-	-	-38430.296	-41103.266	89.729	
SBL 1	155	-	剝片	完形	黒曜石	9.2	5.3	1.8	0.1	×	-	-	-	-38430.151	-41103.196	89.701	
SBL 1	157	-	礫	-	砂岩	10.3	6.2	1.8	0.1	×	-	-	-	-38429.845	-41103.176	89.756	
SBL 1	158	-	剝片	上欠	黒曜石	6.5	5.6	2.3	0.1	×	岩屑・角礫面	-	-	-	-38429.726	-41103.395	89.731
SBL 1	160	-	剝片	略完形	黒曜石	12.0	10.0	1.0	0.1	×	-	-	-	-38429.852	-41103.704	89.796	
SBL 1	164	-	細石刃	中間部	黒曜石	12.5	4.0	0.5	0.1	×	-	-	-	-38429.561	-41103.684	89.757	
SBL 1	169	-	剝片	完形	黒曜石	11.7	14.3	3.7	0.5	×	-	-	-	-38428.924	-41102.153	89.767	
SBL 1	171	-	剝片	上・左欠	黒曜石	10.0	6.6	0.6	0.1	×	-	-	-	-38428.397	-41103.849	89.776	
SBL 1	172	-	細石刃	略完形	黒曜石	7.2	4.0	1.1	0.1	×	-	-	-	-38428.980	-41104.169	89.709	
SBL 1	173	-	細石刃	末端側欠損	黒曜石	7.8	5.3	0.9	0.1	×	-	-	-	-38428.645	-41104.472	89.712	
SBL 1	174	-	細石刃	打面側欠損	黒曜石	8.1	4.6	1.3	0.1	×	-	-	微小剝離痕跡	-38428.588	-41104.478	89.704	
SBL 1	176	-	剝片	完形	黒曜石	9.3	8.1	2.1	0.1	×	-	-	-	-38429.919	-41104.454	89.770	
SBL 1	178	-	礫	-	軽石	24.0	-	-	1.5	×	-	-	-	-38429.114	-41103.606	89.776	
SBL 1	179	-	礫	-	砂岩	23.0	-	-	0.8	×	-	-	-	-38429.251	-41104.001	89.777	
SBL 1	180	-	礫	-	砂岩	16.0	-	-	0.2	×	-	-	-	-38429.823	-41104.062	89.744	
SBL 1	181	-	礫	-	砂岩	36.0	-	-	3.0	○	-	礫09	-	-38428.802	-41104.128	89.794	
SBL 1	182	-	礫	-	砂岩	14.0	-	-	0.8	×	-	-	-	-38428.600	-41104.029	89.719	
SBL 1	183	-	礫	-	ホルンフェルス	13.0	-	-	0.5	×	-	-	-	-38428.406	-41103.439	89.747	
SBL 1	184	-	剝片	上欠	ガラス質黒色安山岩	19.1	9.3	3.0	0.6	×	転覆面	-	-	-38428.178	-41103.466	89.754	
SBL 1	185	-	礫	-	砂岩	7.0	-	-	0.2	×	-	-	-	-38429.500	-41102.852	89.787	
SBL 1	186	-	礫	-	砂岩	21.0	-	-	0.9	×	-	-	-	-38429.727	-41103.010	89.786	
SBL 1	187	-	礫	-	砂岩	10.0	-	-	0.2	×	-	-	-	-38429.814	-41102.873	89.786	
SBL 1	188	-	礫	-	砂岩	20.0	-	-	0.6	×	-	-	-	-38430.167	-41102.656	89.800	
SBL 1	189	-	礫	-	砂岩	7.0	-	-	0.2	×	-	-	-	-38430.420	-41102.177	89.826	
SBL 1	190	-	礫	-	砂岩	19.0	-	-	0.9	×	-	-	-	-38430.598	-41102.758	89.800	
SBL 1	191	-	礫	-	砂岩	27.0	-	-	3.6	×	-	-	-	-38430.756	-41103.108	89.773	
SBL 1	192	-	礫	-	砂岩	19.0	-	-	0.7	×	-	-	礫16	-38430.502	-41103.125	89.792	
SBL 1	194	-	礫	-	砂岩	25.0	-	-	2.1	×	-	-	-	-38430.463	-41104.142	89.746	
SBL 1	195	-	礫	-	砂岩	21.0	-	-	1.9	○	-	礫13	-	-38431.086	-41105.468	89.790	
SBL 1	196	-	礫	-	緑色片岩	19.0	-	-	1.4	×	-	-	-	-38432.479	-41105.615	89.760	
SBL 1	197	-	剝片	略完形	黒曜石	3.4	3.5	0.3	-	×	-	-	-	-38429.722	-41104.213	89.669	
SBL 1	198	-	礫	-	砂岩	109.0	-	-	534.0	×	-	礫10	-	-38429.976	-41103.494	89.683	
SBL 1	202	-	礫	-	砂岩	30.0	-	-	125.0	○	-	礫02	-	-38431.517	-41103.854	89.701	
SBL 1	203	-	剝片	完形	ホルンフェルス	19.0	9.1	3.0	0.4	×	-	-	-	-38430.824	-41104.076	89.706	
SBL 1	204	-	礫	-	砂岩	24.0	-	-	8.9	○	-	礫04	-	-38430.306	-41103.440	89.705	
SBL 1	205	-	礫	-	砂岩	25.0	-	-	6.1	○	-	礫03	-	-38430.544	-41103.844	89.695	
SBL 1	206	-	礫	-	砂岩	18.0	-	-	0.7	×	-	-	-	-38430.271	-41103.911	89.705	
SBL 1	207	-	礫	-	砂岩	12.0	-	-	0.9	×	-	-	-	-38430.054	-41103.742	89.719	
SBL 1	208	-	礫	-	砂岩	34.0	-	-	17.0	○	-	礫03	-	-38430.243	-41104.324	89.657	
SBL 1	209	-	礫	-	砂岩	19.0	-	-	3.1	○	-	礫15	-	-38429.447	-41103.908	89.706	
SBL 1	210	-	礫	-	ホルンフェルス	26.0	-	-	4.4	×	-	-	-	-38429.250	-41103.747	89.802	
SBL 1	211	-	礫	-	ホルンフェルス	16.0	-	-	0.1	×	-	-	-	-38429.284	-41103.641	89.700	
SBL 1	212	-	礫	-	砂岩	34.0	-	-	3.6	×	-	礫09	-	-38429.096	-41103.771	89.742	
SBL 1	213	-	礫	-	砂岩	20.0	-	-	2.2	×	-	-	-	-38429.050	-41103.752	89.714	
SBL 1	214	-	礫	-	砂岩	27.0	-	-	4.1	×	-	礫09	-	-38429.690	-41102.779	89.707	
SBL 1	215	-	礫	-	砂岩	21.0	-	-	1.5	×	-	礫01	-	-38429.727	-41103.328	89.703	
SBL 1	216	-	礫	-	砂岩	55.0	-	-	37.6	○	-	礫02	-	-38429.104	-41103.199	89.686	
SBL 1	217	-	礫	-	砂岩	32.0	-										

第4表 SBL1 出土遺物観察表(4)

遺構名	遺物番号	捕回番号	種類・器種	遺存状態	石材	最大長(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	被熱	自然面	接合	備考	X	Y	Z
SBL 1	223	-	礫	-	砂岩	31.0	-	-	3.1	○	-	礫15	-38427.729	-41103.918	89.735	
SBL 1	224	-	礫	-	砂岩	41.0	-	-	28.9	○	-	礫03	-38430.395	-41103.569	89.657	
SBL 1	225	-	礫	-	砂岩	17.0	-	-	0.4	×	-	-	-38430.486	-41103.632	89.663	
SBL 1	226	-	礫	-	砂岩	67.0	-	-	147.4	○	-	礫03	-38430.130	-41104.367	89.636	
SBL 1	227	-	礫	-	砂岩	44.0	-	-	27.2	○	-	礫04	-38430.263	-41103.507	89.883	
SBL 1	228	-	礫	-	砂岩	113.0	-	-	759.0	×	-	礫01	-38430.164	-41103.375	89.672	
SBL 1	229	-	礫	-	砂岩	66.0	-	-	107.6	×	-	礫09	-38429.956	-41103.304	89.743	
SBL 1	230	-	礫	-	砂岩	83.0	-	-	216.0	○	-	礫07	-38429.932	-41104.408	89.674	
SBL 1	231	-	礫	-	砂岩	97.0	-	-	784.5	×	-	-	-38429.863	-41104.381	89.658	
SBL 1	232	-	礫	-	頁岩	5.7	-	-	36.0	○	-	礫05	-38429.667	-41104.259	89.728	
SBL 1	233	-	礫	-	砂岩	88.0	-	-	246.5	○	-	礫07	-38429.594	-41104.219	89.695	
SBL 1	234	-	礫	-	砂岩	108.0	-	-	46.0	×	-	-	-38429.845	-41103.942	89.677	
SBL 1	235	-	礫	-	頁岩	109.0	-	-	280.0	○	-	礫05	-38429.664	-41103.480	89.691	
SBL 1	236	-	礫	-	頁岩	127.0	-	-	530.5	○	-	礫05	-38429.599	-41103.650	89.703	
SBL 1	237	-	剥片	完形	砂岩	70.0	68.5	31.3	122.0	×	軋縫面	-	-38429.593	-41103.570	89.724	
SBL 1	238	-	礫	-	砂岩	95.0	-	-	223.5	○	-	礫09	-38429.316	-41103.801	89.719	
SBL 1	239	-	礫	-	砂岩	52.0	-	-	47.5	○	-	礫02	-38429.989	-41103.895	89.766	
SBL 1	240	-	礫	-	砂岩	72.0	-	-	203.5	○	-	礫06	-38429.884	-41103.656	89.702	
SBL 1	241	-	礫	-	砂岩	68.0	-	-	127.0	○	-	礫02	-38429.840	-41104.031	89.666	
SBL 1	242	-	礫	-	砂岩	62.0	-	-	29.5	○	-	礫02	-38429.798	-41103.440	89.744	
SBL 1	243	-	礫	-	砂岩	61.0	-	-	132.3	○	-	礫02	-38429.698	-41103.429	89.688	
SBL 1	244	-	礫	-	砂岩	95.0	-	-	238.0	○	-	礫06	-38429.575	-41103.371	89.709	
SBL 1	245	-	礫	-	砂岩	70.0	-	-	111.5	○	-	礫02	-38429.552	-41103.558	89.710	
SBL 1	246	-	礫	-	頁岩	55.0	-	-	74.5	○	-	礫05	-38429.675	-41103.664	89.705	
SBL 1	247	-	礫	-	砂岩	54.0	-	-	30.5	×	-	礫08	-38429.423	-41103.580	89.732	
SBL 1	248	-	礫	-	砂岩	18.0	-	-	0.6	×	-	礫14	-38429.396	-41103.666	90.004	
SBL 1	250	-	礫	-	砂岩	70.0	-	-	113.5	○	-	礫06	-38429.568	-41103.818	89.745	
SBL 1	251	-	礫	-	砂岩	42.0	-	-	36.6	○	-	礫03	-38429.481	-41103.989	89.727	
SBL 1	252	-	礫	-	頁岩	54.0	-	-	28.5	○	-	礫05	-38429.583	-41104.133	89.734	
SBL 1	254	-	礫	-	砂岩	49.0	-	-	29.4	○	-	礫03	-38429.720	-41104.899	89.746	
SBL 1	255	-	礫	-	砂岩	63.0	-	-	31.9	○	-	礫07	-38429.907	-41104.419	89.678	
SBL 1	256	-	礫	-	砂岩	62.0	-	-	88.5	○	-	-	-38429.579	-41103.598	89.662	
SBL 1	257	-	礫	-	砂岩	61.0	-	-	52.8	○	-	礫02	-38429.509	-41103.620	89.648	
SBL 1	258	-	礫	-	頁岩	82.0	-	-	81.3	○	-	礫05	-38429.569	-41103.839	89.721	
SBL 1	261	-	剥片	完形	黒曜石	8.4	7.8	2.7	0.1	×	岩肩・角縫面	-	-38429.719	-41104.388	89.667	
SBL 1	263	-	剥片	左欠	ホルンフェルス	9.4	8.8	2.9	0.2	×	-	-	-38429.981	-41104.245	89.659	
SBL 1	264	-	礫	-	砂岩	41.0	-	-	13.9	○	-	礫02	-38429.218	-41103.967	89.649	
SBL 1	265	-	礫	-	砂岩	31.0	-	-	5.9	×	-	-	-38429.329	-41103.165	89.659	
SBL 1	266	-	縫石刃	末端側欠	黒曜石	10.7	5.2	1.4	0.1	×	岩肩・角縫面	-	-38429.438	-41103.666	89.660	
SBL 1	267	-	剥片	完形	黒曜石	7.4	13.6	3.2	0.2	×	岩肩・角縫面	-	-38429.934	-41103.343	89.670	
SBL 1	270	-	剥片	完形	黒曜石	8.3	5.8	1.7	0.1	×	-	-	-38429.985	-41103.036	89.566	
SBL 1	271	-	礫	-	砂岩	42.0	-	-	9.6	○	-	礫02	-38429.740	-41103.322	89.562	
SBL 1	272	-	礫	-	礫岩	18.0	-	-	1.4	×	-	-	-38429.363	-41103.656	89.620	
SBL 1	273	-	礫	-	砂岩	21.0	-	-	1.0	×	-	-	-38430.930	-41103.433	89.575	
SBL 1	274	-	礫	-	砂岩	19.0	-	-	0.7	×	-	-	-38430.880	-41102.598	89.555	
SBL 1	275	-	礫	-	砂岩	31.0	-	-	4.0	×	-	礫11	-38430.518	-41103.927	89.656	
SBL 1	276	-	礫	-	砂岩	38.0	-	-	8.1	×	-	-	-38430.462	-41104.058	89.625	
SBL 1	278	-	礫	-	頁岩	22.0	-	-	1.9	×	-	-	-38429.074	-41105.189	89.616	
SBL 1	279	-	礫	-	砂岩	50.0	-	-	24.8	×	-	-	-38433.331	-41105.481	89.627	
SBL 1	280	-	礫	-	砂岩	33.0	-	-	13.0	×	-	-	-38433.312	-41106.188	89.610	
SBL 1	281	-	礫	-	砂岩	23.0	-	-	1.7	×	-	-	-38429.505	-41103.057	89.542	
SBL 1	282	-	剥片	完形	黒曜石	6.1	6.7	2.3	0.1	×	-	-	-38429.950	-41103.405	89.444	
SBL 1	284	-	剥片	下欠	黒曜石	5.4	3.1	0.4	-	×	-	-	-38429.632	-41103.436	89.438	
SBL 1	286	-	剥片	不明	黒曜石	3.0/1.5	2.1/1.2	1.5/0.4	0.0	×	-	碎片2点あり	-38430.671	-41107.634	89.837	
SBL 1	289	-	剥片	完形	ガラス質黑色安山岩	13.9	9.8	2.2	0.3	×	-	-	-38429.735	-41105.501	89.778	
SBL 1	290	-	礫	-	砂岩	143.0	-	-	1021.0	×	-	礫09	-38428.945	-41103.599	89.724	
SBL 1	291	-	礫	-	砂岩	146.0	-	-	963.0	×	-	礫11	-38428.891	-41103.486	89.725	
SBL 1	292	-	礫	-	砂岩	75.0	-	-	25.3	○	-	礫07	-38428.750	-41103.155	89.751	

第5表 石器接合表

石器接合番号*	捕回番号	接合式①(遺物番号)	接合式②	点数	重量(g)
1-4	第23回	48/41	1/2	2	0.2
1-8	第23回	(35+162)/51/10319/60	(1a+1b)/2/3/4	5	36.8
1-7	第23回	(125+168)/126/59	(1a+1b)/2/3	4	1.7
1-5	第23回	156/52	1/2	2	2.6
2-2	第24回	26・193/200	1・1'3	3	219.6
2-1	第24回	262/249	1/2	2	61.7
3-1	第24回	(15+67)/253	(1a+1b)/2	3	27.7
4-1	第24回	18/5	1/2	2	89.3
1-6	第23回	269/108	1/2	2	0.2
1-1	第21回27	131+163	1a+1b	2	0.12
1-2	第21回36	57+116	1a+1b	2	0.2
1-3	第21回42	128+287	1a+1b	2	0.2

*石器接合番号の冒頭の数字は石材を表す
1: 黒曜石、2: ホルンフェルス、3: ガラス質黑色安山岩、4: 細粒緑色凝灰岩

第6表 磯接合表

磯接合番号	石材	点数	重量(g)
1	砂岩	5	896.6
2	砂岩	14	664.3
3	砂岩	11	416.5
4	砂岩	7	76.6
5	頁岩	8	1035.3
6	砂岩	4	1020.0
7	砂岩	8	600.7
8	砂岩	8	525.3
9	砂岩	13	1712.4
10	砂岩	2	556.8
11	砂岩	3	968.0
12	砂岩	2	58.9
13	砂岩	2	14.4
14	砂岩	2	1.7
15	砂岩	2	6.2
16	砂岩	2	3.4
合計		93	8557.1



1. SBL1 全景(南南東から)



2. SBL1 遺物出土状況(南南東から)



3. SBL1 遺物出土状況(北北西から)



4. SBL1 遺物出土状況(北西から)



5. SBL1 遺物出土状況(南東から)



6. SBL1 炭化物出土状況(西南西から)



7. SBL1 遺物出土状況(南南東から)



8. SBL1 遺物出土状況(南東から)

第29図 SBL1写真(1)



1. SBL1 遺物出土状況 (西南西から)



2. SBL1 遺物出土状況 (北北西から)



3. SBL1 遺物出土状況 (南南東から)



4. SBL1 遺物出土状況 (南南東から)



5. SBL1 遺物出土状況 (南南東から)

第30図 SBL1写真(2)

2 縄文時代

縄文時代の遺構は、調査区内の各所において、竪穴状遺構1基、集石1基、礫集中1箇所、土坑8基、ピット2基を検出した。各遺構は、SK167・168が近接して構築されている以外は、調査区内に散在している状況である。

また遺物は、包含層内を中心に早期前半から後期前半にかけての土器、土製品（土製円板・土偶・土鈴）、石器（尖頭器、石鏃、石匙、剥片、二次加工剥片、石核、打製石斧、磨製石斧、磨石、石皿、敲石）、礫、炭化材が出土した。

1) 遺構

A 竪穴状遺構

1基が調査区北東の2-5区より検出された。遺構略号はSIである。

SI57（第32～35図）

33N-40・50、34N-31・41グリッドに位置する。2-5区内を南北に貫く現道（生活道路）下で、南東から北西に伸びる2本の攪乱により大きく破壊された状態で検出された。炉が確認されなかったことから、竪穴状遺構とした。

遺構 Ⅲ層を掘り込んで構築されている。東西にやや長く伸びる楕円形を呈し、壁は緩やかに開き気味に立ち上がる。規模は長軸（南西-北東）500cm、短軸（南東-北西）418cmである。

床面はローム層まで掘り込まれた後、Ⅲ2層土ベースの貼床土が薄く貼られている。比較的平坦で、中心部へ向けてやや窪んでいる。掘り方も平坦で、顕著な凹凸は見られない。

覆土は4層に分層され、1～3層は黒褐色土をベースとし、4層はロームをベースとする土壌で構成されている。なお、土層断面B-B'の観察から、遺構の上面がⅢ2層相当土で覆われていることが確認されている。

柱穴は、遺構の長軸に沿うように5基が検出された。このうちP1・3・4は床面にて検出されたが、P5については掘り方底面にて検出された。P2は攪乱底面での検出である。床面からの深さは、P1は69cm、P3は67cm、P4が48cmである。

各ピットとも2～5層に分層され、P3で柱痕跡が確認されている他、P5最下層の3層は黒褐色土がベースで、突き固められたように締まっている。

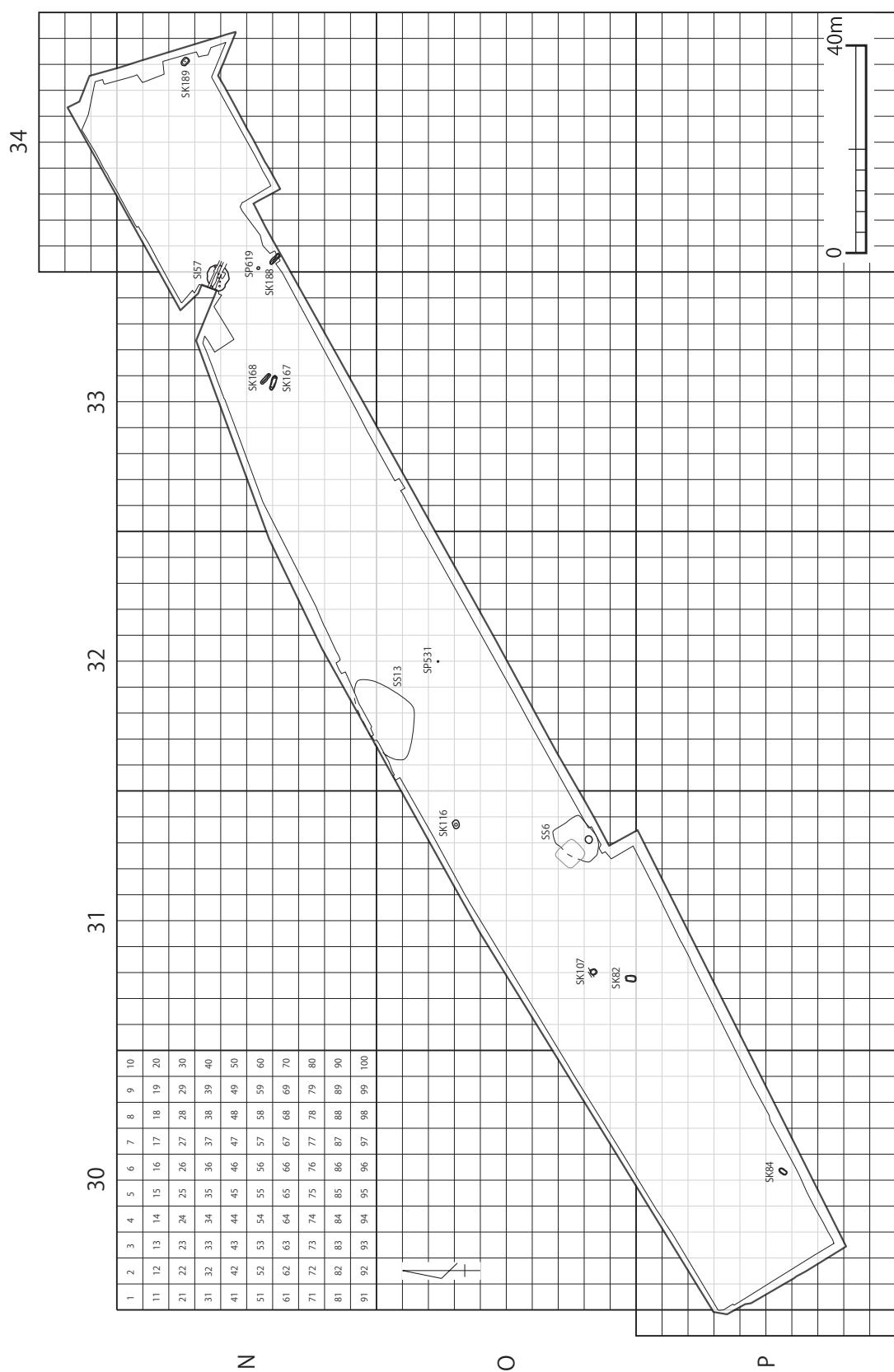
前述の通り、炉は検出されなかった。ただし、遺構中央部を埋設管関連の攪乱が貫通しており、本来存在していたものが破壊されてしまった可能性も否定できない。

遺物 遺物は土器18点、石器33点、礫24点の計75点が出土した。

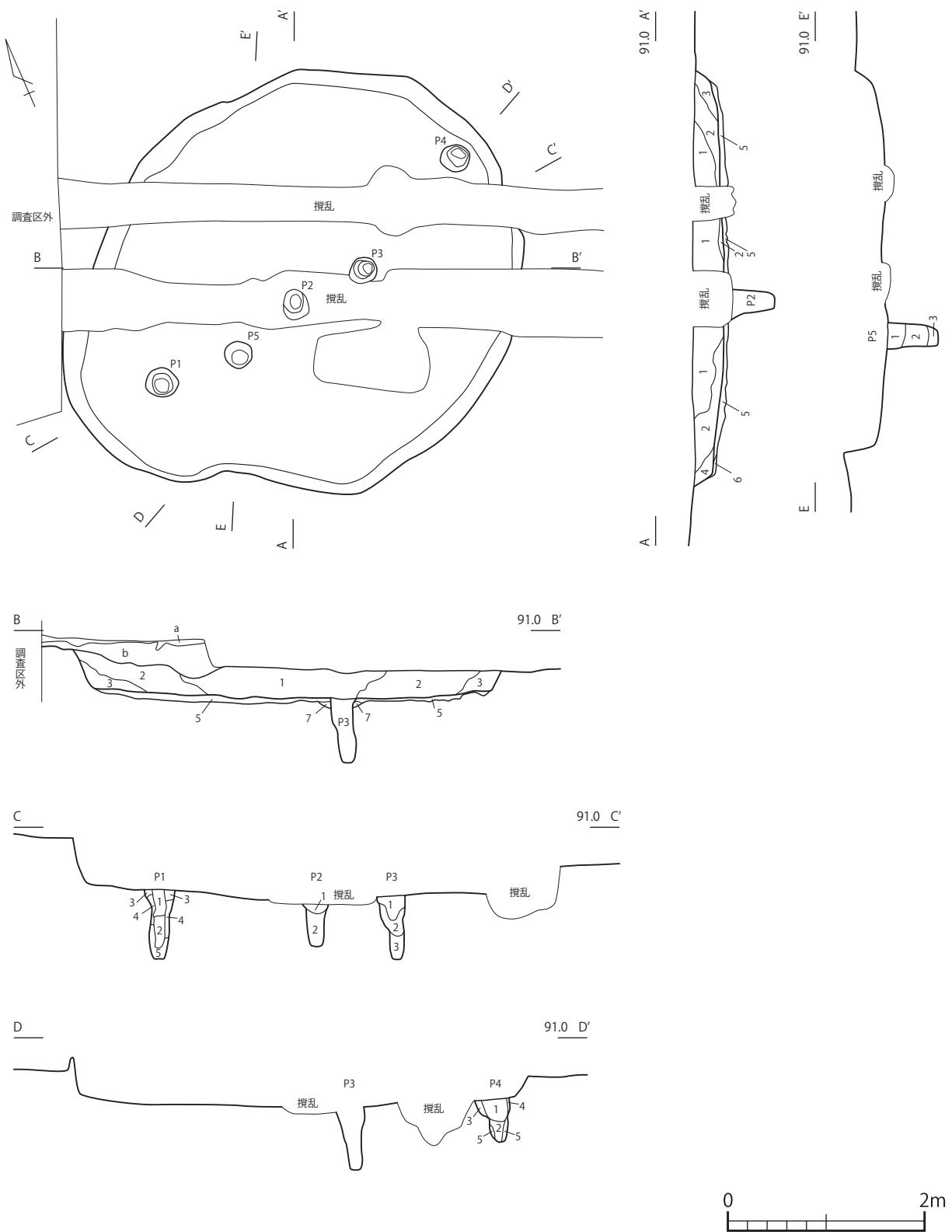
土器は18点が覆土内に散在する状態で出土した。その中で時期が判別できたものは9点で、勝坂式が口縁部や胴部片計7点、加曾利E式が胴部片2点である。いずれも小片のため、細別形式は判別できず、図示し得るものも無かった。

石器33点は全て剥片で、ホルンフェルス1点を除いて全て黒曜石である。黒曜石は、覆土の上～下層に散在しており、平面的には、比較的北部に纏まって検出される傾向にあった。SI57の近接地において行われた石器製作に伴い廃棄されたことが想定される。

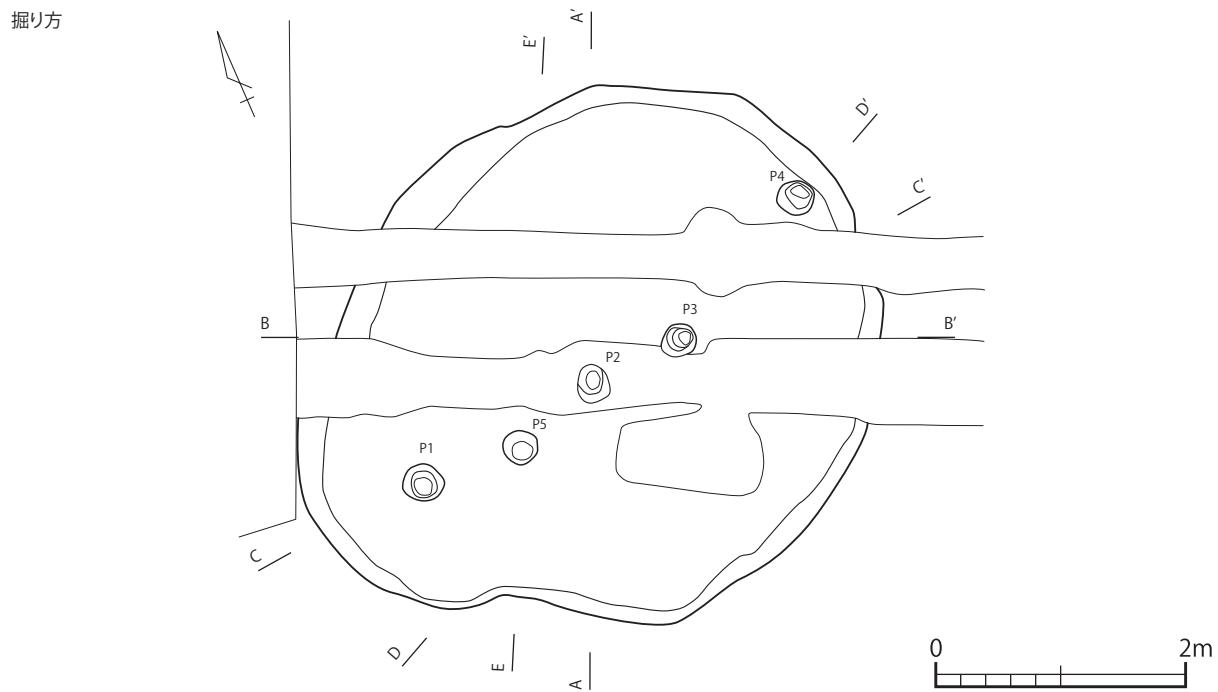
遺構の廃絶時期については、出土した土器片から縄文時代中期以前と考えられる。



第31図 繩文時代遺構分布図 (1/1,200)



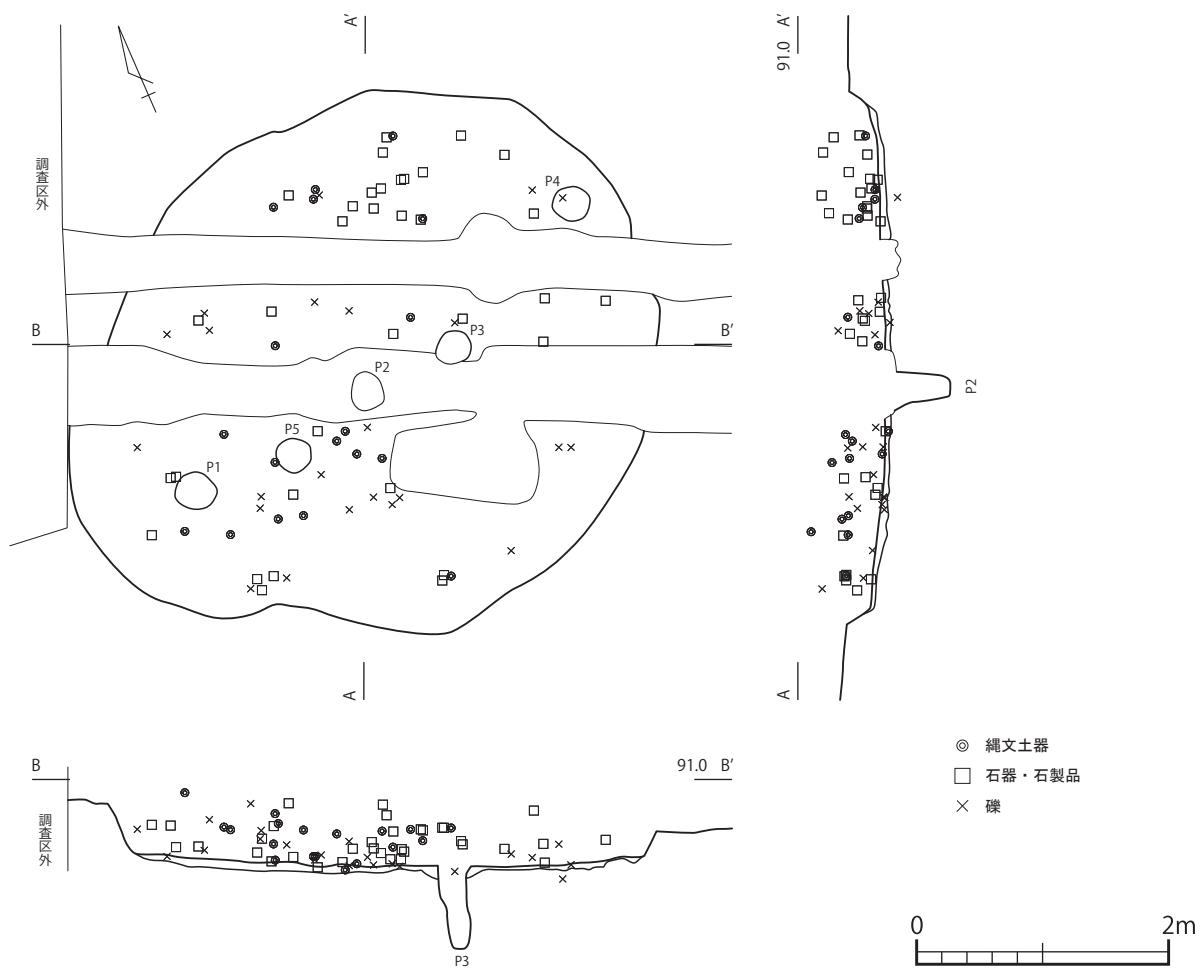
第32図 SI57(1)(1/60)



SI57

- a. 10YR2/1 黒褐色土層 表土
 b. 10YR2/1 黒褐色土層 III2層土
 1. 10YR2/2 黒褐色土層 直径3mm以下の橙色スコリア7%、黄褐色スコリア5%、ローム粒子5%、炭化物粒子3%を含む。締まり強、粘性やや強、粒子細かい。
 2. 10YR2/2 黒褐色土層 直径3mm以下の橙色スコリア7%、黄褐色スコリア5%、ローム粒子15%、直径2mm以下の炭化物粒子1%を含む。暗褐色土(10YR3/3)15%が斑状に混じる。締まり強、粘性有り、粒子細かい。3層よりも黄色味が強い。
 3. 10YR2/2 黒褐色土層 直径3mm以下の橙色スコリア5%、黄褐色スコリア3%、ローム粒子7%を含む。褐色土(10YR4/6)3%が斑状に混じる。締まり強、粘性やや強、粒子細かい。
 4. 10YR3.5/2 灰黄褐色土層 III層土をベースとし、直径4mm以下の赤褐色スコリア3%、ローム粒子3%、IV層土粒子30%を含む。締まり・粘性有り、粒子極めて細かい。自然堆積。
 5. 10YR3/2 黒褐色土層 貼床土。III2層土をベースとし、直径5mm以下の明赤褐色スコリア10%、ローム粒子15%、直径20mm以下のロームブロック5%を含む。締まりやや強、粘性やや弱、粒子細かい。
 6. 10YR3.5/2 灰黄褐色土層 貼床土。III2層土をベースとし、直径5mm以下の明赤褐色スコリア3%、ローム粒子30%を含む。締まり有り、粘性やや弱、粒子細かい。
 7. 10YR3/1.5 黒褐色土層 III2層土をベースとし、直径5mm以下の明赤褐色スコリア2%、ローム粒子15%、直径10mm以下のロームブロック3%を含む。締まり有り、粘性弱、粒子細かい。人為的堆積。
- P1
 1. 10YR3/1 黒褐色土層 直径3mm以下の赤褐色スコリア1%、ローム粒子7%、炭化物粒子1%未満を含む。締まり・粘性有り、粒子極めて細かい。柱痕跡。
 2. 10YR3/1 黒褐色土層 直径3mm以下の赤褐色スコリア1%、ローム粒子25%を含む。締まりやや弱、粘性強、粒子極めて細かい。柱痕跡。
 3. 10YR3/1.5 黒褐色土層 直径5mm以下の赤褐色スコリア3%、ローム粒子15%を含む。締まり強、粘性やや強、粒子細かい。人為的堆積。
 4. 10YR4.5/4 にぶい黄褐色土層 ローム粒子をベースとし、直径5mm以下の赤褐色スコリア2%、直径15mm以下のIII層土ブロック7%を含む。締まりやや強、粘性強、粒子極めて細かい。人為的堆積。
 5. 10YR4/2 灰黄褐色土層 直径5mm以下の赤褐色スコリア3%、ローム粒子20%、直径10mm以下のロームブロック5%を含む。締まり有り、粘性に富み、粒子極めて細かい。人為的堆積。
- P2
 1. 10YR3/1.5 黑褐色土層 直径10mm以下の赤褐色スコリア5%、ローム粒子15%、直径10mm以下のロームブロック2%を含む。締まり強、粘性有り、粒子細かい。
 2. 10YR3/2 黑褐色土層 直径3mm以下の赤褐色スコリア3%、ローム粒子30%、直径10mm以下のロームブロック5%を含む。締まりやや弱、粘性に富み、粒子極めて細かい。人為的堆積。
- P3
 1. 10YR3/2 黒褐色土層 直径3mm以下の赤褐色スコリア5%、ローム粒子10%を含む。締まり強、粘性有り、粒子細かい。
 2. 10YR4/2 黄褐色土層 直径3mm以下の赤褐色スコリア2%、ローム粒子30%、直径10mm以下のロームブロック5%を含む。締まり弱、粘性やや強、粒子極めて細かい。
 3. 10YR5/4 にぶい黄褐色土層 直径3mm以下の赤褐色スコリア3%、ローム粒子40%、直径10mm以下のロームブロック5%を含む。締まりに欠け、粘性に富み、粒子極めて細かい。人為的堆積。
- P4
 1. 10YR3/2 黒褐色土層 直径5mm以下の赤褐色スコリア3%、ローム粒子20%、直径10mm以下のロームブロック1%未満、炭化物粒子1%を含む。締まりやや強、粘性有り、粒子極めて細かい。人為的堆積。
 2. 10YR3/1 黑褐色土層 直径3mm以下の赤褐色スコリア2%、ローム粒子15%、直径5mm以下のロームブロック1%を含む。締まり・粘性有り、粒子極めて細かい。
 3. 10YR3/1.5 黑褐色土層 直径5mm以下の赤褐色スコリア3%、ローム粒子15%を含む。締まり強、粘性やや強、粒子細かい。人為的堆積。
 4. 10YR4/3 にぶい黄褐色土層 ローム粒子30%を含む。締まりやや強、粘性有り、粒子極めて細かい。人為的堆積。
 5. 10YR3.5/2 灰黄褐色土層 直径2mm以下の赤褐色スコリア1%、ローム粒子10%を含む。締まりやや強、粘性弱、粒子細かい。人為的堆積。
- P5
 1. 10YR2/2.5 黑褐色土層 III層土をベースとし、直径5mm以下の明赤褐色スコリア2%、ローム粒子10%、直径5mm以下のロームブロック3%を含む。締まり・粘性有り、粒子細かい。人為的堆積。
 2. 10YR2/2 黑褐色土層 直径2mm以下の赤褐色スコリア2%、ローム粒子15%、直径10mm以下のロームブロック2%を含む。締まりやや弱、粘性強、粒子極めて細かい。人為的堆積。
 3. 10YR3/2 黑褐色土層 III層土をベースとし、ローム粒子10%を含む。締まり強、粘性に富み、粒子極めて細かい。人為的堆積。突き固められたような感がある。締まり強、粘性に富む。粒子は極めて細かい。

第33図 SI57(2)(1/60)



第34図 SI57(3) 遺物分布図 (1/60)

B 集石・磁集中

広範囲に分布する磁と土坑状の下部施設が検出された「集石」1基と、磁が散漫に分布し、下部施設を伴わない「磁集中」が1箇所検出された。検出面はⅢ層上で、遺構略号はいずれもSSである。

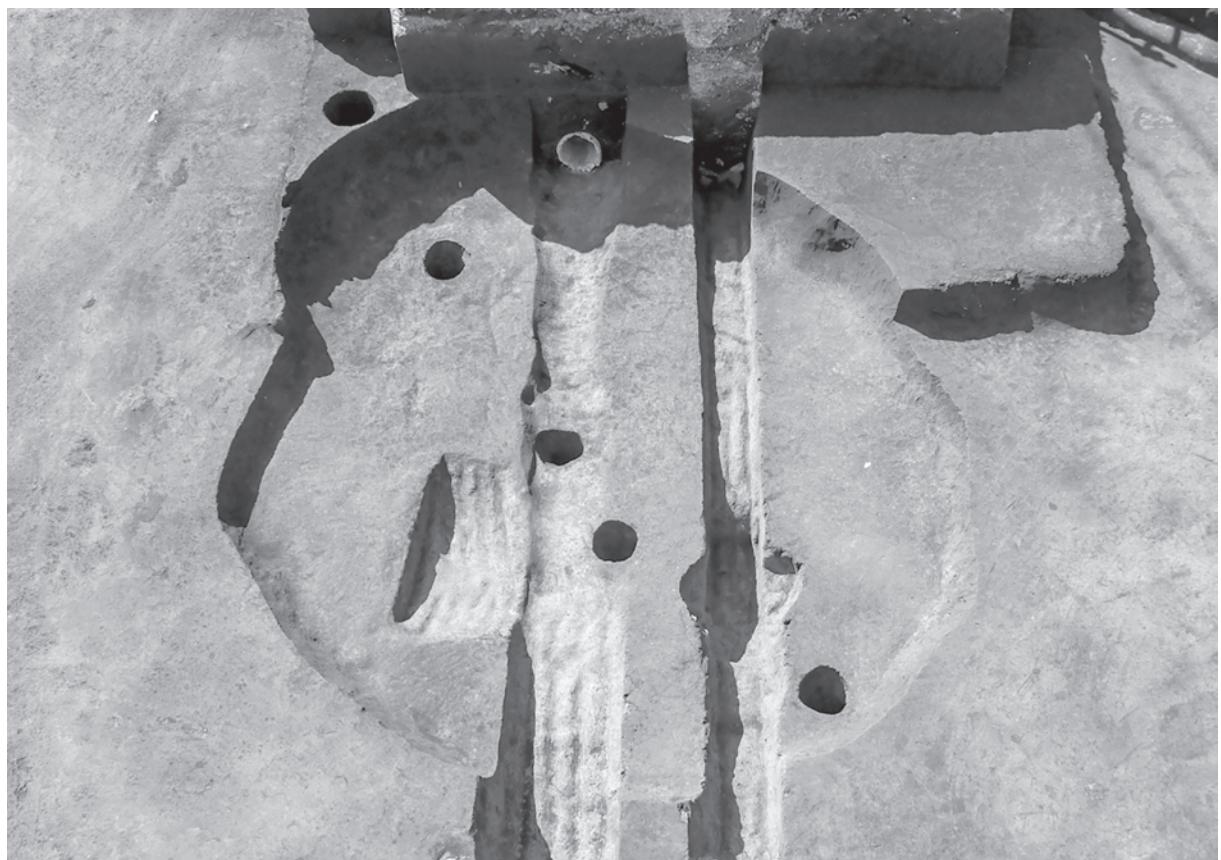
SS6 (第36～40図)

調査区中央やや南西寄りで検出された集石である。発掘調査当初は、検出順に西寄りをSS6、東寄りをSS7として別個の遺構としたが、調査の進行により、磁の分布が連続していることが明らかとなつたため、1基の遺構 (SS6) と判断して調査を継続した。

遺構 北西部分は弥生時代終末期の竪穴建物跡SI34により湮滅し、南東側は調査区外へと続いていると思われ、正確な範囲は不明である。検出された範囲での長軸は918cm、短軸819cmで、東西にやや広く磁が分布していた。その範囲内の南西部では掘り込みを伴う下部施設が検出された。

下部施設を除くと、磁は下部施設の北側と旧SS7とした南東寄りにやや集中するが、それ以外では散漫に分布している。

下部施設は、上面の平面形は円形を呈し、長軸144cm、短軸136cmを測る。断面形態は鍋底状を呈し、底部平坦面には、中心部に不整形な窪みを有する。深さは、窪み部分も含めて59cmである。



1. SI57 全景 (東南東から)



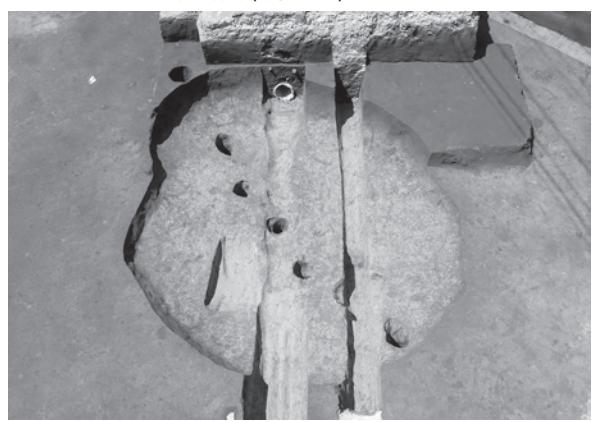
2. SI57 P1 土層断面 (南から)



3. SI57 P3 土層断面 (南から)



4. SI57 土層断面 B-B' (南南西から)



5. SI57 掘り方全景 (東南東から)

第 35 図 SI57 写真



第36図 SS6(1)(1/60)

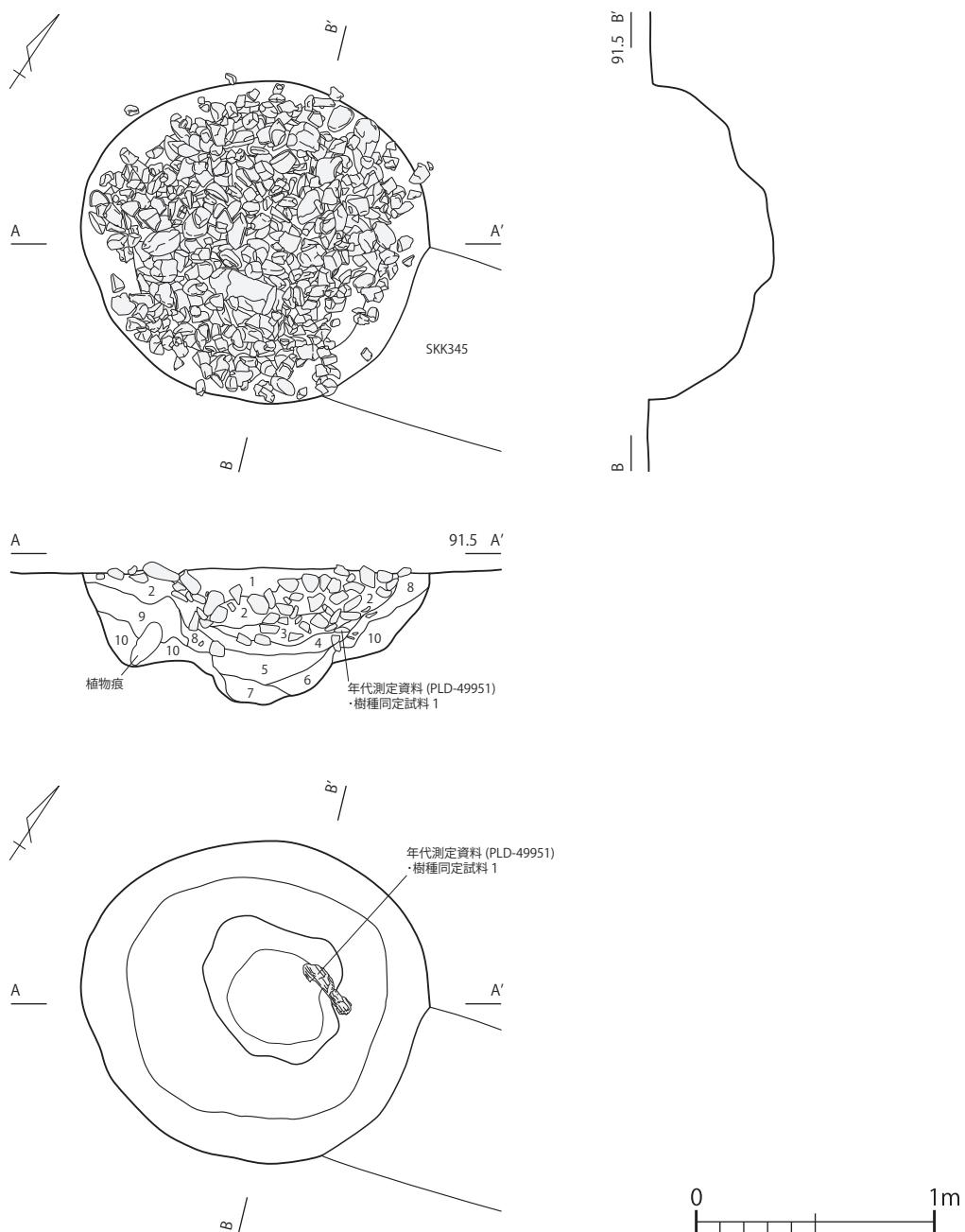
下部施設の覆土は10層からなり、礫は、概ね上部の1～3層で集中して検出されている。

また、下部施設からは礫の他に炭化したクリ材が1点検出されている。

遺物 遺物は、土器31点、土製品1点、石器13点、礫2,573点、炭化材1点である。

土器31点はいずれも口縁部や胴部の破片が中心である。形式の判明したものは前期後半の諸機式1点を除いては中期に帰属し、五領ヶ台2点、勝坂式6点、加曾利E式3点、曾利式4点で、その他は不明である。土製品1点は土製円盤である。出土状況は、遺構とした範囲内に散在する状況だが、東側にやや纏まっている傾向がある。

石器は剥片2点、打製石斧6点（うち未製品1点）、磨石2点、石皿1点、不明2点である。石器は、



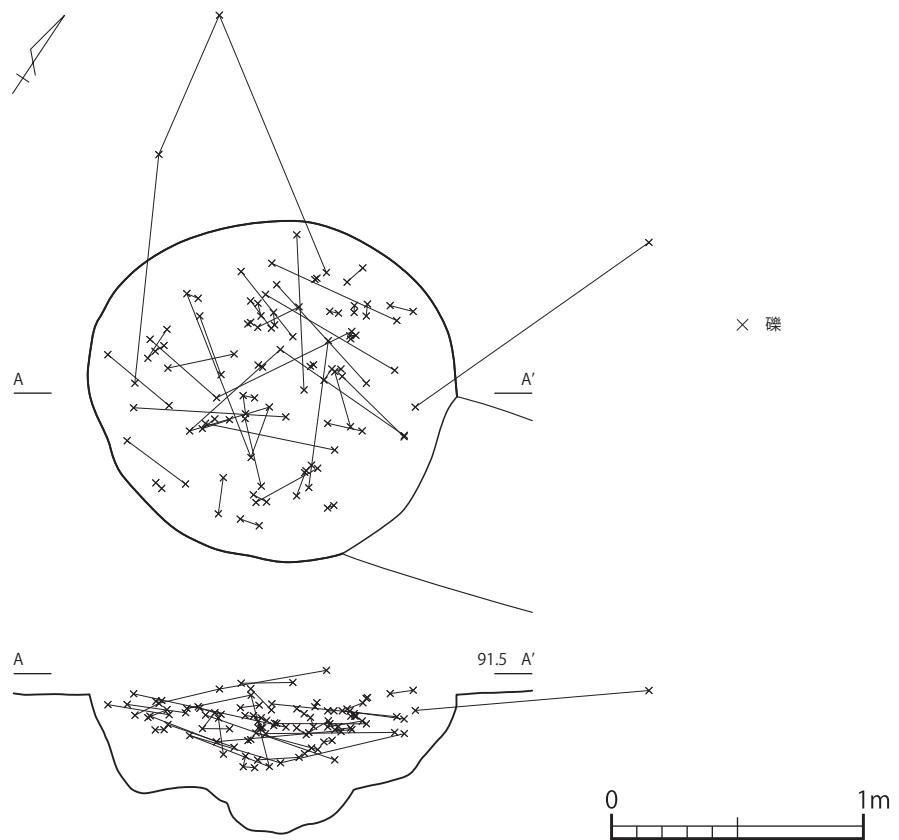
SS6

1. 7.5YR3/2 黒褐色土層 直径1mm程の明赤褐色スコリア(5YR5/8)5%、直径1mm程のにぶい黄褐色粒子(10YR6/3)5%を含む。礫をほとんど包含しない。締まり有り、粘性弱、粒子細かい。Ⅲ1層下部相当層。
2. 10YR2/1 黒色土層 直径1mm程の明赤褐色スコリア3%、直径1mm程のにぶい黄褐色粒子3%、ローム粒子2%を含む。礫主体。締まりやや弱、粘性弱、粒子細かい。Ⅲ1層下部相当層。
3. 10YR1.7/1 黒色土層 直径1mm程の明赤褐色スコリア1%を含む。礫を包含する。締まりやや弱く2層に劣る、粘性有り、粒子は2層より細かい。
4. 10YR1.7/1 黒色土層 3層より黒味があり、5層より灰色(青灰色)がかかっている。直径2mm以下の明赤褐色スコリア1%、炭化物粒子7%、長さ50mm以下の炭化材1%を含む。締まり・粘性有り、粒子極めて細かい。
5. 10YR1.7/1 黒色土層 直径2mm以下の明赤褐色スコリア2%、ローム粒子2%、炭化物粒子5%を含む。締まりは4層より有り、粘性やや強、粒子極めて細かく、カーボンの沈着が顕著。
6. 10YR3/1 黒褐色土層 ローム粒子7%を含む。締まりやや強で5層より強、粘性やや強、粒子極めて細かい。
7. 10YR4/2 灰黄褐色土層 ローム粒子20%を含む。締まりやや強で6層と同程度、粘性有り、粒子極めて細かい。人為的堆積の可能性有り。
8. 10YR2/1 黒色土層 ローム粒子1%、焼土粒子1%、炭化物粒子1%を含む。締まり・粘性有り、粒子細かい。
9. 10YR3/1 黒褐色土層 ローム粒子2%、焼土粒子1%未満、炭化物粒子2%を含む。締まりやや強、粘性有り、粒子は極めて細かい。
10. 10YR3/2 黒褐色土層 直径3mm以下の赤褐色スコリア(5YR4/8)2%、ローム粒子25%、炭化物粒子1%を含む。締まりやや強、粘性有り、粒子細かい。

第37図 SS6(2)(1/30)



第38図 SS6(3) 遺物接合図 (1/60)



第39図 SS6(4) 下部施設遺物接合図 (1/30)

主に下部施設内やその周辺で出土している。

これら出土遺物のうち、五領ヶ台式土器の底部（第52・58図21）と土製円盤（第57・63図5）及びホルンフェルス製の打製石斧2点（第65・72図22、第66・73図37）は別途図示した。

礫は2,573点を数えるが、うち大多数の2,489点（96.7%）が砂岩である、他にシルト岩21点、粘板岩18点、礫岩10点、チャート7点、ホルンフェルス7点、頁岩6点、中粒緑色凝灰岩6点、変質安山岩5点、珪質粘板岩1点、細粒緑色凝灰岩1点、閃綠岩1点、粗粒緑色凝灰岩1点となっている。いずれも、概ね遺跡近隣の浅川流域で採取できる石材の組成である。

また、礫のうち51.5%の1,323点が下部施設から検出されている。下部施設の礫は多くが被熱し、破碎されている。接合資料のうち大部分が下部施設内での接合であり、下部施設内で被熱し、割れたことが想定できる。

下部施設の炭化材はクリ材で、覆土中層から出土している。下部施設から出土した礫の多くが、この炭化材より上位で出土している。クリ材については、分析の結果、縄文時代中期前半に相当する曆年代範囲を示した（第V章第1節参照）。

当遺構の帰属時期は、出土土器片と炭化材の分析結果から、縄文時代中期前半と考えられる。

SS13（第41～42図）

調査区中央のやや北寄りで検出された。下部施設を有さず、礫が散漫に分布していることから礫集中とした。



1. SS6 全景(北北西から)



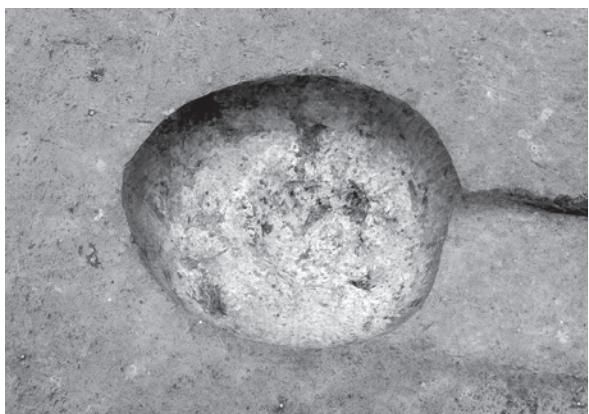
2. SS6 下部施設検出状況(南南東から)



3. SS6 下部施設土層断面(南南東から)

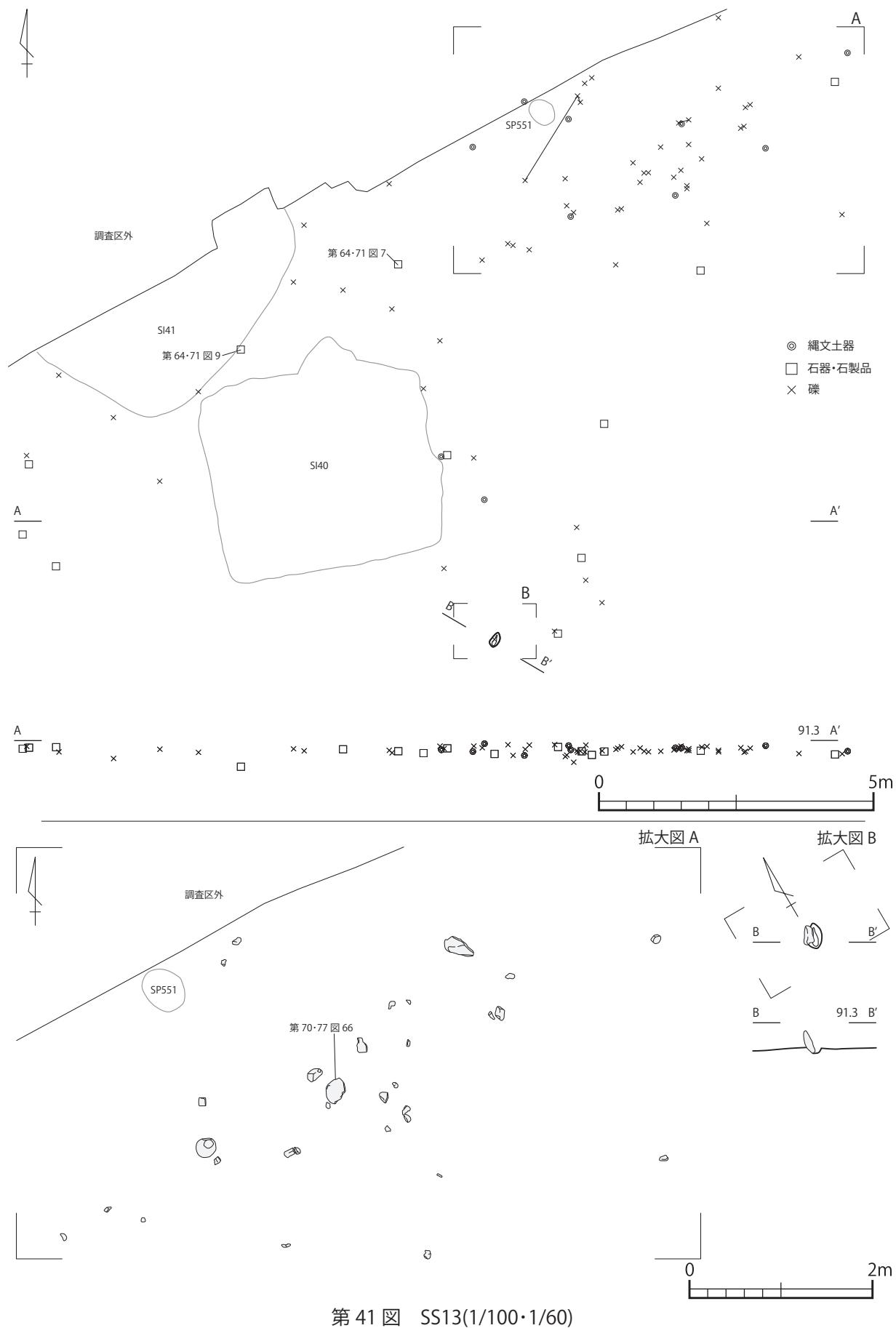


4. SS6 下部施設炭化材出土状況(南南東から)



5. SS6 下部施設全景(南南東から)

第40図 SS6写真





1. SS13 北東部全景 (南南東から)



2. SS13 全景 (東北東から)



3. SS13 磯出土状況 (南東から)



4. SS13 磯掘り方 (南東から)

第 42 図 SS13 写真

遺構 凡そ東西 1,750cm、南北 950cm の範囲に 77 点の遺物が散在していた。西側は竪穴建物跡 SI40 (古代) と SI41 (弥生時代終末期) により湮滅し、北側は調査区外へと続いている。検出面はⅢ層上である。SS6 と比較すると遺物の密度は薄いが、北東側に比較的分布の纏まった範囲があり、石皿や大型の礫も検出された。

また、検出範囲の南端部では、立石状の礫が検出された。礫は重さ 4,156g の粗粒緑色凝灰岩で、煤が付着していた。礫に伴う明確な掘り込みは検出されず、ピット等に埋設されたものか、立石状に立てられていたかは不明である。

遺物 総数 77 点で、内訳は土器 10 点、石器 14 点、礫 53 点である。

土器は勝坂式 2 点、加曾利 E 式 2 点、曾利式 1 点、連弧文 3 点、不明 2 点の 10 点である。いずれも胴部の小片で、細別分類は確認できなかった。

石器は 14 点で、石鏃 3 点、石核 2 点、剥片 2 点、打製石斧 1 点、磨石 1 点、石皿が 5 点である。石鏃 1 点を除いてはいずれも割れており、うち 8 点は被熱していた。このうち石鏃 2 点(第 64・71 図 7・9) と石皿 1 点を図示した(第 70・77 図 66)。

礫は 53 点で、うち 30 点が被熱していたが、煤の付着は 2 点のみである。石材は砂岩が主体(40 点)で、その他緑色凝灰岩 4 点、粘板岩・シルト岩・変質安山岩各 2 点、頁岩・礫岩・変質ドレライト各 1 点である。

当遺構の帰属時期は、出土土器から縄文時代中期と考えられる。

C 土坑（第43～48図、第7表）

土坑は8基が検出された。遺構略号はSKである。SK107以外は陥し穴で、陥し穴のうちSK167・168・188は、溝形で底部の幅が狭い、いわゆる「Tピット」である。

いずれの土坑からも遺物は出土していないが、検出された層位と形状、覆土の様相から、縄文時代に帰属すると判断した。

SK82 陥し穴。Ⅲ層で検出され、隅丸長方形を呈する。長軸は凡そ南北方向を示している。上部の一部を古代～中世の土坑SK67と搅乱に破壊されている。覆土は、上層の1～4層がⅢ層土ベースの土層で、5・6層はローム粒子を多く含む。下部施設は検出されなかった。

SK84 陥し穴。検出面はⅣ層で、隅丸長方形を呈する。覆土は、上部の1～4層がⅢ層土ベース、5・6層はⅢ・Ⅳ層土ベース、7層はⅣ・Ⅴの混合土層で、下層に行くに従って締まりは強くなる。下部施設は検出されなかった。

SK107 Ⅳ～Ⅴ層で検出された。平面形態は隅丸長方形を呈し、底部は平坦である。北西部はトレーニチにより破壊されている。覆土は、最上部の1層がⅢ2層相当土で、他の2～4層はローム粒子やブロックを含む層である。

SK116 包含層掘削中に、Ⅳ～Ⅴ層上で検出された陥し穴である。平面形態は橢円形で、底部は比較的平坦である。下部施設は確認されていない。覆土は9層に分けられ、1層がⅢ層相当土、2～3層が黒褐色土で、4層以下は暗褐色土が中心となる。

なお、半裁時に底部が掘り切れていたため、追加で下部の調査を実施している。

SK167 後述するSK168とともにⅣ層面で検出された陥し穴である。平面形態溝形のTピットで、底部は西端がわずかにオーバーハングしている。底面の幅は狭く、壁は開き気味に立ち上がっている。底面には東西それぞれの端部付近にピット状の掘り込みが確認された。

覆土は、1・2層が黒褐色土、3・4層が黄褐色土系で、明赤褐色のスコリアを多く含んでいる。5～9層は下部ピットの覆土で、人為的に堆積したものと思われる。

SK168 SK167と隣接してⅣ層面で検出された陥し穴（Tピット）である。平行ではなく、SK167とは南東側がやや狭まる状態で「ハ」字状に位置している。南東端部がわずかにオーバーハングしており、底部の幅は狭く、壁は、底部から垂直気味に立ち上がり、中位からは開き気味に立ち上がる。下部施設は、南東側でピット状の掘り込みが確認された。

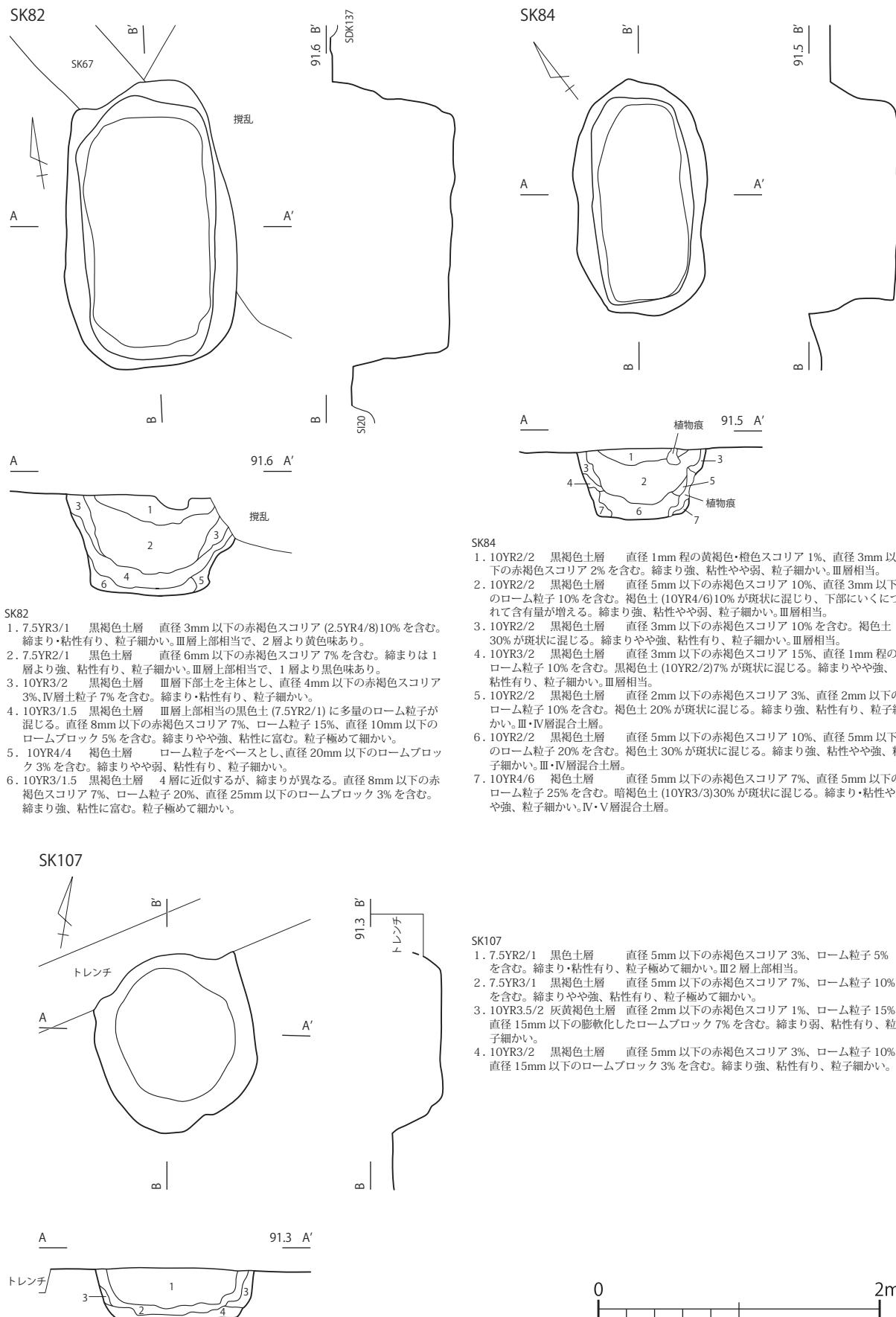
覆土は、1・2層がⅢ層系の黒褐色土、3・4層は壁面の崩落に伴うⅣ・Ⅴ層系の覆土である。

SK188 Ⅳ層面で検出された陥し穴（Tピット）である。検出時、南東側が調査区外へと続いているため、調査範囲を拡張して調査を行った。

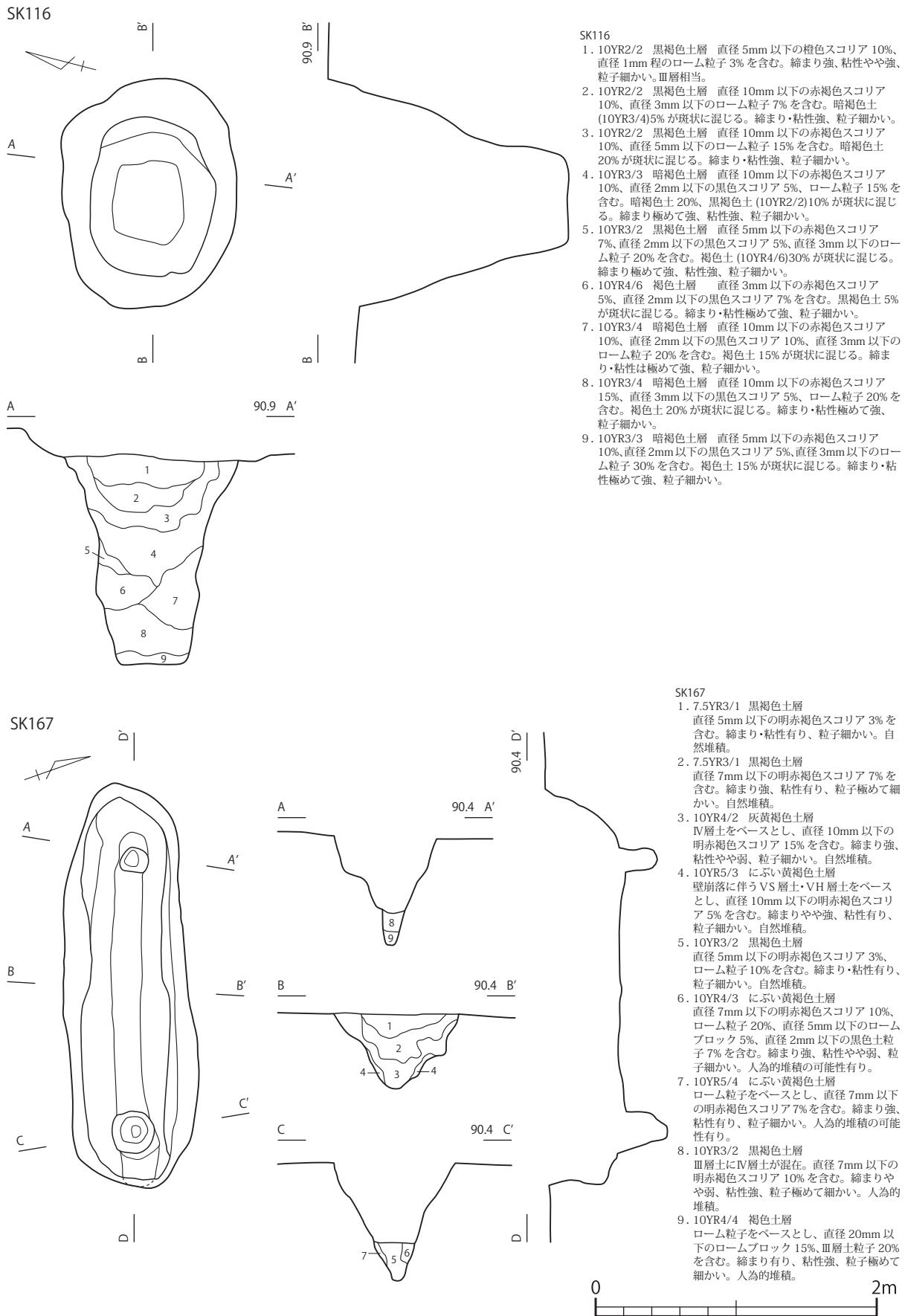
南東、北西の両端部がそれぞれわずかにオーバーハングしており、底部の幅は、中央部付近でやや狭まっている。壁は、中央部付近が開き気味に立ち上がり、それ以外は垂直気味に立ち上がる。また、底面は中央部付近がやや高まりを見せている。下部施設は確認されていない。

覆土は、1～3層がⅢ2層系の黒褐色土で、5層を中心に径の大きな明赤褐色スコリアを多く含んでいる。

SK189 調査区東端で検出された陥し穴である。検出面はⅢ～Ⅳ層で、隅丸長方形を呈している。壁はやや開き気味に直線的に立ち上がり、中位にわずかな段差を有している。底面は比較的平坦であ

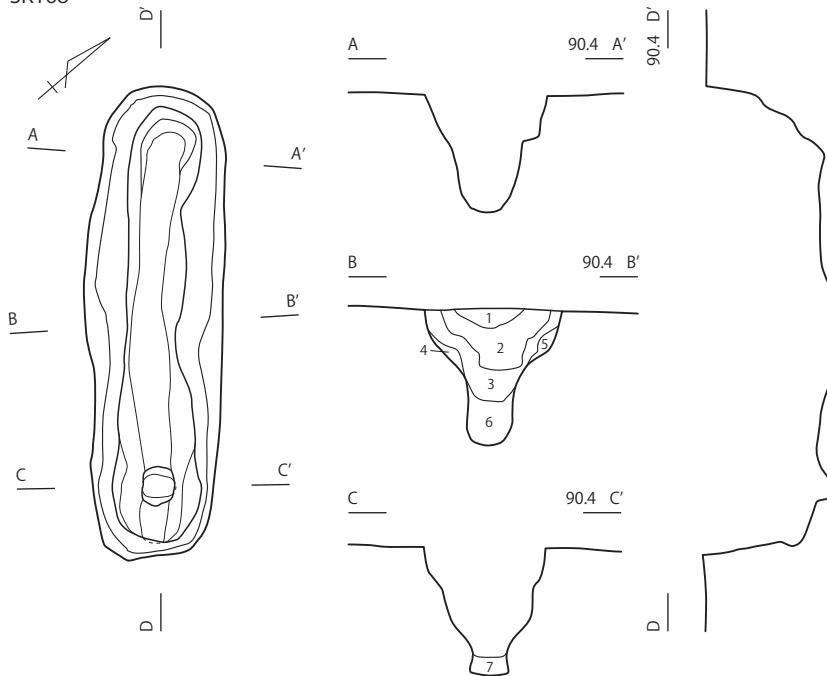


第 43 図 SK82・84・107(1/40)



第 44 図 SK116・167(1/40)

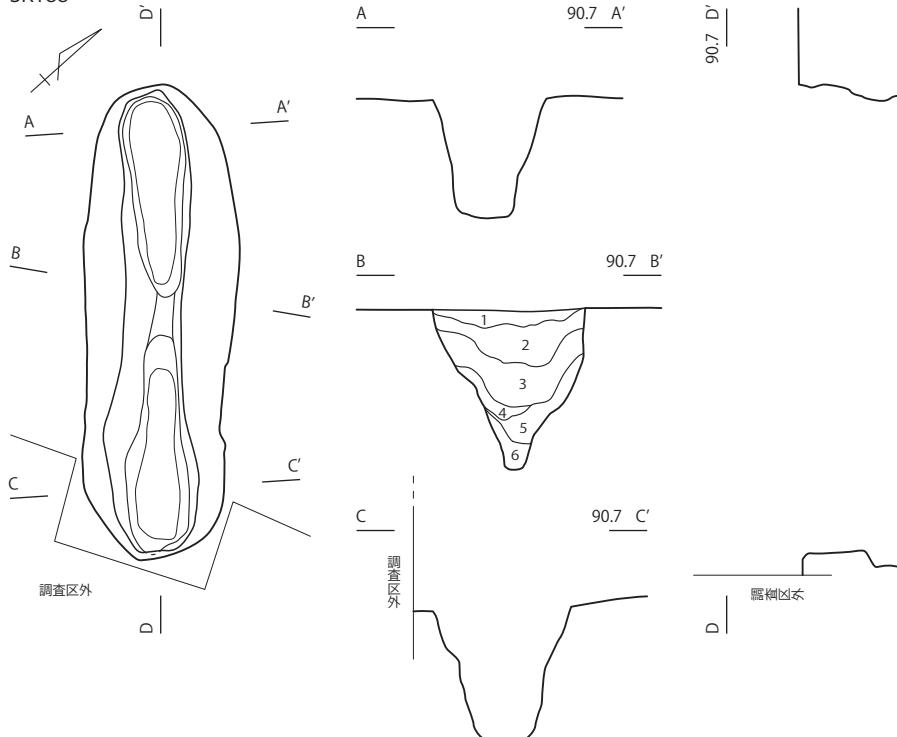
SK168



SK168

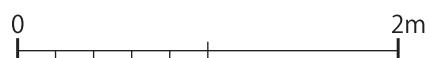
1. 7.5YR3/1 黒褐色土層 直径 5mm 以下の明赤褐色スコリア 3% を含む。締まり・粘性有り、粒子細かい。自然堆積。
2. 7.5YR3/1 黒褐色土層 直径 7mm 以下の明赤褐色スコリア 7% を含む。締まり強、粘性有り、粒子極めて細かい。自然堆積。
3. 10YR4/2 灰黄褐色土層 IV 層土をベースとし、直径 10mm 以下の明赤褐色スコリア 15% を含む。締まり強、粘性やや弱、粒子細かい。自然堆積。
4. 10YR5/3 にぶい黄褐色土層 壁崩落に伴う VS 層土・VH 層土をベースとし、直径 10mm 以下の明赤褐色スコリア 5% を含む。締まりやや強、粘性有り、粒子細かい。自然堆積。
5. 10YR3.5/2 灰黄褐色土層 直径 5mm 以下の明赤褐色スコリア 7% を含む。締まり強、粘性有り、粒子細かい。自然堆積。
6. 7.5YR3/2 黒褐色土層 直径 10mm 以下の明赤褐色スコリア 20% を含む。締まり強、粘性有り、粒子細かい。自然堆積。
7. 10YR3/2 黒褐色土層 直径 7mm 以下の明赤褐色スコリア 5%、ローム粒子 15% を含む。締まり強、粘性に富み、粒子極めて細かい。

SK188

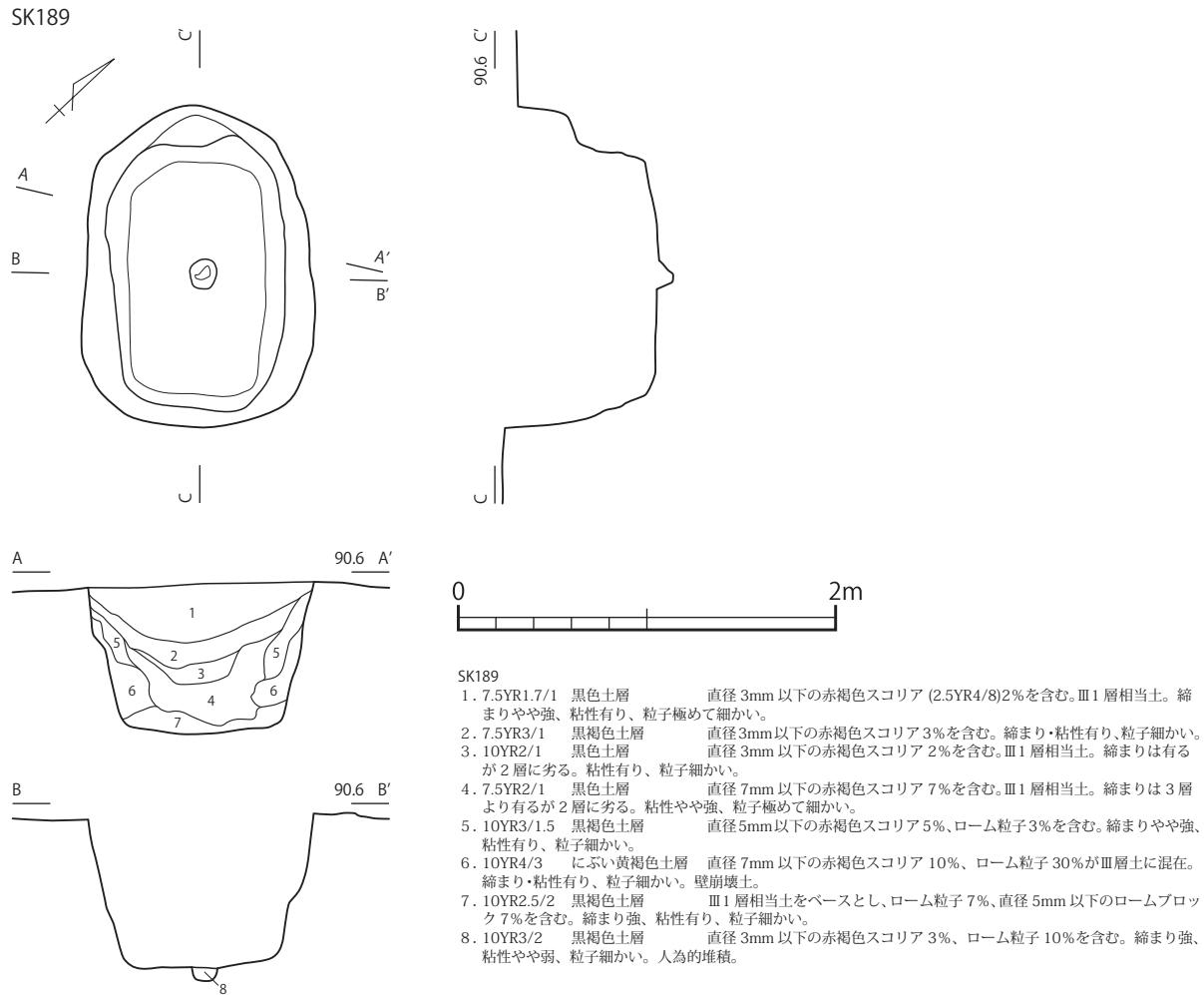


SK188

1. 7.5YR2.5/1 黒褐色土層 III 2 層相当土をベースとし、直径 3mm 以下の明赤褐色スコリア (5YR5/8)、VH 層由来の赤褐色スコリア (2.5YR4/8) 各 1% を含む。締まり・粘性有り、粒子細かい。
2. 7.5YR3/1 黒褐色土層 III 2 層相当土をベースとし、直径 5mm 以下の明赤褐色スコリア 3% を含む。締まり・粘性有り、粒子極めて細かい。自然堆積。
3. 7.5YR2.5/2 黒褐色土層 III 2 層相当土をベースとし、直径 10mm 以下の明赤褐色スコリア・直径 5mm 以下の赤褐色スコリア各 5% を含む。締まりはやや強、粘性有り、粒子極めて細かい。
4. 7.5YR3/2 黒褐色土層 直径 5mm 以下の明赤褐色スコリア・赤褐色スコリア各 3% を含む。締まりはやや強、粘性有り、粒子極めて細かい。
5. 10YR3/3 暗褐色土層 直径 10mm 以下の明赤褐色スコリア・赤褐色スコリア各 10% を含む。締まり強、粘性有り、粒子極めて細かい。
6. 10YR4/3 にぶい黄褐色土層 直径 5mm 以下の明赤褐色スコリア・赤褐色スコリア各 5% を含む。締まり強、粘性有り、粒子極めて細かい。



第 45 図 SK168・188(1/40)



第46図 SK189(1/40)

る。また、底面には中央部に下部施設状の小さな円形の掘り込みを有している。

覆土は8層に分けられ、そのうち1・3・4層がⅢ1層系の土壤で、6層は壁面の崩落に伴う層と考えられる。また8層は下部施設の覆土である。

D ピット (第49・50図、第7表)

縄文時代のピット (遺構略号SP) は、2基が調査された。土坑と同様、遺物からは帰属時期を同定することはできなかったが、覆土の様相から判断した。

SP531 調査区中央部、SKK380底部のV層面にて単独で検出された。平面形態は隅丸方形である。覆土のうち1・2層は柱抜取穴覆土、3・4層は掘り方覆土である。遺物は検出されなかった。

SP619 調査区の東側、SI57の南約5.5mで確認された。検出面はV層である。円形を呈し、底面は凹凸がある。覆土は2層に分けられ、1層はⅢ層土をベースとし、後述の礫を支えており、2層はローム粒子や同ブロックを主体としている。

中央部には、北東に傾いた状態で、細長い大型の礫が検出された。石材は閃緑岩で、上部に割れ口があり、被熱の痕跡は無い。石皿として使用された可能性が考えられる。この閃緑岩の他に遺物は検出されなかった。

(相原)



1. SK82 土層断面(北から)



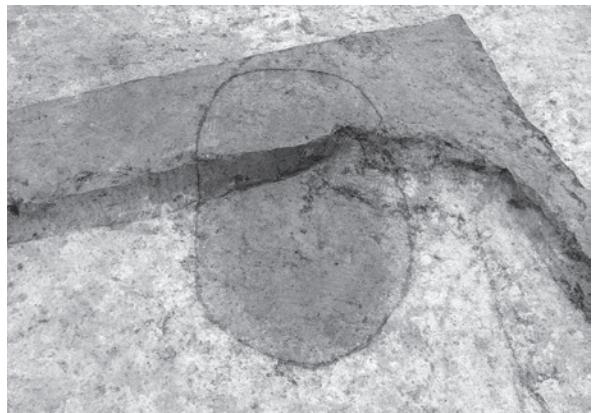
2. SK82 全景(北から)



3. SK84 全景(北東から)



4. SK107 全景(南から)



5. SK116 検出状況(西南西から)



6. SK116 土層断面(西南西から)



7. SK116 下部土層断面(西南西から)



8. SK116 全景(西南西から)

第47図 SK82・84・107・116写真



1. SK167(右)・168 全景(北西から)



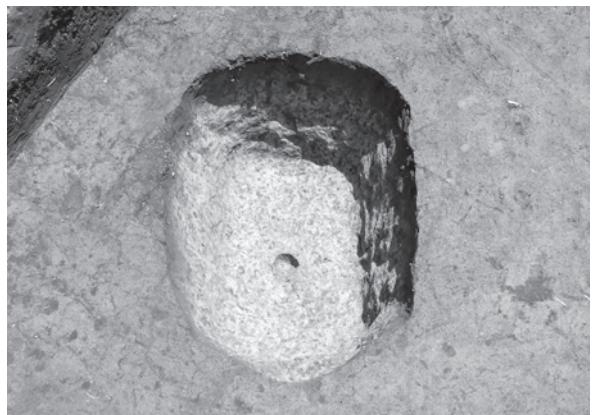
2. SK167 土層断面 B-B' (南東から)



4. SK168 全景(北西から)

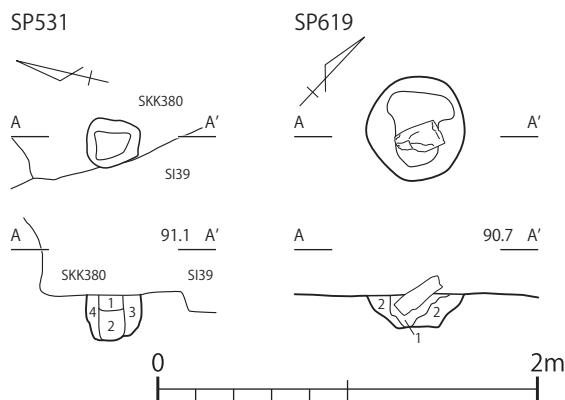


3. SK168 土層断面 B-B'(南東から)



5. SK189 全景(北西から)

第48図 SK167・168・188・189写真



第49図 SP531・619(1/40)



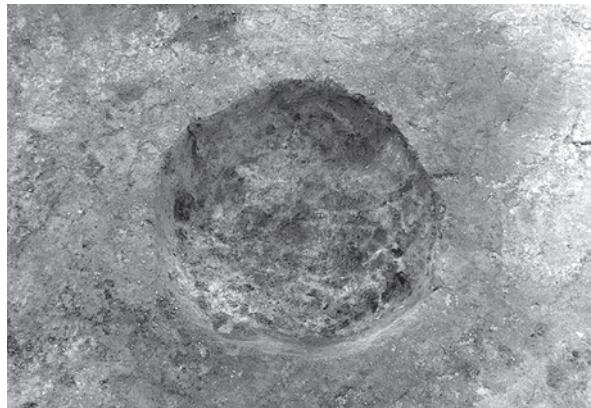
1. SP531 土層断面(東北東から)



2. SP619 土層断面(南東から)



3. SP619 遺物出土状況(南から)

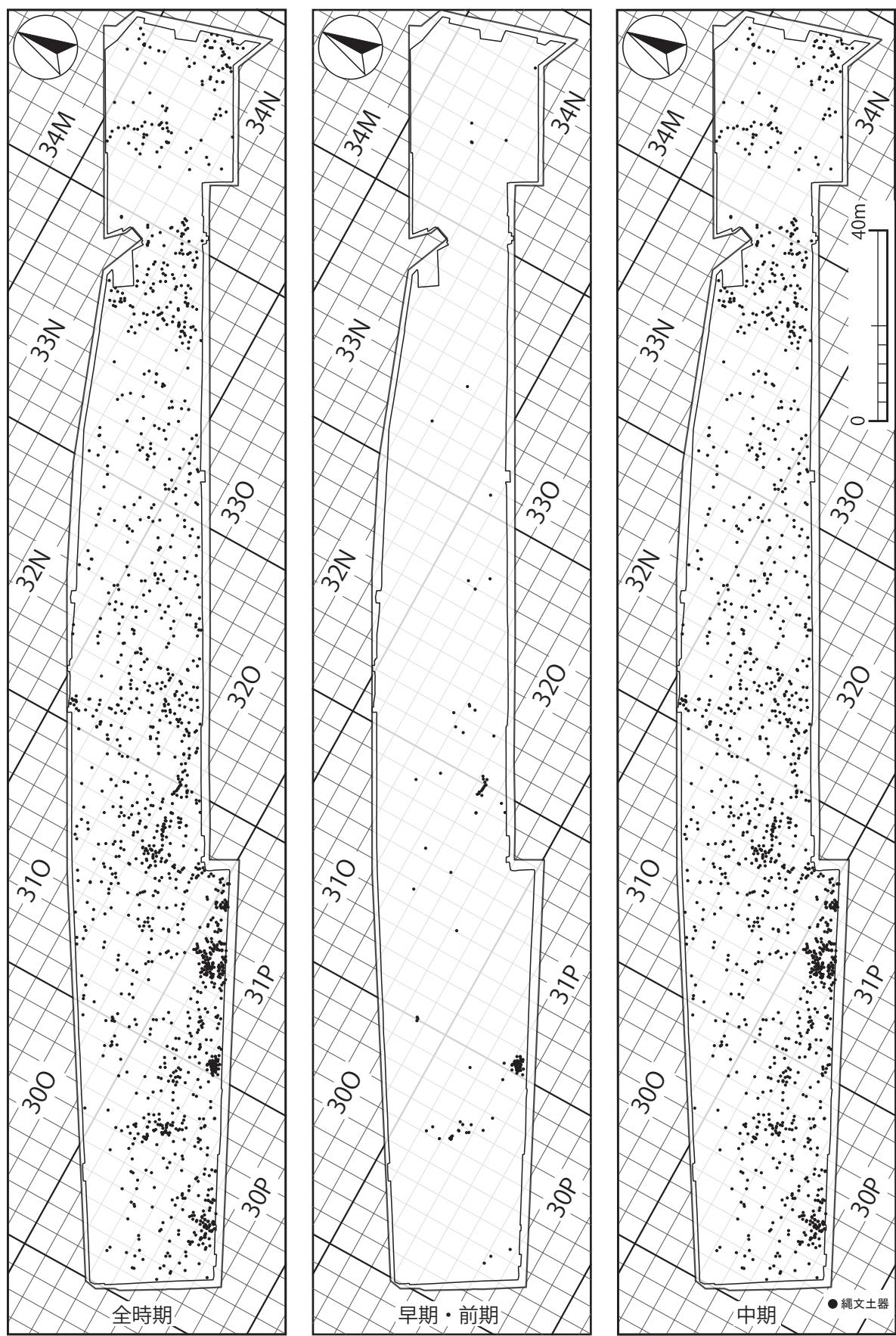


4. SP619 全景(南から)

第50図 SP531・619写真

第7表 繩文時代土坑・ピット一覧表

遺構名	グリッド	挿図番号		形態		サイズ(cm)			検出面	遺物	備考(重複関係等)
		図面	写真	平面	断面	長軸	短軸	深さ			
SK82	310-93	第43図	第47図	圓丸長方形	C	202	123	87	III	無し	SK67に切られる。
SK84	30P-56	第43図	第47図	圓丸長方形	C	168	95	64	IV	無し	
SK107	310-83・84	第43図	第47図	不整椭円形	C	126	113	37	IV～V	無し	
SK116	310-29・39	第44図	第47図	椭円形	B	162	124	171	IV～V	無し	
SK167	33N-56・66	第44図	第48図	圓丸長方形	B	283	92	87	IV	無し	
SK168	33N-56・57	第45図	第48図	圓丸長方形	E	248	73	72	IV	無し	
SK188	34N-51・61	第45図	第48図	圓丸長方形	B	249	82	85	IV	無し	
SK189	34N-28・29	第46図	第48図	圓丸長方形	E	171	122	89	III～IV	無し	
SP531	320-25・26	第49図	第50図	卵形	A	28	26	24	SKK380底面(V)	無し	SI39、SKK389に切られる。
SP619	34N-51	第49図	第50図	円形	B	55	52	18	IV～V	礫1	



第 51 図 縄文時代土器分布図 (1/1,200)

2) 遺物

A 土器 (第 51 ~ 63 図、第 8 表)

今回の調査区で出土した縄文土器は、断続的ではあるが早期前半から後期前半までを確認している。時期的な分布状況を概観すると、中期に帰属する資料が圧倒的に多くほぼ全域に分布しており、30・31 P グリッドの南端でやや密に分布する傾向が窺える (第 51 図)。ただし、当該期の遺構に伴うものではない。出土土器は大半が小破片であり復元率も低く、接合する資料が少ない。この状況は、特に出土点数を誇る中期において集落本体に直接廃棄された状況とは異なる二次廃棄的な様相を示すものと思われ、当該区が集落本体の隣接もしくは近接箇所に相当する可能性を示唆するものと考える。

以下、型式判定可能で掲載可能な資料を提示し、解説を行う。なお、本文では記載しない各資料の文様、胎土、色調等の属性に関しては、観察表 (第 8 表) を参照されたい。

早期の土器 (1 ~ 3)

1 ~ 3 は、いずれも早期前半の土器の撚糸文系土器である。胎土に纖維を含み早期後半に属する条痕文系土器の小破片も数点出土しているが、掲載に耐えないとめ割愛した。1・2 は、夏島式もしくは稻荷台式に相当しよう。1 は口唇部がやや肥厚する口縁部破片であり、条は太く条間が密な撚糸文 R を施文している。2 は胴部破片であり、条は細く条間が密な撚糸文 L を施文している。3 は無文の胴部破片で砂粒を多く含み、厚みのある断面であり、撚糸文系終末期の平坂式と思われる。

前期の土器 (4 ~ 10)

4 ~ 10 は、いずれも前期後半の諸磯式に帰属しよう。今回の調査では明確に前期前半と特定できる土器を確認できていない。4・5 は、幅の狭い半截竹管を用いた施文の特徴から諸磯 a 式に帰属する。4・5 ともに地文として縄文 LR を施文後、半截竹管による 2 本単位の平行沈線描出で横帶もしくは曲線文を施している。図示すると同一個体の様であるが、胎土の違いから明らかに別個体である。6・7 は、同一個体の可能性がある諸磯 b 式の破片である。頸部が大きく外反し、口縁部が強く内屈する形状を呈する深鉢である。いずれも器面が荒れており明確な主文様は認められず、6 には条の粗い縄文 LR が、7 には LL もしくは RR の撚り戻し縄文が施されているようである。8 ~ 10 は、文様の特徴から諸磯 c 式と判断した。8 は口唇部に浅い刻みを巡らせ、口縁部には諸磯 c 式に特徴的な幅の狭い半截竹管を用いた細条線による集合沈線をヨコ・ナナメに施す。10 の胴部資料にも同様な集合沈線を認める。9 は集合沈線を施した上に、隆帶へ半截竹管による連続刻みを加えた諸磯 c 式に特徴的な結節状浮線文を口唇部では横位、口縁部には斜位に施文する。

中期の土器 (11 ~ 121)

今回の調査区では、当該期の土器が最も多く出土している。中期については、従来の型式記載に加えて近年、縄文集落研究グループ・セツルメント研究会により関東地方西南部、多摩丘陵・武蔵野台地の中期編年案が「多摩丘陵・武蔵野台地を中心とした縄文時代中期の時期設定」(以後、「新地平編年」と呼称) として提示されているので、併記したい (小林・中山・黒尾 2004)。

11 ~ 21 は、中期初頭の五領ヶ台式である。文様の特徴から 11 ~ 13 は五領ヶ台 I 式 (新地平編年 1 期) に、14 ~ 17 は五領ヶ台 II 式 (新地平編年 2 ~ 4 期) に該当しよう。11 は口縁部直下に小形の橋状把手が付く胴部上半片である。橋状把手の両端には刻みを連続させ、胴部本体にはタテ・ヨコに集合沈線を施す。12 の口縁部には 3 段の微隆帶上に縄文 RL を施し、微隆帶間に沈線樁円文

を付加する。13 の口縁部には口唇部に浅い刻みを巡らせ、隆帯区画を施した口縁部には格子の細沈線を充填した上に横位の連続刺突を付加し、直下の胴部上半には結節状沈線を斜行させている。14 は波状口縁を成す。無文帶である口縁部直下より、半截竹管を用いて連続刺突を加えた隆帯文が斜行する。地文は縄文 RL。15・17 はいずれも小波状を成す口縁部資料であり、口唇部には連続刺突が巡り、口縁部内には太沈線による円文もしくは渦巻文の脇に三角文を印刻する。15 の口唇部には縄文 RL を認める。16 は頸部に隆帯で横帯区画した口縁部文様帶で、15・17 と同様な文様構成を持つ資料と思われる。胴部には隆帯が斜行し、隆帯間に横位の短沈線を充填させているようである。18 は地文縄文 RL に幅狭な半截竹管による平行沈線文を施す。21 は五領ヶ台式の深鉢底部破片である。底部付近まで隆帯文が垂下し、隆帯脇には結節状の沈線文が並走する。

19・20 は、浅鉢の口縁部資料である。ともに幅狭な口縁部が内屈する器形を呈する。19 の口縁部文様帶には横位の角押文が 3 段重畳する。20 は刻みを施した扇状隆帯文が展開し、隆帯文区画内に角押文が 5 段重畳する。

22～48 は、中期前半の勝坂式に帰属しよう。22～33 は、勝坂 1 式（中部地方の井戸尻編年による貉沢～新道式に併行）である。文様の特徴から 22～24 は、貉沢式併行（新地平編年 5 期）に概ね相当しよう。22・23 の口縁部には 2 列の角押文を矩形に施す。24 は波状口縁で、波頂部に向かって 3 列の角押文を弧状に施している。25～30 は新道式併行（新地平編年 6 期）に比定されよう。充填文様として「ペン先文」と呼称される三角押文と半截竹管の連続押捺による「キャタピラ文」を特徴的に使用。25 の口縁部には、隆帯による三角区画文内に 1 列のペン先文と三叉文を施す。26 はキャタピラ文とペン先文を組み合わせる。27 は波状口縁で隆帯三角区画文内に幅広と幅狭なペン先文をタテ・ヨコに充填する。28 は渦巻状の小突起を有し、隆帯による橢円区画文もしくは三角区画文内に幅狭なキャタピラ文を多段に施す。29 は隆帯橢円区画文に沿って幅狭なキャタピラ文を巡らせ、ペン先文をタテに充填する。33 の胴部破片は次段階へ続くパネル文の初見とされ、半截竹管による方形区画内に刺突を巡らせている。

31・32 は、共に勝坂式と併行する阿玉台式の影響を受けた胴部破片である。阿玉台式に特徴的なヒダ状圧痕を認めるが、雲母を多量に含む胎土を有しておらず、阿玉台式とは分別した。

34～40 は、勝坂 2 式（井戸尻編年による藤内式、新地平編年による 7・8 期）に概ね帰属しよう。34 は三角状の幅広な微隆帯上に縄文 RL を施し、隆帯脇に波状沈線を巡らせる。35 は刻みを付加した隆帯三角区画文に沿ってやや幅狭なキャタピラ文が巡り、内部に「玉抱き三叉文」を認める。36 の胴部破片には刻みを有する隆帯に沿って幅広なキャタピラ文とペン先文が橢円に巡り、藤内式に特徴的な「ワラジムシ文」を施す。37 は隆帯橢円区画文に沿って幅広なキャタピラ文を施す。38・39 にはともに隆帯橢円区画文内へ橢円もしくは縦位・横位沈線文を充填する。40 の胴部破片には交互刺突を加えた垂下降帯文に沿って斜行沈線を多段に施し、沈線間に刻みを充填する。

41～44・46 は、勝坂 3 式（井戸尻編年による井戸尻式、新地平編年の 9 期）に相当しよう。41・42 は井戸尻式に特徴的な大波状口縁を有する深鉢「多喜窪タイプ」の口縁部である。いずれも多喜窪タイプの特徴である口唇部に向かって口縁部が強く内屈し大きく張り出す器形が窺える。41 はタテに長い U 字状の幅広隆帯に交互刺突を加え、隆帯脇に沈線と横位の短沈線を施す。42 は幅広の隆帯区画内に三叉文と大形の円形刺突文を認める。43 は刻みを有する多段の斜行隆帯文下の胴部

に縄文 L を充填する。44 は頸部に交互刺突を加えた幅広隆帯による区画を施す。46 は眼鏡状突起が残存し、直下より連続刺突を加えた隆帯文を垂下させ撚糸文 L を施す。

45・47・48 は、勝坂式の浅鉢に分類した口縁部資料である。概ね勝坂 2～3 式に相当しよう。45 は口唇部が外反し、口縁部が強く内屈する器形を呈する。内面に赤色塗彩がわずかに残存している。47 は波状口縁であり、口唇部がやや肥厚し波頂部に刻みを施す。48 は強く内屈する口縁部に隆帯と沈線の組み合わせによる橈円区画文が展開する。

49～52 は阿玉台式に帰属しよう。いずれも阿玉台式に特徴的な雲母を多量に含む胎土を有し、文様から勝坂 1 式後半～2 式前半（新道～藤内 I 式）併行の阿玉台 I b～II 式（新地平編年 6～7a 期）に比定されよう。49 は波状口縁であり、口縁部に 2 列の結節沈線と 1 条の平行沈線が横位に巡る。50・51 の胴部資料には刻みを付加する隆帯曲線文を施し、隆帯脇に 2 列もしくは 1 列の結節沈線文が並走する。52 の器面には阿玉台 I a～II 式の胴部に特徴的なヒダ状圧痕を認める。

53～78 は、中期後半の加曾利 E 式（E1～3 式、新地平編年 10～12 期）である。今回、明確な E4 式は確認していない。53～61 は口縁部破片で、53・54 は E1 式（新地平編年 10 期）、55～61 は E2 式（新地平編年 11 期）に分類されよう。53・54 はいずれも口縁部文様帶内に隆帯脇に沈線を付加した横 S 字文が横位に展開する。地文は E1 式に多い撚糸文である。55・56 の口縁部は隆帯による渦巻文と橈円区画文が交互に展開する文様帶構成と考える。橈円区画内には 55 が縄文 RL、56 が縦位の短沈線を施す。57 は渦巻文に剣先文を付加する。59 は細沈線描出、60 は幅広の太沈線描出による渦巻文と橈円区画文が交互に展開しよう。61 は無文で加曾利 E 式に一般的なキャリパー形を呈さず直線的に開く器形で、頸部に口縁部区画の平行沈線が巡る。62 の胴部破片は E1 式に比定され、地文撚糸文 L に半截竹管による半隆起状の沈線文を施す。63～70・76・77 は E2 式に比定され、地文縄文に 2～3 本単位の沈線文が特徴である。64 は東北地方大木 8b 式に共通する渦巻文を認める。66 は重弧線文の直下より 1 本の蛇行沈線文が垂下する。

71～75・78 は、E3 式に概ね帰属しよう。71 は小突起を有する波状口縁で、波頂部に渦巻文、直下に対向する円孔文と渦巻文を施す。72・74 は E3 式に特徴的な磨消縄文を認める。73 は 72 より一段階新しい E3 式新（新地平編年 12b 期）で口縁部文様帶を喪失する。78 は今回の調査では数少ない接合資料である。胴部は大きく直線的に開きながら立ち上がり、口縁部が内湾する器形を呈する。口縁部は 2 重沈線による弧線文が展開しており、後述する連弧文土器の影響を受けたものと判断する。胴部は弧線文間から磨消の逆 U 字文が垂下する文様構成である。口縁部径は推定 23.5cm、残存高は 22.1cm を測り、比較的小形の深鉢である。75 は E3 式段階の鉢である。屈曲する肩部に横位隆帯を施し、2～4 単位の橋状把手が付くタイプと思われる。胴部には蛇行沈線を施すようである。

79～86 は、連弧文土器である。概ね加曾利 E2 式併行（新地平編年 11 期）に相当しよう。いずれも地文条線に 2・3 本の平行沈線と連弧文を組み合わせた文様構成を取る。81a・b は接合していないが、胎土、施文描出より同一個体と思われる資料である。地文は半截竹管を用いた平行沈線であり、平行沈線間に円形刺突を加えた頸部区画を境に、連弧文が崩れた波状文が上下に展開する。

87～121 は、中期後半の曾利式である。87 は勝坂式終末期の水煙文土器の系譜にある曾利 I 式（加曾利 E1 式併行）深鉢口縁部の中空把手であり、波頂部に円環状の把手を付し、直下より蛇行隆帯等の装飾を密に施している。88・89 も曾利 I 式に帰属しよう。88 は頸部に 2 段の蛇行隆帯が横走し、

胴部には地文に半截竹管を用いた縦位の平行沈線を充填した後、同様の半截竹管で押引き刺突を施す2本隆帯が垂下する。89の口縁部には半截竹管による斜行平行沈線と逆方向に斜行する細隆帯で格子目状の文様構成を成す「籠目文」が窺える。90・91はE2式併行の曾利II式に分類できよう。口縁部に曾利式特有の「重弧文」を認める。92・93は間隔が疎らで崩れた重弧文の点からE3式併行の曾利III式と思われる。94・95・99は斜行沈線文を施す深鉢口縁部である。曾利II～III式に相当しよう。頸部より大きく開く器形を呈し、94には頸部に蛇行隆帯が巡る。97・98は無文の口縁部で、口唇部が内側に肥厚する曾利式に特徴的な形状である。96は波状口縁を成し、71のE3式と同様な文様構成を取る曾利III～IV式であるが、地文に縄文ではなく曾利式特有の短沈線を用いる。103も同様に隆帯渦巻文間に短沈線を充填する。104～107は概ね曾利II式～III式に帰属しよう。地文に条線もしくは沈線を縦位に充填する。104の胴部破片には隆帯渦巻文から2本の懸垂文が派生し、105は隆帯懸垂文と蛇行文を交互に配する。108～111は曾利IV～V式に分類されよう。108・109・111は沈線懸垂文間に斜行短沈線もしくは綾杉文を充填し、IV式新段階からV式古段階（加曾利E3式新段階）に相当しよう。110は幅広沈線による懸垂文間に短沈線の「雨垂文」を充填しており、加曾利E4式（新地平編年13期）併行の曾利V式新段階に帰属しよう。

115は曾利III～IV式に特有の鉢もしくは壺形土器の底部付近の資料である。おそらく胴部には大形の渦巻文を施し、地文として残存部の様に円形刺突を充填するものと思われる。

114・116～121は曾利式の浅鉢に該当する。但し、118は加曾利E式の可能性もある。いずれも肩部区画文内に沈線もしくは条線を施し、概ね曾利II式～III式に相当しよう。114は半截竹管による押引きを施した隆帯区画文が一部に残存しており、曾利I式に遡る可能性があろう。116～120は肩部に渦巻文と楕円区画文を組み合わせた文様構成を取る。121は口縁部無文のタイプで、口唇部は曾利式特有の肥厚する形状となる。

後期の土器ほか（122～137）

122・123は、後期初頭の称名寺I式（新地平編年の14期）に相当する。沈線描出によるJ字文に充填縄文を施している。124～127は、後期前半の堀之内1式に概ね該当しよう。124・127は「下北原タイプ」と呼称される沈線文系深鉢である。横位沈線を施す有段口縁、縦位展開の沈線文が特徴である。125は胴部が大きく張り出す鉢形土器の胴部と判断され横位と斜位の2本沈線が認められる。128は崩れた重三角文もしくは渦巻文が描かれており、堀之内2式の古段階の可能性があろう。

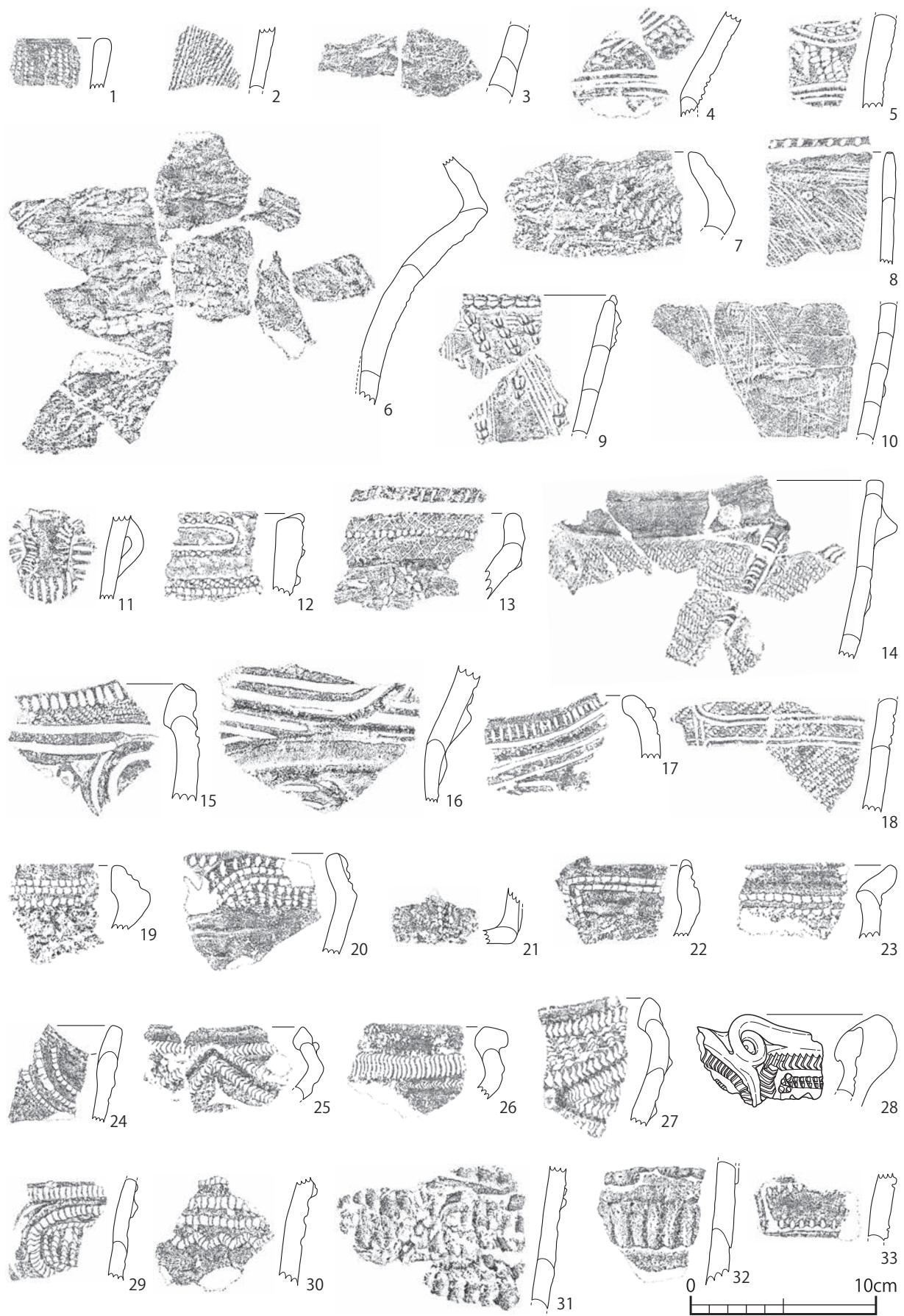
129～137は中期～後期の胴部下半から底部の資料を一括した。135を除きいずれも文様が認められない。断面形状から130・132・133・136は浅鉢に分類されよう。

B 土製品（第57・63図1～9、第8表）

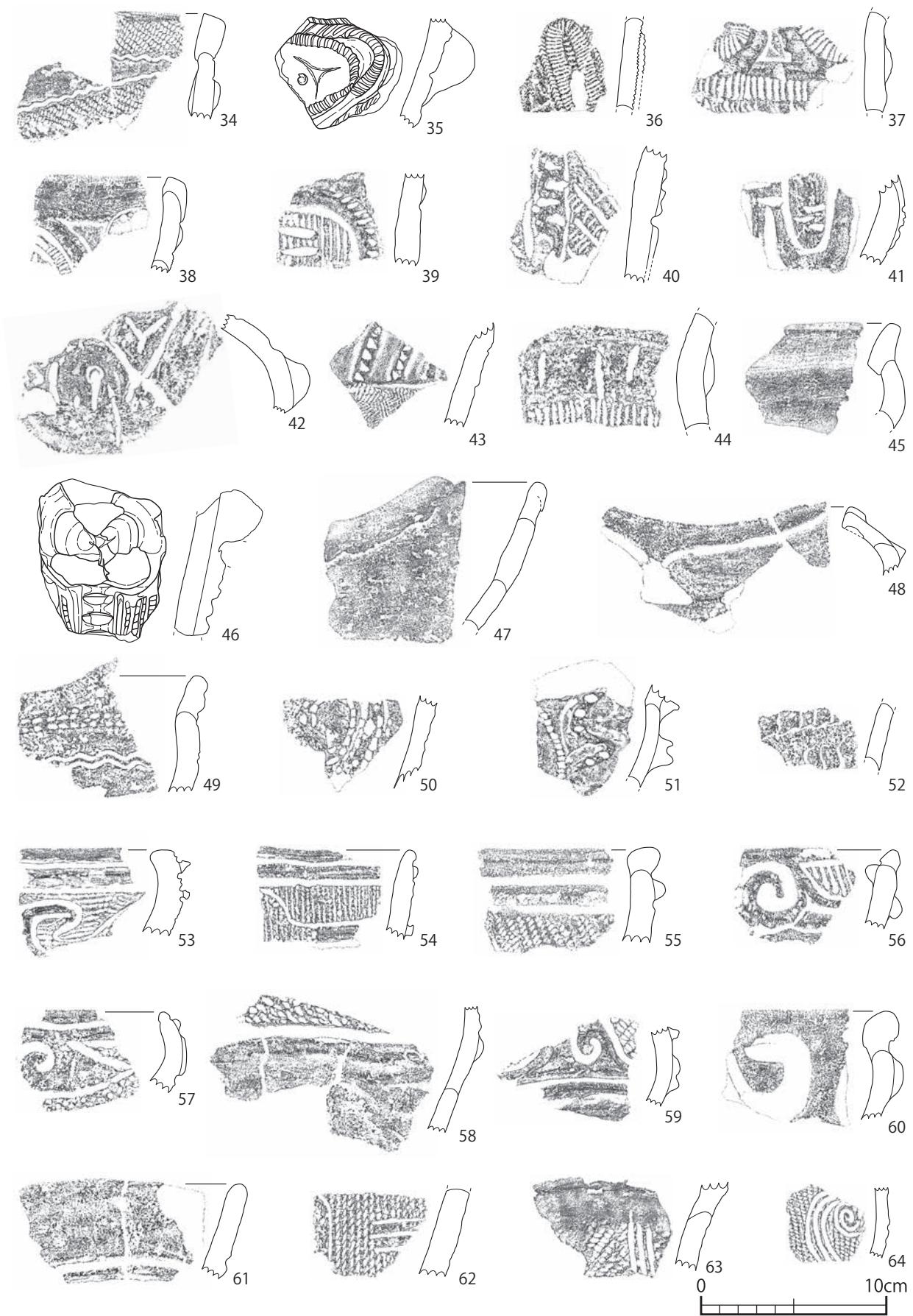
縄文時代の土製品は、出土土器の時期的傾向を考慮すれば、概ね中期に帰属するものと考える。

1～5は、深鉢土器破片の側縁を加工した「土製円盤」である。1は勝坂1式、2は勝坂2式、3～5は加曾利E2式の胴部破片を用いる。側縁加工は3タイプに分かれ、2・4は側縁の打ち欠きのみであり、1は一部に磨きを加え、3・5はほぼ全周に磨きを施す。平面形態は1～4が亜円形もしくは円形に近い多角形状を呈しており、5のみ長方形を呈する。

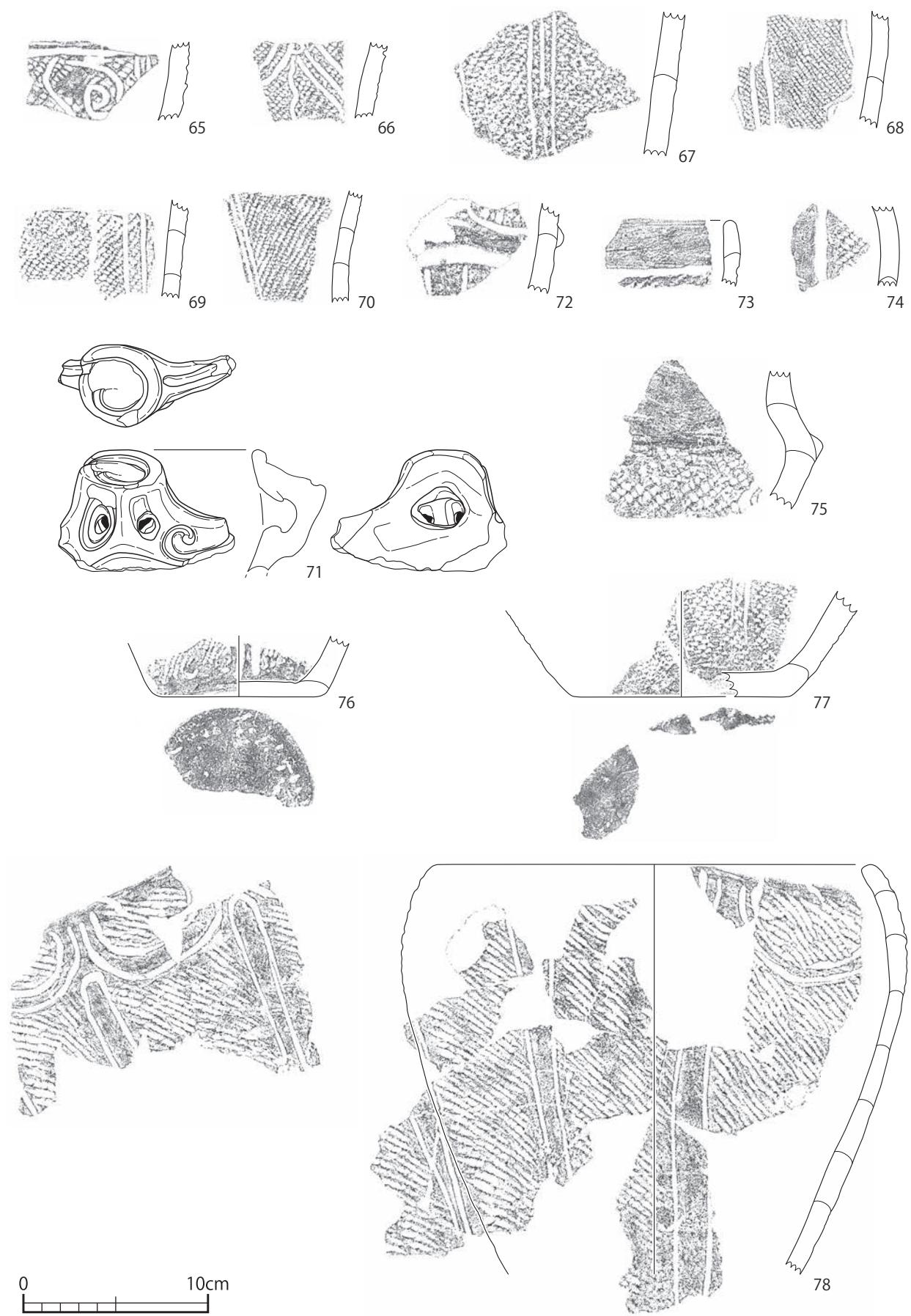
6は、土偶の腕部破片と判断する。残存部の平面形状はやや湾曲している。両面に2本沈線を認める。おそらく中期に帰属するものと思われるが、中期後半の関東地方西南域、武藏野台地・多摩丘陵



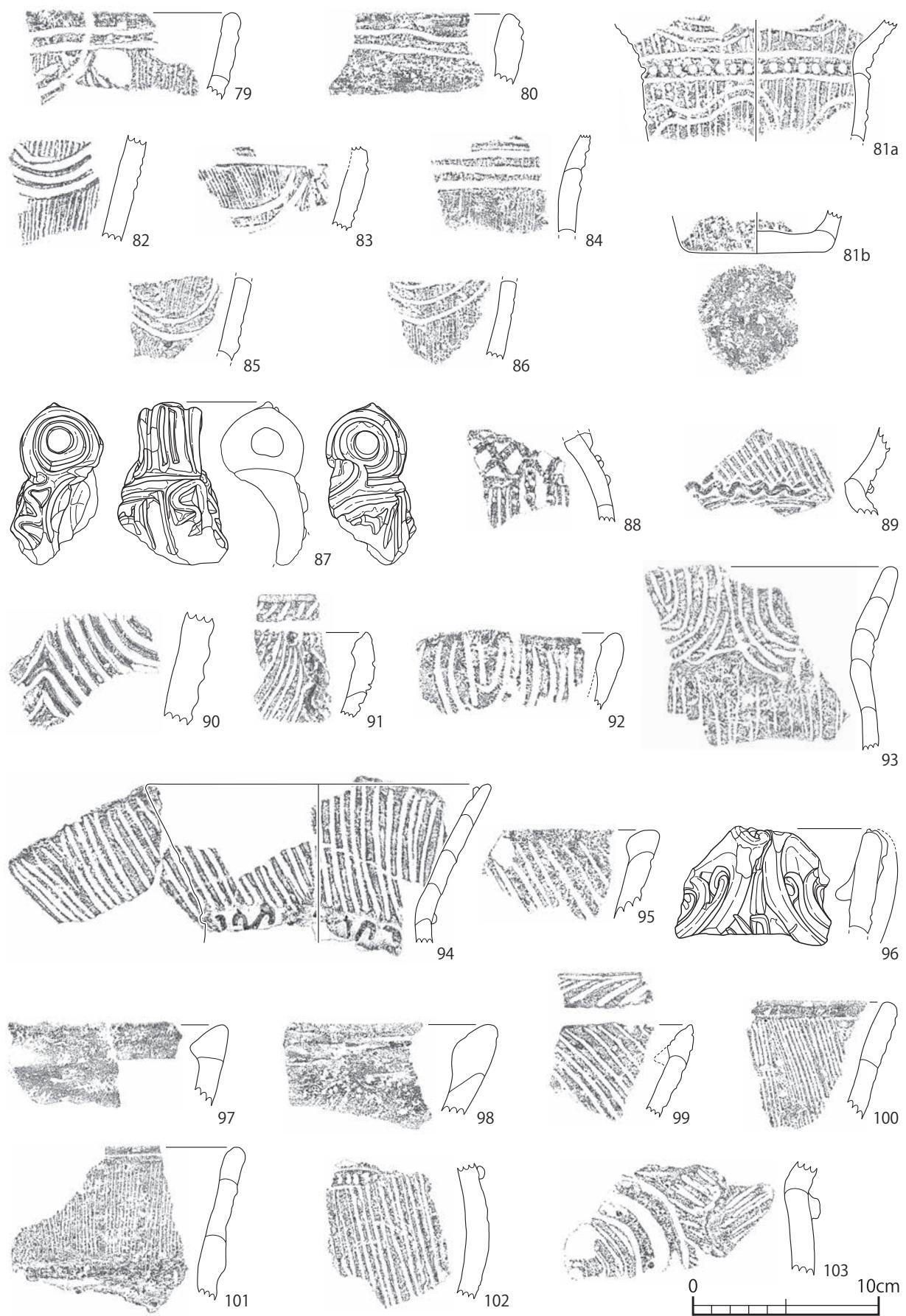
第52図 繩文土器(1)(1/3)



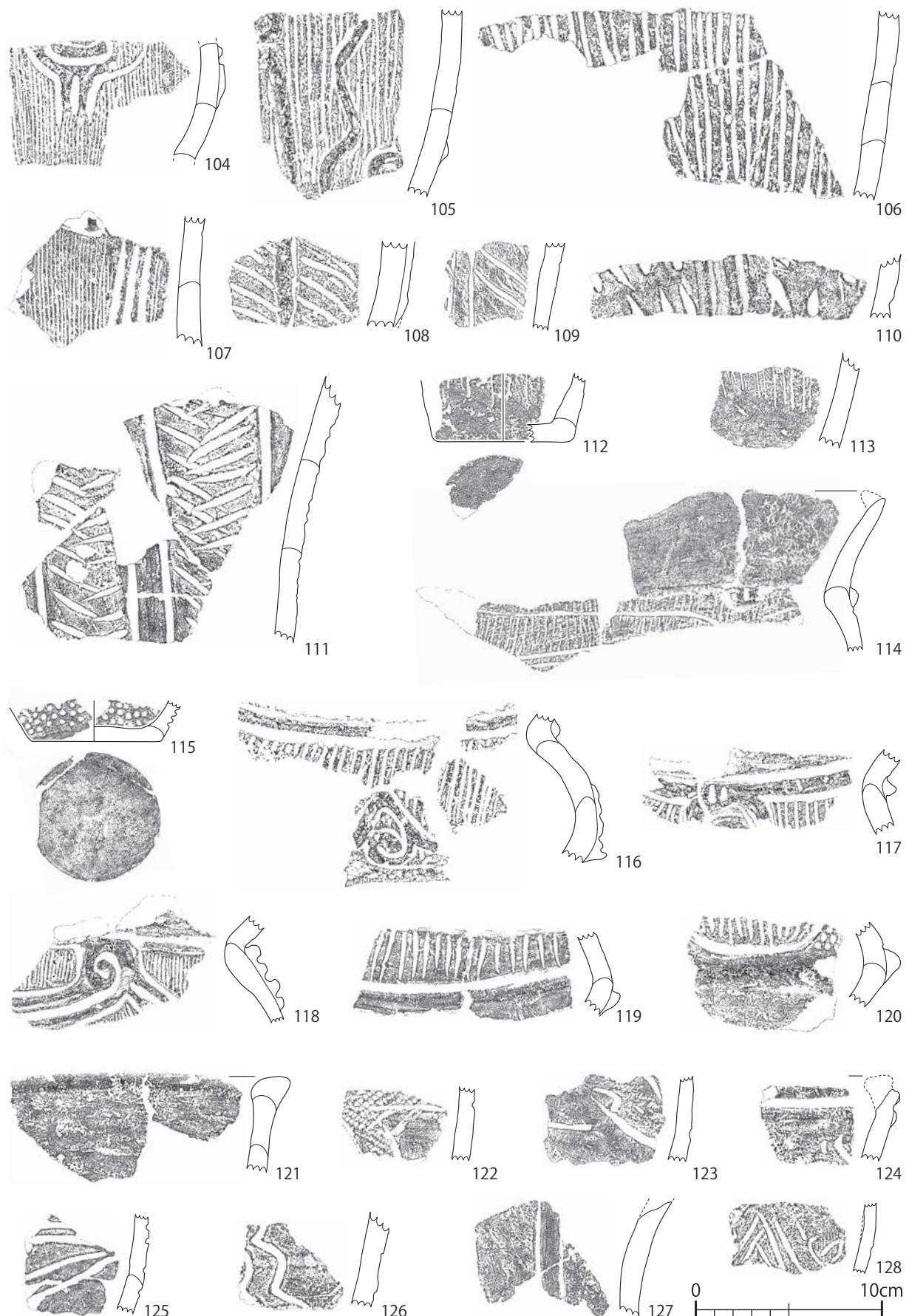
第53図 繩文土器(2)(1/3)



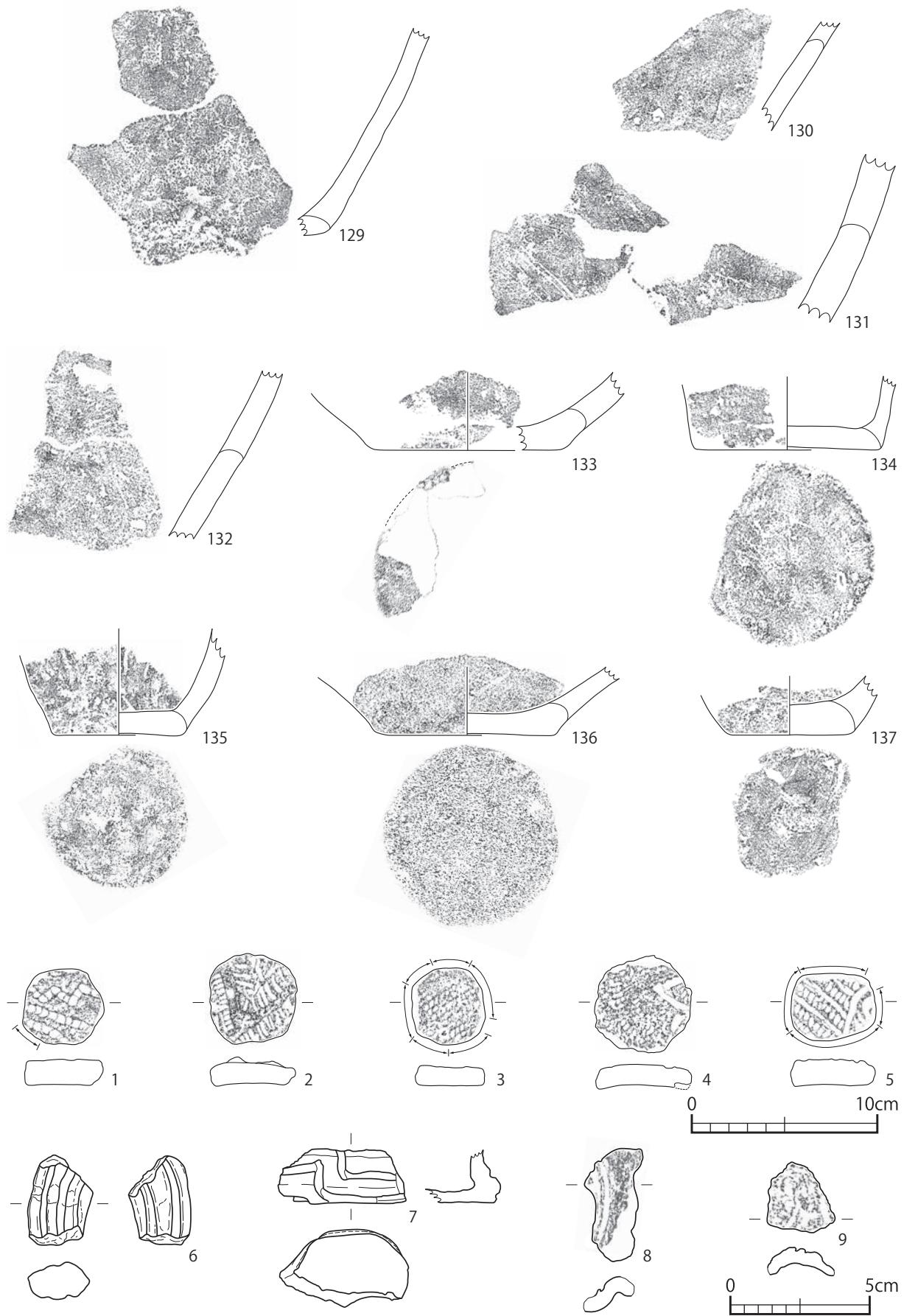
第 54 図 縄文土器 (3)(1/3)



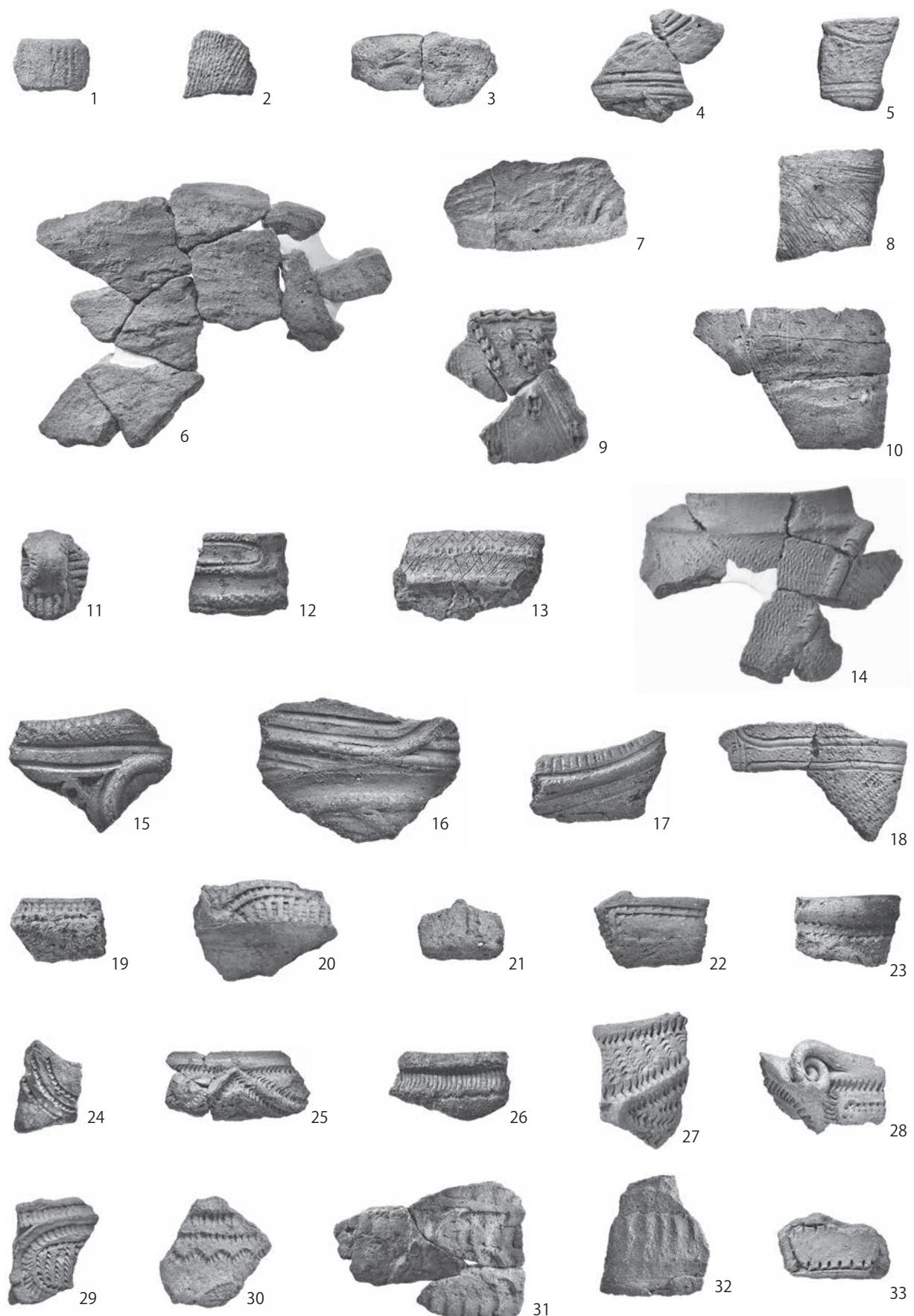
第 55 図 繩文土器 (4)(1/3)



第 56 図 繩文土器 (5)(1/3)



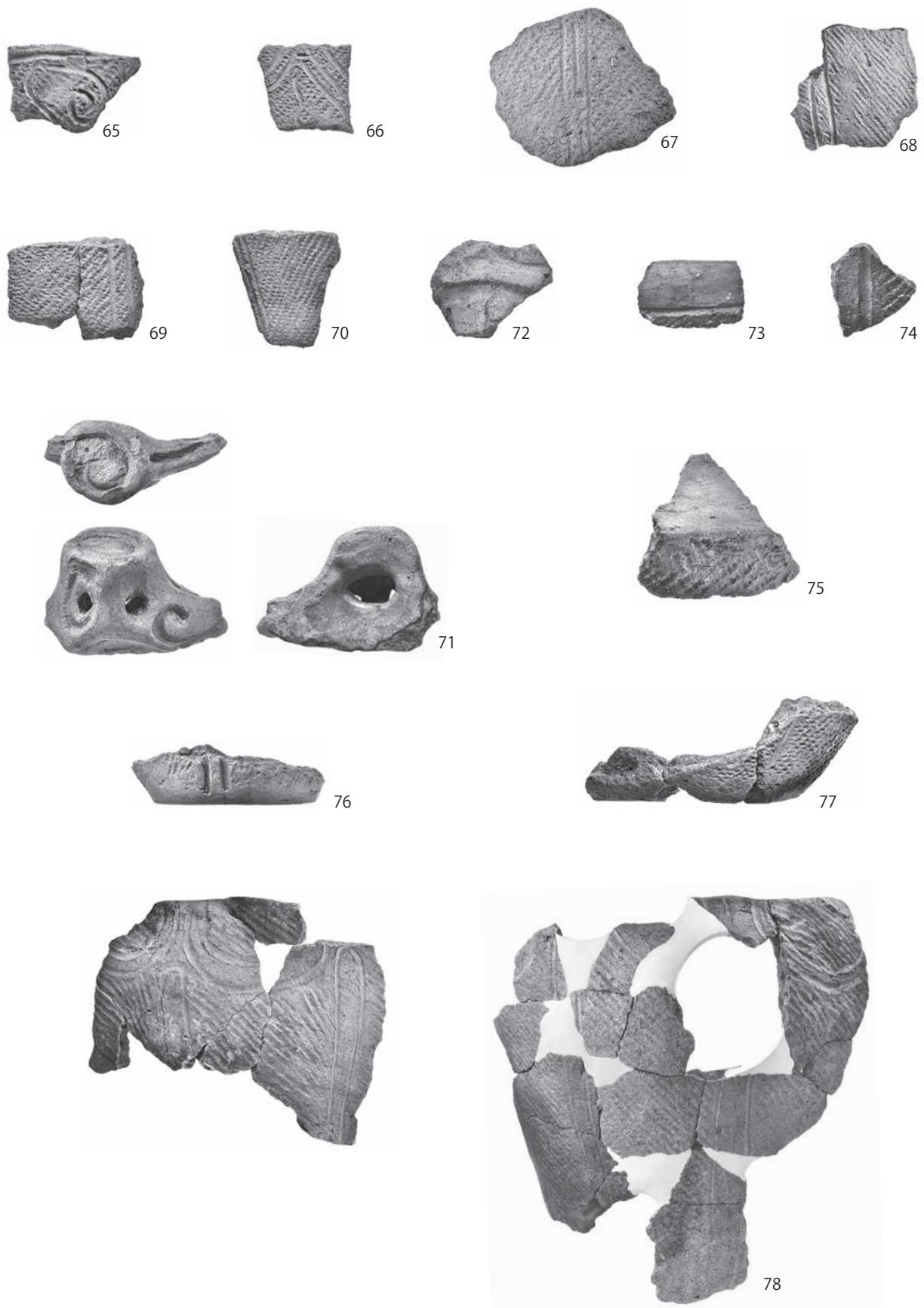
第 57 図 縄文土器 (6)・土製品 (1/3・1/2)



第58図 繩文土器写真(1)



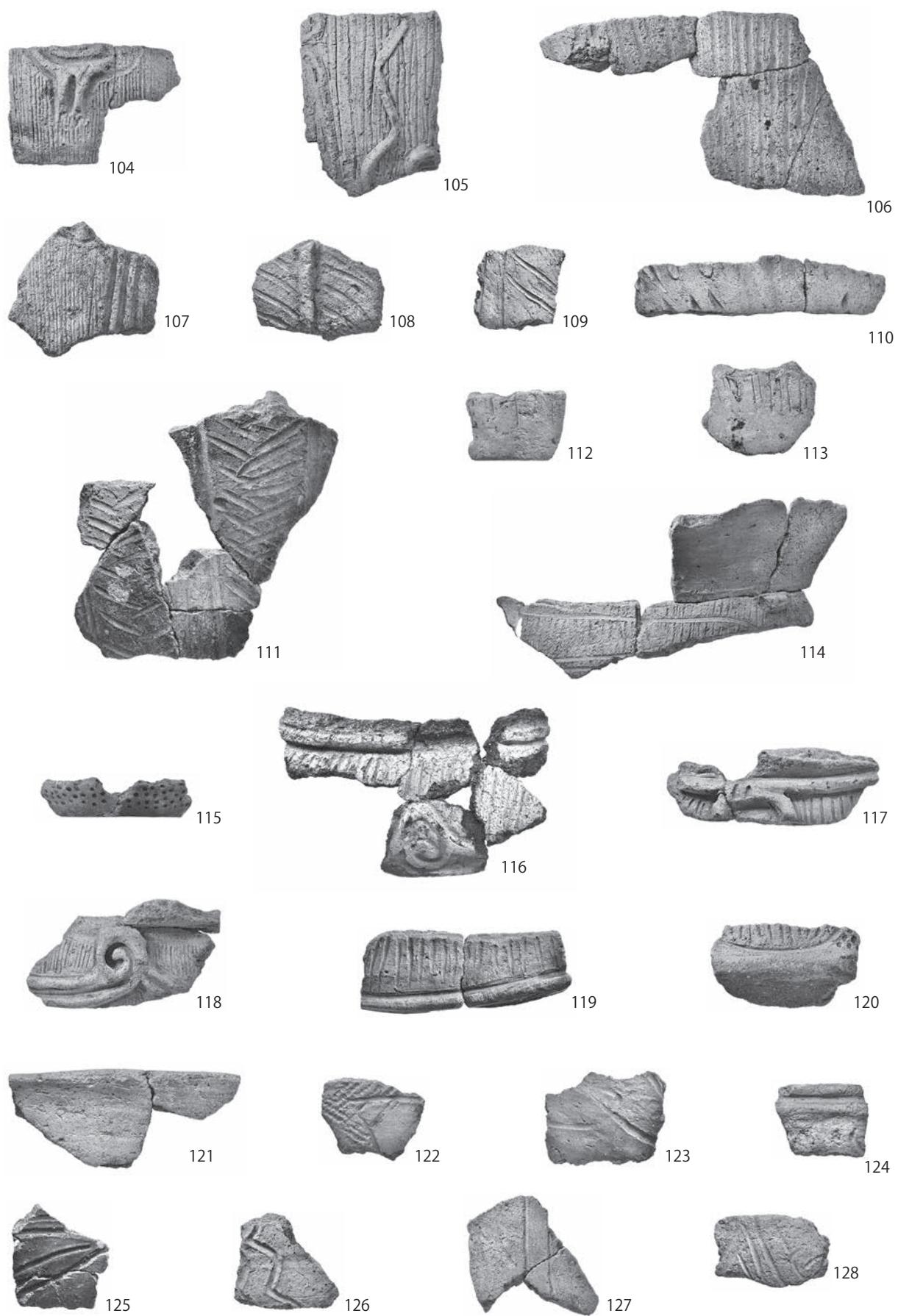
第 59 図 縄文土器写真 (2)



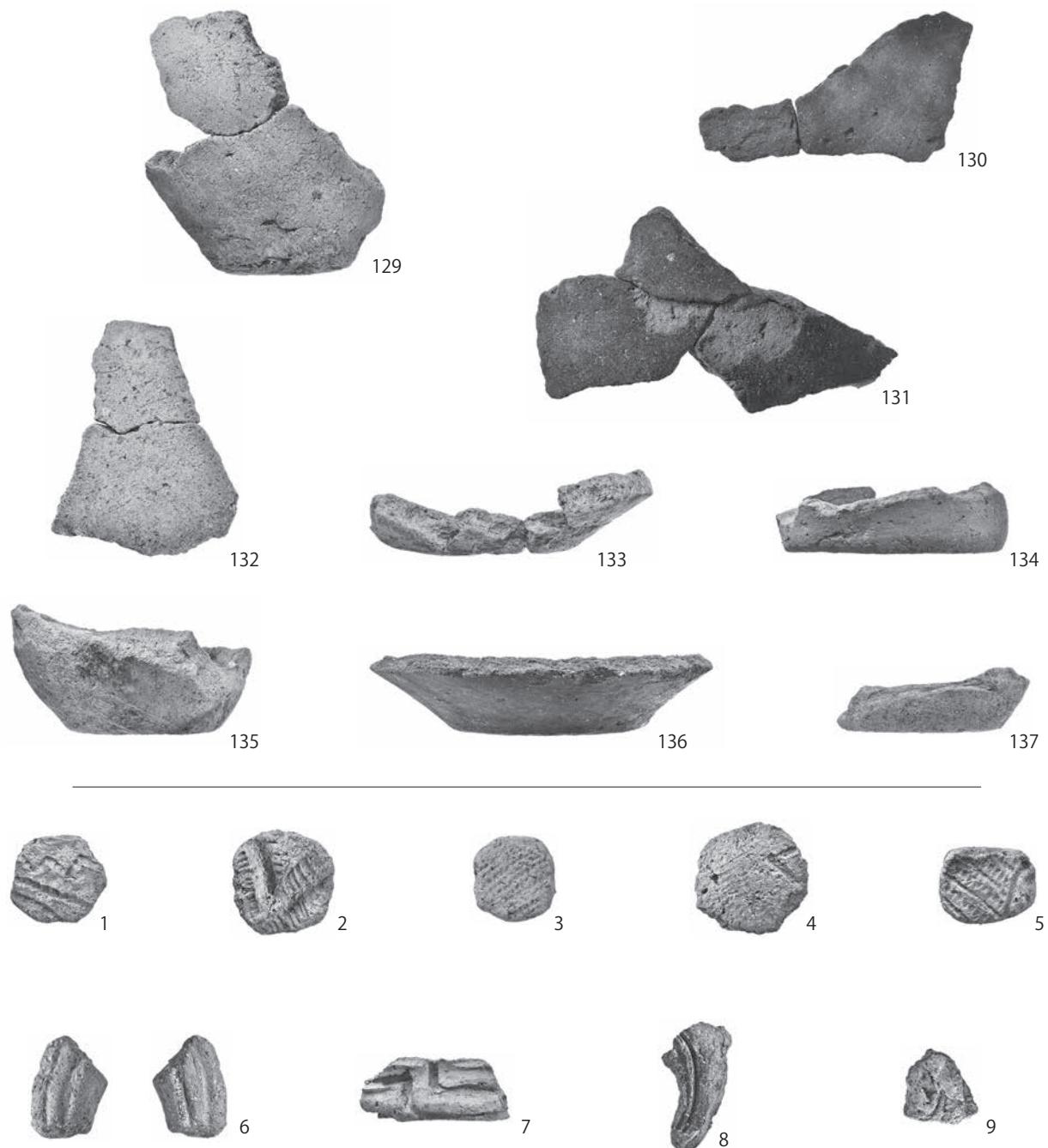
第 60 図 縄文土器写真 (3)



第 61 図 繩文土器写真 (4)



第 62 図 繩文土器写真 (5)



第63図 縄文土器・土製品写真(6)

に主たる分布をなす「背面人体文土偶」に属するならば、比較的大形のサイズと推察する。

7は、ミニチュア土器の底部付近の破片と思われる資料である。底部がやや張り出す断面形状を呈し、底部直上にクランク状の沈線文が2本観察される。残存部から推察すると、底面は円形ではなく不整橿円形を呈する様であり、他の土製品である可能性も否定できない。

8・9は、断面形態がかなり湾曲し、内面の調整が土器に比べて不十分であり、その残存状況からミニチュア土器ではなく土鈴と判断する。8には2本沈線を認める。

第8表 縄文時代土器観察表(1)

図	番号	出土地点・層位	時期	型式	器種	部位	文様の施文工程・特徴	胎土	焼成	色調	備考
第52・58図	1	34N-45	早期前半	夏島～稻荷台	深鉢	口縁	条が太く条間が密な撚糸文 R	長石、輝石、石英を含む。	普通	外 10YR6/4 にぶい黄橙 内 10YR6/4 にぶい黄橙	
	2	310-85	早期前半	夏島～稻荷台	深鉢	胴	条が細く条間が密な撚糸文 L	石英、雲母、チャートを含む。	普通	7.5YR7/6 橙 7.5YR5/1 褐灰	
	3	(SKK105)30P-63・64 30P-63	早期前半	平坂	深鉢	底	無文	石英、長石、砂粒を含む。	普通	7.5YR6/6 橙 7.5YR6/4 にぶい橙	
	4	310-46 330-1	前期後半	諸磯 a	深鉢	胴	地文 LR 幅狭な半截竹管による平行沈線文	砂粒を多く含む。	普通	7.5YR5/4 にぶい褐 7.5YR4/3 褐	胎土から 5 とは別個体
	5	310-67	前期後半	諸磯 a	深鉢	胴	地文 LR 幅狭な半截竹管による平行沈線文	長石、輝石、石英を含む。	普通	7.5YR7/6 橙 7.5YR7/4 にぶい橙	
	6	(SI31)310-60 310-50・70 320-42・61	前期後半	諸磯 b	深鉢	口縁～胴	条の粗い LR	小礫、長石、石英を含む。	普通	7.5YR6/4 にぶい橙 7.5YR6/4 にぶい橙	
	7	(SI31)320-51 320-61	前期後半	諸磯 b	深鉢	口縁	条の粗い LL もしくは RR	長石、石英、輝石を含む。	普通	7.5YR5/4 にぶい褐 7.5YR6/4 にぶい橙	6 と同一個体の可能性あり
	8	(SKK295)30P-26・27	前期後半	諸磯 C	深鉢	口縁	口唇に連続刻み 地文細条線による集合沈線	石英、長石、チャートを含む。	普通	7.5YR5/3 にぶい褐 7.5YR5/4 にぶい褐	
	9	31P-31	前期後半	諸磯 C	深鉢	口縁	地文条線 口唇から口縁に結節状浮線文 内面に条痕状の平行沈線	石英、赤色スコリアを含む。	普通	5YR5/4 にぶい赤褐 5YR6/6 橙	
	10	31P-31	前期後半	諸磯 C	深鉢	胴	地文細条線による集合沈線ナメ・タテ	チャート、赤色スコリアを含む。	普通	5YR5/4 にぶい赤褐 7.5YR4/4 褐	
	11	30P-65	中期初頭	五領ヶ台 I	深鉢	胴	橋状把手 半截竹管によるタテ・ヨコ集合沈線	石英、雲母を多量に含む。	普通	5YR4/3 にぶい赤褐 2.5YR5/6 明赤褐	
	12	(SD10)34N-36	中期初頭	五領ヶ台 I	深鉢	口縁	隆帶上に RL 沈線椭円文 幅狭な押引文	石英、チャートを含む。	良好	5YR5/6 明赤褐 5YR6/6 橙	
	13	34N-55	中期初頭	五領ヶ台 I	深鉢	口縁	口唇に連続刻み 地文格子状の細沈線 幅狭な押引文	石英、長石、チャート、砂粒を含む。	普通	5YR5/4 にぶい赤褐 5YR5/3 にぶい赤褐	
	14	320-12・14・21・52	中期初頭	五領ヶ台 II	深鉢	口縁～胴	波状口縁 地文 RL 半截竹管による連続刻みを有する隆帶文	石英、雲母を多量に含む。	良好	5YR5/4 にぶい赤褐 5YR5/6 明赤褐	
	15	34N-51	中期初頭	五領ヶ台 II	深鉢	口縁	口唇に連続刻み RL 幅広の沈線文 三角印刻文	雲母、石英を多量に含む。	普通	5YR4/4 にぶい赤褐 5YR5/6 明赤褐	
	16	34N-51	中期初頭	五領ヶ台 II	深鉢	口縁～胴	頭部に隆帶区画 口縁に幅広沈線文と隆帶文	雲母、石英、長石、砂粒を多く含む。	普通	5YR4/6 赤褐 7.5YR5/4 にぶい褐	
	17	(SP518)33N-58	中期初頭	五領ヶ台 II	深鉢	口縁	口唇に連続刻み 口縁に隆帶文と細沈線文 三角印刻文	石英、長石、チャートを含む。	良好	5YR4/4 にぶい赤褐 5YR5/4 にぶい赤褐	
	18	33N-83・92	中期初頭	五領ヶ台	深鉢	胴	地文 RL 幅狭な半截竹管による平行沈線文	チャートを含む。	良好	5YR5/4 にぶい赤褐 5YR4/4 にぶい赤褐	
	19	310-82	中期初頭	五領ヶ台	浅鉢	口縁	3 列の角押文	石英を多量に含む。	普通	7.5YR6/6 橙 7.5YR6/6 橙	
	20	(SK170)34N-23	中期初頭	五領ヶ台	浅鉢	口縁	扇状隆帶に刻み 隆帶に沿って複数列の角押文	チャートを含む。	良好	7.5YR6/4 にぶい橙 7.5YR6/4 にぶい橙	
	21	SS6 310-79	中期初頭	五領ヶ台	深鉢	底	垂下隆帶文に沿って結節沈線	チャート、石英を含む。	普通	5YR5/6 明赤褐 5YR3/1 黒褐	
	22	32N-100	中期前半	勝坂 1 (猪沢)	深鉢	口縁	矩形の角押文が 2 列	石英、雲母、長石を含む。	良好	5YR5/4 にぶい赤褐 5YR5/4 にぶい赤褐	
	23	320-23	中期前半	勝坂 1 (猪沢)	深鉢	口縁	2 列の角押文	石英、砂粒を含む。	良好	7.5YR7/6 橙 7.5YR5/3 にぶい褐	
	24	33N-48	中期前半	勝坂 1 (猪沢)	深鉢	口縁	波状口縁に弧状の角押文が 3 列	石英を含む。	良好	7.5YR5/3 にぶい褐 7.5YR5/4 にぶい褐	
	25	31P-22・31	中期前半	勝坂 1 (新道)	深鉢	口縁	隆帶三角区画文内にベン先文 (三角押文) と三叉文	チャート、赤色スコリアを含む。	普通	5YR5/4 にぶい赤褐 5YR5/4 にぶい赤褐	
	26	320-14	中期前半	勝坂 1 (新道)	深鉢	口縁	幅広のキャタピラ文とベン先文	石英、砂粒を多く含む。	普通	10YR5/4 にぶい黄褐 7.5YR6/4 にぶい橙	
	27	310-58	中期前半	勝坂 1 (新道)	深鉢	口縁	隆帶三角区画文内に幅広と幅狭な 2 種のベン先文	赤色粒子、砂粒を含む。	普通	5YR7/6 橙 5YR6/6 橙	
	28	33N-67	中期前半	勝坂 1 (新道)	深鉢	口縁	口唇に渦巻状小突起 隆帶区画文内に幅狭なキャタピラ文	石英、チャートを含む。	良好	10YR5/4 にぶい黄褐 7.5YR6/4 にぶい橙	
	29	310-84	中期前半	勝坂 1 (新道)	深鉢	胴	隆帶梢円区画文内に幅狭なキャタピラ文とベン先文	雲母、石英を含む。	良好	5YR5/4 にぶい赤褐 5YR6/6 橙	
	30	320-11	中期前半	勝坂 1 (新道)	深鉢	胴	幅狭な多段のキャタピラ文に鋸歯状のキャタピラ文	石英、砂粒を含む。	普通	5YR6/6 橙 7.5YR6/4 にぶい橙	

第8表 繩文時代土器観察表(2)

図	番号	出土地点・層位	時期	型式	器種	部位	文様の施文工程・特徴	胎土	焼成	色調	備考
第52・58図	31	(SKK664)33N-57・58 33N-58	中期前半	勝坂1 (猪沢~新道)	深鉢	胴	器面にヒダ状圧痕 隆帯文の痕跡	石英、輝石を含む。	普通	7.5YR6/3にぶい褐 7.5YR7/3にぶい橙	阿玉台式の影響
	32	34N-3	中期前半	勝坂1 (猪沢~新道)	深鉢	胴	器面にヒダ状圧痕	赤色粒子、チャートを含む。	良好	5YR5/4にぶい赤褐 5YR4/2灰褐	阿玉台式の影響
	33	33N-85	中期前半	勝坂1 (猪沢~新道)	深鉢	胴	半截竹管による矩形区画 内に刺突が巡る	石英、長石、赤色スコリアを含む。	普通	5YR6/6 橙 5YR5/4にぶい赤褐	
第53・59図	34	34N-46	中期前半	勝坂2(藤内)	深鉢	口縁	隆帯上にRL 隆帯に沿って波状沈線	チャートを含む。	良好	5YR6/6 橙 5YR5/4にぶい赤褐	
	35	320-20	中期前半	勝坂2(藤内)	深鉢	口縁	隆帯三角区画文に刻み 区画内に幅狭なキャタピラ文と玉抱き三叉文	チャート、石英を含む。	普通	2.5YR4/6赤褐 2.5YR4/4にぶい赤褐	
	36	34N-14	中期前半	勝坂2(藤内)	深鉢	胴	刻みを持つ隆帯に幅広のキャタピラ文とベン先文が梢円に巡る「ワラジムシ文」	石英、長石、チャート、赤色粒子を含む。	良好	5YR4/4にぶい赤褐 5YR5/4にぶい赤褐	
	37	34N-13・23	中期前半	勝坂2(藤内)	深鉢	胴	隆帯梢円区画文内に幅広のキャタピラ文	雲母、石英を多量に含む。	普通	5YR5/4にぶい赤褐 5YR5/4にぶい赤褐	
	38	30P-19	中期前半	勝坂2(藤内)	深鉢	口縁	隆帯梢円区画文内に刻みと沈線充填	石英を含む。	良好	7.5YR5/4にぶい褐 7.5YR6/4にぶい橙	
	39	320-28	中期前半	勝坂2(藤内)	深鉢	胴	刻みを持つ隆帯梢円区画文内にタテ・ヨコ沈線充填	チャート、石英を含む。	普通	5YR5/4にぶい赤褐 5YR5/6明赤褐	
	40	320-41	中期前半	勝坂2(藤内)	深鉢	胴	交互刺突を施す隆帯懸垂文に沿って多段の斜行沈線文	チャートを含む。	普通	7.5YR5/3にぶい褐 7.5YR6/4にぶい橙	
	41	320-22	中期前半	勝坂3(井戸尻)	深鉢	口縁	多喜窪タイプ 交互刺突を施す隆帯に沿って太沈線を施す	雲母、石英を含む。	普通	7.5YR5/4にぶい褐 7.5YR4/2灰褐	
	42	33N-47・48	中期前半	勝坂3(井戸尻)	深鉢	口縁	多喜窪タイプ 玉抱き三叉文を施す	雲母、石英を多量に含む。	普通	5YR5/4にぶい赤褐 5YR4/4にぶい赤褐	
	43	320-25	中期前半	勝坂3(井戸尻)	深鉢	口縁～胴	連続刺突を施す複数列の斜位隆文 地文L	石英を含む。	良好	5YR3/1 黒褐 5YR5/4にぶい赤褐	
	44	320-24	中期前半	勝坂3(井戸尻)	深鉢	頸	口縁部を区画する幅広の横位隆帯に間隔を開けた短沈線 脊部に撚糸文R?	石英、長石を含む。	普通	5YR5/4にぶい赤褐 7.5YR5/4にぶい褐	
	45	34N-28	中期前半	勝坂2～3	浅鉢	口縁	無文	チャート、石英を含む。	普通	5YR5/6明赤褐 5YR6/6 橙	内面に赤彩の痕跡
	46	(SI56)34N-45	中期前半	勝坂3(井戸尻)	深鉢	口縁	眼鏡状突起(欠損)から刻みを有する隆帯文が垂下	石英、雲母を含む。	良好	5YR7/6 橙 7.5YR6/4にぶい橙	
	47	34N-14	中期前半	勝坂2～3	浅鉢	口縁	波状口縁 口唇部折り返し	石英、雲母を多量に含む。	普通	10YR5/3にぶい黄褐 10YR5/3にぶい黄褐	
	48	(SI51)320-23 320-23	中期前半	勝坂2～3	浅鉢	口縁	梢円区画文が横に巡る	雲母、石英を含む。	良好	7.5YR6/4にぶい橙 7.5YR5/3にぶい褐	
	49	310-45	中期前半	阿玉台II	深鉢	口縁	波状口縁 波状の平行沈線文	雲母、石英を多量に含む。	普通	7.5YR6/4にぶい橙 7.5YR5/4にぶい褐	
	50	320-6	中期前半	阿玉台II	深鉢	胴	隆帯曲線文に沿って2列の結節沈線文	雲母、石英、赤色スコリアを多量に含む。	普通	7.5YR6/6 橙 7.5YR6/4にぶい橙	
	51	(SKK594)320-10	中期前半	阿玉台II	深鉢	口縁	刻みを有する蛇行隆帯文の脇に角押文	石英、小礫を含む。	良好	7.5YR5/2灰褐 7.5YR4/2灰褐	
	52	33N-75	中期前半	阿玉台Ib～II	深鉢	胴	器面にヒダ状圧痕	石英を含む。	普通	5YR4/4にぶい赤褐 5YR5/4にぶい赤褐	
	53	33N-47	中期後半	加曾利E1	深鉢	口縁	地文撚糸文R 断面三角状の隆帯渦巻文に沈線添付	石英を含む。	普通	5YR5/3にぶい赤褐 5YR5/2灰褐	
	54	320-24	中期後半	加曾利E1	深鉢	口縁	地文撚糸文R 隆帯S字文に沈線添付の痕跡	長石、石英を含む。	普通	5YR5/4にぶい赤褐 5YR5/3にぶい赤褐	
	55	32N-87	中期後半	加曾利E2	深鉢	口縁	地文RL 隆帯文	石英、赤色粒子、輝石を含む。	普通	7.5YR6/6 橙 7.5YR5/3にぶい褐	
	56	30P-65	中期後半	加曾利E2	深鉢	口縁	隆帯と沈線による渦巻文と梢円区画文 区画内に沈線充填	長石、石英を含む。	普通	7.5YR6/4にぶい橙 7.5YR5/2灰褐	
	57	310-68	中期後半	加曾利E2	深鉢	口縁	地文RL 隆帯と沈線による突起を有する渦巻文	石英、長石、輝石を含む。	普通	7.5YR6/4にぶい橙 7.5YR5/3にぶい褐	

第8表 繩文時代土器観察表(3)

図	番号	出土地点・層位	時期	型式	器種	部位	文様の施文工程・特徴	胎土	焼成	色調	備考
第53・59図	58	33N-63・67	中期後半	加曾利 E2	深鉢	口縁	隆帯による口縁部文様帯 区画 地文 LR	チャートを含む。	普通	7.5YR6/4 にぶい橙 5YR6/6 橙	
	59	320-9	中期後半	加曾利 E2	深鉢	口縁	渦巻文と楕円区画文 区 画内に RL	チャートを含む。	良好	5YR5/3 にぶい赤褐 5YR5/3 にぶい赤褐	
	60	30P-64	中期後半	加曾利 E2	深鉢	口縁	沈線による渦巻文と楕円 区画文	砂粒を含む。	普通	5YR6/4 にぶい橙 5YR5/3 にぶい赤褐	
	61	320-1	中期後半	加曾利 E2	深鉢	口縁	頸部にも文様帯区画の横 位沈線が巡る 口縁部無文	砂粒を含む。	普通	5YR6/4 にぶい橙 5YR5/4 にぶい赤褐	
	62	320-52	中期後半	加曾利 E1	深鉢	胴	地文 L 半截竹管による 半隆起状の平行沈線文	チャート、砂粒 を含む。	普通	7.5YR6/4 にぶい橙 7.5YR5/2 灰褐	
	63	33N-56	中期後半	加曾利 E2	深鉢	胴	地文 RL 3 本沈線の懸垂 文	砂粒、雲母を含 む。	普通	7.5YR6/4 にぶい橙 7.5YR6/4 にぶい橙	
	64	320-53	中期後半	加曾利 E2	深鉢	胴	地文 LR 3 本沈線の渦巻 文	砂粒、赤色粒子 を含む。	良好	7.5YR6/4 にぶい橙 7.5YR6/4 にぶい橙	
	65	34N-28	中期後半	加曾利 E2	深鉢	胴	地文 RL 横位・垂下す る沈線と渦巻の組み合せ	砂粒を含む。	良好	5YR5/4 にぶい赤褐 5YR6/4 にぶい橙	
第54・60図	66	310-79	中期後半	加曾利 E2	深鉢	胴	地文 RL 3 本沈線の弧線 文と 1 本沈線の垂下する 蛇行文	チャート、砂粒 を含む。	普通	5YR5/4 にぶい赤褐 7.5YR6/4 にぶい橙	
	67	31P-7	中期後半	加曾利 E2	深鉢	胴	地文 RL 3 本沈線の懸垂 文	石英、赤色粒子、 砂粒を含む。	普通	5YR5/6 明赤褐 5YR5/6 明赤褐	
	68	310-86	中期後半	加曾利 E2	深鉢	胴	地文 LR 3 本沈線の懸垂 文と 1 条の垂下する蛇行 沈線文を交互に配置	石英、チャート、 砂粒を含む。	普通	5YR6/6 橙 5YR4/2 灰褐	内面に炭化物付着
	69	310-55 320-62	中期後半	加曾利 E2	深鉢	胴	地文 RL 2 本もしくは 3 本沈線の懸垂文	砂粒を含む。	普通	5YR6/6 橙 5YR3/1 黒褐	
	70	(SI48)320-10	中期後半	加曾利 E2	深鉢	胴	地文 RL 2 本もしくは 3 本沈線の懸垂文	石英、砂粒を含 む。	良好	5YR5/4 にぶい赤褐 5YR5/3 にぶい赤褐	
	71	310-94	中期後半	加曾利 E3	深鉢	口縁	小突起を有する波状口縁 波頂部に隆帯渦巻文 口縁部に対向する円孔文	チャート、石英 を含む。	良好	7.5YR5/4 にぶい褐 7.5YR7/6 橙	
	72	31P-5	中期後半	加曾利 E3	深鉢	口縁～胴	口縁部に沈線充填の楕円 区画文 胴部に磨消繩文	石英、長石、小 礫を含む。	普通	5YR5/4 にぶい赤褐 5YR5/6 明赤褐	
	73	310-69	中期後半	加曾利 E3	深鉢	口縁	口縁部文様帶喪失 地文 LR	口縁部を含む。	普通	5YR5/3 にぶい赤褐 7.5YR6/4 にぶい橙	
	74	(SI34)310-78	中期後半	加曾利 E3	深鉢	胴	2 本太沈線による懸垂文 懸垂文間に充填繩文 RL	砂粒を含む。	普通	7.5YR5/1 褐灰 7.5YR5/4 にぶい褐	
	75	320-26	中期後半	加曾利 E3	鉢	口縁～肩	張り出す肩部に横位隆帯 貼付 口縁部無文 脊部 地文 RL に蛇行沈線文が 垂下?	石英、赤色粒子、 砂粒を含む。	普通	5YR4/4 にぶい赤褐 2.5YR4/4 にぶい赤褐	
	76	310-53	中期後半	加曾利 E2	深鉢	底	地文 RL 2 本単位の沈線 懸垂文	小礫、砂粒、長 石を含む。	普通	7.5YR6/4 にぶい橙 7.5YR5/3 にぶい褐	底径推定 8.8cm 残存高 3.2cm
	77	31P-7・8	中期後半	加曾利 E2	深鉢	底	地文 RL 2 本単位の沈線 懸垂文	石英、砂粒を含 む。	普通	5YR5/6 明赤褐 5YR5/4 にぶい赤褐	底径推定 11.8cm 残存高 5.7cm
	78	310-67・ 68・69・77	中期後半	加曾利 E3	深鉢	口縁	地文 L 口縁部より 2 本 沈線の弧線文と逆 U 字状 の垂下沈線文が横に展開 沈線間を磨消	石英、チャート を含む。	普通	5YR5/6 明赤褐 5YR4/4 にぶい赤褐	口径推定 23.5cm 残存高 22.1cm
第55・61図	79	(SDK458)300-80・ 90-310-71・72・73 31P-14	中期後半	連弧文	深鉢	口縁	口唇部に平行沈線が巡 り、直下より 2 本もしく は 3 本沈線の連弧文 地 文条線	長石、輝石、赤 色粒子、チャー トを含む。	普通	7.5YR6/6 橙 7.5YR6/4 にぶい橙	
	80	310-54	中期後半	連弧文	深鉢	口縁	口唇部断面肥厚 平行沈 線が巡る	チャート、砂粒 を含む。	普通	7.5YR5/4 にぶい褐 7.5YR5/3 にぶい褐	
	81a	31P-14	中期後半	連弧文	深鉢	口縁～胴	地文縦位の沈線 頸部区 画の平行沈線間に円形刺 突列 口縁に連弧文、脣 部に 2 条の波状沈線が巡 る	石英、砂粒を含 む。	普通	5YR4/6 赤褐 5YR3/1 黒褐	頸部径推定 12.4 cm 残存高 6.5cm
	81b	31P-15	中期後半	連弧文	深鉢	底	地文縦位の沈線	石英、砂粒を含 む。	普通	5YR4/6 赤褐 5YR3/1 黒褐	底径 7.4cm 残存高 2.3cm 81a と同一個体
	82	310-68	中期後半	連弧文	深鉢	胴	地文やや間隔が広い条線 3 本沈線の連弧文	細砂粒を多く含 む。	良好	5YR5/4 にぶい赤褐 7.5YR6/4 にぶい橙	

第8表 繩文時代土器観察表(4)

図	番号	出土地点・層位	時期	型式	器種	部位	文様の施文工程・特徴	胎土	焼成	色調	備考
第55・61図	83	310-81	中期後半	連弧文	深鉢	口縁	口唇部に平行沈線が巡り、直下より2本もしくは3本沈線の連弧文 地文条線	砂粒を含む。	良好	7.5YR5/4 にぶい褐 7.5YR6/4 にぶい橙	
	84	310-73	中期後半	連弧文	深鉢	頸～胴	地文条線 頸部は4本の平行沈線で区画	石英、赤色粒子を含む。	普通	7.5YR5/4 にぶい褐 5YR5/4 にぶい赤褐	
	85	31P-11	中期後半	連弧文	深鉢	口縁	地文条線 2本沈線の連弧文	石英、砂粒を含む。	良好	7.5YR6/4 にぶい橙 7.5YR6/3 にぶい褐	
	86	30P-57	中期後半	連弧文	深鉢	胴	地文条線 3本沈線の連弧文	長石、輝石、石英を含む。	普通	7.5YR6/6 橙 7.5YR6/4 にぶい橙	
	87	33N-70	中期後半	曾利I	深鉢	口縁	口縁部の中空把手(いわゆる水煙状把手) 頂部は円環状 蛇行隆帯等による立体的装飾	雲母、石英を多量に含む。	良好	7.5YR5/3 にぶい褐 5YR4/3 にぶい赤褐	勝坂3式に遡る可能性あり
	88	300-90	中期後半	曾利I	深鉢	頸～胴	頸部に2段の蛇行隆帯 脊部は半截竹管による縱位平行沈線の地文に同じく半截竹管による押引きを施した2本隆帯を貼付	石英、砂粒を含む。	普通	5YR5/4 にぶい赤褐 5YR4/3 にぶい赤褐	
	89	310-78	中期後半	曾利I	深鉢	口縁～頸	口縁に半截竹管と細隆帯による斜格子文(いわゆる籠目文) 頸部に蛇行隆帯が巡る	小礫を含む。	普通	10YR5/4 にぶい黄褐 10YR6/4 にぶい黄橙	
	90	34N-5	中期後半	曾利II	深鉢	口縁	隆帯と沈線施文による重弧文	長石、砂粒を含む。	普通	5YR5/4 にぶい赤褐 7.5YR5/4 にぶい褐	
	91	31P-14	中期後半	曾利II	深鉢	口縁	口唇部に沈線が巡る 口縁は沈線による重弧文、重弧文間に垂下する蛇行隆帯を貼付	長石、小礫を含む。	普通	7.5YR6/4 にぶい橙 5YR6/6 橙	
	92	(SKK132)30P-64・65 30P-56	中期後半	曾利III	深鉢	口縁	稚拙な單沈線施文による重弧文	石英、長石、砂粒を含む。	普通	7.5YR6/4 にぶい橙 5YR6/6 橙	
	93	31P-15	中期後半	曾利III	深鉢	口縁～胴	口縁は稚拙な單沈線施文による重弧文 脊部は間隔が疎らな縱位沈線	石英、砂粒を含む。	普通	7.5YR6/4 にぶい橙 10YR6/4 にぶい黄橙	92と同一個体か
	94	30P-55・64・65	中期後半	曾利II～III	深鉢	口縁～頸	口縁は單沈線による斜行文 頸部に蛇行隆帯が巡る	石英、砂粒を含む。	普通	5YR6/6 橙 5YR5/3 にぶい赤褐	口径推定 18.2cm 頸部径推定 12.0cm 残存高 8.6cm
	95	310-87	中期後半	曾利II～III	深鉢	口縁	單沈線による斜行文	砂粒を含む。	良好	10YR7/4 にぶい黄橙 10YR7/4 にぶい黄橙	
	96	31P-7	中期後半	曾利III～IV	深鉢	口縁	波状口縁 隆帯装飾の頂部及び両脇に沈線渦巻文	石英、砂粒を含む。	良好	5YR4/4 にぶい赤褐 5YR5/4 にぶい赤褐	
	97	31P-4	中期後半	曾利	深鉢	口縁	無文 口唇内面は断面三角形に肥厚	砂粒を含む。	普通	7.5YR7/6 橙 7.5YR6/4 にぶい橙	
	98	310-59	中期後半	曾利	深鉢	口縁	無文 口唇内面は断面や三角形に肥厚	小礫、赤色粒子を含む。	普通	10YR6/4 にぶい黄橙 10YR6/4 にぶい黄橙	
	99	320-30	中期後半	曾利II～III	深鉢	口縁	口唇頂部から口縁にかけて斜行文 口唇内面は断面三角形に肥厚	細砂粒、赤色粒子を含む。	普通	10YR5/2 灰黄褐 10YR5/3 にぶい黄褐	
	100	310-53	中期後半	曾利III	深鉢	口縁	口唇部ミガキ整形後に口縁部に条線を施す	石英、砂粒、赤色粒子を含む。	普通	10YR6/4 にぶい橙 10YR5/3 にぶい褐	
	101	30P-43	中期後半	曾利III	深鉢	口縁	口唇部ミガキ整形後に口縁部に条線を施す 口縁部下端に一条の横位隆帯	石英、長石、砂粒を含む。	普通	5YR4/4 にぶい赤褐 5YR4/3 にぶい赤褐	
	102	310-65	中期後半	曾利II～III	深鉢	胴	地文は半截竹管と棒状工具による沈線 脊部上端に半截竹管による押引きを施した隆帯貼付 脊部下端に曲線隆帯の痕跡	石英、長石、砂粒を多量に含む。	良好	5YR4/3 にぶい赤褐 5YR4/4 にぶい赤褐	
	103	(SI20)31P-4 31P-32	中期後半	曾利III～IV	深鉢	頸～胴	2本隆帯の渦巻文と1本隆帯の蛇行文の間に斜行短沈線を充填	砂粒、赤色粒子を含む。	普通	7.5YR7/6 橙 7.5YR4/2 灰褐	
第56・62図	104	31P-6・15	中期後半	曾利II～III	深鉢	胴	地文条線 沈線と隆帯による渦巻文より2本隆帯が垂下	砂粒、赤色粒子を含む。	良好	7.5YR7/6 橙 7.5YR6/6 橙	
	105	310-48	中期後半	曾利II～III	深鉢	胴	地文沈線 1本沈線の隆帯文が複数垂下	石英、輝石、チャート、砂粒を含む。	良好	7.5YR7/6 橙 7.5YR6/6 橙	

第8表 縄文時代土器観察表(5)

図	番号	出土地点・層位	時期	型式	器種	部位	文様の施文工程・特徴	胎土	焼成	色調	備考
第56・62図	106	(SK120)320-44 310-68・70 320-33	中期後半	曾利II～III	深鉢	胴	地文沈線	石英、赤色粒子、砂粒を含む。	普通	7.5YR7/6 橙 7.5YR5/2 灰褐	
	107	31P-23	中期後半	曾利II～III	深鉢	胴	地文条線 3本沈線の懸垂文 隆帶貼付の痕跡	石英、砂粒を含む。	普通	7.5YR5/4 にぶい褐 7.5YR4/2 灰褐	内面炭化物付着 二次焼成顯著
	108	310-79	中期後半	曾利IV～V	深鉢	胴	1本隆帶の懸垂文の間に斜行短沈線を充填	小礫、赤色粒子、チャートを含む。	普通	5YR4/4 にぶい赤褐 7.5YR5/4 にぶい褐	
	109	310-95	中期後半	曾利IV～V	深鉢	胴	2本沈線の懸垂文の間に斜行短沈線を充填	砂粒を含む。	普通	7.5YR6/3 にぶい褐 7.5YR6/2 灰褐	
	110	320-9	中期後半	曾利V	深鉢	胴	太沈線による縦位区画内にいわゆる雨垂れ文を充填	チャート、砂粒を含む。	普通	5YR6/6 橙 5YR6/4 にぶい橙	
	111	310-77・87	中期後半	曾利IV～V	深鉢	胴	太沈線による縦位区画内にいわゆる綾杉文を充填	石英、小礫を含む。	普通	5YR5/3 にぶい赤褐 5YR5/4 にぶい赤褐	
	112	31P-15	中期後半	曾利	深鉢	底	地文沈線	長石、チャートを含む。	普通	5YR6/6 橙 7.5YR5/3 にぶい褐	底径推定 7.2cm 残存高 3.7cm
	113	31P-5	中期後半	曾利	深鉢	胴	底部付近 地文沈線	長石、赤色粒子、砂粒を含む。	普通	7.5YR6/4 にぶい橙 10YR4/1 褐灰	
	114	31P-6・7	中期後半	曾利II～III	浅鉢	口縁～肩	口唇内面に肥厚 頸部に半截竹管による押引きを施す隆帶が巡る 肩部に地文撚糸文Lを施し隆帶と沈線による区画文	チャート、長石、石英を含む。	普通	5YR6/6 橙 5YR6/8 橙	曾利I ? 二次焼成顯著
	115	30P-55・65	中期後半	曾利III～IV	鉢	底	小形の円形刺突を充填	チャート、石英、砂粒を含む。	普通	5YR4/3 にぶい赤褐 2.5YR4/6 赤褐	底径推定 7.0cm 残存高 2.2cm
	116	(SI24)30P-38 (SKK172)30P-28 30P-40・52・65	中期後半	曾利II～III	浅鉢	肩	隆帶による 地文沈線 隆帶と沈線による渦巻文と剣先文の組み合わせが展開	チャート、赤色粒子、砂粒を含む。	普通	10YR5/3 にぶい黄褐 10YR6/4 にぶい黄橙	
	117	(SKK132)30P-64・ 65 30P-56	中期後半	曾利II～III	浅鉢	肩	隆帶による文様帶区画 地文沈線 刻みを施した 隆帶渦巻文	チャート、砂粒を含む。	普通	7.5YR6/4 にぶい橙 7.5YR6/4 にぶい橙	
第57・63図	118	31P-14	中期後半	曾利II～III	浅鉢	口縁～肩	隆帶と沈線による横位連繋の渦巻文に梢円区画文の組み合わせ 梢円区画文内に条線充填	砂粒を含む。	普通	10YR6/4 にぶい黄橙 10YR5/3 にぶい黄褐	
	119	30P-65 31P-14	中期後半	曾利II～III	浅鉢	肩	隆帶による分帶 区画内に短沈線充填	チャート、赤色粒子、砂粒を含む。	普通	5YR5/4 にぶい赤褐 7.5YR6/4 にぶい橙	
	120	30P-25	中期後半	曾利II～III	浅鉢	肩	隆帶梢円区画文が横に展開 隆帶上に刺突列 区画内に短沈線充填	砂粒、長石を含む。	普通	10YR6/4 にぶい黄橙 10YR5/3 にぶい黄褐	
	121	31P-14	中期後半	曾利II～III	浅鉢	口縁	口唇部内面肥厚 無文	長石、チャート、砂粒を含む。	普通	10YR6/3 にぶい黄橙 10YR5/3 にぶい黄褐	
	122	(SDK134)31P-1・2	後期初頭	称名寺I	深鉢	胴	沈線描出のJ字文に縄文LR充填	石英、砂粒を含む。	普通	5YR5/4 にぶい赤褐 7.5YR5/4 にぶい褐	
	123	34M-96	後期初頭	称名寺I	深鉢	胴	沈線描出の鉤状文に縄文L充填	チャート、砂粒を含む。	普通	5YR6/6 橙 7.5YR5/1 褐灰	
	124	32N-88	後期前半	堀之内1	深鉢	口縁	口唇は有段、直下に横位沈線が1条巡る 脣部に沈線文 いわゆる下北原タイプの沈線文系土器	チャート、石英、砂粒を含む。	普通	5YR7/6 橙 7.5YR7/4 にぶい橙	下北原タイプ
	125	33N-77・78	後期前半	堀之内1	鉢	胴	2本単位の横位・斜位沈線文	チャート、砂粒を含む。	普通	7.5YR3/1 黒褐 7.5YR6/4 にぶい橙	
	126	(SK76)31P-23	後期前半	堀之内1	深鉢	胴	2本単位の鋸歯状沈線文が垂下	チャート、砂粒を含む。	普通	5YR5/4 にぶい赤褐 7.5YR6/4 にぶい橙	
	127	310-73	後期前半	堀之内1	深鉢	胴	2本沈線の懸垂文 下北原タイプの沈線文系土器	砂粒を含む。	普通	7.5YR6/4 にぶい橙 7.5YR5/4 にぶい褐	下北原タイプ
	128	(SKK177)30P-28・29	後期前半	堀之内2	鉢	胴	沈線による簡略化した重三角文と渦巻文 部分的に縄文LR充填	石英、砂粒を含む。	普通	7.5YR6/4 にぶい橙 7.5YR5/3 にぶい褐	
	129	33N-57・67	中～後期	不明	深鉢	胴～底	無文	石英、チャート、赤色粒子を含む。	普通	7.5YR6/6 橙 5YR6/6 橙	後期前半?
	130	31P-15	中～後期	不明	浅鉢	胴	無文	石英、砂粒を含む。	普通	7.5YR4/2 灰褐 7.5YR2/1 黒	

第8表 繩文時代土器観察表(6)・土製品観察表

図	番号	出土地点・層位	時期	型式	器種	部位	文様の施文工程・特徴	胎土	焼成	色調	備考
第57・63図	131	30P-20・29・30	中～後期	不明	深鉢	胴	無文	石英、チャート、砂粒を含む。	普通	5YR5/4にぶい赤褐 7.5YR5/4にぶい褐	
	132	31P-14	中～後期	不明	浅鉢	胴	無文	石英、チャート、砂粒を含む。	普通	7.5YR6/4にぶい橙 7.5YR6/4にぶい橙	
	133	30P-20	中～後期	不明	浅鉢	胴～底	無文	石英、長石を含む。	普通	7.5YR6/6 橙 7.5YR6/6 橙	底径推定 10.6 cm 残存高 4.2cm
	134	320-11・12	中～後期	不明	深鉢	底	無文	石英、小礫、輝石を含む。	普通	5YR5/6 明赤褐 5YR5/6 明赤褐	底径 9.8cm 残存高 4.0cm
	135	30P-27	中～後期	不明	深鉢	底	縦位沈線	チャート、石英を含む。	普通	5YR6/6 橙 7.5YR5/4にぶい褐	底径 6.8cm 残存高 5.8cm 中期後半？
	136	320-61	中～後期	不明	浅鉢	底		砂粒、長石、石英、赤色粒子を含む。	良好	5YR5/4にぶい赤褐 5YR4/3にぶい赤褐	底径 9.5cm 残存高 3.7cm
	137	31P-22	中～後期	不明	深鉢	底		チャート、砂粒を含む。	普通	5YR5/4にぶい赤褐 5YR5/6 明赤褐	底径推定 6.6cm 残存高 3.2cm
第57・63図	1	34N-8	中期	勝坂1	土製円盤		勝坂1式(角押文)の胴部破片を使用 周縁打ち欠き、一部研磨加工 平面多角形	チャート、砂粒を含む。	普通	7.5YR5/4にぶい褐 7.5YR6/4にぶい橙	長さ 4.0 × 幅 4.3 × 厚さ 1.4cm
	2	34N-46	中期	勝坂2	土製円盤		勝坂2式(キャタピラ文)の胴部破片を使用 周縁打ち欠きのみ 平面隅丸方形	石英、小礫を含む。	普通	5YR6/6 橙 7.5YR7/4にぶい橙	長さ 4.7 × 幅 4.6 × 厚さ 1.4cm
	3	32N-100	中期	加曾利E2	土製円盤		加曾利E2式と思われる胴部破片使用 周縁ほぼ全周研磨加工 平面隅丸方形	石英、チャートを含む。	普通	5YR6/6 橙 10YR7/4にぶい黄 橙	長さ 4.1 × 幅 3.8 × 厚さ 1.1cm
	4	32N-99	中期	加曾利E2	土製円盤		加曾利E2式と思われる胴部破片使用 周縁打ち欠きのみ 平面多角形	石英、長石、砂粒を含む。	普通	5YR5/6 明赤褐 7.5YR5/4にぶい褐	長さ 5.2 × 幅 5.2 × 厚さ 1.1cm
	5	SS6 310-79	中期	加曾利E2	土製円盤		加曾利E2式(LRにRの付加条縄文)の胴部破片を使用 周縁ほぼ全周研磨加工 平面隅丸長方形	長石、石英、赤色粒子を含む。	普通	7.5YR6/4にぶい橙 7.5YR6/4にぶい橙	長さ 3.6 × 幅 4.6 × 厚さ 1.4cm
	6	(SI19)310-92	中期		土偶	腕	平面がやや湾曲する形状 表裏に2本沈線	石英、チャート、長石を含む。	普通	7.5YR5/6 明褐	長さ 3.2 × 幅 2.2 × 厚さ 1.3cm
	7	30P-28	中期		ミニチュア土器	底	2本沈線によるクランク状の文様	チャート、石英、砂粒を含む。	良好	10YR6/4にぶい黄 10YR5/2灰黄褐	残存高 2.1 × 幅 4.6 × 厚さ 0.9cm
	8	30P-28	中期		土鈴		2本沈線	砂粒を含む。	普通	5YR4/4にぶい赤褐 5YR4/6赤褐	長さ 4.1 × 幅 1.8 × 厚さ 0.6cm
	9	30P-36	中期		土鈴		無文	石英、小礫、砂粒を含む。	普通	2.5YR4/6 赤褐	長さ 2.4 × 幅 2.4 × 厚さ 0.6cm

※出土位置欄の()内は縄文時代以降の遺構を示す。

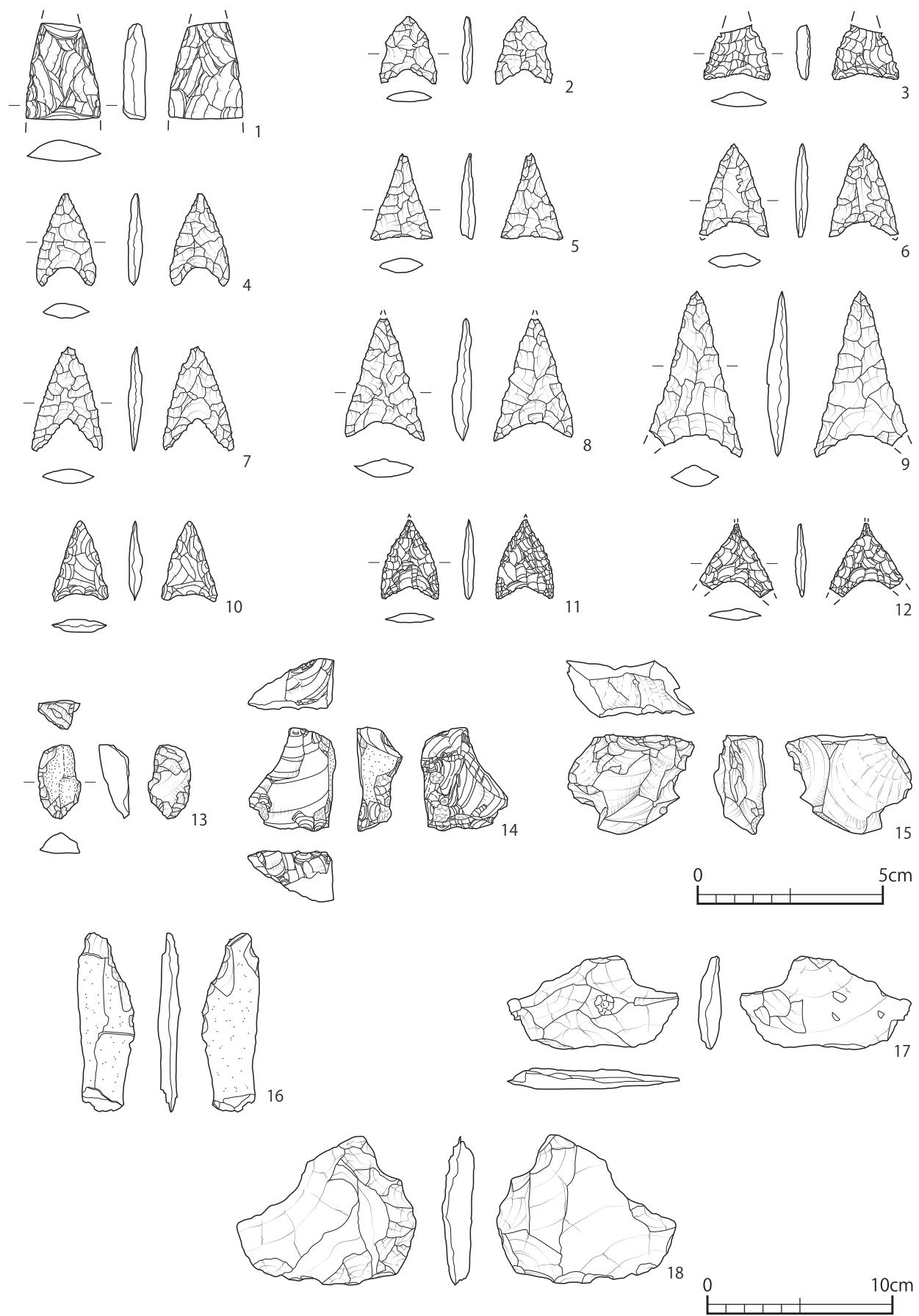
C 石器(第64～77図、第9表)

今回の調査で出土した縄文石器は、土器と同様にほぼ全域に分布しており、偏在する傾向は窺えない。器種としては打製石斧が大半であり、欠損品も多く出土している。また石器製作時に生じた剥片も多く出土しているが製品と同様に偏在する傾向は窺えず、いずれも廃棄によるものと推察する。以上の所見より、石器に関しても土器と同様に集落本体で直接廃棄された状況とは異なる二次廃棄的な様相を示しているものと思われ、当該区が集落本体の隣接もしくは近接箇所に相当する可能性を支持するものと考える。石器の帰属時期については、土器のそれから判断すると一部を除き、早期前半から後期前半までと思われ、特に打製石斧や磨石、敲石は概ね中期に帰属するものであろう。

以下、機種別に掲載可能な資料を提示し、特筆すべき資料を中心に解説を行う。なお、本文では記載しない各資料の石材、法量に関しては、観察表(第9表)を参照されたい。

尖頭器

1は草創期以前の尖頭器もしくは有舌尖頭器と判断する。先端と胴下半部を欠損する。両欠損部は長軸に対して直交、水平に破断している状態である。欠損部の断面を観察すると、使用(投射)によっ



第64図 縄文時代石器(1)(2/3・1/3)



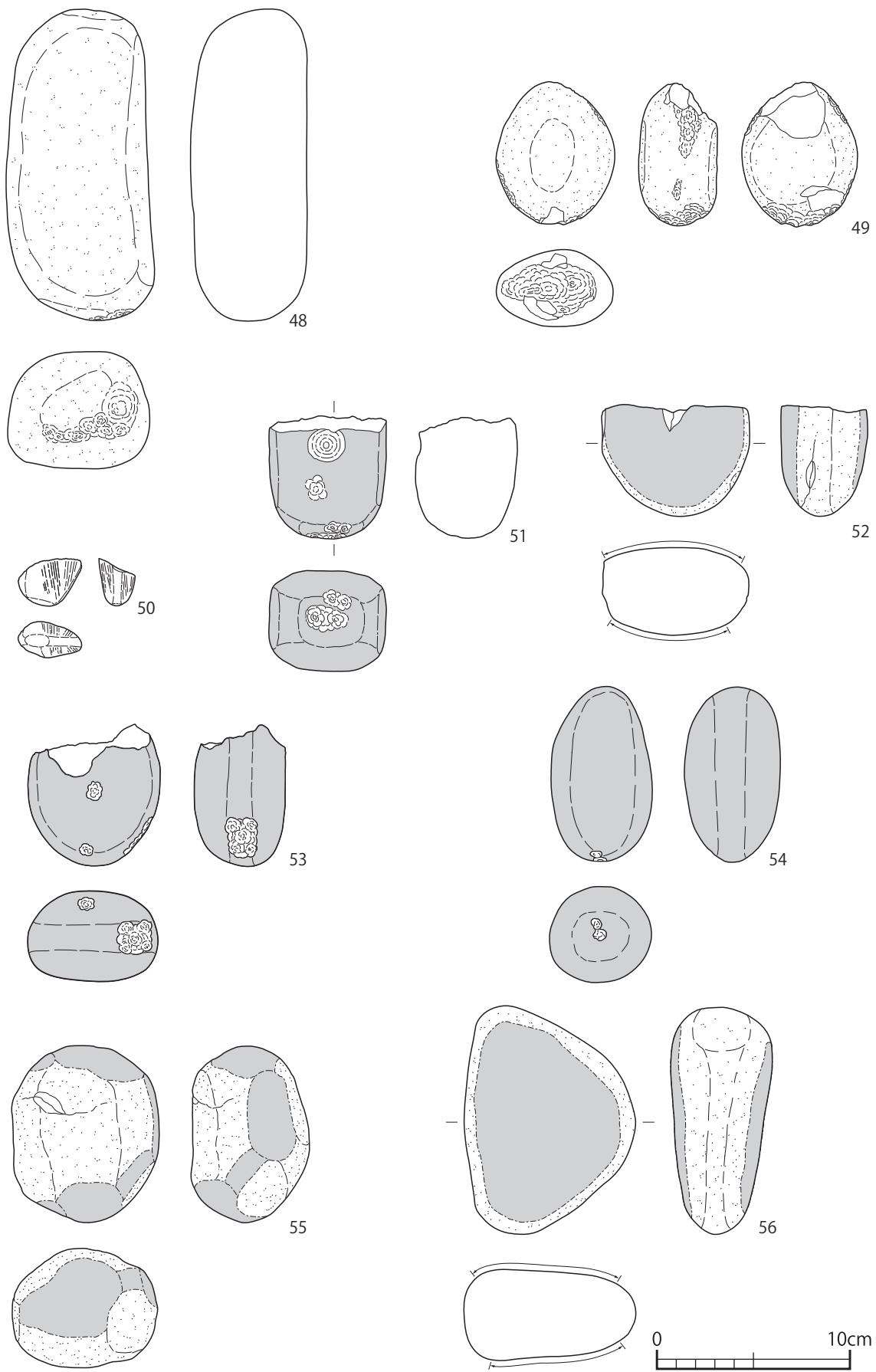
第 65 図 縄文時代石器 (2)(1/3)



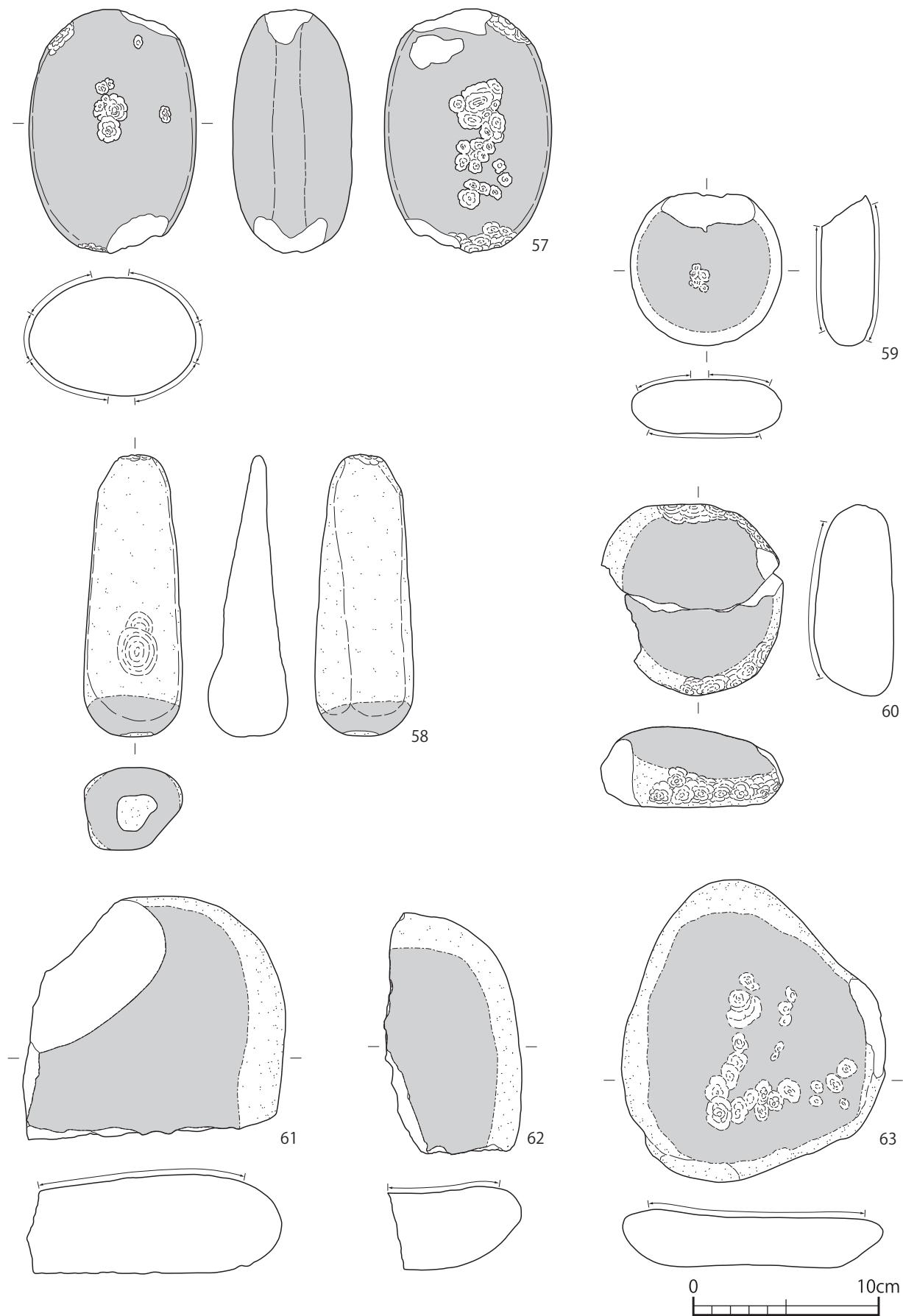
第 66 図 縄文時代石器 (3)(1/3)



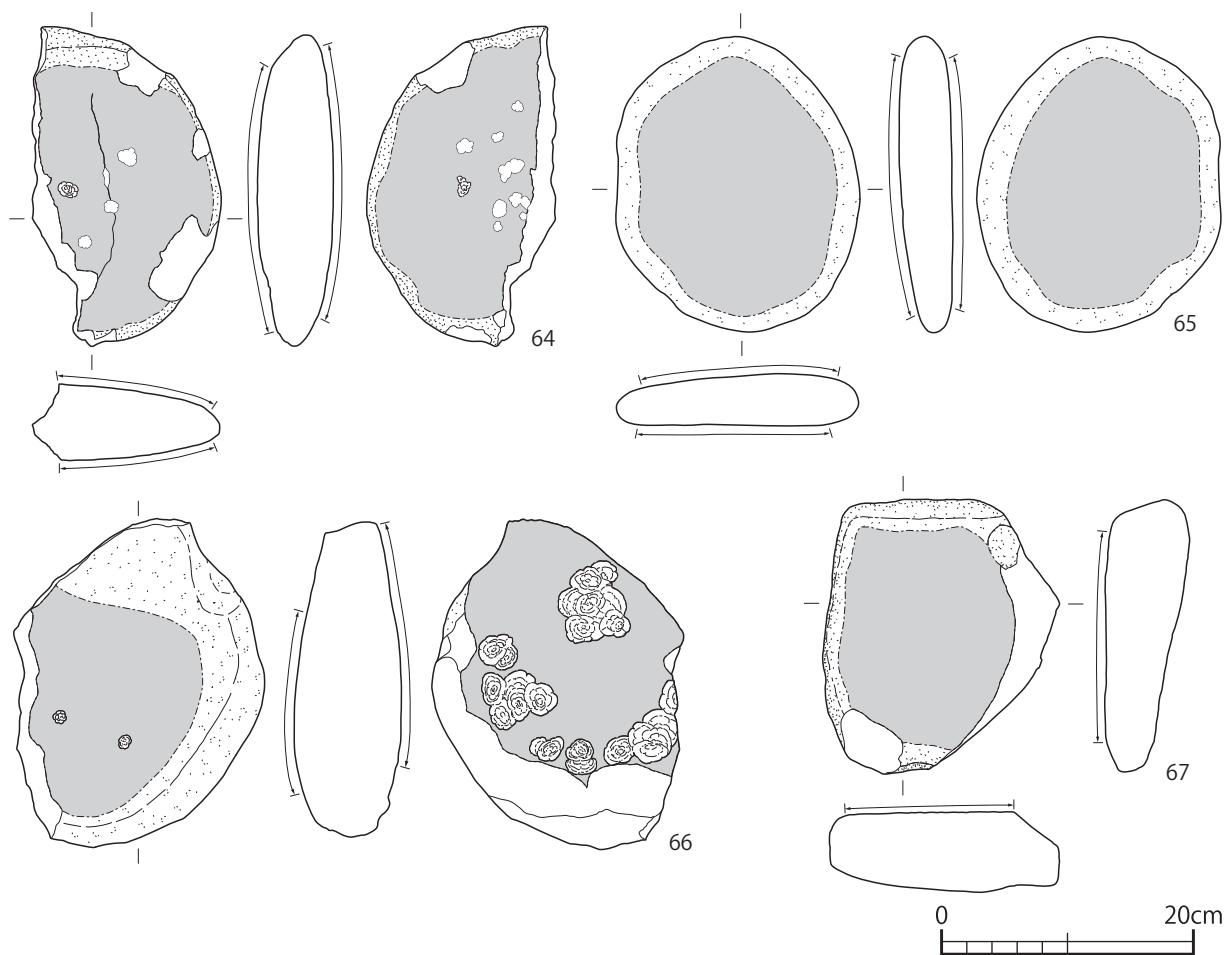
第 67 図 縄文時代石器 (4)(1/3)



第 68 図 縄文時代石器 (5)(1/3)



第69図 縄文時代石器(6)(1/3)



第 70 図 繩文時代石器 (7)(1/6)

て生じるものと判断される「衝撃剥離」による折れ（御堂島 1991・2005）、「横断的剥離痕」（岩瀬他 2022）が確認できた。ただし、上記の剥離及び剥離痕は先端と胴部いずれにも認めることから、どのような使用プロセスを経て遺物に至ったのかは判然としない。

石鎌

2～12 は石鎌である。いずれも無茎である。そのサイズは 2・10～12 の小形から 8・9 の様に大形のものまで様々である。大半が中期に帰属するものと思われるが、12 のように短い長軸に対して横幅が広く比較的基部の抉りが深い「長脚鎌」は、早期に特徴的な形態である。石材は黒曜石・チャートが大半であるが、ガラス質黒色安山岩や玉髓（めのう）の稀少な石材も使用している。各資料を観察すると、4 の先端部には使用（弓射）によって生じたとされる「衝撃剥離」の一種である「縦溝状剥離」（御堂島 1991・2005）を確認できる。6 の先端部も「縦溝状剥離」に類似しており、使用で生じた剥離の可能性があろう。

石錐

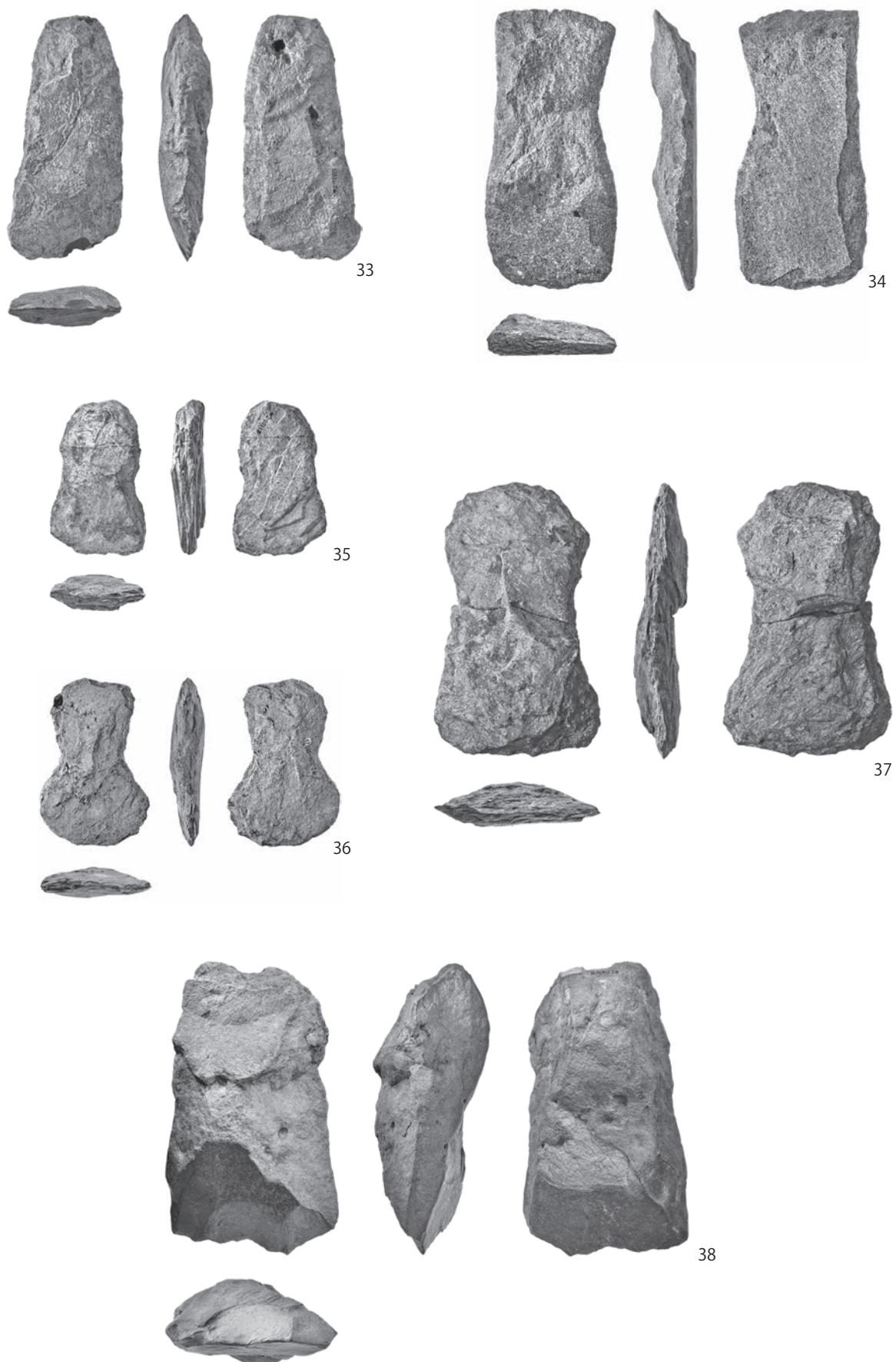
13 は石錐に分類できよう。今回の調査で石錐と認定できた資料は、この 1 点のみである。形態的には定型的なタイプではなく、表面に自然面を残した黒曜石の横長剥片を用いて両面から側縁調整で先端部の加工を施している。ただし、先端部は鋭利でなく、使用による摩耗痕も認められることから、先端部を成形途中で廃棄した未製品の可能性が高い。



第 71 図 縄文時代石器写真 (1)



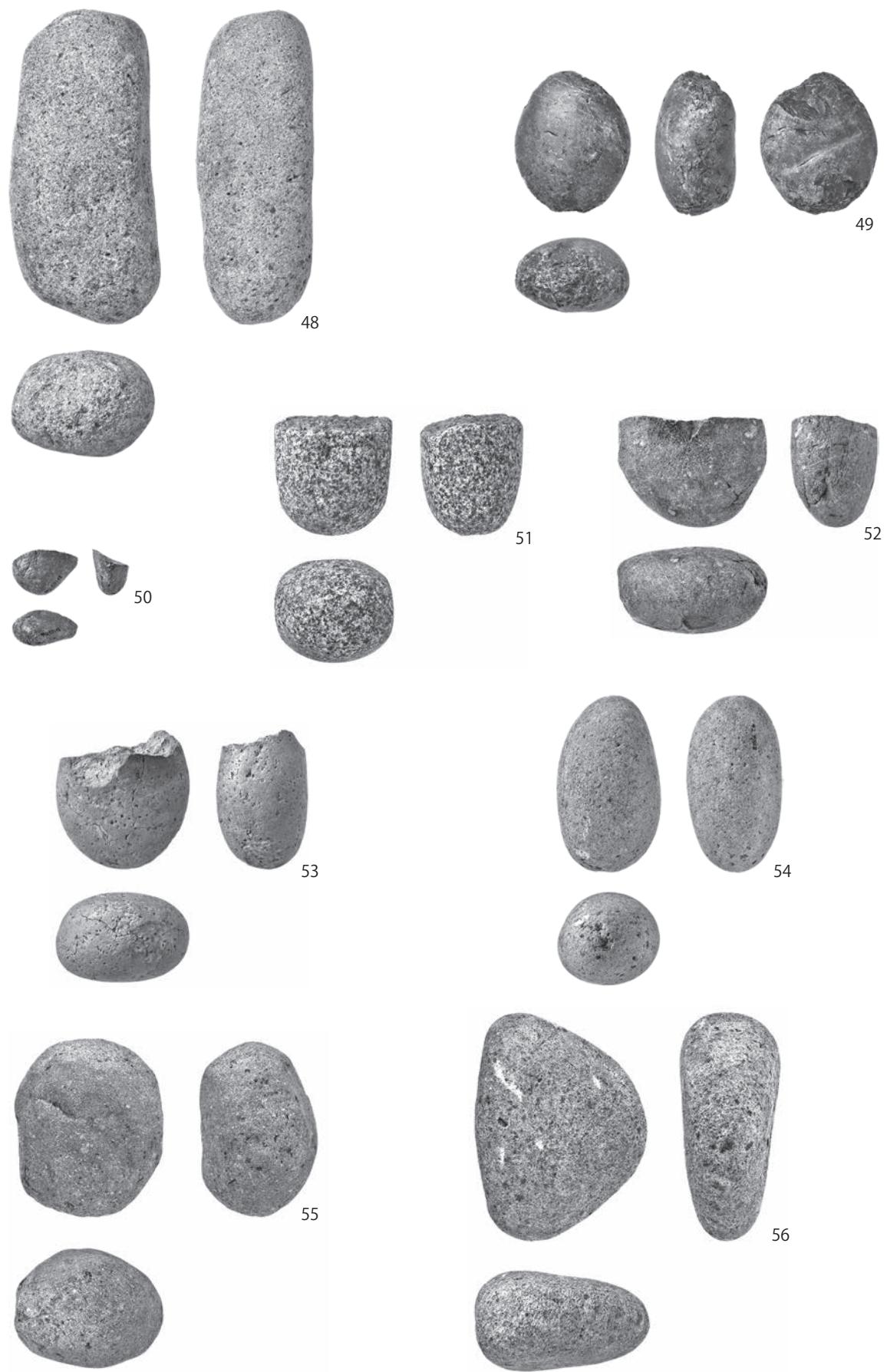
第 72 図 繩文時代石器写真 (2)



第 73 図 繩文時代石器写真 (3)



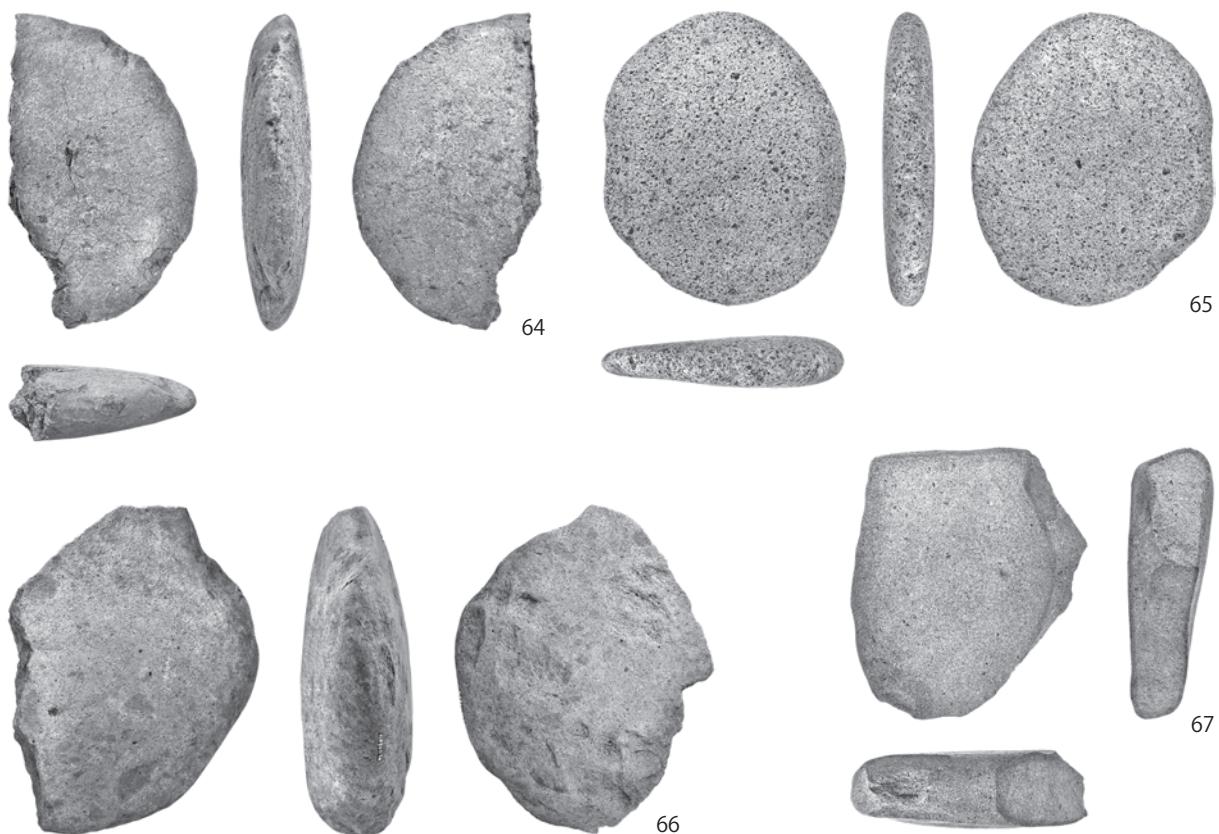
第74図 繩文時代石器写真(4)



第 75 図 繩文時代石器写真 (5)



第 76 図 繩文時代石器写真 (6)



第 77 図 縄文時代石器写真 (7)

石核

14・15 の 2 点を掲載した。いずれも黒曜石の残核であり、打面を転移させて打点の角度を変えながら剥片を作出した残核である。残存形状から石鏃等の小形石器用の剥片を作出したものであろう。

石匙

16～18 は、いずれも中期に特徴的な粗製石匙に相当しよう。16 は縦長の石匙である。細長い粘板岩の礫を用いて基部の調整加工を施しているが刃部調整が認められないことから、未製品と判断する。17・18 はホルンフェルスの剥片を用いた横長石匙に分類されよう。いずれも横長剥片を用いているが基部調整及び横刃の刃部調整加工が不十分であり、未製品の可能性もある。

打製石斧

19～37 は打製石斧である。完形もしくは完形に近い資料のみ掲載した。今回出土した土器の帰属時期を踏まえると、前期後半から中期に該当するものが大半であろう。製作に用いた素材は、残存する主要剥離面の観察から、横長剥片を用いたものが多く縦長剥片を用いたものは少ない。礫素材を用いたと思われる打製石斧は 35 の 1 点のみである。使用石材はホルンフェルスが圧倒的である。平面形態で分類すれば、19～23 は短冊形、24～29・32～34 は撥形、35～37 は分銅形に分類できよう。35・36 は小形のものであり、後期に帰属する可能性も否定できない。30・31 は短冊形と撥形の中間形態の様相である。いずれも胴部に側縁調整加工を施しているが、中には 21・27・28・32～34・36 の様に柄の装着用と想定する敲打を両側縁に加えた資料を認める。

礫器

38は矩形に近く厚みを有する形状の砂岩の大形礫を用いており、長軸の一端に片刃の刃部を作出したものである。今回の調査で礫器に特定できた資料は、この1点のみであった。本資料はその形状と今回の出土土器より、早期後半の条痕文土器に伴う可能性があろう。

磨製石斧

39・40は磨製石斧である。40は中粒緑色凝灰岩製で、その形状から中期に多い「乳棒状石斧」に分類できよう。刃部を欠損しているが基部から胴部にかけて丹念な敲打整形を施した後に丁寧な磨き加工を施している。39は厚みのある緑色凝灰角礫岩の大形礫素材を用いており、成形のため両側縁からの打撃調整加工の後に丹念に敲打を加えたものである。素材の形状と加工状況から判断すると、磨製石斧の未製品に相当するものと思われ、成形・整形調整加工から敲打、磨き加工の製作過程における成形・調整加工から敲打の段階で廃棄されたものと推察する。

敲石・磨石

使用及び加工痕跡より敲打痕があるものを敲石、摩耗痕があるものを磨石に分類しているが、摩耗痕・敲打痕の両方の加工痕があるものについては、主たる痕跡を持っていざれかに分類した。

41～48は敲石である。素材は平面形状が棒状、板状、亜円状等のバリエーションに富む砂岩礫を主に使用する。礫の端部及び側縁に敲打痕を認め、43・46の様に両端を使用するものは少なく、大半は一端にのみ敲打痕を認めるものである。また、46・49の様に側縁に敲打痕が確認できる資料もあり、特に46は片面の中央部分にも敲打痕がある。

42は石英の卵形の礫（転石）を用いており、片手で握りやすい形状と大きさ、適度な重量の敲石である。位置を変えながら敲打を繰り返しており、硬質の石材とその形状及び敲打痕から判断すれば、石器製作用のハンマーと考える。49も手に持ちやすく、適度な重量である良質なチャートの円礫（転石）を用いており、一端と一側縁に頻繁に敲打を繰り返した痕跡を認める。素材と敲打痕の状況を鑑みれば、やはり石器製作用のハンマーである可能性が高いものと判断する。

50は小形のチャートに対象物への研磨で生じた擦痕が確認でき、土器製作用の「研磨礫」であろう。

51～60は磨石である。素材は棒状、板状、亜円状等の平面形態が多様な礫を使用する。石材は砂岩と閃緑岩が主体を占める。摩耗痕は51・53・54・57の様に全面に認めるもの、58の様に端部に認めるもの、56・59・60の様に両面に認めるもの、55の様に両端と一側縁に認めるもの等、敲石同様に多岐にわたる。また51・53・57～60は、磨面に加えて端部もしくは中央部に敲打痕もしくは「凹痕」が確認できる。51の様に厚みのある長方形を呈し敲打痕、凹痕を有するタイプ、53・57・59・60の様に梢円もしくは円礫に敲打痕を有するタイプは、中期に特徴的なものである。

石皿

61～67は石皿に分類されよう。大形の円礫、亜円礫、隅丸方形状の礫を使用している。石材は閃緑岩、砂岩、片状砂岩、安山岩、変質安山岩と多種である。残存状況から、サイズとしては61～63の小形と64～67の大形に2分される。使用面（磨面）からは61～63・67の片面のタイプと64～66の両面のタイプに分かれる。また頻度の差はあるものの磨面に加えて63は片面に、64・66は両面に敲打痕が確認できる。敲打痕を有する石皿は対象物を磨るだけでなく、敲くための台石としての機能も有していたものと考える。特に、66は片面の敲打痕が顕著である。　（山本孝司）

第9表 繩文時代石器観察表

図	番号	出土位置	層位	種別	石材	法量(cm,g)				備考
						長さ	幅	厚さ	重量	
第64・71図	1	320-3	(SI40 覆土)	尖頭器	ガラス質黒色安山岩	2.5	2.0	0.6	3.5	先端と胴部に衝撃剝離痕あり
	2	30P-28	Ⅲ層	石鏃	黒曜石	1.8	1.6	0.3	0.6	
	3	320-33	Ⅲ層	石鏃	チャート	1.5	1.8	0.4	0.9	先端欠損
	4	30P-56	Ⅲ層	石鏃	チャート	2.5	1.6	0.4	1.1	
	5	30P-13	Ⅱ層	石鏃	チャート	2.3	1.7	0.4	1.0	
	6	300-79・89	(SDK294 覆土)	石鏃	黒曜石	2.5	1.9	0.4	1.2	
	7	320-3	SS13 覆土	石鏃	黒曜石	2.8	1.9	0.4	1.1	
	8	310-96	Ⅲ層	石鏃	チャート	3.3	2.1	0.5	2.3	
	9	320-3	SS13 覆土	石鏃	ガラス質黒色安山岩	4.5	2.6	0.6	4.0	欠損
	10	310-86	(SI21 覆土)	石鏃	チャート	2.1	1.4	0.4	0.9	
	11	320-23	(SI51 覆土)	石鏃	玉髓(めのう)	2.1	1.5	0.3	0.7	
	12	30P-32	Ⅲ層	石鏃	チャート	2.0	2.0	0.3	0.6	欠損
	13	310-68	(SKK334 覆土)	石錐	黒曜石	2.0	1.1	0.8	1.4	未製品
	14	30P-19	(SKK169 覆土)	石核	黒曜石	2.7	3.4	1.4	6.3	
	15	30P-28	(SDK90 覆土)	石核	黒曜石	2.7	2.2	1.4	9.9	
	16	310-28	(SK105 覆土)	石匙	粘板岩	9.5	2.9	1.1	38.1	未製品
	17	310-48	Ⅲ層	石匙	ホルンフェルス	9.2	5.0	1.2	43.2	未製品
	18	34N-3	Ⅲ層	石匙	ホルンフェルス	8.0	9.7	1.6	83.0	未製品?
第65・72図	19	31P-8	Ⅲ層	打製石斧	粘板岩	8.8	3.4	1.3	45.6	短冊形
	20	320-18	(SK115 覆土)	打製石斧	ホルンフェルス	9.8	3.6	1.2	40.4	短冊形
	21	310-88	Ⅱ層	打製石斧	片状砂岩	12.6	3.7	1.5	90.8	短冊形
	22	310-88	SS6 覆土	打製石斧	ホルンフェルス	11.2	4.0	1.7	92.2	短冊形
	23	30P-21	Ⅲ層	打製石斧	片状砂岩	11.2	5.9	1.6	120.8	短冊形
	24	320-28	Ⅱ層	打製石斧	ホルンフェルス	7.7	5.5	2.0	70.0	撥形
	25	310-40	Ⅲ層	打製石斧	珪質粘板岩	8.5	6.5	1.5	73.1	撥形
	26	310-82	Ⅲ層	打製石斧	細粒綠色凝灰岩	8.6	4.6	1.3	65.7	撥形
	27	31P-14・15	(SKK222 覆土)	打製石斧	砂岩	8.9	5.6	2.1	120.9	撥形
	28	31P-13	一括	打製石斧	ホルンフェルス	10.1	4.5	2.3	102.4	撥形
	29	30P-55	Ⅲ層	打製石斧	砂岩	9.1	4.6	1.9	84.3	撥形
	30	310-58	Ⅲ層	打製石斧	片状砂岩	10.0	4.2	1.8	53.4	短冊形? 撥形?
	31	320-34	Ⅲ層	打製石斧	砂質ホルンフェルス	10.9	4.6	1.7	72.0	短冊形? 撥形?
	32	320-54	Ⅲ層	打製石斧	片状砂岩	11.6	5.3	2.2	158.5	撥形 刃部欠損
第66・73図	33	320-11	Ⅱ層	打製石斧	ホルンフェルス	12.3	58.5	2.8	240.0	撥形
	34	31P-23	Ⅲ層	打製石斧	砂岩	14.5	6.9	2.7	318.0	撥形
	35	30P-27	Ⅲ層	打製石斧	ホルンフェルス	8.1	5.0	1.9	92.1	分銅形
	36	32N-98	一括	打製石斧	ホルンフェルス	8.8	5.9	1.9	93.8	分銅形
	37	310-46	Ⅱ層	打製石斧	ホルンフェルス	14.2	8.6	2.3	335.8	分銅形、折れ
	38	310-79	SS6 覆土	打製石斧	砂岩	15.1	8.7	6.0	829.0	
	39	30P-31	Ⅲ層	礫器	砂岩	15.1	8.7	6.0	829.0	
	40	320-11	Ⅲ層	磨製石斧	綠色凝灰角礫岩	14.1	9.4	4.5	629.0	未製品
第67・74図	41	310-66	(SF3 覆土)	磨製石斧	中粒綠色凝灰岩	12.6	5.4	4.0	311.5	乳棒状石斧
	42	320-11	(SS8 覆土)	敲石	砂岩	14.3	9.4	4.4	950.0	
	43	310-88	Ⅲ層	敲石	石英	6.5	4.5	4.5	177.7	石器製作用ハンマー
	44	320-34	Ⅲ層	敲石	変質安山岩	8.2	2.8	2.2	78.0	
	45	320-3	(SS9 覆土)	敲石	粘板岩	11.0	4.5	2.2	138.3	一部に摩耗痕
	46	310-57	Ⅱ層	敲石	砂岩	9.5	4.5	2.7	237.3	
	47	310-69	Ⅲ層	敲石	片状砂岩	11.8	7.5	2.7	301.5	
	48	31P-64	Ⅲ層	敲石	砂岩	14.6	6.0	4.2	661.0	下端部に敲打痕 裏面に磨面あり
	49	320-26	Ⅲ層	敲石	砂岩	16.2	7.7	6.0	1226.0	
	50	320-37	Ⅲ層	敲石	チャート	7.4	6.1	4.0	248.5	石器製作用ハンマー?
第68・75図	51	310-45	Ⅱ層	磨石	チャート	2.4	3.4	1.9	15.1	土器製作用の「研磨礫」
	52	310-98	Ⅲ層	磨石	閃綠岩	6.4	6.1	5.4	339.0	
	53	310-68	Ⅲ層	磨石	砂岩	5.8	7.7	4.5	280.7	
	54	310-50	Ⅲ層	磨石	変質安山岩	7.3	6.9	4.7	305.0	
	55	310-18	Ⅲ層	磨石	砂岩	9.1	5.3	5.0	325.5	
	56	310-92	Ⅱ層	磨石	変質玄武岩	9.1	7.7	6.2	667.0	
	57	31P-21	Ⅱ層	磨石	閃綠岩	11.7	8.9	5.2	736.5	
	58	320-11	(SS8 覆土)	磨石	閃綠岩	13.1	9.0	6.4	1102.0	
第69・76図	59	320-14	Ⅲ層	磨石	砂岩	15.2	5.3	4.4	394.5	
	60	310-37	(SF3 覆土)	磨石	閃綠岩	8.2	8.2	2.9	306.0	
	61	320-20	Ⅲ層	磨石	砂岩	10.3	9.8	4.4	561.0	敲打痕有り
	62	310-30	Ⅲ層	磨石	砂岩	13.2	14.2	6.0	1575.0	
	63	330-11	Ⅲ層	石皿	片状砂岩	13.0	7.5	5.2	640.5	
	64	320-10	(SI48 覆土)	石皿	変質安山岩	16.3	14.3	3.3	993.0	
	65	34M-96	(SZ3 覆土)	石皿	片片状砂岩	25.1	14.9	6.0	2829.0	
	66	32N-79	Ⅲ層	石皿	安山岩	23.3	19.2	4.1	2658.0	
第70・77図	67	320-50	Ⅲ層	石皿	砂岩	21.6	18.7	6.8	3656.0	
	68	32N-94	SS13 覆土	石皿	砂岩	26.1	19.8	9.3	6467.0	

※出土層位欄の()は縄文時代以降の遺構を示す。